

# HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server

for HP Operations Manager for UNIX®

ソフトウェア バージョン : 6.00

---

## 設定ガイド

ドキュメント リリース : 2008 年 10 月

ソフトウェア リリース : 2008 年 10 月



## ご注意

### 保証について

Hewlett-Packard 社は、この文書に関して市場性および特殊目的への適合性の暗黙の保証を含む一切の保証を行わないものとします。Hewlett-Packard 社は、この文書内の欠陥に対して、およびこの文書の提供、実行、または使用に関連する直接損害、間接損害、実損害、偶発損害、および結果損害に対して責任を負わないものとします。

この情報は予告なしに変更されることがあります。

### Restricted Rights Legend

Confidential computer software. Valid license from HP required for possession, use or copying. Consistent with FAR 12.211 and 12.212, Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items are licensed to the U.S. Government under vendor's standard commercial license.

### 著作権について

© Copyright 2002-2006, 2008 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® は、Microsoft Corporation の米国内での登録商標です。

Java™ は、Sun Microsystems の米国内での登録商標です。

サードパーティ ライセンス契約の詳細については、製品インストール CD-ROM の %ovinstalldir%/license-agreements/SPI ディレクトリを参照してください。

## 更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が含まれています。

- ソフトウェア バージョン。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント リリース (年および月)。ドキュメントの更新ごとに変更します。
- ソフトウェア リリース (年および月)。当該バージョンのソフトウェアのリリース時期を示します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

**<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>**

このサイトには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は次のページで行うことができます。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

または、HP Passport のログインページで、**[New users - please register]** リンクをクリックします。

該当する製品のサポート サービスに登録して、本書の最新版を入手することもできます。詳細は、HP の営業担当にお問合せください。

## サポート

次の HP ソフトウェア サポート Web サイトを参照してください。

**<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>**

この Web サイトでは、連絡先情報、製品、サービスおよび HP ソフトウェアで提供されるサポートの詳細が提供されています。

オンラインでは、ユーザーが問題を自己解決 (セルフソルブ) できる機能が提供されています。ビジネスの管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポート Web サイトのサポート範囲は次のとおりです。

- ダウンロード可能なドキュメント
- 障害情報とトラブルシューティング情報
- パッチおよびアップデート
- トレーニング情報
- サポート プログラム情報

一部のコンテンツでは HP Passport への登録やサービス契約 ID が必要となります。サポート サイト全体では、アクセス レベルは以下の項目で示されます。

アクセス レベルに関する詳細は、次のページをご参照ください。

**[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)**

HP Passport ID の取得登録は次のページでおこなうことができます。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

# 目次

1	WebLogic SPI の概念	13
	WebLogic SPI の紹介	13
	Smart Plug-in のデータ	13
	Smart Plug-in の使用とカスタマイズ	14
	WebLogic SPI の機能	14
	サーバーのパフォーマンスおよび可用性の情報の収集と解釈	14
	情報の表示	14
	HP Reporter を使用したレポートの生成	16
	HP Performance Manager によるデータのグラフ作成	16
	テンプレートおよびメトリックのカスタマイズ	17
	WebLogic SPI のコンポーネント	18
	アプリケーション	18
	WLSSPI Admin アプリケーション グループ	18
	WebLogic アプリケーション グループ	20
	WLSSPI レポート グループ	21
	JMX Metric Builder アプリケーション	21
	WebLogic SPI テンプレート グループおよびテンプレート	22
2	WebLogic SPI のインストール、削除、およびアップグレード	25
	WebLogic SPI のインストール	25
	WebLogic SPI の削除	26
	タスク 1: 管理サーバーから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する	26
	タスク 2: ノード グループおよび管理対象ノードから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する	27
	タスク 3: WebLogic SPI テンプレートおよびテンプレート グループを削除する	27
	タスク 4: WebLogic SPI アプリケーション グループを削除する	28
	タスク 5: WebLogic SPI メッセージおよびノード グループを削除する	28
	タスク 6: WebLogic SPI ディレクトリを削除する	28
	タスク 7: レポート パッケージを削除する (オプション)	28
	タスク 8: グラフ作成パッケージを削除する (オプション)	28
	WebLogic SPI のアップグレード	29
	タスク 1: 管理サーバーから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する	30
	タスク 2: WebLogic SPI テンプレートを削除する	30
	タスク 3: WebLogic SPI アプリケーションを削除する	31
	タスク 4: WebLogic SPI をアップグレードする	31
	タスク 5: opc_adm のオペレータ作業範囲を割り当てる	32
	タスク 6: 管理サーバーにテンプレートを割り当てる	32

タスク 7: 管理サーバーにテンプレートを分配する	32
タスク 8: テンプレートをカスタマイズする	33
タスク 9: 新しいノード グループにノードを移動する	33
タスク 10: ノード グループを削除する	33
タスク 11: アクション、モニタ、コマンド、およびテンプレートを分配する	33
タスク 12: Discover WebLogic アプリケーションを起動する	34
タスク 13: 新しいレポート パッケージをインストールする (オプション)	35
タスク 14: 新しいグラフ作成パッケージをインストールする (オプション)	35
<b>3 WebLogic SPI の設定</b>	<b>37</b>
前提条件となる設定	37
タスク 1: Web ブラウザを起動するため管理サーバーを設定する	37
タスク 2: opc_adm のオペレータ作業範囲を割り当てる	38
タスク 3: 管理サーバーにテンプレートを割り当てる	38
タスク 4: 管理サーバーにテンプレートを配布する	40
タスク 5: remactconf.xml ファイルを更新する (OVO 8.x のみ)	41
管理対象ノードからの WebLogic SPI の設定	41
タスク 1: アプリケーション サーバーのステータスを確認する	41
タスク 2: WebLogic Server ユーザーを設定する	42
WebLogic Server バージョン 6.1	42
WebLogic Server バージョン 7.0 以上	43
管理サーバーからの WebLogic SPI の設定	44
タスク 1: 管理対象ノードに WLSSPI-Messages テンプレートを指定する	44
タスク 2: テンプレート、アクション、モニタ、コマンドを分配する	45
タスク 3: Discover WebLogic を起動する	46
異なるセットアップに対する LOGIN と PASSWORD の設定	47
タスク 4: 追加のプロパティを設定する	48
追加のプロパティの設定	49
タスク 5: 検出プロセスを確認する	49
タスク 6: ノードを WebLogic ノード グループに追加する	51
タスク 7: WebLogic SPI テンプレートを配布する	51
タスク 8: 設定を完了する	51
タスク 9: WebLogic SPI 設定を確認する	51
WebLogic SPI の追加設定	52
条件付きのプロパティ	52
条件付きプロパティの設定	52
UNIX 管理対象ノードでの非 root HTTPS エージェントの設定 (OVO 8.x のみ)	53
高可用性環境での WebLogic SPI	55
設定の前提条件	55
高可用性環境での WebLogic SPI の設定	55
タスク 1: WebLogic SPI 監視機能の設定ファイルを作成する	55
タスク 2: クラスタ化されたアプリケーションの設定ファイルを作成する	56
タスク 3: WebLogic SPI を設定する	57

その他の検出と設定のシナリオ .....	58
ユース ケース 1: 管理ポートがオンになっている (HTTPS モードで <b>WebLogic Server</b> を実行している) ケース .....	58
ユース ケース 2: 管理ポートがオンになっていない ( <b>WebLogic Application Server</b> を仮想 IP で実行している) ケース .....	59
<b>4 WebLogic SPI のカスタマイズ</b> .....	61
はじめに .....	61
テンプレートの基本的なカスタマイズ .....	61
メトリック テンプレートの変更 .....	61
警告通知生成の変更 .....	63
テンプレートの高度なカスタマイズ .....	65
カスタマイズするメトリックの選択 .....	65
パラメータ付きの <b>WebLogic SPI</b> コレクタ/アナライザ コマンドの使用 .....	65
<b>WebLogic Server</b> コマンド パラメータの使用法 .....	65
<b>JMX</b> コマンド パラメータの使用法 .....	67
スケジュール設定されたすべてのメトリックの収集間隔の変更 .....	69
選択したメトリックの収集間隔の変更 .....	70
個々のアプリケーション、 <b>EJB</b> 、サーブレット、または <b>JDBC</b> のしきい値のカスタマイズ .....	71
例 .....	71
タグ付きのカスタム テンプレートの作成 .....	72
新しいテンプレート グループを作成するには .....	72
テンプレート変数 .....	73
デフォルトの <b>WebLogic SPI</b> テンプレートの復元 .....	73
テキスト ベース レポートの表示 .....	74
自動アクション レポート .....	74
自動アクション レポートを表示するには .....	75
登録アプリケーションのレポート .....	75
手動でレポートを生成するには .....	76
レポートのサンプル .....	76
自動アクション レポート .....	77
手動生成レポート .....	77
サポートされていないプラットフォーム上の <b>WebLogic</b> を監視する方法 .....	79
リモート ノード ( <b>WebLogic SPI</b> がサポートしていないプラットフォーム上で動作) を監視するための要件 .....	79
概要 .....	79
リモート監視 .....	79
リモート システムの監視の設定 .....	80
タスク 1: リモートの <b>WebLogic Server</b> を設定する .....	81
タスク 2: <b>HP Performance Agent</b> を統合する (オプション) .....	81
タスク 3: ローカル ノードを <b>WebLogic</b> ノード グループに割り当てる .....	82
ログファイル用のリモート監視の設定 (オプション) .....	82
リモート ログファイル用のログファイル テンプレートの設定 .....	82
リモート監視の制限 .....	83

ライセンス数に対する WebLogic SPI ノードの確認 .....	83
<b>5 HP のレポート作成製品およびグラフ作成製品と WebLogic SPI との統合 .....</b>	<b>85</b>
CODA との統合 .....	86
HP Reporter との統合 .....	86
WebLogic SPI Reporter のレポート .....	88
WebLogic SPI 用の HP Performance Insight レポート .....	90
HP Performance Manager との統合 .....	91
警告通知条件を示すグラフの表示 .....	92
過去 / 現在の状態を示すグラフの表示 .....	92
グラフで利用可能な WebLogic SPI メトリック .....	92
グラフを生成するオペレータ アクションを用いた Web ページ表示の起動 .....	95
日付の範囲の指定 .....	95
統合の例 .....	95
<b>6 基本的なトラブルシューティングとエラー メッセージ .....</b>	<b>105</b>
Self-Healing Info アプリケーションの使用 .....	105
ログ ファイルとトレース ファイル .....	106
管理サーバー .....	106
UNIX 管理ノード .....	106
Windows 管理対象ノード .....	108
検出プロセスのトラブルシューティング .....	110
Java ホーム ディレクトリの確認 .....	111
設定のトラブルシューティング .....	113
アプリケーションのトラブルシューティング .....	114
エラー メッセージ .....	115
WASSPI-1 .....	115
WASSPI-2 .....	116
WASSPI-3 .....	116
WASSPI-4 .....	117
WASSPI-5 .....	117
WASSPI-6 .....	118
WASSPI-7 .....	118
WASSPI-8 .....	119
WASSPI-9 .....	119
WASSPI-10 .....	120
WASSPI-11 .....	120
WASSPI-12 .....	120
WASSPI-13 .....	121
WASSPI-14 .....	121
WASSPI-15 .....	121
WASSPI-16 .....	122
WASSPI-17 .....	122
WASSPI-18 .....	123
WASSPI-19 .....	123



WASSPI-20	123
WASSPI-21	124
WASSPI-23	124
WASSPI-24	125
WASSPI-26	125
WASSPI-27	126
WASSPI-30	126
WASSPI-31	126
WASSPI-32	126
WASSPI-33	127
WASSPI-34	127
WASSPI-35	127
WASSPI-36	127
WASSPI-37	128
WASSPI-38	128
WASSPI-39	128
WASSPI-40	129
WASSPI-41	129
WASSPI-42	129
WASSPI-43	130
WASSPI-201	130
WASSPI-202	130
WASSPI-203	131
WASSPI-204	131
WASSPI-205	132
WASSPI-206	132
WASSPI-207	132
WASSPI-208	133
WASSPI-209	133
WASSPI-210	133
WASSPI-211	134
WASSPI-212	134
WASSPI-213	134
WASSPI-214	135
WASSPI-215	135
WASSPI-216	135
WASSPI-218	136
WASSPI-219	136
WASSPI-220	137
WASSPI-221	137
WASSPI-222	137
WASSPI-223	138
WASSPI-224	138
WASSPI-225	138
WASSPI-226	139
WASSPI-227	139
WASSPI-228	139

WASSPI-229	140
WASSPI-230	140
WASSPI-231	140
WASSPI-232	141
WASSPI-233	141
WASSPI-234	141
WASSPI-235	142
WASSPI-236	142
WASSPI-237	142
WASSPI-238	142
WASSPI-241	143
WASSPI-244	143
WASSPI-245	143
WASSPI-247	144
WASSPI-248	144
WASSPI-249	144
WASSPI-254	145
WASSPI-302	145
WASSPI-303	145
WASSPI-304	146
WASSPI-321	147
WASSPI-322	148
WASSPI-323	149
WASSPI-324	150
WASSPI-325	150
WASSPI-326	151
WASSPI-327	151
WASSPI-328	151
WASSPI-329	152
WASSPI-330	152
WASSPI-381	152
WASSPI-402	153
WASSPI-403	153
WASSPI-404	153
WASSPI-405	154
WASSPI-406	155
その他のすべてのエラー	156
<b>A ファイルの位置</b>	<b>157</b>
HPOM 管理サーバーのファイルの位置	157
管理対象ノードのファイルの位置	157
<b>B 設定</b>	<b>159</b>
構造	159
グローバル プロパティ	159
GROUP ブロック	159
NODE ブロック	160

サーバー固有のプロパティ .....	160
プロパティ優先順位 .....	160
設定エディタ .....	161
Configure WLSSPI: ツリー .....	161
Configure WLSSPI: ボタン .....	163
Configure WLSSPI: アクション .....	163
Add Application Server .....	164
Add Group .....	165
Add Node .....	165
Remove Application Server/Remove ALL App Servers .....	166
Remove Group/Remove ALL Groups .....	166
Remove Node/Remove ALL Nodes .....	167
[Set Configuration Properties] タブ .....	167
[View Current Configuration] タブ .....	168
設定プロパティ .....	170
プロパティの定義 .....	171
サンプル設定 .....	183
例 1: 単一のノード /2 つのサーバー .....	183
例 2: 複数のノード / 繰り返されるプロパティ .....	184
例 3: 複数の WebLogic Server バージョン .....	185
例 4: 仮想 IP アドレスを持つ WebLogic Server .....	185
例 5: デフォルト以外の WebLogic Server の起動場所 .....	186
<b>C アプリケーション .....</b>	<b>187</b>
WLSSPI Admin アプリケーション グループ .....	188
Configure WLSSPI .....	188
機能 .....	188
Configure WLSSPI アプリケーションを起動するには .....	188
Discover WebLogic .....	189
機能 .....	189
Discover WebLogic アプリケーションを起動するには .....	189
Init Non-Root .....	191
機能 .....	191
Init Non-Root アプリケーションを起動するには .....	191
Self-Healing Info .....	191
必要な設定 .....	191
機能 .....	192
Self-Healing Info アプリケーションを起動するには .....	194
Start/Stop Monitoring .....	194
機能 .....	194
Start/Stop Monitoring アプリケーションを起動するには .....	195
Start/Stop Tracing .....	195
機能 .....	195
Start/Stop Tracing アプリケーションを起動するには .....	195

Verify	195
機能	196
Verify アプリケーションを起動するには	198
View Error File	198
機能	198
View Error File アプリケーションを起動するには	198
View Graphs	199
必要な設定	199
機能	199
View Graphs アプリケーションを起動するには	199
WebLogic アプリケーション グループ	200
Check WebLogic	200
機能	200
Check WebLogic アプリケーションを起動するには	200
Start WLS Console	200
必要な設定	201
機能	201
Start WLS Console アプリケーションを起動するには	201
Start/Stop WebLogic	201
必要な設定	201
機能	201
Start/Stop WebLogic アプリケーションを起動するには	201
View Deployed Apps	202
機能	202
View Deployed Apps アプリケーションを起動するには	202
View WebLogic Log	203
機能	203
View WebLogic Log アプリケーションを起動する	203
View WebLogic Servers	204
機能	204
View WebLogic Servers アプリケーションを起動する	205
View Application Activation Status	205
必要な設定	205
機能	205
View Application Activation Status アプリケーションを起動するには	206
View Application Timeout	206
必要な設定	206
機能	207
View Application Timeout アプリケーションを起動するには	207
用語集	209
索引	215

# 1 WebLogic SPI の概念

HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server (WebLogic SPI) を使用すると、HP Operations Manager for UNIX (HPOM) のコンソールから WebLogic Server を管理できます。WebLogic SPI には、HPOM にはない監視機能があります。詳細は、『*HP Operations Manager for UNIX コンセプト ガイド*』を参照してください。

## WebLogic SPI の紹介

WebLogic SPI を HPOM と共に使用することにより、WebLogic Server を使用するシステムを一元的に監視して管理できるツールが提供されます。HPOM コンソールから HPOM パフォーマンスおよび問題管理プロセスを適用し、WebLogic Server を使用してシステムを監視できます。WebLogic SPI メトリックは自動的に HP Operations エージェントに送信されます。このメトリックでは、警告通知を生成するほか、サーバーの用途、可用性、およびパフォーマンスの傾向を分析するためにレポートやグラフをまとめることができます。また、WebLogic SPI を HP Reporter および HP Performance Manager (いずれの製品も別途購入する必要があります) に統合すると、レポートとグラフをより柔軟に作成できるようになり、機能も拡大します。WebLogic SPI と他の HP 製品との統合については、HP のレポート作成製品およびグラフ作成製品と WebLogic SPI との統合を参照してください。

## Smart Plug-in のデータ

WebLogic SPI では、以下の領域に関する、データを収集する複数のサーバー関連のメトリックを利用できます。

- サーバーの可用性
- サーバーのパフォーマンス
- メモリの使用率
- トランザクション率
- サーブレットの実行時間、タイムアウト、要求率
- JDBC の接続状況
- Web アプリケーションの処理
- Java メッセージ サービス処理
- クラスタ処理
- 予定された WLS アクションの例外数

## Smart Plug-in の使用とカスタマイズ

WebLogic Server の管理者は、WebLogic SPI テンプレートを変更して、WebLogic Server の運用上重要なメトリックを選択できます。テンプレートには、着信データを事前定義済みのルールに照らして評価するための設定が含まれています。このルールにより、有益な情報を含むメッセージが生成されます。メッセージは、重要度レベルで色分けされて表示されます。これらのメッセージを調べて、問題の分析と解決に役立てることができます。また、特定のイベントやしきい値の違反に対し、修復アクションが事前に定義されています。この修復アクションは自動的に実行されるか、またはオペレータにより開始されます。メッセージをダブルクリックすると、[指示文] タブの下に修復アクションが表示され、[注釈] タブの下に、自動で生成されたメトリック レポートが表示されます。

## WebLogic SPI の機能

WebLogic SPI のメッセージ生成、レポート作成、アクション実行の各機能は、HPOM のテンプレートの概念を基にしています。詳細は、『*HP Operations Manager for UNIX コンセプト ガイド*』を参照してください。このテンプレート内の設定により、WebLogic Server 内のさまざまな条件が定義され、HPOM 管理サーバーに情報が送り返されます。この情報を利用して、潜在的または既存の問題に未然に対処し、Web トランザクション処理に深刻な悪影響が出ないようにすることができます。WebLogic SPI は、以下のセクションで説明される機能を備えています。

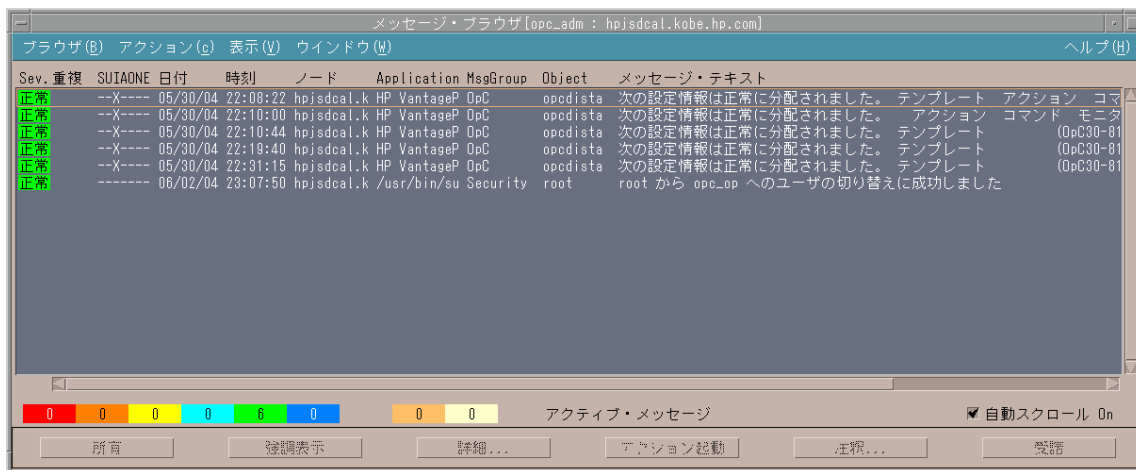
### サーバーのパフォーマンスおよび可用性の情報の収集と解釈

WebLogic SPI を設定し、テンプレートを管理対象のノードに配布すると、SPI はサーバー パフォーマンスと可用性データの収集を開始します。このデータは配布されたテンプレート内の設定と比較されます。これらのテンプレートは、キューのスループット率、キャッシュの使用の割合、タイムアウト率、平均トランザクション時間など、WebLogic Server 内で発生する条件を定義します。テンプレートでは、デフォルトのしきい値と比較してこれらの条件が監視され、しきい値を超えるとメッセージが生成されます。

### 情報の表示

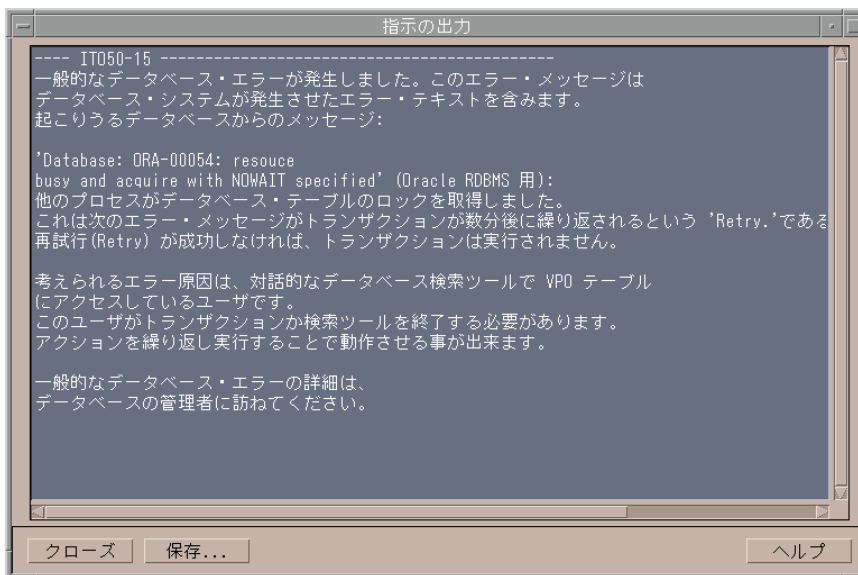
しきい値を超えると、WebLogic SPI テンプレートはメッセージを生成します。このメッセージは、以下のように表示されます。

**メッセージ ブラウザのメッセージ:** HP Operations エージェント ソフトウェアは WebLogic Server のパフォーマンスおよび可用性について収集した値を、その該当領域に関連する監視テンプレートの設定と比較し、適切なメッセージを HPOM コンソールに転送します。これらのメッセージは、HPOM メッセージ ブラウザでは重要度レベルで色分けされて表示されます。



**指示文** : WebLogic SPI プログラムにより生成されたメッセージには、問題を分析し解決するための指示が含まれています。イベントに割り当てられている修復アクションを手動で実行するか、自動で開始できます。

指示文は通常、メッセージの詳細に表示されます。指示文は、『*HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server リファレンスガイド*』にも記載されています。



**ASCII テキスト レポート** : 上記の指示文に加え、一部のメッセージでは自動アクション レポートも生成されます。このレポートには、特定の WebLogic Server インスタンスの状態が表示されます。レポートが利用できる場合は、[メッセージ詳細] 内の [注釈] の領域に表示されます。

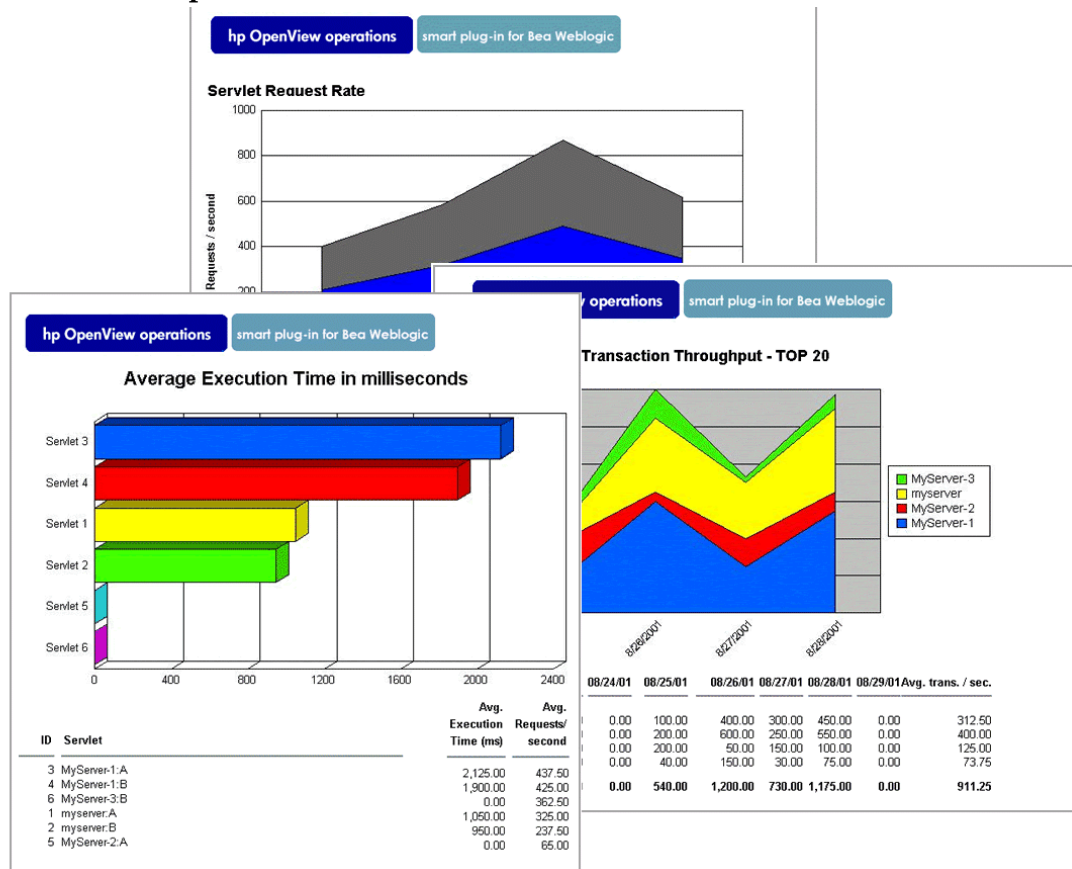
## HP Reporter を使用したレポートの生成

WebLogic SPI を HP Reporter と統合し、管理用の Web ベースのレポートを生成できます。WebLogic SPI レポート パッケージには、これらのレポート生成のテンプレートが含まれています。レポート パッケージは、Reporter の Windows システムにインストール可能です。

製品のインストールと基本設定を完了すると、Reporter により、要約および統合されたデータのレポートが毎晩生成されます。このレポートを参考にして、一定期間の WebLogic Server のパフォーマンスを評価できます。

Reporter は WebLogic SPI データを使用して、サブレットの要求率、トランザクションのスループット率、平均トランザクション実行時間などを示すレポートを生成します。

図 1 HP Reporter により生成されたレポート



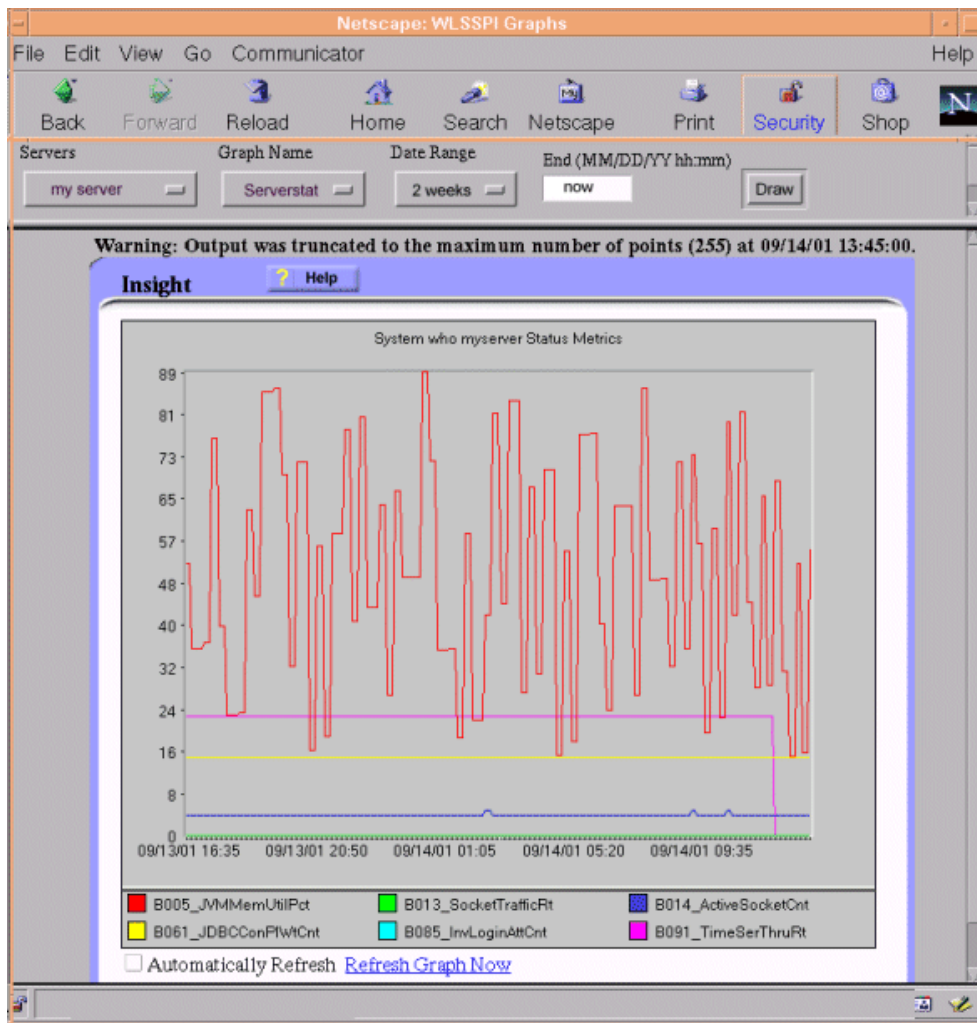
## HP Performance Manager によるデータのグラフ作成

WebLogic SPI により収集されたメトリックはグラフ化できます。値を表示してトレンドの分析に使用できます。

WebLogic SPI を HP Performance Manager に統合し、グラフを生成して表示できます。(WLSSPI Admin アプリケーショングループから **View Graphs** アプリケーションを使用してグラフを表示します)。これらのグラフは、WebLogic SPI により収集されたメトリック値を示します。**[アクション起動]** をクリックすると、ほとんどの WebLogic SPI 警告通知メッセージからのデータをグラフ化して表示できます。**[アクション起動]** はメッセージブラウザ内、またはメッセージブラウザのメッセージの詳細にあります(メッセージの詳細にアクセスするには、メッ



ページをダブルクリックするか、メッセージブラウザで **[詳細 ...]** をクリックします)。このアクションにより **Web** ブラウザが起動され、そのメッセージを生成したメトリックと関連メトリックの値を示すグラフを選択できます。以下はグラフのサンプルです。



## テンプレートおよびメトリックのカスタマイズ

WebLogic SPI テンプレートはカスタマイズせずに使用することも、使用する環境に応じて変更することもできます。実行可能な変更とカスタマイズの一部を以下に示します。

- デフォルト テンプレートの変更: テンプレート内で、以下のデフォルト設定を変更できます。
  - 収集間隔
  - しきい値
  - メッセージテキスト
  - 期間
  - 条件の重要度レベル
  - 条件に割り当てられたアクション (自動またはオペレータによる)

- カスタム テンプレート グループの作成: デフォルト テンプレートを元に、カスタム テンプレート グループを作成できます。詳細については、[WebLogic SPI のカスタマイズ](#)を参照してください。
- カスタム メトリックの作成: 独自のメトリックまたはユーザー定義メトリック (UDM) を定義し、WebLogic SPI の監視機能を拡張できます。UDM の詳細は、『*HP Operations Smart Plug-in User Defined Metrics User Guide*』を参照してください。

## WebLogic SPI のコンポーネント

WebLogic SPI には、次のような 2 つの主要コンポーネントがあります。

- アプリケーション (レポートを含む)
- テンプレート

アプリケーションとテンプレートを使用して、データをメッセージ、注釈、メトリック レポートの形式で設定および受信できます。これらのメッセージ (メッセージ ブラウザに表示)、注釈 (メッセージ プロパティで使用可能)、およびメトリック レポート (アプリケーションまたはメッセージの詳細で使用可能) は、特定の管理対象ノード上で実行されているサーバーの現在の状態についての情報を提供します。

WebLogic SPI 設定アプリケーションを使用して、特定の管理対象ノード上の指定されたサーバー インスタンスに対する管理サーバーの接続を設定できます。接続の設定完了後、ノードにテンプレートを割り当てることができます。管理対象ノードで **HP Operations** エージェント ソフトウェアが実行されている場合、WebLogic SPI のレポート アプリケーションを使用してメトリック レポートを生成できます。さらに、WebLogic SPI のデータを示すグラフも生成できます (メッセージ プロパティで作成可能)。

## アプリケーション

WebLogic SPI アプリケーションには、設定、トラブルシューティング、レポート生成ユーティリティがあります。[登録アプリケーション] ウィンドウでは、WebLogic SPI アプリケーションは以下のグループに分類されます。

- WLSSPI Admin
- WebLogic
- WLSSPI レポート
- **JMX Metric Builder:** このアプリケーション グループは、SPIJMB ソフトウェアをインストールしている場合にのみ利用できます。

### WLSSPI Admin アプリケーション グループ

WLSSPI Admin アプリケーションでは、WebLogic SPI の設定、制御、およびトラブルシューティングを実行できます。**root** ユーザー権限で WLSSPI Admin アプリケーションを実行する必要があります。



WLSSPI Admin アプリケーション グループには、以下のアプリケーションがあります。

- **Configure WLSSPI:** 設定エディタを起動し、WebLogic SPI の設定を管理します。
- **Discover WebLogic:** 検出に必要な基本的な設定プロパティを設定します。
- **Init Non-Root:** UNIX 管理対象ノードで非 root HTTPS エージェントを簡単に設定できるようにします (OVO 8.x のみ)。UNIX 管理対象ノードでの非 root HTTPS エージェントの設定に必要な手順については、[UNIX 管理対象ノードでの非 root HTTPS エージェントの設定 \(OVO 8.x のみ\)](#) ページの 53 を参照してください。
- **Self-Healing Info:** HP のサポート担当者に送信するデータを収集します。
- **Start Monitoring:** 管理対象ノード上の 1 つのアプリケーション サーバーまたはすべてのアプリケーション サーバーでメトリックの収集を開始します。監視機能が開始されているか、停止されているかを判定するには、**Verify** アプリケーションを起動します。デフォルトでは、監視機能は有効になっています。
- **Stop Monitoring:** 管理対象ノード上の 1 つのアプリケーション サーバーまたはすべてのアプリケーション サーバーでメトリックの収集を停止します。
- **Start Tracing:** 選択したメトリックについてのトレース記録情報の収集を開始します。このアプリケーションは、HP のサポート担当者に指示された場合のみ起動するようにしてください。
- **Stop Tracing:** 選択したメトリックについてのトレース記録情報の収集を停止します。このアプリケーションは、HP のサポート担当者に指示された場合のみ起動するようにしてください。
- **Verify:** WebLogic SPI がサーバーまたは管理対象ノード上に正しくインストールされていることを確認します。
- **View Error File:** WebLogic SPI エラー ログ ファイルの内容を表示できます。

- **View Graphs:** HP Performance Manager により生成された WebLogic SPI グラフを Web ブラウザで表示できます。追加の設定が必要です。詳細は、[タスク 1: Web ブラウザを起動するため管理サーバーを設定する](#) ページの 37 を参照してください。

上記の各アプリケーションの詳細は、[付録 C、アプリケーション](#) を参照してください。

## WebLogic アプリケーション グループ

WebLogic アプリケーション グループのアプリケーションを使用して、WebLogic Server の機能を管理できます。

WebLogic アプリケーションにアクセスするには、[登録アプリケーション] ウィンドウで **[WLSSPI]** → **[WebLogic]** の順にダブルクリックします。



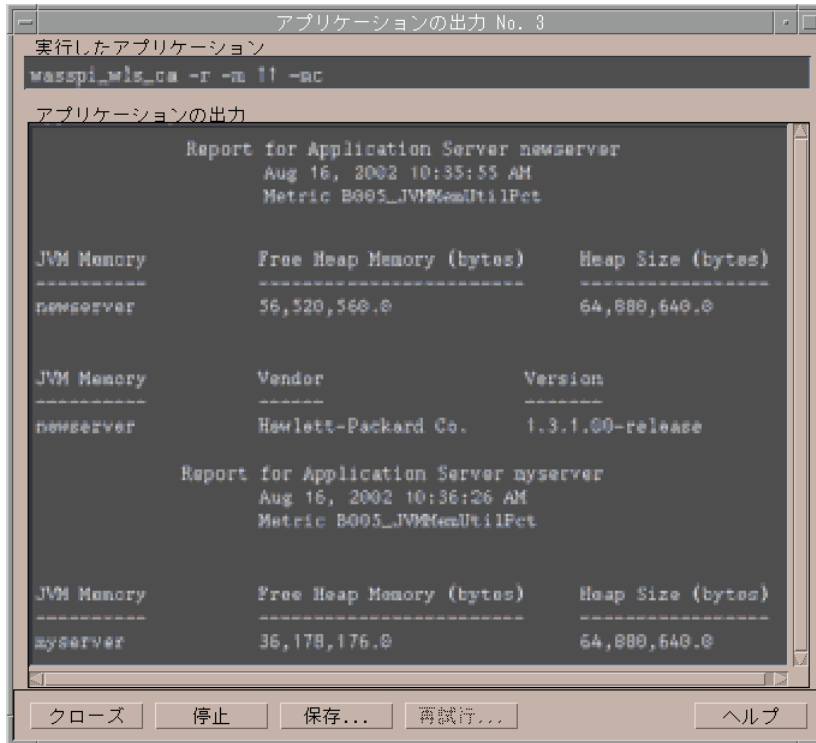
WebLogic グループには以下のアプリケーションがあります。

- **Check WebLogic:** WebLogic Server の対話型のステータス チェックを実行します。
- **Start WLS Console:** Web ブラウザで WebLogic Server Admin Console を起動します (設定が必要)。
- **Start WebLogic:** HPOM コンソールから WebLogic Server を起動できます (設定が必要)。
- **Stop WebLogic:** HPOM コンソールから WebLogic Server を停止できます (設定が必要)。
- **View Deployed Apps:** WebLogic Server インスタンスに配布されているすべてのアプリケーションの名前とバージョンを参照できます。
- **View WebLogic Log:** WebLogic Server のログ ファイルを参照できます。
- **View WebLogic Servers:** WebLogic のドメイン設定、クラスタ情報、および物理コンピュータを参照できます。
- **View Application Activation Status:** WebLogic Server で実行中のアプリケーションの稼働状況を参照できます。
- **View Application Timeout:** WebLogic Server で実行中のアプリケーションがタイムアウトで終了するまでの残り時間を参照できます。

## WLSSPI レポート グループ

WLSSPI レポート グループには、WebLogic Server の状態に関する情報を示すレポートが含まれています。

[登録アプリケーション] ウィンドウでレポートに管理対象ノードをドラッグすると、これらのレポートを手動で生成できます。各レポートでは、管理対象ノード上に設定されたすべての WebLogic Server インスタンスの状態が、レポート対象のメトリックに関連して示されます。以下は WebLogic SPI 登録アプリケーション レポートのサンプルです。



### 警告通知から生成された登録アプリケーションのレポート

警告通知条件からレポートを生成できます。このレポートはコンテキストに基づき自動的に生成され、管理対象ノード上の 1 つのサーバーにのみ関連しています。レポートはメッセージの [注釈] セクション内に表示されます。

**SUIAONE** 列を表示するようメッセージ ブラウザを設定している場合、レポートが生成されたときに **S** 列 (メッセージの隣) の下にフラグが表示されます。

## JMX Metric Builder アプリケーション

JMX Metric Builder アプリケーション グループには以下のアプリケーションがあります。

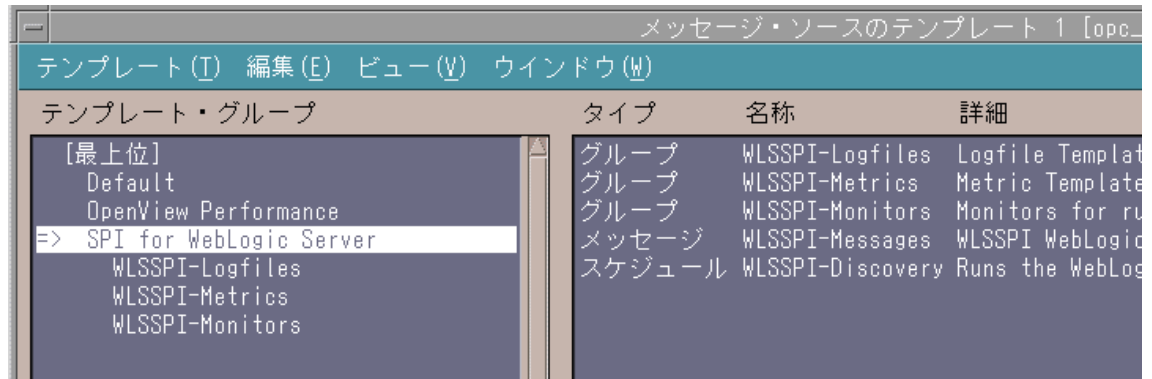
- **Deploy UDM:** UDM ファイルを配布します。
- **Gather MBean Data:** JMX Metric Builder で使用する MBean 情報を収集します。
- **JMX Metric Builder:** UDM を作成し、MBeans を表示するのに使用する JMX Metric Builder アプリケーションを起動します。

- **UDM Graph Enable/Disable:** UDM グラフ用のデータの収集を開始または停止します。HP Operations サブエージェントの開始または停止も行います。

JMX Metric Builder アプリケーション グループの詳細と SPIJMB ソフトウェアのインストール手順については、『*HP Operations Smart Plug-in User Defined Metrics User Guide*』を参照してください。

## WebLogic SPI テンプレート グループおよびテンプレート

WebLogic SPI テンプレートは、グループおよびサブグループ単位で編成されます。



SPI for WebLogic Server テンプレート グループには、以下のテンプレート サブグループと個々のテンプレートが含まれます。

- **WLSSPI-Logfiles:** ログ ファイル別のメッセージと、WebLogic Server ログ ファイルおよび WebLogic SPI ログ ファイルの両方で検出されたエラー テキストを生成するテンプレートが含まれます。これらのログ ファイルから取り込まれた情報には、WebLogic Server または WebLogic SPI の操作中に発生したエラーや WebLogic Server 設定の変更が含まれます。
- **WLSSPI-Metrics:** パフォーマンス レベルおよび WebLogic Server の可用性を監視するメトリック テンプレートが含まれます。

各メトリック テンプレートは、監視対象のメトリック、しきい値を超えた場合に HPOM メッセージ ブラウザに送信されるメッセージ テキスト、実行するアクション、および表示される指示についてのしきい値の条件を決定します。

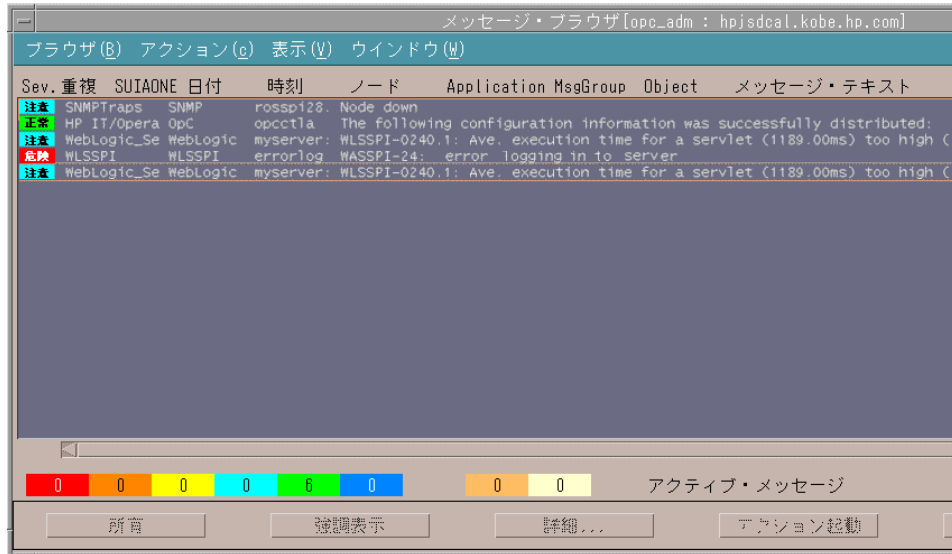
- **WLSSPI-Schedule:** メトリック テンプレートの収集間隔を指定するコレクタ テンプレートが含まれます。各コレクタ テンプレートの名前には、収集間隔が含まれています。たとえば、テンプレート WLSSPI-1h の収集間隔は 1 時間です (1h は 1 時間を表しています)。各コレクタ テンプレートには、5 分、15 分、1 時間のいずれかの収集間隔が指定されています。

コレクタ テンプレートを開くと、指定された間隔で収集されるメトリックがリストされています (メトリックはコレクタ / アナライザ用コマンド wasspi\_wls\_ca の -m オプションの後に番号でリストされます)。

各コレクタ テンプレートは、どのようなメトリックをいつ収集するかを制御します。具体的には、コレクタ テンプレートは以下を実行します。

- 各収集間隔でコレクタ / アナライザを実行する
- どのメトリックを収集するかを指定する

- **WLSSPI-Messages:** 単一のテンプレートです。このテンプレートは、HPOM メッセージブラウザの WebLogic SPI メッセージを遮断します。
- **WLSSPI-Discovery:** 単一のテンプレートです。このテンプレートは、HPOM 管理サーバーと管理対象ノード上の設定を更新します。



上図のメッセージブラウザでは、WebLogic SPI テンプレートで生成された最後の 3 つのメッセージが WebLogic および WLSSPI メッセージグループに属しています (タイトルの列 [MsgGroup] を参照)。WebLogic メッセージは WebLogic Server で発生している状態を示し、WLSSPI メッセージは WebLogic SPI で発生している状態を示しています。





## 2 WebLogic SPI のインストール、削除、およびアップグレード

### WebLogic SPI のインストール

WebLogic SPI をインストールする前に、HP Operations Manager (HPOM) 管理サーバーおよび検出パッケージをインストールする必要があります。WebLogic SPI のインストールを始める前に HPOM セッションを停止する必要はありません。

検出パッケージと WebLogic SPI は「*HP Operations Smart Plug-ins*」DVD に収録されています。

- ▶ UDM を作成する場合は、SPIJMB ソフトウェアをインストールします。このソフトウェアの詳細は、『*HP Operations Smart Plug-in User Defined Metrics User Guide*』を参照してください。  
ソフトウェア要件の詳細なリストは、『*HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server Release Notes*』を参照してください。
- ▶ 以降の手順では、swinstall のコマンド行での使用方法について説明します。HP-UX システムではグラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) も使用できます。

HP-UX 11.23 および 11.31 管理サーバーの場合、以下のコマンドを実行します。

```
swinstall -s /cdrom/OV_DEPOT/11.0HPUX.depot WLSSPI
```

Solaris 管理サーバーでは、パッケージが depot 形式と Solaris ネイティブ形式の両方でサポートされています。

depot 形式の Solaris 管理サーバーの場合、以下を入力します。

```
swinstall -s /cdrom/OV_DEPOT/SOLARIS.depot WLSSPI
```

ネイティブ形式の Solaris 管理サーバーの場合、以下の手順を実行します。

- 1 インストール中に既存のリンクが壊れないように、Solaris 管理サーバーに SPI ソフトウェアをインストールする前に、PKG\_NONABI\_SYMLINKS を true に設定します。以下のように入力します。

```
PKG_NONABI_SYMLINKS=TRUE
```

```
export PKG_NONABI_SYMLINKS
```

- 2 SPI は、"DSI2DDF" および "SPI-SVCDISC-OVO" と依存関係があります。これらの 2 つのパッケージは、Solaris のネイティブ形式では使用できません。このため、HPOMSpiDVD-8.1.sparc パッケージをインストールする前に、SOLARIS.depot から "DSI2DDF" および "SPI-SVCDISC-OVO" をインストールします。HPOMSpiDVD-8.1.sparc をインストールするには、以下のように入力します。

```
pkgadd -d /cdrom/OV_DEPOT/HPOMSpiDVD-8.1.sparc
```

- 3 以下の SPI のインストールを選択します。

- HPOvSpiWls

- HPOvSpiJmx
- HPOvSpiShs

## WebLogic SPI の削除

すべての WebLogic SPI コンポーネントを完全に削除するには、以下の手順を実行します。

- タスク 1: 管理サーバーから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する
- タスク 2: ノード グループおよび管理対象ノードから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する
- タスク 3: WebLogic SPI テンプレートおよびテンプレート グループを削除する
- タスク 4: WebLogic SPI アプリケーション グループを削除する
- タスク 5: WebLogic SPI メッセージおよびノード グループを削除する
- タスク 6: WebLogic SPI ディレクトリを削除する
- タスク 7: レポート パッケージを削除する (オプション)
- タスク 8: グラフ作成パッケージを削除する (オプション)

### タスク 1: 管理サーバーから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する

- 1 ターミナル ウィンドウを開き、**root** としてログオンします。
- 2 ターミナル ウィンドウに以下を入力します。

- HP-UX 11.23 および 11.31 管理サーバーの場合、以下を入力します。

```
/usr/sbin/swremove WLSSPI または  
/usr/sbin/swremove SPIWebLogicAll
```

- depot 形式の Solaris 管理サーバーの場合、以下を入力します。

```
/usr/sbin/swremove WLSSPI または  
/usr/sbin/swremove SPIWebLogicAll
```

- ネイティブ形式の Solaris 管理サーバーの場合、以下を入力します。

```
/usr/sbin/pkgrm HPOvSpiWls
```

swremove コマンド、または pkgrm コマンドは、ファイル システムからのみファイルを削除します。HPOM データ リポジトリからは WebLogic SPI テンプレートが削除されないため、手動で削除する必要があります。HPOM データ リポジトリからテンプレートを削除する前に、管理対象ノードからテンプレートと WebLogic SPI ソフトウェアを削除します。

- 3 以下のコマンドを実行します。

```
cd /opt/OV/wasspi/wls/bin  
find . -name "wasspi_wls*" -exec rm {} \;
```

このコマンドにより、ディレクトリ内の wasspi\_wls で始まるファイルがすべて削除されます。

```
/opt/OV/wasspi/wls/bin/
```

## タスク 2: ノード グループおよび管理対象ノードから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する

- 1 [登録ノード]を開き、[アクション]メニューから[エージェント]→[テンプレートの指定]を選択します。
- 2 WebLogic ノード グループと WebLogic テンプレートが配布されているすべての管理対象ノードを選択します。
- 3 [ノード/グループの削除]をクリックします。
- 4 [登録ノード・グループ]を開き、WebLogic ノード グループを選択します。
- 5 [アクション]メニューから[ソフトウェアと設定のインストール/更新]を選択し、以下のチェックボックスをオンにします。
  - テンプレート
  - アクション
  - モニタ
  - コマンド
- 6 [ノード・リスト中のノード]をクリックします。
- 7 [強制アップデート]をクリックします。
- 8 [OK]をクリックして、管理対象ノードからテンプレート、アクション、コマンド、モニタを削除します。メッセージブラウザに以下のメッセージが表示されます。

次の設定情報は正常に分配されました。テンプレート アクション コマンド モニタ

## タスク 3: WebLogic SPI テンプレートおよびテンプレート グループを削除する

SPI for WebLogic Server テンプレート グループから、すべてのテンプレートとテンプレート サブグループを削除します。[SPI for WebLogic Server] テンプレート グループを削除します。以下の手順を実行します。

- 1 [ウィンドウ]メニューから、[メッセージ・ソースのテンプレート]を選択し、[SPI for WebLogic Server] テンプレート グループをダブルクリックします。
- 2 [Shift] キーを押しながら SPI for WebLogic Server テンプレート グループのすべてのテンプレートとテンプレート グループを選択します。
- 3 [全てから削除...]をクリックします。次のメッセージが表示されます。

テンプレートを削除します。いいですか？
- 4 [はい]をクリックします。
- 5 [SPI for WebLogic Server] テンプレート グループを削除します。
- 6 他の HPOM テンプレート グループにあるカスタマイズされたテンプレート (編集したデフォルトの WebLogic SPI テンプレート) をすべて削除します。

## タスク 4: WebLogic SPI アプリケーション グループを削除する

- 1 [登録アプリケーション]を開きます。
- 2 WLSSPI アプリケーション グループを右クリックし、**[削除]**を選択します。以下のメッセージが表示されます。  
アプリケーションまたはアプリケーション グループを削除します。いいですか？
- 3 **[はい]**をクリックします。

## タスク 5: WebLogic SPI メッセージおよびノード グループを削除する

- 1 [ウィンドウ]メニューから**[登録メッセージグループ]**を選択します。
- 2 [登録メッセージグループ]ウィンドウで**[WLSSPI]**グループを右クリックし、**[削除]**を選択します。以下のメッセージが表示されます。  
メッセージ グループを削除します。いいですか？
- 3 **[はい]**をクリックします。
- 4 WebLogic グループについても、ステップ 2 と 3 を繰り返します。
- 5 [ウィンドウ]メニューから**[登録ノード・グループ]**を選択します。
- 6 各 WebLogic SPI および WebLogic Server グループを右クリックし、**[削除]**を選択します。以下のメッセージが表示されます。  
ノード グループを削除します。いいですか？
- 7 **[はい]**をクリックします。

## タスク 6: WebLogic SPI ディレクトリを削除する

コマンドプロンプトから、以下のコマンドを実行します。

```
rm -rf /opt/OV/wasspi/wls
```

## タスク 7: レポート パッケージを削除する (オプション)

WebLogic SPI レポート パッケージをインストールしている場合、HP Reporter が実行されている Windows システムから、WebLogic SPI レポート パッケージを削除します。

- 1 **[設定]**→**[コントロールパネル]**→**[プログラムの追加と削除]**をクリックします。
- 2 WebLogic SPI レポート パッケージを選択し、**[削除]**をクリックします。

## タスク 8: グラフ作成パッケージを削除する (オプション)

WebLogic SPI グラフ作成パッケージを (HPOM 管理サーバーおよび HP Performance Manager を実行するシステムに) インストールしている場合は削除します。

- HPOM 管理サーバーで、以下のコマンドを実行します。

`/usr/sbin/swremove WLSSPI-GRAPHS`

- HP Performance Manager を実行している Windows システムで、以下の手順を実行します。
  - a [設定] → [コントロールパネル] → [プログラムの追加と削除] をクリックします。
  - b WebLogic SPI グラフ作成パッケージ (HP Operations SPI for WebLogic Server - Graphing Component Integration) を選択し、[削除] をクリックします。
- HP Performance Manager を実行している HP-UX システム (HPOM 管理サーバーではないシステム) で、以下の手順を実行します。
  - ▶ HPOM 管理サーバーに HP Performance Manager をインストールしている場合、ファイルは「[タスク 1: 管理サーバーから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する](#)」で削除されます。
  - a 以下のコマンドを実行し、グラフ作成パッケージがインストールされていることを確認します。

```
swlist | grep WLSSPI-GRAPHS
```
  - b グラフ作成パッケージがインストールされている場合、`swremove WLSSPI-GRAPHS` を実行します。
- HP Performance Manager を実行している Solaris システム (HPOM 管理サーバーではないシステム) で、以下の手順を実行します。
  - ▶ HPOM 管理サーバーに HP Performance Manager をインストールしている場合、ファイルは「[タスク 1: 管理サーバーから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する](#)」で削除されます。
  - a 以下のコマンドを実行し、グラフ作成パッケージがインストールされていることを確認します。

```
/usr/bin/pkginfo HPOvSpiWlsGc
```
  - b グラフ作成パッケージがインストールされている場合、`/usr/sbin/pkgrm HPOvSpiWlsGc` を実行します。

## WebLogic SPI のアップグレード



SPI をバージョン A.04.00.00 から 4.20 にアップグレードする場合、既存の `WLSSPI_RPT_METRICS` データソースが自動的に削除されます。新しいデータソースが作成され、既存のデータは失われます。

CODA または HP Performance Agent のいずれを使用している場合でも、データソースが削除されます。

以前のバージョンからアップグレードしても、設定エントリはすべて保存されます。

WebLogic SPI をアップグレードするには、以下のタスクを実行します。

- [タスク 1: 管理サーバーから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する](#)
- [タスク 2: WebLogic SPI テンプレートを削除する](#)
- [タスク 3: WebLogic SPI アプリケーションを削除する](#)

- タスク 4: WebLogic SPI をアップグレードする
- タスク 5: `opc_adm` のオペレータ作業範囲を割り当てる
- タスク 6: 管理サーバーにテンプレートを割り当てるタスク 7: 管理サーバーにテンプレートを分配する
- タスク 7: 管理サーバーにテンプレートを分配する
- タスク 8: テンプレートをカスタマイズする
- タスク 9: 新しいノード グループにノードを移動する
- タスク 10: ノード グループを削除する
- タスク 11: アクション、モニタ、コマンド、およびテンプレートを分配する
- タスク 12: Discover WebLogic アプリケーションを起動する
- タスク 13: 新しいレポート パッケージをインストールする (オプション)
- タスク 14: 新しいグラフ作成パッケージをインストールする (オプション)

## タスク 1: 管理サーバーから WebLogic SPI ソフトウェアを削除する

- 1 ターミナル ウィンドウを開き、`root` としてログオンします。
- 2 以下のコマンドを実行します。
 

```
/usr/sbin/swremove WLSSPI
/usr/sbin/swremove SPIWebLogicAll
/usr/sbin/swremove WLSSP-GRAPHS
```
- 3 以下のコマンドを実行して、`/opt/OV/wasspi/wls/bin/` ディレクトリにあるすべての SPI ファイルを削除します。
 

```
cd /opt/OV/wasspi/wls/bin
find . -name "wasspi_wls*" -exec rm {} \;
```

このコマンドにより、`wasspi_wls` で始まるファイルがすべて削除されます。

## タスク 2: WebLogic SPI テンプレートを削除する

SPI for WebLogic Server テンプレート グループの下にあるすべての WebLogic SPI テンプレートおよびテンプレート グループを削除し、次に SPI for WebLogic Server テンプレート グループを削除します。デフォルト テンプレートをカスタマイズしている場合は、カスタマイズは保存されないため、変更内容をメモしておきます。以下の手順を実行します。

- 1 [ウィンドウ] メニューから、[メッセージ・ソースのテンプレート] を選択し、[SPI for WebLogic Server] テンプレート グループを選択します。
- 2 WebLogic グループをダブルクリックします (WebLogic 10.0、9.x、8.1、7.0、6.1、6.0、5.1 のうち該当するもの)。個々のテンプレートが表示される最下位のレベルまで、テンプレート グループを開きます。
- 3 [Shift] キーを押しながら、すべてのテンプレートを選択します。
- 4 [全てから削除 ...] をクリックします。以下のメッセージが表示されます。  
テンプレートを削除します。いいですか？

- 5 **[はい]** をクリックします。
- 6 1つ上のレベルに進み、次のグループを開きます。ステップ 2～5 を繰り返して、[メッセージ・ソースのテンプレート] ウィンドウから個々の **WebLogic SPI** テンプレートおよびテンプレート グループをすべて削除します。

### タスク 3: WebLogic SPI アプリケーションを削除する

- 1 [登録アプリケーション] を開きます。
- 2 **WLSSPI** アプリケーション グループを右クリックし、**[削除]** を選択します。以下のメッセージが表示されます。  
アプリケーションまたはアプリケーション グループを削除します。いいですか？
- 3 **[はい]** をクリックします。

### タスク 4: WebLogic SPI をアップグレードする

WebLogic SPI ソフトウェアは「*HP Operations Smart Plug-ins*」DVD に収録されています。



以降の手順では、コマンド行で **swinstall** を実行する方法について説明します。HP-UX システムではグラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) も使用できます。

HP-UX 11.23 および 11.31 管理サーバーの場合、以下のコマンドを実行します。

```
swinstall -s /cdrom/OV_DEPOT/11.0HPUX.depot WLSSPI
```

Solaris 管理サーバーでは、パッケージが depot 形式と Solaris ネイティブ形式の両方でサポートされています。

depot 形式の Solaris 管理サーバーの場合、以下を入力します。

```
swinstall -s /cdrom/OV_DEPOT/SOLARIS.depot WLSSPI
```

ネイティブ形式の Solaris 管理サーバーの場合、以下の手順を実行します。

- 1 インストール中に既存のリンクが壊れないように、Solaris 管理サーバーで SPI ソフトウェアをアップグレードする前に、**PKG\_NONABI\_SYMLINKS** を **true** に設定します。以下のように入力します。

```
PKG_NONABI_SYMLINKS=TRUE
```

```
export PKG_NONABI_SYMLINKS
```

- 2 SPI は、"DSI2DDF" および "SPI-SVCDISC-OVO" と依存関係があります。これらの 2 つのパッケージは、Solaris のネイティブ形式では使用できません。このため、HPOMSpiDVD-8.1.sparc パッケージをインストールする前に、**SOLARIS.depot** から "DSI2DDF" および "SPI-SVCDISC-OVO" をインストールします。HPOMSpiDVD-8.1.sparc をインストールするには、以下のように入力します。

```
pkgadd -d /cdrom/OV_DEPOT/HPOMSpiDVD-8.1.sparc
```

- 3 以下の SPI のアップグレードを選択します。
  - HPOvSpiWls
  - HPOvSpiJmx
  - HPOvSpiShs

## タスク 5: opc\_adm のオペレータ作業範囲を割り当てる

- 1 管理者 (**opc\_adm**) として HPOM にログオンします。
- 2 [登録ユーザ] ウィンドウで **opc\_adm** ユーザーを右クリックし、[**変更**] を選択します。
- 3 [ユーザの変更: **opc\_adm**] ウィンドウで、[**作業範囲**] をクリックします。
- 4 [WLSSPI] および [WebLogic] メッセージ グループについて、すべてのチェックボックスがオンになっていることを確認します。
- 5 [WLSSPI] ノードまたはメッセージ グループを他の適切なオペレータに割り当てます。
- 6 [**閉じる**] をクリックします。

## タスク 6: 管理サーバーにテンプレートを割り当てる

- 1 [登録ノード] ウィンドウを開き、管理サーバーを選択します。
- 2 [アクション] メニューから、[**エージェント**] → [**テンプレートの指定**] を選択します。[ノード/テンプレートの指定] ウィンドウが表示されます。
- 3 [**追加**] をクリックします。[ノード/テンプレートの追加] ウィンドウが表示されます。
- 4 [**テンプレート**] ウィンドウをクリックします。[メッセージ・ソースのテンプレート] ウィンドウが表示されます。
- 5 [テンプレート・グループ] ペインで、[**SPI for WebLogic Server**] テンプレート グループを選択します。
- 6 [メッセージ・ソースのテンプレート] ウィンドウの右ペインで、[**WLSSPI-Discovery**] テンプレート グループと [**WLSSPI-Messages**] テンプレートを選択します。
- 7 [ノード/テンプレートの追加] ウィンドウから [**選択テンプレートの取得**] をクリックします。WLSSPI-Messages テンプレートおよび WLSSPI-WebLogic-Discovery テンプレートが右ペインに表示されます。
- 8 [ノード/テンプレートの追加] ウィンドウから [**OK**] をクリックします。

## タスク 7: 管理サーバーにテンプレートを分配する

- 1 [登録ノード] ウィンドウを開き、管理サーバーを選択します。
- 2 [アクション] メニューから、[**エージェント**] → [**ソフトウェアと設定のインストール/更新**] を選択します。
- 3 [ターゲット・ノード] セクションで [**ノード・リスト中で要アップデートのノード**] を選択します。
- 4 [ソフトウェアと設定のインストール/更新] ウィンドウで [**テンプレート**] チェックボックスをオンにします。
- 5 [**強制アップデート**] を選択します。
- 6 [**OK**] をクリックします。  
メッセージ ブラウザに以下のメッセージが表示されます。  
次の設定情報は正常に分配されました。テンプレート



## タスク 8: テンプレートをカスタマイズする

- 1 デフォルト テンプレートをコピーします。
- 2 以前のバージョンのテンプレートでのカスタマイズ内容を、現在のバージョンのコピーに適用します。



このバージョンの WebLogic SPI では、テンプレートは WebLogic のバージョン番号でグループ化されません。

## タスク 9: 新しいノード グループにノードを移動する

SPI for WebLogic Server ノード グループ内のすべての管理対象ノード (サポートされているバージョンの WebLogic Server を実行しているノード) を新しい WebLogic ノード グループに移動します。サポートされているバージョンの WebLogic Server を実行している管理対象ノードは、WebLogic 10.0、WebLogic 9.x、WebLogic 8.1、WebLogic 7.0、WebLogic 6.1 の各ノードグループ内にあります。ノードを移動するには、以下の手順を実行します。

- 1 [登録ノード] を開き、[SPI for WebLogic Server] ノード グループを選択します。
- 2 [WebLogic 10.0] ノード グループをダブルクリックし、その中の管理対象ノードをメモします。[WebLogic 10.0]、[WebLogic 7.0] および [WebLogic 6.1] ノード グループについても、このステップを繰り返します。
- 3 登録ノードの最上位 (WebLogic ノード グループが表示される) まで戻ります。
- 4 (ステップ 2 でメモした) ノードを IP サブマップから [WebLogic] ノード グループにドラッグ & ドロップまたはコピー & ペーストします。

## タスク 10: ノード グループを削除する

SPI for WebLogic Server ノード グループ内のすべてのバージョンのノード グループを削除します。これには、WebLogic 10.0、WebLogic 9.x、WebLogic 8.1、WebLogic 7.0、WebLogic 6.1、WebLogic 6.0、WebLogic 5.1 が該当します。各バージョンのノード グループを削除するには、以下の手順を実行します。

- 1 [登録ノード] を開き、[SPI for WebLogic Server] ノード グループを選択します。
- 2 任意のバージョンの WebLogic ノード グループを選択し、[編集] メニューから [削除] を選択します。以下のメッセージが表示されます。  
ノード グループを削除します。いいですか？
- 3 [はい] をクリックします。
- 4 すべてのバージョンの WebLogic ノード グループが削除されるまで、ステップ 2 と 3 を繰り返します。

## タスク 11: アクション、モニタ、コマンド、およびテンプレートを分配する

- 1 [登録ノード] ウィンドウで、WebLogic SPI をインストールするノードまたはノード グループを選択します。

- 2 [アクション]メニューから、[エージェント]→[ソフトウェアと設定のインストール/更新]を選択します。
- 3 [ソフトウェアと設定のインストール/更新]ウィンドウで、以下のコンポーネントチェックボックスをオンにします。

- [テンプレート]
- [アクション]
- [モニタ]
- [コマンド]

このダイアログを使用して、アップデートされたコンポーネントを管理対象ノードに配布します。

- 4 [強制アップデート]チェックボックスをオンにします。
- 5 [ノード・リスト中のノード]ボタンを選択します。完了すると、以下のメッセージが管理対象ノードごとにメッセージブラウザに表示されます。

次の設定情報は正常に分配されました。アクション コマンド モニタ テンプレート



メッセージブラウザに **WebLogic SPI** エラーが表示される場合があります。これらのエラーは、更新されたプログラムに移行したことにより発生したものであるため、無視してかまいません。**WebLogic SPI** テンプレートとプログラムは、管理サーバーおよび選択した管理対象ノードで更新されます。アップグレードが完了すると、これらのエラーは解消します。

## タスク 12: Discover WebLogic アプリケーションを起動する

Discover WebLogic アプリケーションを起動する必要があります。WebLogic SPI 設定データはすべて保存されているため、設定データを再入力する必要はありません。ファイルを再配布するには、複数のノード、ノードグループ、または単一のノードをドラッグ & ドロップします。ファイルを再配布すると、関連する情報も更新および転送され、ノードに格納されます。

Discover WebLogic アプリケーションを起動するには、以下の手順を実行します。

- 1 HPOM コンソールで、[登録ノード]ウィンドウのノードを選択します。
- 2 [ウィンドウ]メニューから [登録アプリケーション] を選択します。
- 3 [登録アプリケーション]ウィンドウで、[WLSSPI] → [WLSSPI Admin] → [Discover] を選択します。(このように表示されない場合は、[マップ] → [再ロード] を選択します)。  
[Introduction] ウィンドウが表示されます。
- 4 [Next] をクリックします。2 つ目の [Introduction] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、検出プロセスが機能するために必要なプロパティについての情報が表示されます。
- 5 この情報を読んでから [Next] をクリックします。設定エディタが開きます。
- 6 設定エディタを使用して、必要な変更を行います。

- ▶ 設定エディタを使用して設定を行う場合は、以下の点に注意してください。
- **GRAPH\_SERVER** プロパティは、現在 **WebLogic SPI** でサポートされていません。代わりに、**GRAPH\_URL** プロパティを設定してください。
  - 管理対象ノードの **UDM** ファイルの場所をメモし、**UDM\_DEFINITIONS\_FILE** プロパティが設定されている場合は削除します。
  - 管理対象ノードの **UDM** は個別に設定しないでください。代わりに、`/opt/OV/wasspi/wls/conf/wasspi_wls_udmDefnintions.xml` ファイルで管理サーバーにこれらの **UDM** を設定します（または別のファイルを使用する場合は **UDM\_DEFINITIONS\_SOURCE** プロパティを設定します）。
  - 管理サーバーに **UDM** を統合した後、古い **UDM** ファイルを管理対象ノードから削除し、**Deploy UDM** アプリケーションを使用して新しい **UDM** ファイルを管理対象ノードに分配します。
- 7 **[Next]** をクリックしてあらゆる変更を保存し、エディタを終了します。**[Confirm Operation]** ウィンドウが表示されます。
- 8 **[OK]** をクリックします。
- [Cancel]** をクリックすると、設定に加えた変更がすべて、管理サーバー上の設定に残ります。選択した管理対象ノードの設定に変更を加えるには、**[登録ノード]** ウィンドウでそれらのノードを選択し、**Discovery** アプリケーションを起動します。次に、設定エディタで **[Next]** をクリックし、**[Confirm Operation]** ウィンドウで **[OK]** をクリックします。
- ▶ 検出プロセスが完了するまで、**Discover** アプリケーション ウィンドウを閉じないでください。検出プロセスが完了するまでに数分かかる場合があります。

## タスク 13: 新しいレポート パッケージをインストールする (オプション)

旧バージョンの **WebLogic SPI** レポート パッケージを **HP Reporter** を実行する **Windows** システムから削除し、新しい **WebLogic SPI** レポート パッケージをインストールします。新しいレポート パッケージをインストールするには、以下の手順を実行します。

- 1 **HP Reporter** を実行する **Windows** システムで、**[設定]** → **[コントロール パネル]** → **[プログラムの追加と削除]** をクリックします。
- 2 **WebLogic SPI** レポート パッケージを選択し、**[削除]** をクリックします。
- 3 **HP Reporter** との統合 ページの 86 の手順に従って、**WebLogic SPI** レポート パッケージをインストールします。

## タスク 14: 新しいグラフ作成パッケージをインストールする (オプション)

- **HP Performance Manager** が **Windows** システムで実行されている場合は、旧バージョンの **WebLogic SPI** グラフ作成パッケージを削除し、新しい **WebLogic SPI** グラフ作成パッケージをインストールします。新しいグラフ作成パッケージをインストールするには、以下の手順を実行します。
  - a **[設定]** → **[コントロール パネル]** → **[プログラムの追加と削除]** をクリックします。
  - b **WebLogic SPI** グラフ作成パッケージ (**HP Operations SPI for WebLogic Server - Graphing Component Integration**) を選択し、**[削除]** をクリックします。

- c [HP Performance Manager との統合](#) ページの 91 の手順に従って、WebLogic SPI グラフ作成パッケージをインストールします。
- HP Performance Manager が HP-UX システム (HPOM 管理サーバーではないシステム) で実行されている場合は、以下の手順を実行します。
  - ▶ HPOM 管理サーバーに HP Performance Manager がインストールされている場合、SPI ソフトウェアのインストール時にファイルが自動的に更新されます。
  - a `swlist | grep WLSSPI-GRAPHS` を実行し、グラフ作成パッケージがインストールされていることを確認します。
  - b グラフ作成パッケージがインストールされている場合、`swremove WLSSPI-GRAPHS` を実行します。
  - c [HP Performance Manager との統合](#) ページの 91 の手順に従って、WebLogic SPI グラフ作成パッケージをインストールします。
- HP Performance Manager が Solaris システム (HPOM 管理サーバーではないシステム) で実行されている場合は、以下の手順を実行します。
  - ▶ HPOM 管理サーバーに HP Performance Manager がインストールされている場合、SPI ソフトウェアのインストール時にファイルが自動的に更新されます。
  - a `/usr/bin/pkginfo HPOvSpiWlsGc` を実行し、グラフ作成パッケージがインストールされていることを確認します。
  - b グラフ作成パッケージがインストールされている場合、`/usr/sbin/pkgrm HPOvSpiWlsGc` を実行します。
  - c [HP Performance Manager との統合](#) ページの 91 の手順に従って、WebLogic SPI グラフ作成パッケージをインストールします。

## 3 WebLogic SPI の設定

WebLogic SPI を設定するには、前提条件となるすべての設定、管理対象ノードおよび管理サーバーでの WebLogic SPI の設定、およびユーザー自身の環境に基づいたその他の設定を完了する必要があります。

### 前提条件となる設定

WebLogic SPI を設定する前に、以下のタスクを実行します。

- タスク 1: Web ブラウザを起動するため管理サーバーを設定する
- タスク 2: `opc_adm` のオペレータ作業範囲を割り当てる
- タスク 3: 管理サーバーにテンプレートを割り当てる
- タスク 4: 管理サーバーにテンプレートを配布する
- タスク 5: `remactconf.xml` ファイルを更新する (OVO 8.x のみ)

### タスク 1: Web ブラウザを起動するため管理サーバーを設定する

WebLogic SPI では、`ovweb` ユーティリティを使用して、Web ブラウザで WebLogic Administration Console を起動し、HP Performance Manager により生成されたグラフを表示できます。HPOM コンソールから WebLogic Administration Console を起動する必要がない場合は、このタスクを省略し、HP Performance Manager を使用しないでください。

- 1 `ovweb.conf` ファイルに Web ブラウザ起動コマンドを入力します。ブラウザ起動コマンドが `ovweb.conf` ファイルにない場合、`ovweb` は、デフォルトのブラウザを起動します。

▶ `ovweb.conf` ファイルは環境変数 `$OV_CONF` (HPOM で使用) で指定されたディレクトリに配置する必要があります。管理サーバーで HPOM ディレクトリ構造を確認するには、`/opt/OV/bin/ov.envvars.sh` ファイルを開き、`$OV_CONF` 定義を検索します。

WebLogic SPI がブラウザに URL を渡すことができるように、ブラウザ起動コマンドには `%s` を含める必要があります。ファイルを開き、以下に示す入力構文と例に従ってコマンドを挿入します。

構文: `Browser: <ブラウザコマンド>%s` 例: `Browser: /opt/netcsape/netcsape %s`

WebLogic SPI のグラフを表示するには、ブラウザで JavaScript が有効であることを確認してください。ブラウザのオプション設定を確認します。

- Discover WebLogic アプリケーションを実行し、管理サーバーから WebLogic SPI を設定する場合 ( [タスク 3: Discover WebLogic を起動する](#) ページの 46 を参照 ) は、以下の条件付きプロパティを設定します。
  - ADMIN\_HOST および ADMIN\_PORTS プロパティを設定し、HPOM コンソールから WebLogic コンソールを起動できるようにします。
  - HP Performance Manager を使用している場合は、GRAPH\_URL プロパティを設定します。

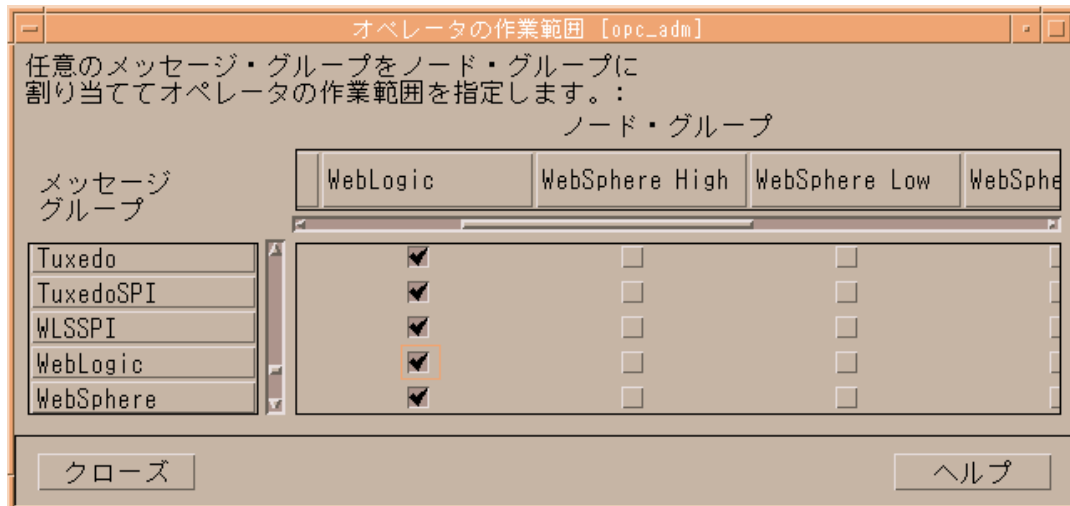
HPOM でのブラウザの起動についての詳細は、man ページで ovweb、ovweb.conf、および ov.envvars を参照してください。

コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行し、グラフ表示を有効にする手順を表示します。

```
man ovweb
```

## タスク 2: opc\_adm のオペレータ作業範囲を割り当てる

- 管理者 (opc\_adm) として HPOM にログオンします。
- [登録ユーザー] ウィンドウで opc\_adm ユーザーを右クリックし、[変更] を選択します。  
[ユーザーの変更: opc\_adm] ウィンドウが表示されます。
- [作業範囲] をクリックします。[WLSSPI] および [WebLogic] メッセージグループについて、すべてのチェックボックスがオンになっていることを確認します。

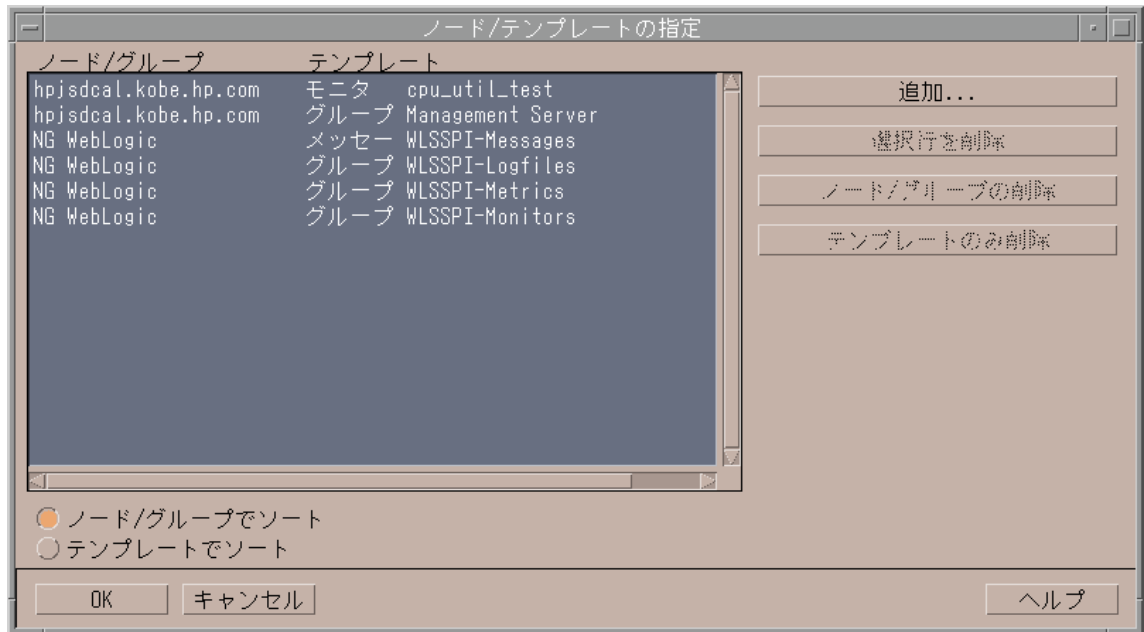


- ステップ 2 から 4 の手順で、他の該当するオペレータに [WLSSPI] ノードまたはメッセージグループを割り当てます。
- [クローズ] をクリックします。

## タスク 3: 管理サーバーにテンプレートを割り当てる

- [登録ノード] ウィンドウを開き、管理サーバーを選択します。

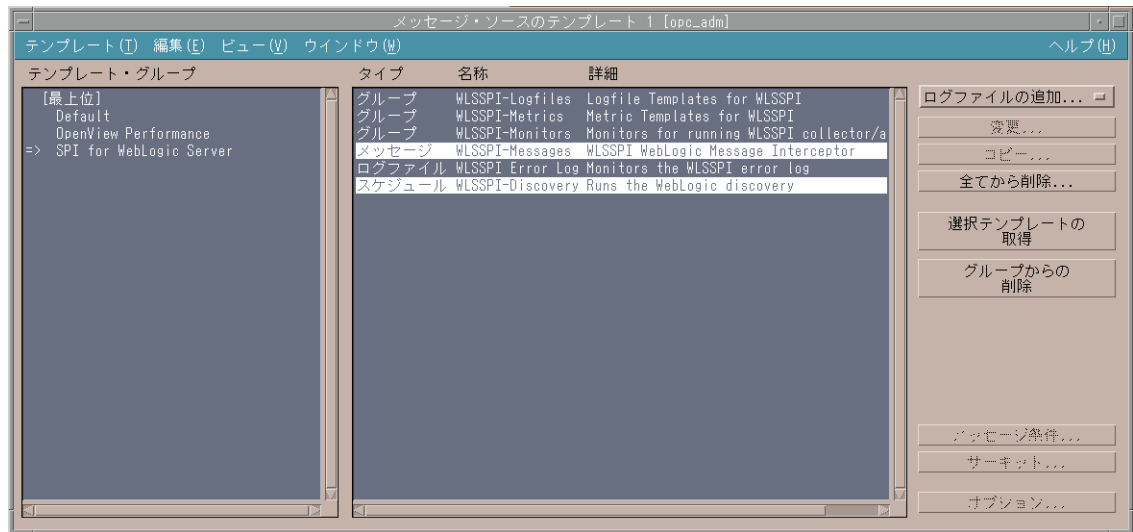
- 2 [アクション]メニューから、[エージェント]→[テンプレートの指定]を選択します。[ノード/テンプレートの指定]ウィンドウが表示されます。



- 3 ノードまたはグループを選択し、[追加]をクリックします。[ノード/テンプレートの追加]ウィンドウが表示されます。



- 4 [テンプレート]ウィンドウをクリックします。[メッセージ・ソースのテンプレート]ウィンドウが表示されます。



- 5 [テンプレート・グループ] ペインで、**[SPI for WebLogic Server]** テンプレート グループを選択します。WebLogic SPI テンプレート サブグループとテンプレートのリストが、右ペインに表示されます。
- 6 右ペインから **[WLSSPI-Discovery]** テンプレート ([WLSSI-Schedule] グループ内) および **[WLSSPI-Messages]** テンプレートを選択します。
- 7 [ノード/テンプレートの追加] ウィンドウで **[選択テンプレートの取得]** をクリックします。WLSSPI-Discovery テンプレートおよび WLSSPI-Messages テンプレートが右ペインに表示されます。



- 8 **[OK]** をクリックします。

## タスク 4: 管理サーバーにテンプレートを配布する

- 1 [登録ノード] ウィンドウを開き、管理サーバーを選択します。
- 2 **[アクション]** → **[エージェント]** → **[ソフトウェアと設定のインストール/更新]** を選択します。  
[ソフトウェアと設定のインストール/更新] ウィンドウが表示されます。



- 3 [ターゲット・ノード] ペインで [ノード・リスト中で要アップデートのノード] を選択します。
- 4 [テンプレート] チェックボックスをオンにして、[強制アップデート] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。  
メッセージブラウザに以下のメッセージが表示されます。  
次の設定情報は正常に分配されました。 テンプレート

## タスク 5: remactconf.xml ファイルを更新する (OVO 8.x のみ)

管理対象ノードで DCE ベースのエージェントを実行する場合、管理サーバーで検出プロセスによる自動アクションを実行する必要があります。remactconf.xml ファイルを更新するには、以下の手順を実行します。

- 1 /etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt\_sv/remactconf.xml  
ファイルを更新済みの場合はこのファイルを  
/opt/OV/wasspi/wls/OV/remactconf.xml ファイルとマージし、更新済みでない場合は前者のファイルを後者のファイルに置き換えます。
- 2 以下のコマンドで、HPOM 管理サーバーを再起動します。  
**opcsv -start**  
remactconf.xml ファイルを変更する場合、管理サーバーの再起動が必要です。

▶ remactconf.xml ファイルを更新していない場合、検出プロセスは失敗します。

## 管理対象ノードからの WebLogic SPI の設定

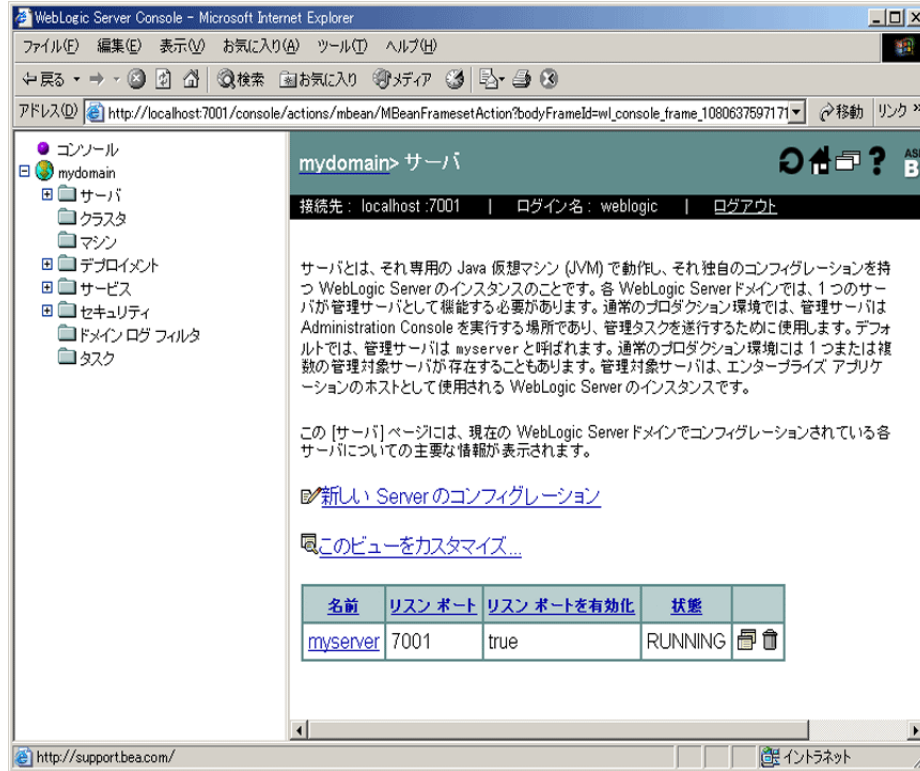
各管理対象ノードに対し、以下のタスクを実行します。

- タスク 1: アプリケーション サーバーのステータスを確認する
- タスク 2: WebLogic Server ユーザーを設定する

### タスク 1: アプリケーション サーバーのステータスを確認する

WebLogic Administration Console で WebLogic Server のステータスを確認し、アプリケーション サーバーが実行されていることを確かめます。

図 2 WebLogic Admin Server コンソール



## タスク 2: WebLogic Server ユーザーを設定する

各 WebLogic Administration Server の WebLogic ログインとパスワードを収集します。既存のログインとパスワードを使用しない場合は、新しいログインとパスワードを作成します。ログインとパスワードは、WebLogic SPI 検出プロセスが基本設定情報を収集するため、および WebLogic SPI データ コレクタがメトリックを収集するために使用します。

🚩 WebLogic Server と WebLogic Administration Server のログインとパスワードを互いに類似したものにしておくと、WebLogic SPI の設定が簡単になります。

### WebLogic Server バージョン 6.1

WebLogic Server バージョン 6.1 では、デフォルトの管理ユーザーである「system」でログオンできます。

異なるユーザーを設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 WebLogic Administration Console で、WebLogic SPI 用の新しいユーザーとパスワードを作成します。
- 2 アクセス制御リスト (ACL) `weblogic.admin.mbean` を作成します (存在しない場合)。
- 3 新しく作成した ACL に対する権限 "access" を作成します。
- 4 ステップ 1 で作成したユーザーを "access" 権限についてのユーザーのリストに追加します。

## WebLogic Server バージョン 7.0 以上

WebLogic Server バージョン 7.0 以上では、WebLogic Server のインストール時に設定した管理ユーザーとしてログオンできます。WebLogic Administrators または Monitors グループに属するユーザーとしてもログオンできます。

Administrators または Monitors グループに所属するユーザーを設定するには、WebLogic Administration Console を使用する必要があります。ユーザーの作成方法およびユーザーをグループに割り当てる方法の詳細は、『WebLogic リソースのセキュリティ』の「ユーザとグループ」を参照してください ([http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/secwlrres/usrs\\_grps.html#199302](http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/secwlrres/usrs_grps.html#199302) または [http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs81/secwlrres/usrs\\_grps.html#1213764](http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs81/secwlrres/usrs_grps.html#1213764))。



Monitors グループに属するユーザーは、HPOM コンソールから Start WebLogic または Stop WebLogic アプリケーションを使用して WebLogic Server を起動または停止することはできません。また、このユーザーは、UDM の作成時に特定の属性に値を割り当てるために、JMX アクションの実装中に JMX 呼び出し "set" を実行することもできません。JMX アクションの詳細は、『HP Operations Smart Plug-in User Defined Metrics for UNIX User Guide』の Appendix E を参照してください。

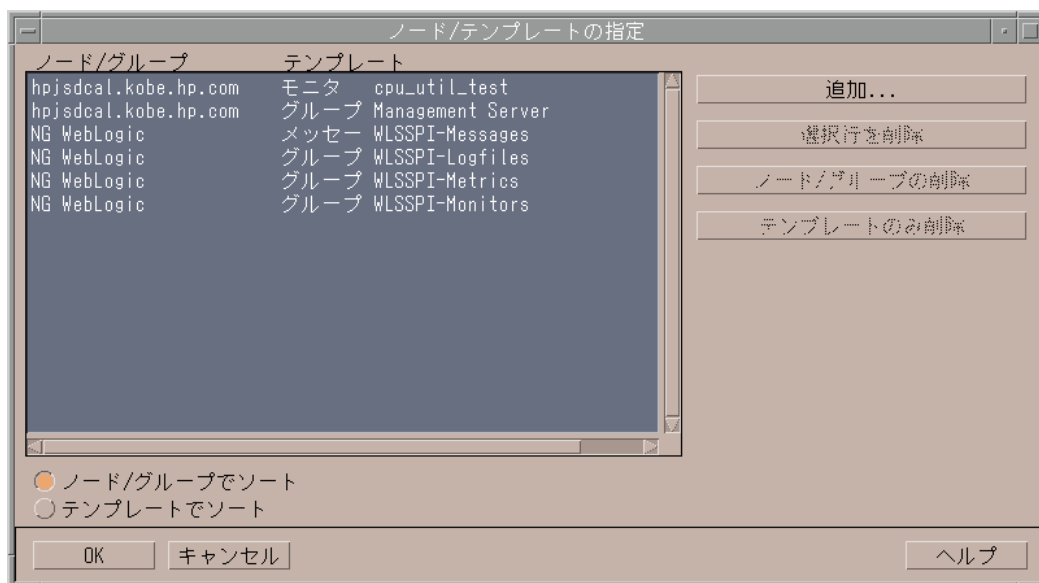
# 管理サーバーからの WebLogic SPI の設定

管理サーバーから、以下のタスクを実行します。

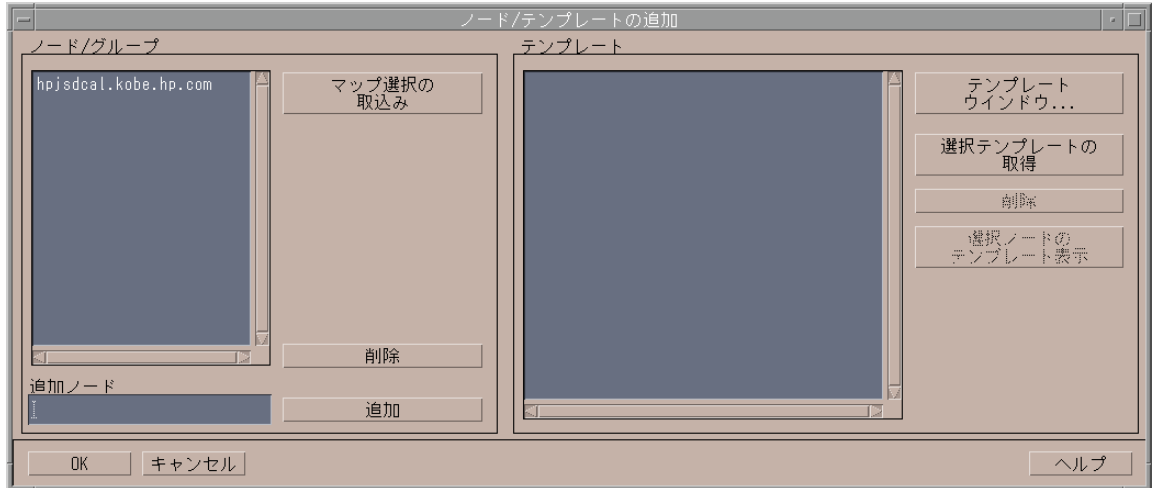
- タスク 1: 管理対象ノードに **WLSSPI-Messages** テンプレートを指定する
- タスク 2: テンプレート、アクション、モニタ、コマンドを分配する
- タスク 3: **Discover WebLogic** を起動する
- タスク 4: 追加のプロパティを設定する
- タスク 5: 検出プロセスを確認する
- タスク 6: ノードを **WebLogic** ノード グループに追加する
- タスク 7: **WebLogic SPI** テンプレートを配布する
- タスク 8: 設定を完了する
- タスク 9: **WebLogic SPI** 設定を確認する

## タスク 1: 管理対象ノードに WLSSPI-Messages テンプレートを指定する

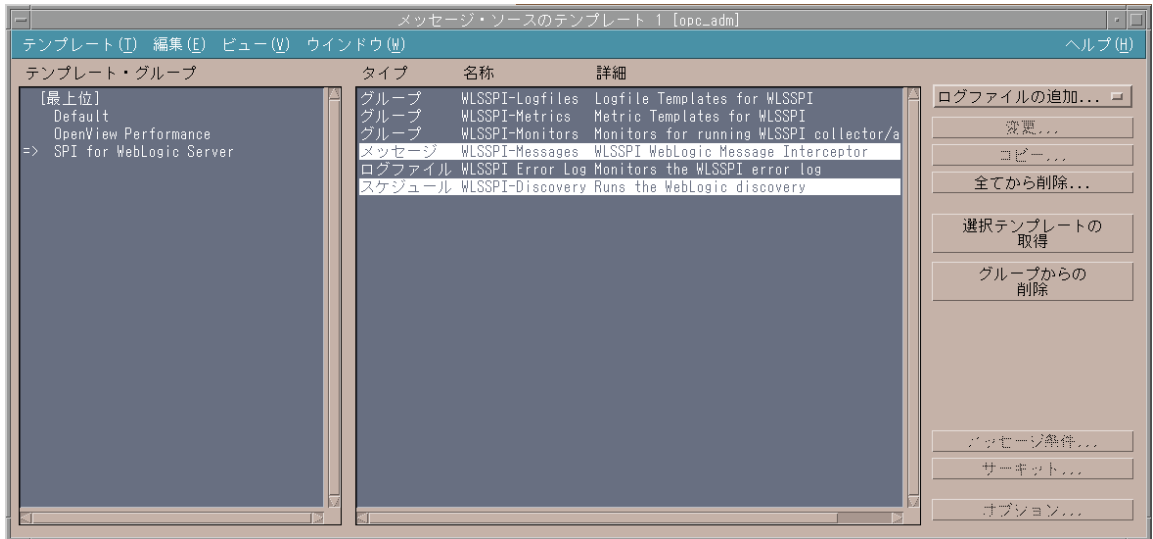
- 1 [登録ノード] ウィンドウを開き、管理対象ノードを選択します。
- 2 [アクション] メニューから、[エージェント] → [テンプレートの指定] を選択します。[ノード/テンプレートの指定] ウィンドウが表示されます。



- 3 **【追加】** をクリックします。[ノード/テンプレートの追加] ウィンドウが表示されます。



- 4 **【テンプレート】** ウィンドウをクリックします。[メッセージ・ソースのテンプレート] ウィンドウが表示されます。

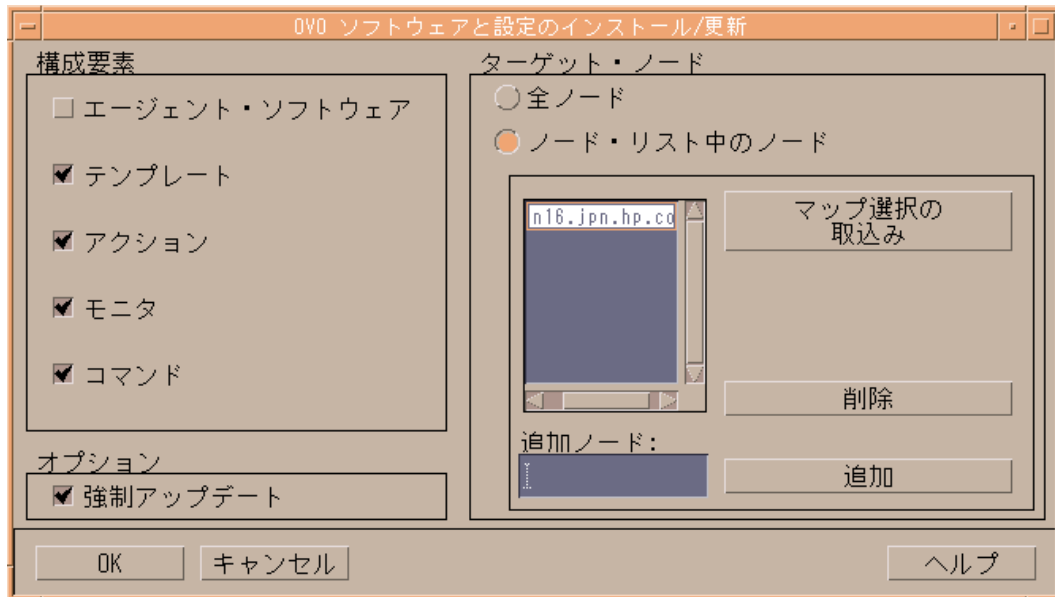


- 5 [テンプレート・グループ] ペインで **[SPI for WebLogic Server]** テンプレート グループを選択し、右ペインで **[WLSSPI-Messages]** テンプレートを選択します。
- 6 [ノード/テンプレートの追加] ウィンドウで **【選択テンプレートの取得】** をクリックします。右ペインに **WLSSPI-Messages** テンプレートが表示されます。
- 7 **【OK】** をクリックします。

## タスク 2: テンプレート、アクション、モニタ、コマンドを分配する

- 1 WebLogic SPI をインストールするノードを選択します。
- 2 [登録ノード] ウィンドウを開き、**【アクション】** → **【エージェント】** → **【ソフトウェアと設定のインストール/更新】** を選択します。[ソフトウェアと設定のインストール/更新] ウィンドウが表示されます。
- 3 以下のコンポーネント チェックボックスをオンにします。

- [テンプレート]
- [アクション]
- [モニタ]
- [コマンド]



- 4 [強制アップデート] チェックボックスをオンにします。
- 5 [ノード・リスト中のノード] ラジオ ボタンを選択します。
- 6 選択した管理対象ノードに **WebLogic SPI** をインストールすると、管理対象ノードごとに次のメッセージがメッセージブラウザに表示されます。

次の設定情報は正常に分配されました。テンプレート アクション コマンド モニタ

### タスク 3: Discover WebLogic を起動する

1 度に 1 つの管理対象ノードで **Discovery** アプリケーションを起動します。

▶ **WebLogic Server** のインスタンスにデフォルトとは異なるサーバー ログイン名とパスワードが設定されている場合、**Discovery** ツールを起動する前に設定エディタを使用して、対象のサーバーに対するログインの詳細を明示的に設定する必要があります。

- 1 **HPOM** コンソールで、[HPOM 登録ノード] をダブルクリックします。[HPOM 登録ノード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ] メニューから [登録アプリケーション] を選択します。[HPOM 登録アプリケーション] が新しいウィンドウで開きます。
- 3 [WLSSPI] をダブルクリックします。[アプリケーション グループ : WebLogic SPI] ウィンドウが開きます。
- 4 [WLSSPI Admin] をダブルクリックします。[アプリケーション グループ : WLSSPI Admin] ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WLSSPI Admin アプリケーションが表示されます。

- 5 [OVO 登録ノード] ウィンドウからノードを選択し、**[Discover WebLogic]** をダブルクリックします(このように表示されない場合は、**[マップ]** → **[再ロード]** を選択します)。**[Introduction]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、**Discovery** アプリケーションについての簡単な情報が記載されています。
- 6 **[Next]** をクリックします。2 目目の **[Introduction]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、検出プロセスが機能するために必要なプロパティについての情報が含まれます。
- 7 **[Next]** をクリックします。**LOGIN** および **PASSWORD** プロパティをすでに設定してある場合には、設定エディタが表示されます。追加のプロパティを設定するには、[タスク 4: 追加のプロパティを設定する](#) ページの 48 を参照してください。

**LOGIN** および **PASSWORD** プロパティを設定していない場合、**[Set Access Info for Default Properties]** ウィンドウが表示されます。

- 8 [タスク 2: WebLogic Server ユーザーを設定する](#) ページの 42 で設定したものと同一 **WebLogic** のログインとパスワードを、**LOGIN** および **PASSWORD** のプロパティに設定します。デフォルトのログイン/パスワード (**WebLogic** バージョン 6.1)、または **WebLogic Server** のインストール時に設定したログイン/パスワード (**WebLogic** バージョン 7.0 以上) を使用している場合であっても、**LOGIN** および **PASSWORD** プロパティを設定する必要があります。

➤ このウィンドウで設定した **LOGIN** および **PASSWORD** プロパティは、デフォルトの **WebLogic** のログインおよびパスワードとして使用されます(これらはグローバルプロパティのレベルで設定されます)。つまり、**NODE** レベルやサーバー固有の **LOGIN** および **PASSWORD** のプロパティが設定されていない場合、**WebLogic SPI** はすべての **WebLogic Administration Server** にアクセスするために、この **WebLogic** のログインとパスワードを使用するというのです。設定構造の詳細は、[構造](#) ページの 159 を参照してください。

## 異なるセットアップに対する **LOGIN** と **PASSWORD** の設定

以下の方法で、異なるセットアップに **LOGIN** と **PASSWORD** を設定できます。

- **WebLogic Administration Server** のログインとパスワードが、すべての **HPOM** 管理対象ノード上のすべての **WebLogic** のインスタンスについて同じである場合には、以下の手順を実行します。
  - α **[Set Access Info for Default Properties]** ウィンドウで **[Login]** および **[Password]** プロパティを設定します。

- b 検出プロセスに必要な追加のプロパティを設定します。[タスク 4: 追加のプロパティを設定する](#) ページの 48 を参照してください。
- **WebLogic Administration Server** のログインとパスワードが、各管理対象ノード間では異なるが、各管理対象ノード上では **WebLogic Administration Server** のすべてのインスタンスで同じである場合、以下の手順を実行します。
  - a **NODE** レベルで **LOGIN** および **PASSWORD** プロパティを設定することで、**WebLogic SPI** の設定をカスタマイズします (設定構造の詳細は、[構造](#) ページの 159 を参照してください)。
  - b **[Set Access Info for Default Properties]** ウィンドウで、**[Login]** および **[Password]** プロパティに、最もよく使用される **WebLogic** のログインとパスワードを設定します。
  - c **[Customize]** をクリックします。設定エディタが開きます。**NODE** レベルで **LOGIN** および **PASSWORD** プロパティを設定します。設定エディタの使用の詳細は、[付録 B、設定](#) を参照してください。
  - d 検出プロセスに必要な追加のプロパティを設定します。[タスク 4: 追加のプロパティを設定する](#) ページの 48 を参照してください。
- **WebLogic Administration Server** のログインとパスワードが各管理対象ノードで異なり、管理対象ノード上の **WebLogic Administration Server** の各インスタンスでも異なっている場合、以下の手順を実行します。
  - a サーバー固有レベルで **LOGIN**、**PASSWORD**、**NAME**、および **PORT** プロパティを設定して、**WebLogic SPI** の設定をカスタマイズします (設定構造の詳細は、[付録 B、設定](#) を参照してください)。
  - b **[Set Access Info for Default Properties]** ウィンドウで、**[Login]** および **[Password]** プロパティに、最もよく使用される **WebLogic** のログインとパスワードを設定します。
  - c **[Customize]** をクリックします。設定エディタが開きます。サーバー固有レベルで **LOGIN**、**PASSWORD**、**NAME**、および **PORT** プロパティを設定します。設定エディタの使用の詳細は、[付録 B、設定](#) を参照してください。
  - d 検出プロセスに必要な追加のプロパティを設定します。[タスク 4: 追加のプロパティを設定する](#) ページの 48 を参照してください。

## タスク 4: 追加のプロパティを設定する

**LOGIN** および **PASSWORD** プロパティは、検出プロセスに必要な基本のプロパティです。その他にも、使用環境に応じて情報を追加設定する必要があります。

以下のプロパティを設定できます (これらのプロパティについては、[設定プロパティ](#) ページの 170 を参照してください)。

- **ADDRESS:** **WebLogic Server** がリスンしているドメイン名または IP アドレス。**WebLogic Server** に仮想 IP アドレスが設定されている場合、このプロパティを設定する必要があります。
- **ADMIN\_PORTS:** **WebLogic Admin** サーバーのポート番号のリストです。ドメイン設定ファイル (config.xml) が次のデフォルトのディレクトリにない場合、このプロパティを設定する必要があります。
  - `<WebLogic_Install_Dir>/config/<WebLogic_Domain>/` (WebLogic 6.1 の場合)
  - `<BEA_Home_Dir>/user_projects/<WebLogic_Domain>/` (WebLogic 7.0 または 7.0 SP1 の場合)



— `<BEA_Home_DIR>/user_projects/domains/<WebLogic_Domain>/`  
(WebLogic 7.0 SP2 以上の場合)

ここで、`<WebLogic_Install_Dir>` は WebLogic Server がインストールされているディレクトリであり、`<BEA_Home_Dir>` は registry.xml ファイルを格納しているディレクトリです。また、`<WebLogic_Domain>` は WebLogic のドメイン名です。

- **HOME\_LIST:** WebLogic Server がインストールされているディレクトリのリスト。BEA の registry.xml ファイルが正確でない、または見つからない場合、このプロパティを設定する必要があります (BEA のインストール スクリプトを使用せずに WebLogic Server のソフトウェアとサービス パックをインストールした場合、このような状態になることがあります)。
- **JAVA\_HOME:** Java がインストールされているデフォルトのディレクトリ。Java が複数のディレクトリにインストールされているか、独自の Java を使用している場合、このプロパティを設定する必要があります。
  - ▶ **Discover WebLogic ツールの起動時には、JAVA\_HOME のデフォルト値が使用されます。WebLogic Server のインスタンス用に JAVA\_HOME に別の値を設定した場合には、設定エディタを使用して JAVA\_HOME にその値を明示的に設定する必要があります。JAVA\_HOME プロパティについては、設定プロパティ ページの 170 を参照してください。**
- **NODE\_NAMES:** リモートの WebLogic Server が仮想 IP アドレスでリスンしている場合、このプロパティを設定する必要があります。プロパティを設定していない場合、WebLogic Server は検出されません。
- **EXCLUDE\_SAMPLES:** このプロパティをデフォルト プロパティ レベルで "true" に設定し、WebLogic Server サンプル プログラムを検出プロセスから除外できます。これにより、検出プロセスの実行時間が短縮されます。
- **PROTOCOL:** アプリケーション サーバー ポートで SSL または非 SSL のいずれを使用しているかを指定します。アプリケーション サーバー ポートで SSL を使用している場合は、このプロパティを必ず設定します。プロパティに設定できる値は、t3 (非 SSL) および t3s (SSL) です。詳細については、表 1 を参照してください。

## 追加のプロパティの設定

- 1 設定エディタで、プロパティを設定します。設定エディタを使用したプロパティの設定については、付録 B、設定を参照してください。
- 2 **[Next]** をクリックして、変更を保存し、エディタを終了します。**[Confirm Operation]** ウィンドウが表示されます。
- 3 操作が実行されるノードを確認し、**[OK]** をクリックします。

▶ 次のタスクに進む前に、検出プロセスが完了するまで待ちます。検出プロセスが完了するまでに数分かかる場合があります。

## タスク 5: 検出プロセスを確認する

環境内の管理対象ノードの数によっては、確認が完了するまで数分かかります。

- 1 **Discover WebLogic** のアプリケーション ウィンドウに以下のメッセージが表示される (**Discover WebLogic** アプリケーションが正常に終了した) ことを確認します。

Discovery started on node: <node>  
Finished running the Discovery application

検出プロセスが正常に終了しなかった場合は、アプリケーション ウィンドウに以下のメッセージが表示されます。

Failed to run discovery on node <node>

検出プロセスのトラブルシューティングの方法については、[検出プロセスのトラブルシューティング](#) ページの 110 を参照してください。

- 2 各管理対象ノードのメッセージ ブラウザに以下のメッセージが表示されることを確認します。

WASSPI-602 - Updating the WLSSPI configuration data with discovered information

環境内の管理対象ノードの数によっては、すべての管理対象ノードについてこれらのメッセージが表示されるのに数分を要します。

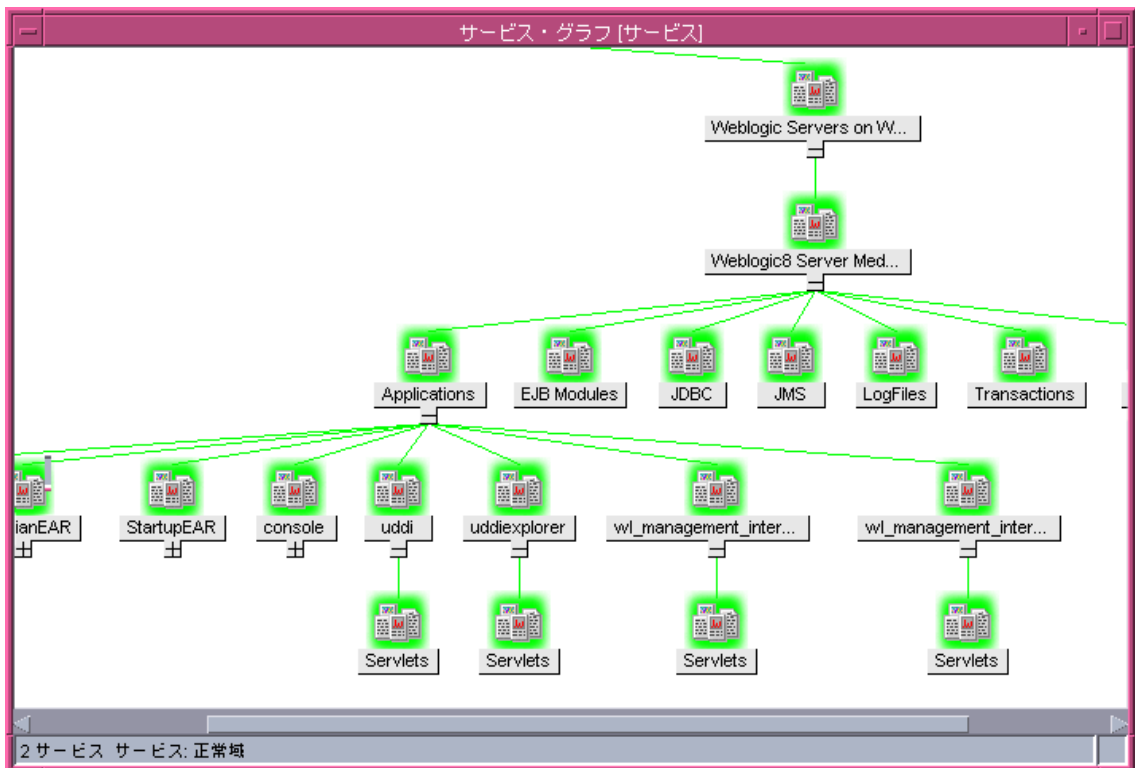
- 3 Service Navigator が実行中である場合、[ファイル] → [設定の再ロード] を選択します。

サービス マップで、[Application] ノードを開き、WebLogic サービスを探します。

▶ Java GUI を使用してサービス マップを表示できます。

図 3 は、検出プロセスが正常に終了した後に表示されるサービス マップのスナップショットです。サービス マップを使用して、問題のあるアプリケーションを特定できます (問題が存在する場合)。サービス マップ内の線は、重要度のレベルによって色分けされています。たとえば、赤い線は、アプリケーションに重大な問題が発生していることを示します。

図 3 サービス マップ



- 4 **Configure WLSSPI** アプリケーションを起動して、検出プロセスにより設定されたプロパティを確認します。設定エディタの詳細は、[Configure WLSSPI](#) ページの 188 を参照してください。

## タスク 6: ノードを WebLogic ノード グループに追加する

WebLogic SPI は、事前に設定されたテンプレート グループを使用して、自動で WebLogic ノード グループを作成します。WebLogic Server を実行するノードをすべてこのノード グループに配置するには、以下の手順を実行します。

- 1 HPOM コンソールから [登録ノード・グループ] と [登録ノード] ウィンドウを開き、WebLogic ノード グループと管理対象ノードを並べて表示します。
- 2 WebLogic Server を実行している管理対象ノードを WebLogic ノード グループにドラッグ & ドロップします。

## タスク 7: WebLogic SPI テンプレートを配布する

- 1 [登録ノード・グループ] ウィンドウを開き、WebLogic ノード グループを選択します。
- 2 [アクション] → [エージェント] → [ソフトウェアと設定のインストール/更新] を選択します。[ソフトウェアと設定のインストール/更新] ウィンドウが表示されます。
- 3 [ターゲット・ノード] セクションで [ノード・リスト中で要アップデートのノード] ラジオ ボタンを選択します。
- 4 [テンプレート] と [強制アップデート] チェックボックスをオンにします。
- 5 [OK] をクリックします。

メッセージ ブラウザに以下のメッセージが表示されます。

次の設定情報は正常に分配されました。テンプレート

テンプレートが配布されると、モニタは特定の収集間隔に従って実行を開始できます。

- ▶ WLS-SPI を Reporter に統合し、情報を整理して表示する WebLogic Server のレポートを生成する方法については、第 5 章「HP のレポート作成製品およびグラフ作成製品と WebLogic SPI との統合」を参照してください。

## タスク 8: 設定を完了する

設定を完了するには、以下のいずれかの方法で、管理サーバーと管理対象ノードの設定情報を更新します。

- 自動設定テンプレートが実行されるまで待ちます (10 分ほどかかります)。
- Configure WLSSPI アプリケーション (管理サーバーと管理対象ノードの設定情報を更新する) を起動する。Configure WLSSPI アプリケーションの詳細は、Configure WLSSPI ページの 188 を参照してください。

## タスク 9: WebLogic SPI 設定を確認する

Verify アプリケーションを起動し、WebLogic SPI が適切にインストールおよび設定されていることを確認します。Verify アプリケーションの詳細は、Verify ページの 195 を参照してください。

- 1 [登録ノード・グループ] ウィンドウを開き、WebLogic ノード グループを選択します。
- 2 [登録アプリケーション] ウィンドウを開きます。
- 3 [WLSSPI] → [WLSSPI Admin] を選択し、[Verify] をダブルクリックします。

# WebLogic SPI の追加設定

WebLogic Server の設定とアプリケーションの要件に基づき、他の設定プロパティの設定、および他のコンポーネントのインストールと設定を実行して、WebLogic SPI の設定を完了する必要があります。

## 条件付きのプロパティ

以下の条件付きプロパティを 1 つ以上設定することが必要な場合があります (これらのプロパティは、検出プロセスによる自動検出の対象外です)。これらのプロパティの詳細は、[設定プロパティ](#) ページの 170 を参照してください。

表 1 条件付きのプロパティ

条件	設定するプロパティ
WebLogic Server バージョン 7.x、8.1、9.x または 10.0 を実行する。	VERSION
システム上の WebLogic Server 間で同じ名前を共有する。検出プロセスは ALIAS プロパティを自動的に設定しますが、この値はメッセージ、レポート、およびグラフで使用される名前であるため、編集したほうがよい場合があります。	ALIAS
HPOM コンソールから Start WebLogic アプリケーションまたは Stop WebLogic アプリケーションを使用して WebLogic Server を起動または停止する。	START_CMD、 STOP_CMD、 および USER
HPOM コンソールから Start WLS Console アプリケーションを使用して WebLogic Administration Console を起動する。	ADMIN_HOST および ADMIN_PORTS
JMX Metric Builder アプリケーションの MBean 情報を利用して UDM を作成する。	COLLECT_META DATA
HPOM コンソールから View Graphs アプリケーションを使用する (HP Performance Manager をインストールする必要がある)。	GRAPH_URL
WebLogic Server が仮想 IP アドレスで設定されている、リモート ノード上に設定されている、またはそのノードのプライマリ IP アドレスを使用していない。	ADDRESS
ログ ファイルの絶対パス名が WebLogic に設定されていない。	LOGFILE
絶対ログ ファイル名が WebLogic Server のバージョン 6.1 に設定されていない、または WebLogic Server のインストール ディレクトリと起動 ディレクトリが異なる場所にある。	LAUNCH_DIR

## 条件付きプロパティの設定

- 1 HPOM コンソールで [登録ノード] ウィンドウを開き、ノードを選択します。
- 2 [ウィンドウ] メニューから [登録アプリケーション] を選択します。[登録アプリケーション] ウィンドウが表示されます。

- 3 **[WLSSPI]** → **[WLSSPI Admin]** → **[Configure WLSSPI]** を選択します (このように表示されない場合は、**[マップ]** → **[再ロード]** を選択します)。**[Introduction]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、**Discovery** アプリケーションについての基本的な情報が記載されています。
- 4 **[Next]** をクリックします。2 つ目の **[Introduction]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、検出プロセスが機能するために必要なプロパティについての情報が含まれています。
- 5 **[Next]** をクリックします。設定エディタが開きます。
- 6 設定エディタを使用して、プロパティを設定します。設定エディタの詳細は、**付録 B、設定** を参照してください。
- 7 **[Next]** をクリックします。**[Confirm Operation]** ウィンドウが表示されます。
- 8 **[OK]** をクリックし、選択した管理対象ノードの設定変更を保存します。

## UNIX 管理対象ノードでの非 root HTTPS エージェントの設定 (OVO 8.x のみ)



OS に対応した **Sudo** ソフトウェア パッケージを UNIX 管理対象ノードにインストールする必要があります。**Sudo** は、<http://www.sudo.ws> で入手可能な無償ソフトウェアです。各 OS に対応したソフトウェア パッケージは、ダウンロード ページ (<http://www.sudo.ws/sudo/download.html>) の下部から入手できます。**Sudo** のインストールの詳細は、リリース ノートを参照してください。

- 1 HTTPS エージェントを非 root ユーザーに切り替えます。詳細は、『*HP Operations HTTPS Agent Concepts and Configuration Guide for the HP-UX and Sun Solaris Management Server Operating Systems*』を参照してください。
- 2 管理対象ノードで、**OV\_SUDO** 変数を設定し、**root** または **HP Operations** エージェント ユーザーとしてログオンします。以下の手順を実行します。
  - a 以下のコマンドで、すべての **HP Operations** エージェントを停止します。
 

```
opcagt -kill
```
  - b 以下のコマンドで、**OV\_SUDO** 変数を設定します。
 

```
ovconfchg -ns ctrl.sudo -set OV_SUDO <sudo_program>
```

**<sudo\_program>** は、絶対パス名を含む **sudo** のインストール先 (`/usr/local/bin/sudo` など) です。
  - c 以下のコマンドで、**HP Operations** エージェントを開始します。
 

```
opcagt -start
```
  - d 以下のコマンドで、**OV\_SUDO** が設定されていることを確認します。
 

```
ovdeploy -cmd set | grep SUDO
```

以下の行が表示されます。

```
OV_SUDO=<sudo_program>
```
- 3 管理対象ノードを設定します。非 root HTTPS エージェント環境で **SPI** を正常に実行するには、以下の手順を実行する必要があります。

- a HPOM 管理サーバーから、管理対象ノードにアクション、コマンド、およびモニタを配布します。
  - b [登録ノード] ウィンドウのノードを選択します。
  - c [登録アプリケーション] ウィンドウで、**[WLSSPI]** → **[WLSSPI Admin]** → **[Init Non-Root]** を選択します。
- 4 sudo とともにインストールされる visudo エディタを使用して /etc/sudoers ファイルを編集します。

a 管理対象ノードで、**root** としてログオンします。

b /<SPI\_Config\_DIR>/wasspi\_wls\_sudoers ファイルを開きます。

<SPI\_Config\_DIR> は、管理対象ノードの SPI の設定ファイルの場所です。詳細は、[管理対象ノードのファイルの位置](#) ページの 157 を参照してください。

c 別のウィンドウで、visudo コマンドを実行します (たとえば、**/usr/local/sbin/visudo** と入力します)。

d wasspi\_wls\_sudoers ファイルの以下の行をコピーし、sudoers ファイルに追加します。

```

Cmdnd_Alias WLSSPI_ADMN = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl -S
wasspi_wls_admin *
Cmdnd_Alias WLSSPI_COLL = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl -S wasspi_wls_ca
*
Cmdnd_Alias WLSSPI_DISC = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl
wasspi_wls_discovery.pl
Cmdnd_Alias WLSSPI_LFEN = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl -S wasspi_wls_le
*
Cmdnd_Alias WLSSPI_SHSC = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl -S
shs_collector.pl *
```

```

Cmdnd_Alias WLSSPI_ADMNP = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl -S \
/var/opt/OV/bin/instrumentation/wasspi_wls_admin *
Cmdnd_Alias WLSSPI_COLLP = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl -S \
/var/opt/OV/bin/instrumentation/wasspi_wls_ca *
Cmdnd_Alias WLSSPI_DISCP = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl \
/var/opt/OV/bin/instrumentation/wasspi_wls_discovery.pl
Cmdnd_Alias WLSSPI_LFENP = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl -S \
/var/opt/OV/bin/instrumentation/wasspi_wls_le *
Cmdnd_Alias WLSSPI_SHSCP = /opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl -S \
/var/opt/OV/bin/instrumentation/shs_collector.pl *
<OV_Agent_username> <nodename> = NOPASSWD: WLSSPI_ADMN, WLSSPI_COLL, \
WLSSPI_DISC, WLSSPI_LFEN, WLSSPI_SHSC, WLSSPI_ADMNP, WLSSPI_COLLP, \
WLSSPI_DISCP, WLSSPI_LFENP, WLSSPI_SHSCP
```

<OV\_Agent\_username> は、HP Operations エージェント ユーザー アカウント、<nodename> は管理対象ノードの名前です。

e **wq** と入力して、ファイルを保存し visudo エディタを終了します。



エージェント ユーザーを切り替えるたびにステップ 3 と 4 を実行します。

# 高可用性環境での WebLogic SPI

高可用性とは、ビジネスに不可欠で、冗長リソースによりダウンタイムを防止している環境を表す一般用語です。高可用性を実現するためには、多くの場合、クラスタシステムが使用されます。

WebLogic SPI は、フェイルオーバーによって中断のない WLS 可用性を実現しているクラスタ環境に対応させるように設定することができます。WebLogic SPI による監視は、クラスタ環境に同期して、故障したノードからアクティブなノードに切り替えることができます。

## 設定の前提条件

高可用性環境で WebLogic SPI を使用するための前提条件は、以下のとおりです。

- 管理サーバー : HP-UX
- ノード : HP-UX MCSG クラスタ、Veritas クラスタ (WebLogic Server バージョン 10.0 のみに適用可能)
- OVO 8.x HTTPS エージェント バージョン (詳細は、エージェント クラスタのサポート マトリックスを参照)

## 高可用性環境での WebLogic SPI の設定

以下のタスクが実行します。

- タスク 1: WebLogic SPI 監視機能の設定ファイルを作成する
- タスク 2: クラスタ化されたアプリケーションの設定ファイルを作成する
- タスク 3: WebLogic SPI を設定する

### タスク 1: WebLogic SPI 監視機能の設定ファイルを作成する

WebLogic SPI は、クラスタ アプリケーション設定ファイルと連携する監視設定ファイル `<appl_name>.apm.xml` を使用します。

▶ `<appl_name>` は `namespace_name` です。詳細は、『*HP Operations for UNIX HTTPS Agent Concepts and Configuration Guide*』を参照してください。

`<appl_name>.apm.xml` ファイルには、管理対象ノードの WebLogic SPI テンプレートがすべてリストされます。そのため、非アクティブなノードとアクティブノードに応じて、これらのテンプレートを無効または有効にすることができます。

WLS 環境用のクラスタ アプリケーション設定ファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

- 1 以下の構文を使用して、`<appl_name>.apm.xml` ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0"?>
<APMApplicationConfiguration>
  <Application>
    <Name> ... </Name>
    <Template> ... </Template>
    <StartCommand>wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_clusterSvrApp -opt
startMonitor $instance</StartCommand>
    <StopCommand>wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_clusterSvrApp -opt
stopMonitor $instance</StopCommand>
```

```
</Application>
</APMAApplicationConfiguration>
```

- 2 <Name></Name> タグの間に **namespace\_name** を入力します。
- 3 ファイルを作成した後、\$OvDataDir/bin/instrumentation/conf ディレクトリに保存します。

▶ このサーバーがノード上で実行されている唯一の **WLS** サーバーである場合は、<template> タグ間に **"All"** と記述する必要があります。

### サンプルの <appl\_name>.apm.xml ファイル

```
<?xml version="1.0"?>
<APMAApplicationConfiguration>
  <Application>
    <Name>namespace_name</Name>
    <Template>All</Template>
    <StartCommand>wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_clusterSvrApp -opt
startMonitor $instance</StartCommand>
    <StopCommand>wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_clusterSvrApp -opt
stopMonitor $instance</StopCommand>
  </Application>
</APMAApplicationConfiguration>
```

▶ <appl\_name>.apm.xml は、アプリケーションのネームスペースに依存します。インスタンスレベルには依存しません。したがって、パッケージ切り替え時に実行する起動および停止アクションには、第 1 パラメータに対応するインスタンス名を指定する必要があります。環境変数 \$instanceName は、起動または停止タスクの実行時に **CIaW** により設定されます。

## タスク 2: クラスタ化されたアプリケーションの設定ファイルを作成する

クラスタ アプリケーション設定ファイル **apminfo.xml** と **WebLogic SPI** の <appl\_name>.apm.xml ファイルを連携させて使用することにより、**WebLogic SPI** の監視対象インスタンスをクラスタのリソース グループに関連付けることができます。これにより、同一クラスタ内のノード間でリソース グループを移動させると、故障したノードでの監視が停止し、新しいノードで監視が開始されるようになります。

クラスタ アプリケーション設定ファイル **apminfo.xml** を作成するには、以下の手順を実行します。

- 1 テキスト エディタを使用して、ファイルを作成します。構文は以下のとおりです。

```
<?xml version="1.0"?>
<APMClusterConfiguration>
  <Application>
    <Name>namespace_name</Name>
    <Instance>
      <Name><Instance Name></Name>
      <Package><Package Name></Package>
    </Instance>
  </Application>
</APMClusterConfiguration>
```



- 2 <Name></Name> タグの間に `namespace_name` を入力します。
- 3 `apminfo.xml` ファイルを `$OvDataDir/conf/conf` ディレクトリに保存します。

### サンプルの `apminfo.xml` ファイル

```
<?xml version="1.0"?>
<APMClusterConfiguration>
  <Application>
    <Name>namespace_name</Name>
    <Instance>
      <Name>instance_name</Name>
      <Package>test</Package>
    </Instance>
  </Application>
</APMClusterConfiguration>
```

## タスク 3: WebLogic SPI を設定する

- 1 仮想ノードをターゲットとして、**Discovery** アプリケーションを起動します。**Discovery** アプリケーションの起動方法については、[タスク 3: Discover WebLogic を起動する](#) ページの 46 を参照してください。
- 2 仮想ノードをターゲットとして、**Configure WLSSPI** アプリケーションを起動します。設定エディタが開きます。
- 3 設定エディタを使用して、以下のプロパティを設定します (**Discovery** アプリケーションで検出されたプロパティに加え、これらのプロパティを設定します)。

- **CLUSTERNAMESPACE**
- **CLUSTERINSTANCE**

これらのプロパティには、`apminfo.xml` ファイルで定義される値と同じ値を設定します。たとえば、**CLUSTERNAMESPACE** プロパティには、`namespace_name` を、また **CLUSTERINSTANCE** プロパティには、`instance_name` を設定する必要があります。

- 4 `SiteConfig` ファイルを、アクティブ ノードからパッシブ ノードへコピーします。このファイルは、`$OvDataDir/conf/wasspi` ディレクトリにあります。
- 5 **ADMIN\_HOST** プロパティの値に、フェールオーバーによりアクティブ化された管理対象ノードの名前を設定します。

## その他の検出と設定のシナリオ

いくつかの一般的なシナリオについて、例を示します。

### ユース ケース 1: 管理ポートがオンになっている (HTTPS モードで WebLogic Server を実行している) ケース

WebLogic Server の管理ポートが有効である場合には、2 通りの検出シナリオが考えられます。

シナリオ 1: WebLogic 管理サーバーを t3s (HTTPS) で実行していて、この管理サーバーに関連する WebLogic Server を t3 (HTTP) で実行している。

#### 検出

- 1 Discover WebLogic を起動します。タスク 3: Discover WebLogic を起動する ページの 46 を参照してください。
- 2 [Set Access Info for Default Properties] に、BEA WebLogic の LOGIN および PASSWORD プロパティを設定します (このウィンドウが表示されるのは、前もって LOGIN および PASSWORD を設定していなかった場合に限りです)。
- 3 設定エディタで、ADMIN\_PORTS プロパティを設定します。ADMIN\_PORTS はアプリケーション サーバーがリスンする SSL ポートです。

▶ WebLogic Administration Server が仮想 IP で動作している場合 (非クラスタ環境) には、ADMIN\_PORTS プロパティの設定時に仮想 IP アドレスを指定する必要があります。ADMIN\_PORTS の値に、<ip address>:port を設定します。クラスタ化された環境での設定については、高可用性環境での WebLogic SPI ページの 55 を参照してください。

- 4 PROTOCOL プロパティに、t3s を設定します (t3s は PROTOCOL のデフォルト値)。PROTOCOL では、アプリケーション サーバーのポートで SSL または 非 SSL のいずれを使用しているかを指定します。
- 5 必要に応じて、PASSPHRASE および KEYSTORE プロパティを設定します。[Next] をクリックし、選択したノードで検出を実行します。

KEYSTORE は、SSL 信頼キーストア ファイルへの完全修飾パスです。

PASSPHRASE は、WebLogic Administration Server の SSL 環境の KEYSTORE に設定したパスワードです。

これらのプロパティ設定の詳細は、設定プロパティ ページの 170 を参照してください。


▶ プロパティ KEYSTORE、PASSPHRASE、および PROTOCOL は、任意のレベル (グローバル、グループ、ノード、またはサーバー) で設定できます。SSL を使用する場合には PROTOCOL が必要です。KEYSTORE および PASSPHRASE の設定は、SSL 環境でキーストアおよびパスフレーズを使用する場合にのみ必要です。

#### 設定

検出が正常に完了したら、以下の手順を実行します。

- 1 Configure WLSSPI アプリケーションを起動します (このアプリケーションを起動する方法については、Configure WLSSPI ページの 188 を参照してください)。

- 2 設定エディタで、**PROTOCOL** プロパティの値に、**WebLogic Server** で使用する **t3** を設定します。

 **WebLogic Server** 用に **PROTOCOL** プロパティの値を **t3** に変更しない場合、**PROTOCOL** には **WebLogic Administration Server** 用のデフォルト値 (**t3s**) が設定されます。これらの設定プロパティの優先順位については、**設定プロパティ** ページの **170** を参照してください。

- 3 アクティブなセキュリティ レalmで **BEA** 内に **Monitor** ユーザーを作成します。
- 4 **SERVER\_LOGIN** および **SERVER\_PASSWORD** プロパティの値に、**Monitor** ユーザーの認証情報と同様の値を設定します。
- 5 **WebLogic Server** の各インスタンスについて、ステップ **1** ~ **4** を繰り返します。

シナリオ 2: **WebLogic 管理サーバー**およびこの管理サーバーに関連する **WebLogic Server** を **t3s (HTTPS)** で実行している。

- 1 **Discover WebLogic** を実行し、プロパティをシナリオ **1** と同じように設定します。
- 2 検出が正常に完了したら、以下の手順を実行します。
  - a **Configure WLSSPI** アプリケーションを起動します (このアプリケーションを起動する方法については、**Configure WLSSPI** ページの **188** を参照してください)。
  - b **PROTOCOL** プロパティに、デフォルト値 **t3s** を設定します。
  - c アクティブな **Security Realm** の下の **BEA** に、**MONITOR USER** を作成します。
  - d **SERVER\_LOGIN** および **SERVER\_PASSWORD** プロパティの値に、**Monitor** ユーザーの資格証明と同じような値を設定します。
  - e **WebLogic Server** の各インスタンスについて、**a** ~ **d** の手順を繰り返します。

## ユース ケース 2: 管理ポートがオンになっていない (**WebLogic Application Server** を仮想 IP で実行している) ケース

**WebLogic Server** が仮想 IP で動作し、管理ポートをオンにしていない場合には、以下の手順で検出を実行します。

- 1 **Discover WebLogic** を起動します。**タスク 3: Discover WebLogic を起動する** ページの **46** を参照してください。
- 2 **[Set Access Info for Default Properties]** に、**BEA WebLogic** の **LOGIN** および **PASSWORD** プロパティを設定します (このウィンドウが表示されるのは、前もって **LOGIN** および **PASSWORD** を設定していなかった場合に限りです)。
- 3 設定エディタで、**NODE\_NAMES** および **ADDRESS** プロパティを設定します。
- 4 **[Next]** をクリックします。**[Confirm Operation]** ウィンドウが表示されます。  
**[OK]** をクリックし、選択した管理対象ノードで検出を実行します。

 クラスタ環境での設定の詳細については、**高可用性環境での WebLogic SPI** ページの **55** を参照してください。



## 4 WebLogic SPI のカスタマイズ

### はじめに

この章では、以下のトピックについて説明します。

- テンプレートの基本的なカスタマイズ
- テンプレートの高度なカスタマイズ
- デフォルトの **WebLogic SPI** テンプレートの復元
- テキスト ベース レポートの表示
- サポートされていないプラットフォーム上の **WebLogic** を監視する方法
- ライセンス数に対する **WebLogic SPI** ノードの確認

UDM の詳細は、『*HP Operations Smart Plug-in User Defined Metrics User Guide*』を参照してください。

### テンプレートの基本的なカスタマイズ

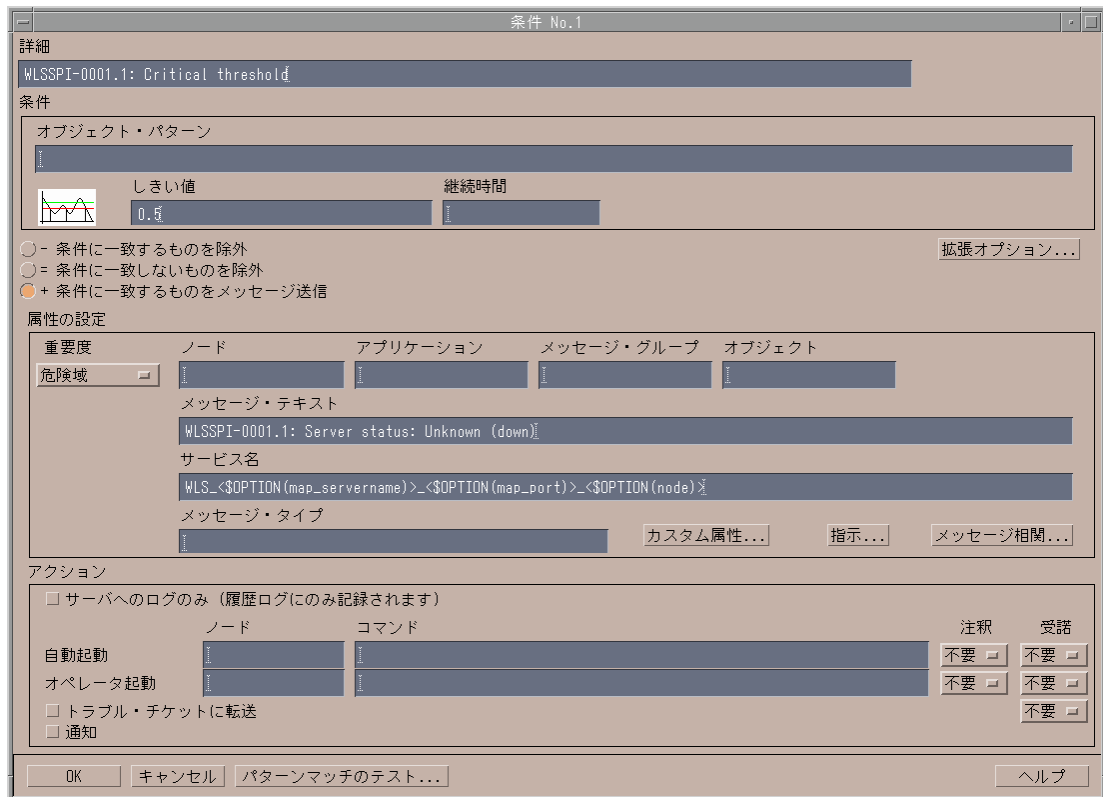
使用している環境の要件に基づいて、デフォルトの **WebLogic SPI** テンプレートをカスタマイズする必要があります。このセクションでは、(メトリック テンプレートの変更による)しきい値の変更、および警告通知の生成の変更などの基本的なカスタマイズについて説明します。

- ▶ テンプレートをカスタマイズする前に、デフォルト テンプレートのコピーを作成します。

### メトリック テンプレートの変更

以下のステップに従って、**WebLogic Server** のすべての監視対象のインスタンスについて、多くのメトリック属性を変更できます。

- 1 **HPOM** コンソールから、[メッセージ・ソースのテンプレート] ウィンドウを開きます。
- 2 **[SPI for WebLogic Server]** テンプレート グループをクリックします。右ペインに **WebLogic SPI** テンプレートのリストが表示されます。
- 3 **[WLSSPI-Metrics]** テンプレート グループをダブルクリックします。
- 4 メトリックを選択し、**[条件]** をクリックします。[メッセージ条件と除外条件] ウィンドウが開きます。
- 5 変更する条件を選択し (通常は 1 つのみ)、**[変更]** をクリックします。[条件] ウィンドウが表示されます。



- 6 属性を変更します。変更可能な属性のリストについては、表 2 を参照してください。
- 7 **[OK]** をクリックします。
- 8 **タスク 7: WebLogic SPI テンプレートを配布する** ページの 51 の説明に従って、変更したテンプレートを配布します。

**表 2**      **メトリック属性**

属性	説明
[しきい値]	この値を超えた場合、問題が発生しようとしているか、またはすでに発生していることが示されます。
[継続時間]	メトリックに対する入力データ値が設定済みのしきい値を超過した状態で、この値よりも長い時間が経過すると警告通知が生成されます。
[重要度]	環境における重要性に基づき、メッセージに割り当てるレベル。[条件] ウィンドウの <b>[重要度]</b> をクリックして、希望する重要度設定を選択します。
[メッセージテキスト]	管理オブジェクトの状態、管理オブジェクトに関連するイベント、または管理オブジェクトの問題についての構造化された判読可能な情報。 <b>注意:</b> メッセージ内の、山カッコ <> で囲まれていて \$ で始まるパラメータは、いずれも変更しないでください。

表2 メトリック属性(続)

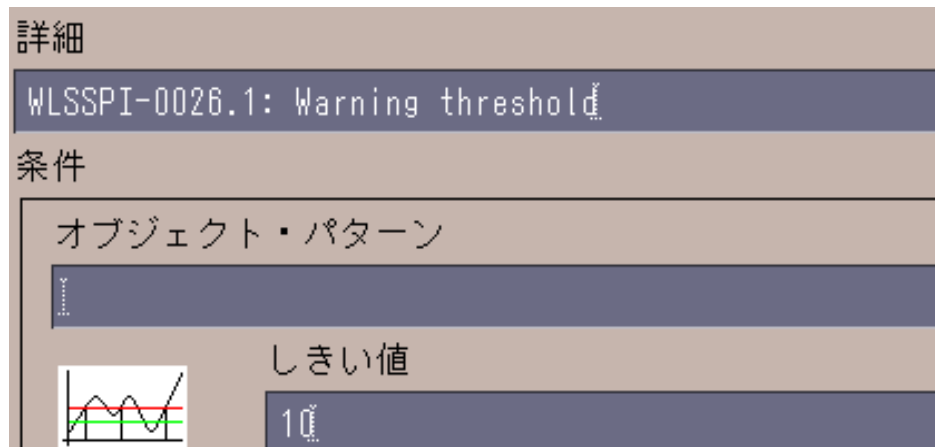
属性	説明
[アクション]	メッセージに対する応答です。この応答は、メッセージソーステンプレートまたは条件により割り当てられ、自動的にまたはオペレータが起動することで生じます。レポートの表示、Performance Manager のグラフの表示、またはカスタムプログラムの追加を行う場合は、アクションを設定する必要があります。
[自動起動] アクション	着信イベントまたはメッセージにより実行されるアクション。オペレータの介入は不要です。WebLogic SPI に付属の自動起動アクションにより、スナップショットレポートが生成されます。このレポートには、しきい値を超過してアクションが実行された時点のデータ値が示されます。レポートは、メッセージの注釈に表示できます。
[オペレータ起動] アクション	特定のメッセージに反応して修復措置または予防措置をとるのに使用されるアクション。自動起動アクションとは異なり、これらのアクションはオペレータにより起動されます。WebLogic SPI に付属のオペレータ起動アクションを使用すると、しきい値を超えたためにメッセージを生成したメトリックのグラフを、関連する他のメトリック値とともに表示できるようになります(グラフを表示するには、[メッセージ詳細] ウィンドウ内の [アクション起動] をクリックします)。

図4では、メトリック WLSSPI-0026 に、しきい値 10 が設定されています。メトリック WLSSPI-0026 は、クライアントが利用可能な EJB (Enterprise Java Bean) を待つ 1 分あたりの回数の合計を監視します。

このメトリックの重要度レベルは「注意域」です。

このメトリックに設定されているしきい値は 10 です。クライアントが EJB を待つ回数が 1 分あたりに 10 回を越えると、警告通知(警告メッセージ)が生成されます。

図4 WLSSPI-0026 のしきい値

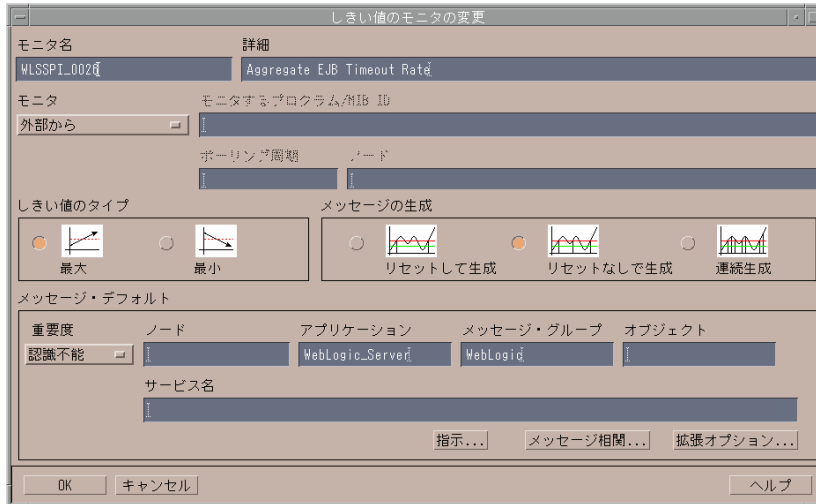


## 警告通知生成の変更

警告通知が生成される回数を設定するには、[しきい値のモニタの変更] ウィンドウの [メッセージの生成] の設定を変更します。

メッセージの生成を変更するには、以下の手順を実行します。

- 1 [メッセージ・ソースのテンプレート] ウィンドウを開きます。
- 2 **[SPI for WebLogic Server]** テンプレート グループを選択します。
- 3 右ペインで **[WLSSPI-Metrics]** テンプレート グループを選択します。
- 4 テンプレートを選択します。
- 5 **[変更]** をクリックします。[しきい値のモニタの変更] ウィンドウが表示されます。



- 6 [メッセージの生成] 設定に含まれる、次の設定のいずれかを選択します。
  - **[リセットして生成]:** しきい値を超えると、警告通知が 1 回生成されます。同時にリセットしきい値が有効になります。リセットしきい値を超えたときだけ、元のしきい値が再び有効になります。その後、再びしきい値を超えると、別の警告通知が生成され、プロセスは初めからやり直しになります。
  - **[リセットなしで生成]:** 監視しきい値を超えると 1 回警告通知が生成されます。メトリック値がしきい値を超えなくなると警告通知は自動的にリセットされ、しきい値を超えた時点で再び生成されます。
  - **[連続生成]:** メトリック値が収集され、しきい値を超えるたびにメッセージが送信され、警告通知が生成されます。
- 7 **[OK]** をクリックします。
- 8 [タスク 7: WebLogic SPI テンプレートを配布する](#) ページの 51 の説明に従って、変更されたテンプレートを配布します。



# テンプレートの高度なカスタマイズ

テンプレートの変更には、デフォルトのテンプレート グループをコピーし少数の設定をカスタマイズする方法や、テンプレートのコマンド行内でメトリックのグループを削除する方法があります。個々で説明する変更はすべて、WebLogic SPI メトリックについての高度な知識を必要とします。

## カスタマイズするメトリックの選択

どのメトリックをカスタマイズし、グループ内のどのテンプレートを使用するかを決定します。以下の手順を実行します。

- 1 **[メッセージ・ソースのテンプレート]** ウィンドウを開きます。
- 2 **[テンプレート・グループ]** ペインで、**[SPI for WebLogic Server]** を選択します。右ペインにテンプレートのリストが表示されます。
- 3 使用するテンプレート グループを選択し、**[コピー ...]** をクリックします。**[Copy Template Group]** ウィンドウが開きます。
- 4 グループの名前を変更して **[OK]** をクリックし、グループを保存します。
- 5 名前を変更したテンプレート グループ内で、元の各テンプレートをコピーし、名前を変更します。
- 6 名前を変更したテンプレート グループ内の元のテンプレートを削除します。
- 7 必要に応じて、新しいグループ内の名前を変更したテンプレートをカスタマイズします。

新しいテンプレート グループを作成すると、元のデフォルト テンプレートからカスタム テンプレートを分離できます。

## パラメータ付きの WebLogic SPI コレクタ / アナライザ コマンドの使用

wasspi\_wls\_ca コマンドは、すべてのコレクタ テンプレートで使用されます。コレクタ テンプレートは、収集間隔に基づいた名前が付けられています。**[スケジュールアクションの変更]** ウィンドウの **[コマンド]** ボックスで、各コレクタ テンプレート内のデフォルトのコマンド行パラメータを表示できます。

### WebLogic Server コマンド パラメータの使用方法

WebLogic SPI のデータ収集は、wasspi\_wls\_ca コマンドで開始します。このコマンドには、以下の表に示すその他のパラメータを追加することができます。

パラメータ	機能	構文
-e (exclude)	特定のサーバーを除外できます。このオプションは、-i オプションと同時に使用できません。	-e <server_name> 例: -e server2,server4
-i (include)	監視する特定のサーバーを一覧表示できます。このオプションは、-e オプションと同時に使用できません。	-i <server_name> 例: -i server1,server3
-m (metric)	データを収集する対象となるメトリックの番号または番号の範囲を指定します。	-m <metric_number   metric_number_range> 例: -m 1,3-5,9-11,15

パラメータ	機能	構文
-matchver (match version)	監視する特定の WebLogic Server のバージョンを指定します。このオプションは、-minver オプションまたは -maxver オプションと同時には使用できません。一致するバージョンが見つからなかった場合、このコマンドは実行されません。	-matchver <version_number> 例: -matchver 6.1
-maxver (maximum version)	監視する最高の WebLogic Server のバージョンを指定します。-minver とともに使用すると、バージョンの範囲を指定できます。バージョンが何も見つからなかった場合、このコマンドは実行されません。	-maxver <version_number> 例: -maxver 7
-minver (minimum version)	監視する最低の WebLogic Server のバージョンを指定します。-maxver とともに使用すると、バージョンの範囲を指定できます。バージョンが何も見つからなかった場合、このコマンドは実行されません。	-minver <version_number> 例: -minver 7
-r (report)	指定したメトリックの ASCII レポートを生成します。	-r
-t (tag)	既存のコレクタ テンプレートにプレフィックスを付け、メトリック番号を指定することにより、新しいテンプレート グループを作成します。	-t <prefix>- 例: wasspi_wls_ca -t DEV-
-x	以下のプロパティ / 値を指定できます。	-x <property>=<property_value>
	<b>alarm: off</b> にすると、メトリック モニタ テンプレートに設定されているすべての警告通知条件を無効にします。	-x alarm=off
	<b>prefix:</b> デフォルト: JMXUDM_。メトリック ID のプレフィックスを指定します。	-x prefix=SALES_
	<b>print: on</b> にすると、設定した警告通知やログ作成に加え、メトリック名、インスタンス名、およびメトリック値を <b>STDOUT</b> に出力します。	-x print=on
	<b>graph: off</b> にすると、グラフ作成機能が停止します。	-x graph=off
	<b>report: off</b> にすると、レポート作成機能が停止します。	-x report=off

## 構文例

- 設定されているすべてのサーバーから特定のデータを収集する場合：  
`wasspi_wls_ca -m 10-14,25,26`
- 特定のサーバーのみからデータを収集する場合：  
`wasspi_wls_ca -m 245,246,26 -i server1,server2`
- 特定のサーバーからデータを収集しない場合：  
`wasspi_wls_ca -m 220-225 -e server1,server2`

## JMX コマンド パラメータの使用方法

このセクションでは、**JMX** アクションを実行するために使用するコマンドパラメータについて説明します。**JMX** アクションとは、**MBean** インスタンスまたは **MBean** タイプに対して実行する 1 つまたは複数の **JMX** 呼び出し (**invoke**, **get**, **set**) です。1 つの **JMX** 呼び出しは、コマンド行から実行できます。複数の **JMX** 呼び出しは、**XML** ファイルに記述するか、**UDM** ファイルに **Metric** サブ要素として記述します。

表 3 JMX コマンドパラメータ

パラメータ	機能	構文
-a (action) 必須	<b>JMX</b> アクションを実行することを指定します。	-a
-i (include)	<b>JMX</b> アクションを実行するサーバーを指定します。このパラメータを指定しない場合、 <b>JMX</b> アクションは設定されているすべてのサーバーで実行されます。	-i <server_name> 例: -i server1,server3
-m (metric)	実行するアクションを含むメトリック ID を指定します。メトリック ID は <b>UDM</b> ファイルに定義されていなくてはなりません。このオプションは、-mbean オプションまたは -xml オプションと同時に使用できません。	-m <metric_id> 例: -m TestUDM_1000

表 3 JMX コマンドパラメータ (続)

パラメータ	機能	構文
-mbean	特定の MBean 上で JMX 呼び出しを実行します。このオプションは、-m オプションまたは -xml オプションと同時に使用できません。	-mbean <objectname> <action> 例: -mbean *:*, Type=JMServerConfig -get MessagesMaximum\
上記の構文内の <action> (JMX 呼び出し) は、以下のいずれかを使用します。		
-get		指定した属性の値を返します。 構文: -mbean <objectname> -get <attribute> 例: -get MessagesMaximum
-invoke [-type]		指定したパラメータで MBean オペレーションを実行します。オペレーションによっては、パラメータが不要な場合もあります (この場合、-type は指定しません)。パラメータを受け取るオペレーションの場合は、-type パラメータを指定する必要があります。-type は、オペレーションのオーバーロードをサポートします。 構文: -mbean <objectname> -invoke <operation> [-type <parameter_type> <parameter_value>]... <parameter_type> には、以下のいずれかの型を指定します。 short、int、long、double、float、boolean、java.lang.Short、java.lang.Integer、java.lang.Long、java.lang.Double、java.lang.Float、java.lang.Boolean、および java.lang.String 例: -invoke stagingEnabled -type java.lang.String examplesServer
-set		指定した属性に指定した値を割り当てます。 構文: -mbean <objectname> -set <attribute> <value> 例: -set MessagesMaximum 250000
-o	(object) MBean インスタンスを指定します。	構文: -o <mbean_instance> 例: -o examplesJMServer
-xml	実行する JMX アクションを含む XML ファイルを指定します。このオプションは、-m オプションまたは -mbean オプションと同時に使用できません。	構文: -xml <filename> 例: -xml myJMXActions.xml

## 例

- 警告を通知する **WebLogic** 実行キューの最大スレッド数を **50** に設定する (<\$OPTION (instancename)> には警告を通知するインスタンスを指定)  

```
wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_ca -a  
-mbean "PetStore:*,Type=ExecuteQueueConfig"  
-set ThreadsMaximum 50 -o <$OPTION(instancename)>
```
- 複数の **MBean** インスタンスで **MessagesMaximum** 属性を **25000** に設定する:  

```
wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_ca -a  
-mbean *:*,Type=JMSServerConfig -set MessagesMaximum 250000 -i  
examplesServer
```
- 特定の **MBean** インスタンスで **MessagesMaximum** 属性を **25000** に設定する:  

```
wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_ca -a  
-mbean *:*,Type=JMSServerConfig -set MessagesMaximum 250000 -i  
examplesServer -o examplesJMSServer
```
- 複数の **MBean** インスタンスに対してオペレーションを呼び出す:  

```
wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_ca -a  
-mbean *:*,Type=ApplicationConfig -invoke staged  
-i examplesServer
```
- MessagesMaximum** 属性を取得する (set コマンドの実行後、属性が設定されたことを確認するために使用):  

```
wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_ca -a  
-mbean *:*,Type=JMSServerConfig -get MessagesMaximum  
-i examplesServer
```
- wls\_UDMMetrics-sample.xml ファイル内でサンプル **UDM TestUDM\_1000** を使用する:  

```
wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_ca -a -m TestUDM_1000 -i examplesServer
```

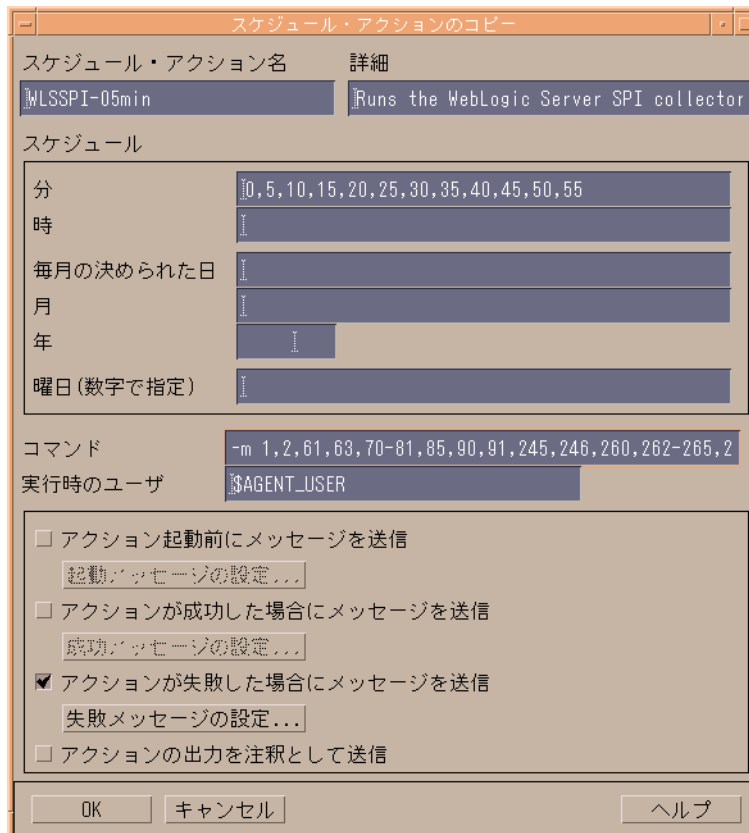
## スケジュール設定されたすべてのメトリックの収集間隔の変更

スケジュール設定されたすべてのメトリックの収集間隔を変更するには、該当するコレクタ テンプレートの [ポーリング周期] を変更します。たとえば、**WLSSPI-05min** コレクタ テンプレートについてデフォルト メトリックの収集を 5 分から 10 分に変更するには、以下の手順を実行します。

- [メッセージ・ソースのテンプレート] ウィンドウを選択します。
- テンプレート グループ [**SPI for WebLogic Server**] を選択し、[**WLSSPI-Schedule**] を開きます。
- コレクタ テンプレート [**WLSSPI-05min**] を選択します。
- [**変更...**] をクリックします。[スケジュール・アクションの変更] ウィンドウが表示されます。
- [スケジュール・アクション名] を「**WLSSPI-10min**」に変更します。
- [分] ボックスで、ポーリング周期を 5 分から 10 分に変更します。たとえば、「0、10、20...」のようになります。
- 新しいテンプレートを分配します (タスク 7: **WebLogic SPI テンプレートを配布する** ページの 51 の説明に従います)。

## 選択したメトリックの収集間隔の変更

選択したメトリックの収集間隔を変更するには、該当するコレクタ テンプレートをコピーし、新しい間隔を反映した名前に変更します。次に、変更するメトリック以外のすべてのメトリックを削除し、新しい間隔を設定します。その後、変更したメトリックを元のテンプレートから削除します。たとえば、メトリック **70-81** の収集間隔を **10** 分に変更するには、以下の手順を実行します。



- 1 **[メッセージ・ソースのテンプレート]** ウィンドウを開きます。
- 2 テンプレート グループ **[SPI for WebLogic Server]** を選択し、**[WLSSPI-Schedule]** を開きます。
- 3 テンプレート **[WLSSPI-05min]** を選択します。
- 4 **[コピー ...]** をクリックします。**[スケジュール・アクションのコピー]** ウィンドウが表示されます。
- 5 **[スケジュール・アクション名]** を「**WLSSPI-10min**」に変更します。
- 6 上図の **[コマンド]** ボックスで、**-m** の後ろのメトリックを「**70-81**」以外はすべて削除します。
- 7 **[ポーリング周期]** を **10** 分に変更します。
- 8 **[OK]** をクリックします。
- 9 **WLSSPI-Schedule** テンプレート グループで、**WLSSPI-5min** テンプレートを選択します。
- 10 **[変更]** をクリックします。**[スケジュールアクションの変更]** ウィンドウが表示されます。
- 11 **[コマンド]** ボックスから「**70-81**」を削除します。
- 12 **タスク 7: WebLogic SPI テンプレートを配布する** ページの **51** の説明に従って、変更されたテンプレートを再分配します。

## 個々のアプリケーション、EJB、サーブレット、または JDBC のしきい値のカスタマイズ

環境によっては、特定のアプリケーションが他のアプリケーションよりも重要な場合や、アプリケーション内で、特定の **EJB/サーブレット/JDBC** データソースがその他よりも重要となる場合があります。しきい値は、重要性に応じて、アプリケーションごとに、または **EJB/サーブレット/JDBC** データソースごとに設定できます。

しきい値を変更するには、既存の条件をコピーして変更します。以下の手順を実行します。

- 1 カスタマイズするメトリックをダブルクリックして開きます (たとえば **WLSSPI-0012**)。 [メッセージ条件と除外条件] ウィンドウが開きます。
- 2 必要な条件を選択し、[**コピー ...**] ボタンをクリックしてその条件のコピーを作成します。
- 3 [オブジェクト・パターン] フィールドに、以下の詳細情報を入力します (必要なフィールドにのみ入力します。例を参照)。

```
<ServerName>:<ServerPort>:<NodeName>:<ApplicationName>:<EJBName / ServletName / JDBC DataSource>:<Instance Name>
```

- 4 [しきい値] 列で、しきい値を変更します。
- 5 対象のノードにテンプレートを配布します。

しきい値をカスタマイズする前に、サーバーで動作しているアプリケーション /**EJB/サーブレット/JDBC** のデータソースを表示させたい場合があります。このためには、以下の **WebLogic SPI** アプリケーションを使用できます。

- **View WebLogic Servers:** すべての実行中のアプリケーション サーバーと対応するポートの詳細を表示します。
- **View Deployed Apps:** 特定のサーバーに配布されているすべてのアプリケーションのリストを表示します。

### 例

以下の例では、[オブジェクト・パターン] フィールドに詳細情報を入力する方法を示しています。

- **例 1: MedrecEAR** アプリケーションのしきい値を設定する必要があり、このアプリケーション名がすべてのノードで一意である場合、以下のように入力します。

```
<*>:<*>:<*>:MedrecEAR:<*>:<*>
```

- **例 2:** ノード 1 とノード 2 で使用できる **MedrecEAR** アプリケーションのしきい値を設定する場合、ノード 1 のみでしきい値を設定するには、以下のように入力します。

```
<*>:<*>:node1:MedrecEAR:<*>:<*>
```

- **例 3: MedrecEAR** アプリケーション内の **FileServlet** サーブレットのしきい値を設定する必要があり、**FileServlet** がすべてのノードで一意である場合、以下のように入力します。

```
<*>:<*>:<*>:MedrecEAR:FileServlet:<*>
```

## タグ付きのカスタム テンプレートの作成

高度なカスタマイズのためのもう 1 つのオプションは、タグ オプション ( コマンド行上の `-t` ) です。これにより、名前にタグを付けてカスタマイズしたテンプレートをコレクタまたはアナライザで認識できます。このオプションを使用すると、**WebLogic Server** の特定の設定に関する条件を定義したテンプレートを複数セット持てるという柔軟性が加わります。

複数のノードをいくつかのグループで管理するときこのオプションを使用すると、特定のタグを付けたテンプレートを、元の設定とは明確に区別して作成できます。この場合、テンプレートのコピーを作成して名前をタグ付きの名前に変更し、タグ付きの名前を選択するようコレクタテンプレートを修正した後、さまざまなグループに割り当てます。

たとえば、テンプレートのグループを作成し、**CLIENT01** が含まれるよう各テンプレート名を変更できます。メトリック モニタ テンプレートの名前は、たとえば **CLIENT01-WLSSPI\_0012** とします (メトリック番号はそのまま使用する必要があります)。コレクタ テンプレートの名前は、たとえば **FIRST\_CLIENT-05min** とします。次に、**SECOND\_CLIENT** 用に別のグループを設定し、名前に **CLIENT02** が含まれるようそれらすべてのテンプレートを変更します。

### 新しいテンプレート グループを作成するには

- 1 元のテンプレート グループをコピーします。[メッセージ・ソースのテンプレート] ウィンドウでグループを選択し、[コピー ...] をクリックします。
- 2 新しいグループに名前を付け、新しいモニタとコレクタ テンプレートを識別できるようにします。たとえば、テンプレート名に **CLIENT01** を含んでいる場合は、新しいテンプレートグループ名にもそれを含めます。
- 3 [メッセージ・ソースのテンプレート] ウィンドウで新しいテンプレート グループを展開してすべてのテンプレートを表示し、使用する各テンプレートを選択して [コピー ...] をクリックし、命名方式に従って名前を変更します。
  - グループ内の新しいメトリック モニタ テンプレートの名前は、新しい名前の後に元のメトリック番号を付けたものにします。たとえば **WLSSPI\_0001** のコピーには、**CLIENT01-WLSSPI\_0001** と命名します。
  - 新しいコレクタ モニタ テンプレートに指定する名前にも、識別用の名前を含めます。また、コマンド行に `-t` プロパティを挿入して、新しいグループ用にスケジュール設定された収集も変更します。たとえば、以下のようになります。

```
wasspi_wls_ca -m 16 -t CLIENT01-
```

- 4 新しいグループから元のテンプレートをすべて削除します。



## テンプレート変数

WebLogic SPI テンプレートでは、以下の変数が使用されます。テンプレートを独自に作成する場合、これらの変数を使用できます。

名前	説明
instancename	マルチインスタンス メトリックでメトリックのレポートを生成するインスタンス。 例: medRecServer_MedRecServer_wl_management_internal2_com.bea.wli.bpm.runtime.JwfServlet_20
map_port	port を参照してください。
map_servername	スペースを下線 ("_") で置き換えたアプリケーション サーバー名。スペースを使用できないサービス マップ キーで使います。 例: my_server
ノード	アプリケーション サーバーを実行するノード。 例: moo1.hp.com
ポート	アプリケーション サーバーがリスンするポート。PORT 設定プロパティに相当します。 例: 9001
servername	アプリケーション サーバー名。NAME 設定プロパティに相当します。 例: my_server

## デフォルトの WebLogic SPI テンプレートの復元

WebLogic SPI のテンプレートが HPOM にインストールされると、swinstall が実行された時点で以下に示すコマンドがインストールされたテンプレートを自動的にアップロードします。以前のインストールでカスタマイズしたテンプレートの設定は、すべて上書きされます。

元々インストールされていたデフォルトの **SPI for BEA WebLogic Server** テンプレート グループを復元するには、先に現在のテンプレートをすべて削除した後、次の表に示すコマンドのいずれかを **HPOM** のバージョンに応じて実行します。

swinstall により実行されるスクリプト

HPOM バージョン	スクリプト
>6.x 以降	/opt/OV/bin/OpC/opccfgupld -silent -replace -subentity /var/opt/OV/share/tmp/OpC_appl/wasspi/wls_set
5.x	/opt/OV/bin/OpC/opccfgupld -silent -replace -index /var/opt/OV/share/tmp/OpC_appl/wasspi/wls/wls_ito5_set/C/wls_set.idx /var/opt/OV/share/tmp/OpC_appl/wasspi/wls/wls_ito5_set

-silent オプションの代わりに、-verbose オプションを使用することもできます。

## テキスト ベース レポートの表示

一部のテンプレートでは、しきい値の違反やエラー条件に付属してアクションが定義されているため自動的にレポートがメッセージの注釈に表示されます。これらのレポートは、警告通知が行われた時点付近でサーバーから収集したデータ値のスナップショットです。

その他のテンプレートには、オペレータ アクションが対応付けられているため、これによりグラフを生成できます。



このセクションで説明するレポートと **HP Reporter** で生成されるレポートとを混同しないよう注意してください。後者は、管理用のプレゼンテーション形式での **Web** ページとして生成される、より統合的な履歴データを示すものです。

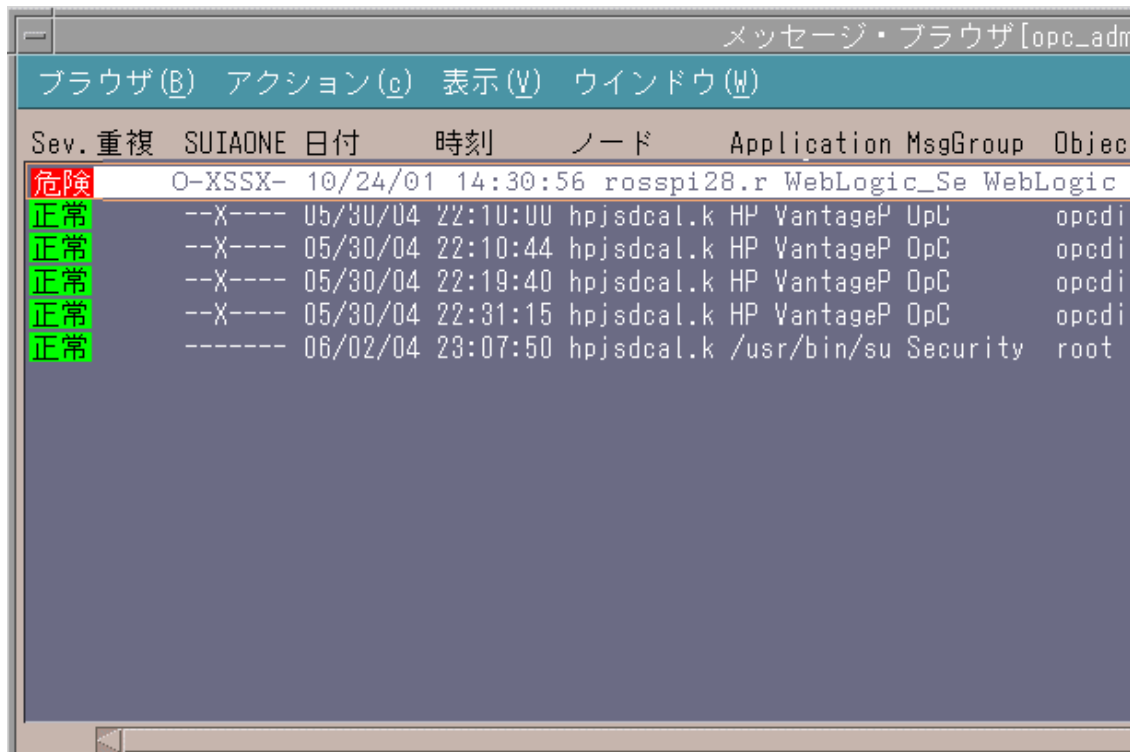
- メッセージの詳細を表示するには、**HPOM** メッセージ ブラウザでメッセージをダブルクリックするか、メッセージを右クリックして **[詳細]** を選択します。
- レポートを表示するには、**[登録ノード]** と **[登録アプリケーション]** の両ウィンドウを開きます。続けて、アプリケーション ウィンドウ **[WLSSPI]** → **[WLSSPI Admin]** → **[レポート]** を開きます。ノードを選択し、必要な **WLSSPI** メトリック レポート上にドラッグします。これらのレポートには、ノード上のすべてのサーバー データが表示されます。
- グラフを表示するには、**[登録ノード]** と **[登録アプリケーション]** の両ウィンドウを開きます。続けて、アプリケーション ウィンドウ **[WLSSPI]** → **[WLSSPI Admin]** を開きます。**View Graphs** アプリケーションにノードをドラッグすると **Web** ブラウザが起動され、**HP Performance Manager** (別途購入する必要があります) で利用可能なグラフ作成機能が表示されます。

## 自動アクション レポート

多くのメトリックは、自動アクション レポートを生成します。これらのレポートは、**HPOM** で警告通知が発行されると直ちに生成されます。自動アクション レポートは、警告通知が行われた直後のシステムの状態を示します。

**HPOM** から自動アクション レポートを実行すると、追加データについてのクエリがサーバーに送信されます。メッセージ ブラウザで **SUIAONE** 列を表示するよう設定している場合、**"A"** 列の下に **"S"** が表示されます (図 5 を参照)。この文字は、**[メッセージの詳細]** の **[注釈]** 領域にレポートを表示できる場合に表示されます。

図5 メッセージブラウザ



### 自動アクション レポートを表示するには

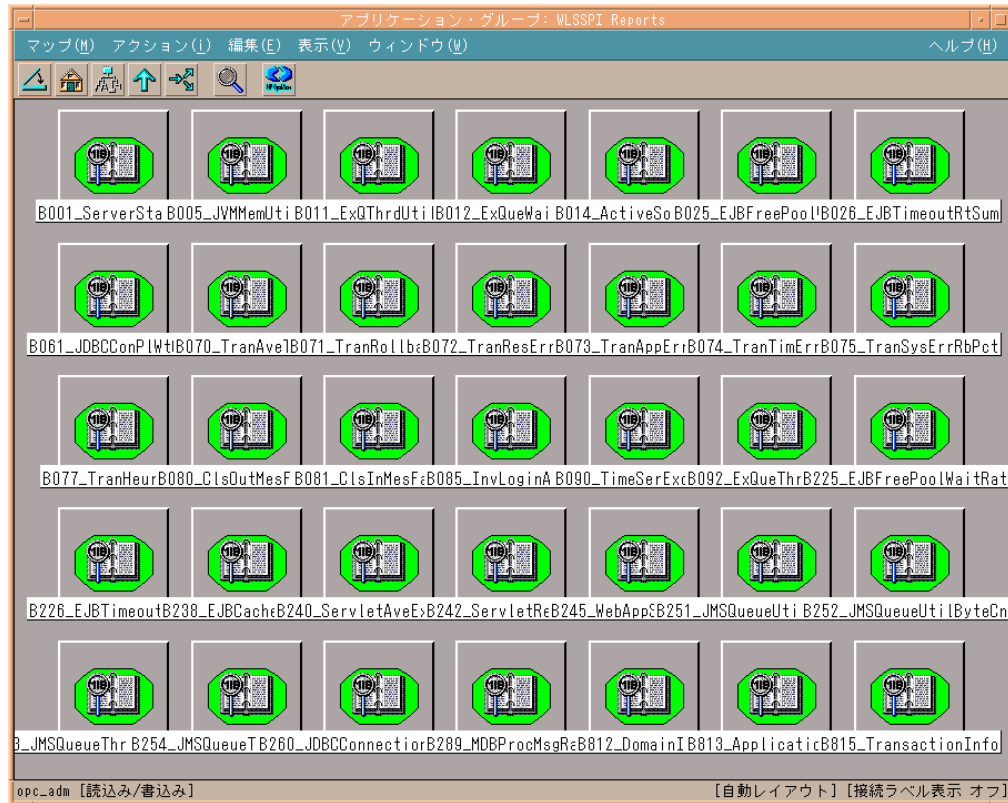
[注釈] ウィンドウに自動アクション レポートを表示できます。レポートを表示するには、次のいずれかを実行します。

- レポートに関するメッセージを選択し、**[注釈]** をクリックします。[注釈] ウィンドウが表示されます。
- メッセージを右クリックし、**[注釈]** を選択します。[注釈] ウィンドウが表示されます。

自動アクション レポートは、1つのサーバーに関するデータ値を示します。ウィンドウ内の列の説明に、さらに詳しい情報があります。

### 登録アプリケーションのレポート

登録アプリケーションのレポートを使用すると、自動アクション レポートに類似したレポートを手動で生成できます。登録アプリケーションのレポートは、管理対象ノード上で設定された **WebLogic Server** のすべてのインスタンスについて生成されます。この点が、**WebLogic Server** の単一のインスタンスについて生成される自動アクション レポートとは対照的です。登録アプリケーションから生成されたレポートは、管理対象ノード上の **WebLogic Server** の現在の状態を反映しています。



## 手動でレポートを生成するには

以下の手順を実行します。

- 1 HPOM コンソールで、[HPOM 登録ノード] をダブルクリックします。[HPOM 登録ノード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ] メニューから [登録アプリケーション] を選択します。[HPOM 登録アプリケーション] ウィンドウが表示されます。
- 3 [WLSSPI] をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic SPI] ウィンドウが開きます。
- 4 [WebLogic SPI Reports] をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic SPI Report] ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WebLogic SPI レポートが表示されます。
- 5 管理対象ノードを [登録ノード] ウィンドウから [登録アプリケーション] ウィンドウの目的のレポートにドラッグします。

## レポートのサンプル

自動アクション レポートと手動で生成されたレポート (登録アプリケーション レポート) の 2 種類のサンプルを以下に示します。

## 自動アクション レポート

図 6 は、自動で生成された WebLogic SPI レポートの形式を示しています。

図 6      メトリック B011 のレポート

```
Report for Application Server_01
Oct 16, 2001 3:22:20 PM
Metric B011_ExQThrdUtilPct

Execute Queues                Idle Threads    Waiting Requests
-----
_weblogic_admin_html_queue    2                0
_default                       11               0
_weblogic_admin_rmi_queue     10                0

Execute Queues                Longest Waiting Request
-----
_weblogic_admin_html_queue    Oct 16, 2001 3:22:20 PM
_default                       Oct 16, 2001 3:22:20 PM
_weblogic_admin_rmi_queue     Oct 16, 2001 3:22:20 PM

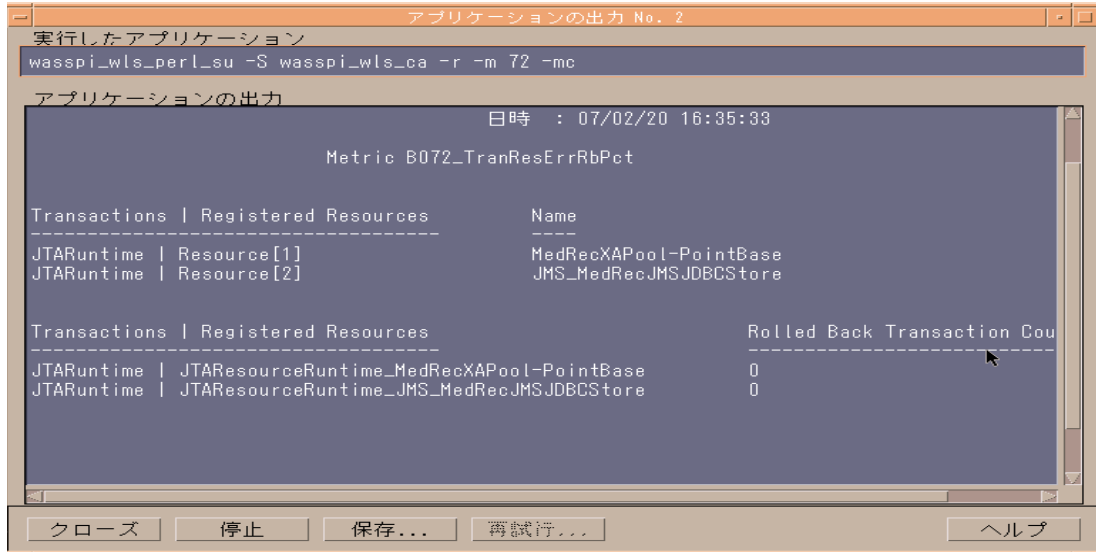
Execute Queues | Threads                Current Request
-----
_weblogic_admin_html_queue | ExecuteThread[1]    null
_weblogic_admin_html_queue | ExecuteThread[2]    null

Execute Queues | Threads                Current Request
-----
default | ExecuteThread[1]                null
default | ExecuteThread[2]                null
default | ExecuteThread[3]                null
default | ExecuteThread[4]                null
default | ExecuteThread[5]                null
default | ExecuteThread[6]                null
default | ExecuteThread[7]                null
default | ExecuteThread[8]                null
default | ExecuteThread[9]                null
default | ExecuteThread[10]               null
default | ExecuteThread[11]               weblogic.rmi.internal.BasicExecuteRequest@f0c95
default | ExecuteThread[12]               Socket Reader Request
default | ExecuteThread[13]               Socket Reader Request
default | ExecuteThread[14]               Read Multicast Msg Fragment
```

## 手動生成レポート

図 7 は、手動で生成された WebLogic SPI レポートの形式を示しています。

図 7 手動で生成された WebLogic SPI レポート



# サポートされていないプラットフォーム上の WebLogic を監視する方法

WebLogic SPI は、HP-UX、Linux (Red Hat)、Solaris、および Windows 2000 を実行するシステムにインストールされている WebLogic Server を監視します。ただし、サポートされていないプラットフォームで実行中のシステム（「リモート システム」と呼ばれるシステム）にインストールされた WebLogic Server を監視するよう WebLogic SPI を設定することもできます。

このセクションの目的は、ユーザーの環境がリモート監視の設定に適しているか判断できるようにすることです。また、下記の基準を満たす環境のユーザーに対して、リモート監視を開始するための例を示します。

## リモート ノード (WebLogic SPI がサポートしていないプラットフォーム上で動作) を監視するための要件

HP-UX、Linux (Red Hat)、Solaris、Windows 2000 のいずれでもないプラットフォーム上で動作しているシステムに WebLogic Server をインストールしていても、以下の条件に該当する場合は、WebLogic SPI を使用して対象のリモート システムを監視できます。最後の条件はオプションです。

- そのリモート システムは、購入したライセンスの対象範囲である (Tier 1 の価格設定を使用)。
- 対象の WebLogic SPI はサポートされているプラットフォーム (HP-UX、Solaris、または Windows 2000) 上の少なくとも 1 つの管理対象ノード上で動作している。
- (オプション。ログファイルの監視用) そのリモート システムは、HP Operations エージェント ソフトウェアがサポートしているプラットフォーム上で動作している。

## 概要

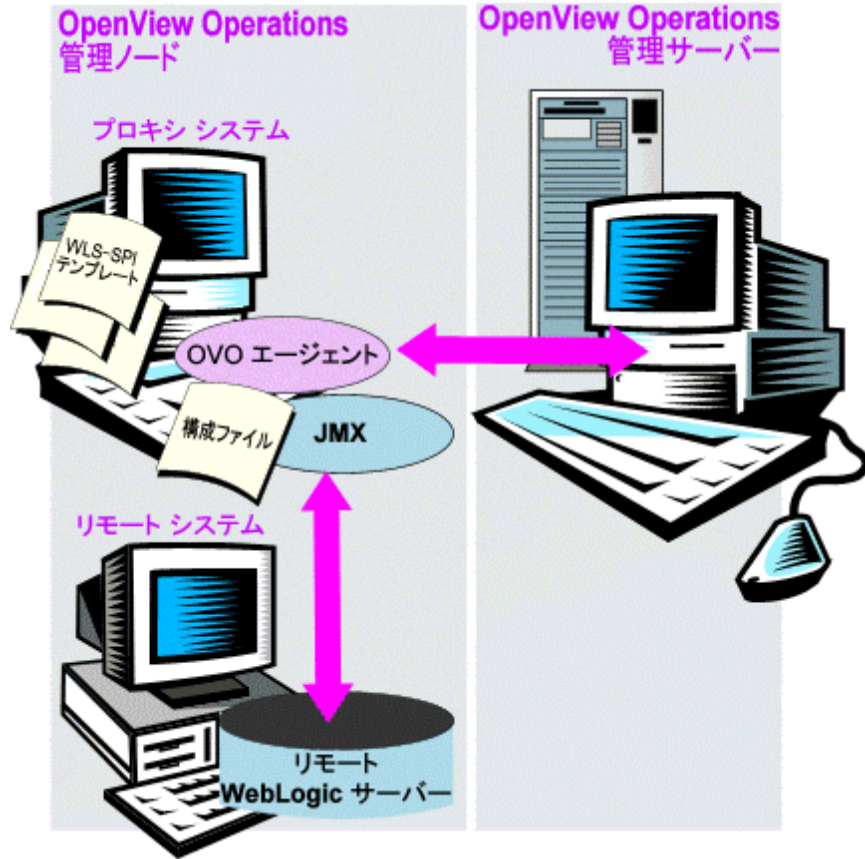
このセクションではリモート監視の概要を説明し、その実装方法を示します。また、WebLogic SPI と HP Operations エージェント ソフトウェアの両方を使用して、サポートされていないプラットフォーム上の WebLogic Server のメトリックとログファイルにアクセスするよう WebLogic SPI を設定する方法も説明します。

## リモート監視

標準設定では、WebLogic SPI のプログラム/テンプレートは、ローカルの管理対象ノード上に配布されます。標準でない設定では、ローカル システムはプロキシとして使用され、このプロキシを通じて、リモート メトリック情報にアクセスできるようになります。

リモート システムにおけるデータの収集および解釈は、データ収集が設定されたプロキシとして機能する、ローカルの管理対象ノードに依存します (図 8 を参照)。

図 8 リモート システムにおけるデータ収集



**設定エントリの要件:** 設定に、ローカル システム用とリモート システム用の両方のエントリが含まれています。複数のリモート システムのエントリを 1 つのローカル システムのセクションに含めることができます。ページの 81 の例を参照してください。リモート エントリが表示される様子が (システム IP アドレスとともに) 示されています。

**テンプレート配布の要件:** テンプレートはローカル ノードに配布する必要があります。別個のテンプレート グループを必要とする場合は、既存のテンプレートをコピーして名前を変更し、`-i` または `-e` オプションを使用してコマンド行で WebLogic Server 名を指定します。これらのコマンド行パラメータの使用方法については、WebLogic Server コマンドパラメータの使用法 ページの 65 を参照してください。

**HP エージェントの配布の要件 (オプションのログファイル監視):** リモートの WebLogic のログファイルにアクセスするには、そのリモート システムに HP Operations エージェント ソフトウェアをインストールする必要があります。標準の HPOM プロセスを使用すれば、適正なログファイル名を指定するように WebLogic SPI に付属の標準ログファイルテンプレートを変更してから、リモート システムにこれらを配布することができます。

▶ ログファイルのバージョン指定を使用したリモート システムの監視はサポートされていません。

## リモート システムの監視の設定

HP-UX、Linux (Red Hat)、Solaris、Windows 2000 以外のプラットフォーム上で動作しているシステム上の WebLogic Server をリモートで監視するには、以下のタスクを実行します。



## タスク 1: リモートの WebLogic Server を設定する

WebLogic 登録アプリケーションの **Configure WebLogic SPI** アプリケーションを使用して、リモート **WebLogic Server** と通信するローカルの各管理対象ノードを設定します。この設定では、リモート **WebLogic Server** 用のエントリを追加します。

- 1 リモート **WebLogic Server** を監視する拠点となる **WebLogic** 管理対象ノードを選択します。
- 2 設定では、各リモート **WebLogic Server** に以下のエントリを入力します。

```
SERVER<n>_ADDRESS=<DNS サーバー名または IP アドレス>
```

**NUM\_SERVERS** が正しいサーバー数 (<n>) に設定されていること、および **HOME** と **JAVA\_HOME** プロパティがグローバル レベルで設定されていることを確認します。

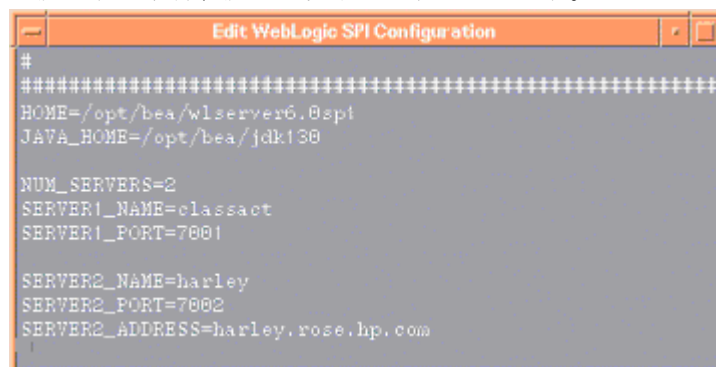
下図は、ローカルとリモートの **WebLogic Server** を同一ファイルに設定する方法について示しています。ただし、リモートサーバーの場合、**SERVER<n>\_ADDRESS=<IP\_address>** の行が追加されることに注意してください。

```
SERVER2_ADDRESS=15.75.27.109
```

または

```
SERVER2_ADDRESS=harley.rose.hp.com
```

1 つのローカル **WebLogic Server** (SERVER1) と 1 つのリモート **WebLogic Server** (SERVER2) を設定する場合、設定は以下のようになります。



```
Edit WebLogic SPI Configuration
#
#####
HOME=/opt/jea/wls_server6.0spi
JAVA_HOME=/opt/jea/jdk130

NUM_SERVERS=2
SERVER1_NAME=classact
SERVER1_PORT=7001

SERVER2_NAME=harley
SERVER2_PORT=7002
SERVER2_ADDRESS=harley.rose.hp.com
```

上記の設定では、2 つの **WebLogic Server** が設定されています。SERVER1 は、**HP-UX** の管理対象ノード上で動作するローカルサーバーです。SERVER2 は **HPOM** 管理対象ノード上で動作しますが、これは **Red Hat Linux** システムではありません (**WebLogic SPI** がサポートしていないプラットフォームです)。リモートシステムの設定はローカルシステムの設定と似ていますが、別の行 **SERVER2\_ADDRESS=harley.rose.hp.com** が含まれています。

- 3 **SPI** によるリモートノードの監視を確認するため、以下のコマンドを実行します。

```
wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_ca -m 5 -i <remote_server_NAME|ALIAS> -x print=on
```

リモートサーバーにエイリアスが設定されている場合は、**ALIAS** を使用します。

## タスク 2: HP Performance Agent を統合する (オプション)

**HP Performance Agent** の収集は、リモートシステムではなく、管理対象ノードで行われます。**PerfView** を使用していて、リモートシステムのデータのグラフを作成したい場合は、ローカル管理対象ノードで **HP Performance Agent** の統合が有効であることを確認する必要があります。

### タスク 3: ローカル ノードを WebLogic ノード グループに割り当てる

ローカル管理対象ノードを WebLogic ノード グループに割り当てます。リモート システムと同じバージョンの WebLogic Server のノードに設定を配布しようとしていることを確認してください。

### ログファイル用のリモート監視の設定 (オプション)

リモート システムのログファイルの監視は、以下の両方の条件に当てはまる場合にサポートされます。

- 1 そのリモート システム上で HP Operations エージェントが動作している
- 2 システムは、ログファイルをローテーションしても、ファイル名は変更しない。

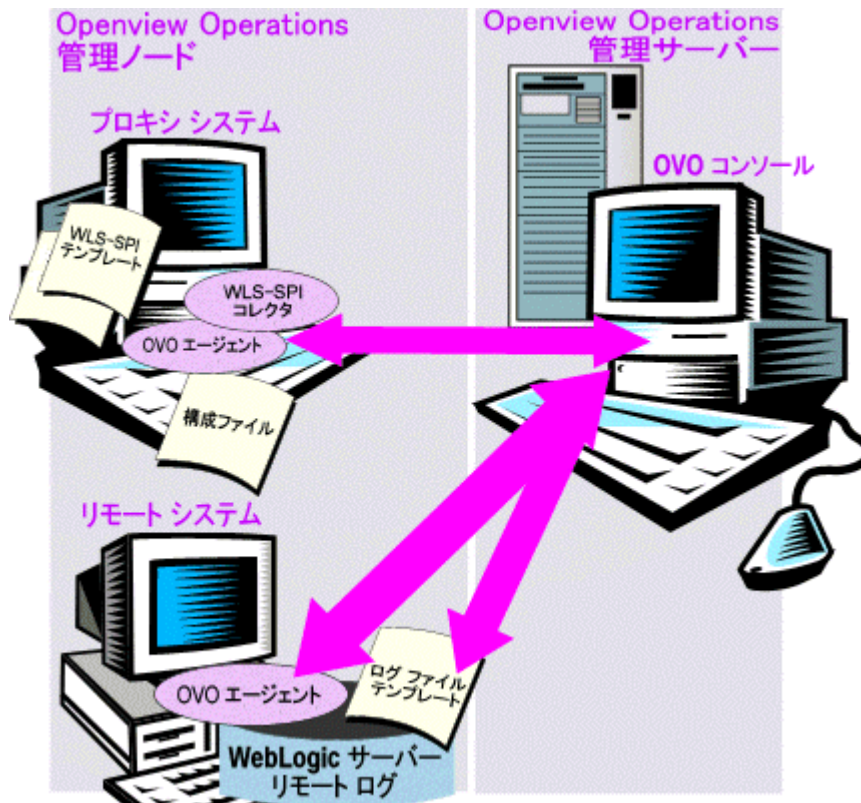
ログファイル監視を設定するには、HPOM コンソールで WLS SPI のログファイル テンプレートをコピーします。次に、コピーしたログファイル テンプレートを設定し、リモート システムに割り当てた後、配布します。

### リモート ログファイル用のログファイル テンプレートの設定

ログファイル テンプレートを設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 WebLogic のバージョン グループの下にある WebLogic ログ テンプレートのコピーを開きます。  
例: [SPI for WebLogic Server] → [WLSPI-Logfiles]
- 2 [ログファイル] テキスト ボックスに、リモート システム上のログファイルの場所を入力します (</パス>/<ファイル名>)。
- 3 リモートの HPOM 管理対象ノードにログファイル テンプレートを割り当てて配布します。

ログファイル テンプレートと HP Operations エージェントの両方がリモート システム上に存在しているため、WebLogic Server のログファイルを監視できます。



## リモート監視の制限

リモート監視には、以下の制限があります。

- **WebLogic SPI** と **HP Operations** エージェントは、ログがローテーションするたびにログファイル名が変更される場合には、ログファイルへのアクセスをサポートしていません。
- リモートシステム上に **HP Operations** エージェントが存在しない場合、リモートシステム上の **WebLogic** のログファイルの監視はできません。
- **HPOM** の登録アプリケーションでは、**WebLogic SPI** アプリケーションをリモートシステムで実行することはできません。

## ライセンス数に対する WebLogic SPI ノードの確認

**HPOM** レポート ユーティリティを使用して、管理対象ノードにインストールしたテンプレートの数を確認できます。管理対象ノードあたりのテンプレート数を調べると、管理対象のシステム全般に一貫してテンプレートをインストールしたことが分かります。さらに、このレポートを実行することにより、購入したライセンス数がレポートの結果と矛盾していないことも確認できます。

レポートを実行するには、以下の手順を実行します。

- 1 **HPOM** コンソールで、チェックしたいノードまたはノードグループを選択します。
- 2 [アクション]メニューから、[ユーティリティ] → [レポート...] を選択します。
- 3 [レポート] ウィンドウでリストされたレポートの中から、[**WLSPI License Check**] を選択します。
- 4 出力先を選択し、[OK] をクリックします。



## 5 HP のレポート作成製品およびグラフ作成製品と WebLogic SPI との統合

WebLogic SPI を、以下の HP のレポート作成およびグラフ作成製品（要別途購入）と統合できます。

- **HP Reporter:** Reporter は、管理用の Web ページ レポートを生成します。このレポートは、履歴と傾向を表す情報を示します。HPOM に組み込まれている Reporter のバージョンとは異なります。

WebLogic SPI は、Reporter とともに動作してさまざまなレポートを生成し、WebLogic Application Server についての情報を整理して表示します。

WebLogic SPI を Reporter に統合する方法については、[HP Reporter との統合](#) ページの 86 を参照してください。Reporter に WebLogic SPI を統合すると、Reporter は毎晩、設定済み管理対象ノードでの WebLogic Application Server のパフォーマンスと可用性を示すレポートを生成します。

- **HP Performance Agent:** HP Performance Agent は、システムの現在および過去のリソース データに関して、収集、要約、タイムスタンプの追加、および警告状態の検出を行います。パフォーマンス、リソース、エンドツーエンドのトランザクション応答時間の測定値を提供するとともに、ネットワークおよびデータベース測定情報もサポートします。HP Performance Agent の詳細は、『*HP Performance Agent for UNIX User's Manual*』を参照してください。

HP Performance Agent を使用する場合、WebLogic SPI は自動的に HP Performance Agent を使用します。HPOM に組み込まれている HP Operations のサブエージェント CODA (HPOM に含まれ、HP Performance Agent をサポートしない) を使用する場合は、管理対象ノードを設定する必要があります。詳細については、[CODA との統合](#) ページの 86 を参照してください。

- **HP Performance Insight:** HP Performance Insight は、データの収集、処理、およびレポートを行うネットワーク管理システムです。データはレポートの生成に使用されます。HP Performance Insight の詳細は、『*HP Performance Insight 管理ガイド*』を参照してください。WebLogic SPI レポートの詳細と、HP Performance Insight への WebLogic SPI の統合方法については、『*Application Server Report Pack User Guide*』を参照してください。
- **HP Performance Manager:** HP Performance Manager は、WebLogic SPI メトリックのグラフ作成機能を提供します。HPOM に組み込まれている HP Performance Manager のバージョンとは異なります。

WebLogic SPI を HP Performance Manager に統合する方法については、[HP Performance Manager との統合](#) ページの 91 を参照してください。HP Performance Manager に WebLogic SPI を統合すると、翌日からグラフを使用できます。

## CODA との統合

WebLogic SPI は HP Performance Agent を使用していることを検出できます。HP Performance Agent を使用する場合、WebLogic SPI インストールで自動的に HP Performance Agent を使用します。

OVO 7.x 以降に添付されている HP Operations のサブエージェント CODA を使用する場合は、管理対象ノードを設定する必要があります。この設定は、HP Performance Agent をサポートしていません。

CODA を使用するには、空のファイル nocoda.opt を設定し、管理対象ノードに保存します。

- 1 管理対象ノード上の以下のディレクトリに nocoda.opt ファイルを作成します。

オペレーティング システム	ファイルの場所
HP-UX、Linux、Solaris	/var/opt/OV/conf/dsi2ddf/
Windows	\usr\ov\conf\dsi2ddf\

ディレクトリ dsi2ddf が存在しない場合は、作成します。

- 2 空のファイルを保存します。

## HP Reporter との統合

Reporter に統合する前に、WebLogic SPI を設定する必要があります (第 3 章「WebLogic SPI の設定」を参照)。

WebLogic SPI レポート パッケージをアップグレードする場合、新しいバージョンをインストールする前に旧バージョンを削除する必要があります。WebLogic SPI レポート パッケージの削除方法の詳細は、[タスク 13: 新しいレポート パッケージをインストールする \(オプション\)](#) ページの 35 を参照してください。

Reporter が動作する Windows システムに WebLogic SPI レポート パッケージをインストールする必要があります。レポート パッケージをインストールするには、以下のステップを実行します。

- 1 Windows のクライアント システムで、DVD-ROM ドライブに Smart Plug-ins DVD-ROM (レポート パッケージを含むもの) を挿入し、Windows エクスプローラ上で、以下のファイルをダブルクリックします。

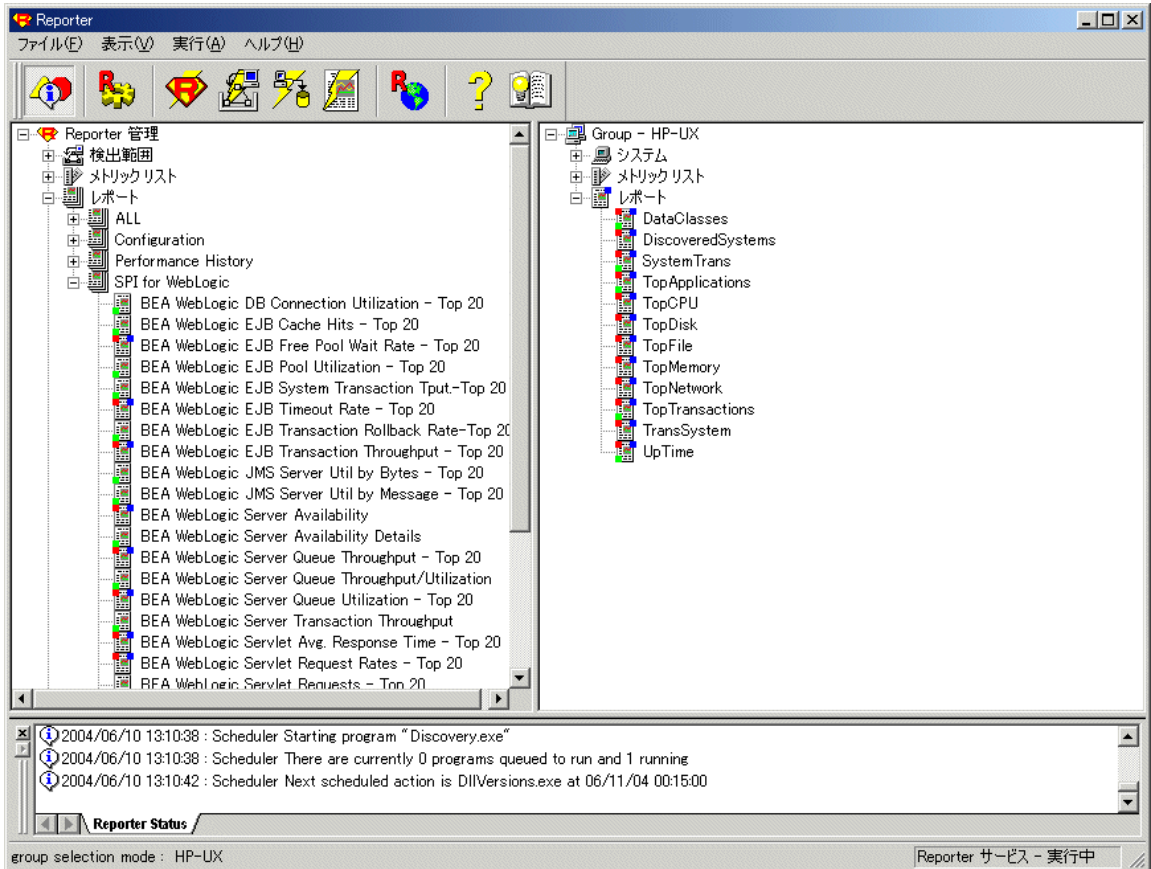
`\OV_REPORTER\WebLogic_SPI_04.20.000\WLSPI-Reporter.msi`

- 2 表示される指示に従います。
- 3 Reporter のステータス ペイン (後の図を参照) で、Reporter 設定への変更を確認します。



Windows 2000 の管理対象ノードの場合、インストール中に、システム上で旧バージョンのインストーラが検出されたことを示すエラー メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視してかまいません。そのまま続行してください。

[Reporter Status] ペイン ([Reporter] ウィンドウの一番下) には、実行中のプログラムと発生したエラーに関する情報が表示されます。[Reporter Status] ペインで、Reporter が WebLogic SPI レポートとともに更新されたことを確認できます。



対象となるノードに WebLogic SPI レポートを割り当てる方法は、Reporter のヘルプで説明されています。ヘルプを表示するには、Reporter のメイン ウィンドウの左側のパネルの [レポート] または [検出されたシステム] を選択し、右クリックします。表示されたサブメニューから [レポート ヘルプ] または [検出されたシステム ヘルプ] を選択します。「[検出されたシステム グループ] にレポート定義を割り当てるには」のトピックを参照してください。

- 必要に応じて、レポートを割り当てることによりグループと単一システム レポートを追加します。(詳細については、『Reporter ヘルプ』およびオンラインの『コンセプト ガイド』を参照してください)。

▶ グループと単一システムの WebLogic SPI レポートでは、フルネームでシステムを指定する必要があります。たとえば、abc.xyz.com は受け付けられますが、abc は受け付けられません。

## WebLogic SPI Reporter のレポート

HP Reporter と WebLogic SPI との統合によって利用可能になるレポートには、WebLogic Server システム上でのサーバーのパフォーマンスと可用性に関する統合されたデータが表示されます。また、その他のレポートには、単一システムのデータが表示されます。これらのレポートは、WebLogic SPI レポート パッケージを Reporter の Windows システムにインストールした翌日から利用可能となります。まだレポート パッケージのインストールを完了していない場合は、[HP Reporter との統合 ページの 86](#) を参照してください。

以下の表に、すべての定義済みレポートを示します。

**表 4** パフォーマンス

レポートのタイトル	説明	WebLogic のバージョン	メトリック
上位 20 のキューのスループット	すべてのサーバーについての上位 20 の実行キューの平均スループットを示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	10
上位 20 のサブレット平均実行時間	すべてのサーバーについての上位 20 の要求されたサブレットの平均実行時間を示します。サブレット名とともに、関連するアプリケーション名も表示されます。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	240
上位 20 のサブレットの要求率	上位 20 のサーバーが受信するサブレットの要求率の合計を示します。サブレット名とともに、関連するアプリケーション名も表示されます。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	242
実行キューのスレッドの使用率	すべてのサーバーの上位 20 の実行キューについて、実行キューのスレッドの利用率をパーセントで表示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	11
上位 20 の平均トランザクションスループット	上位 20 のサーバーについて、平均トランザクションスループットを示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	76
上位 20 の EJB のフリープール待機率	上位 20 のサーバーについて、利用可能になるまで要求が EJB を待機した 1 分あたりの回数を示します。	7.0、8.1、9.x、10.0	25
上位 20 の EJB のタイムアウト率	上位 20 のサーバーについて、EJB が利用可能になるまで待機している間に要求がタイムアウトになった 1 分あたりの回数を示します。	7.0、8.1、9.x、10.0	26
上位 20 の EJB のトランザクションスループット	上位 20 のサーバーについて、EJB の平均トランザクションスループットを示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	35

**表 5** 可用性

レポートのタイトル	説明	WebLogic のバージョン	メトリック
Server Availability (サーバーの可用性)	すべてのサーバーについて、アップタイムとダウンタイムの割合を示す、日ごとのヒストグラムを記載しています。	6.1	2



表 6 単一システム レポート

レポートのタイトル	説明	WebLogic のバージョン	メトリック
Server Availability Details (サーバーの可用性の詳細)	各 WebLogic Server について、日ごとおよび 1 時間ごとのアップタイム (分) を示すスペクトル グラフを記載しています。	6.1	2
JDBC のスループットおよび接続の使用率	各 WebLogic Server について、JDBC 接続プールの使用率に対するスループットをチャートで示します。JDBC データ ソースと関連するアプリケーション名 (存在する場合) を表示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	260, 262
JMS サーバー上のバイト数単位のスループットおよび使用率	各 WebLogic Server について、キューの使用率に対するスループット (JMS サーバー上の宛先についてのバイト数単位) をチャートで示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	252, 256
JMS サーバー上のメッセージ件数単位のスループットおよび使用率	各 WebLogic Server について、キューの使用率に対するスループット (JMS サーバー上のメッセージ件数単位) をチャートで示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	251, 255
サーバーについてのキューの使用率とスループット	各 WebLogic Server について、スレッドの使用率に対するスループットを示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	10,11
サーバーについての上位 20 のサーブレット要求率	日ごとの上位 20 のサーブレットについての要求率 (秒単位の要求) のスタック エリアチャートおよび各 WebLogic Server についての上位 100 のサーブレットについてのデータの表を示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	242
サーバーについてのトランザクションスループット	各 WebLogic Server について、日ごとの平均トランザクションスループットを示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	76
トランザクション ロールバック タイプ	各 WebLogic Server について、エラー タイプごとのトランザクション ロールバックを示します。	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	72-75
上位 20 のステートフル EJB とエンティティ EJB のキャッシュ使用率	各 WebLogic Server について、上位 20 の EJB についての EJB キャッシュ使用率をパーセントで示します。EJB インスタンスとともに、関連するアプリケーション名も表示されます。	7.0、8.1、9.x、10.0	238

## WebLogic SPI 用の HP Performance Insight レポート

HP Performance Insight と WebLogic SPI との統合によって利用可能になるレポートには、WebLogic Server システム上でのサーバーのパフォーマンスと可用性に関する統合されたデータが表示されます。WebLogic SPI レポートの詳細と、HP Performance Insight への WebLogic SPI の統合方法については、『*Application Server Report Pack User Guide*』を参照してください。

以下の表に、すべての定義済みレポートを示します。

レポートのタイトル	説明	メトリック
サーバーの可用性 — スループット	サーバー可用性チャートは、アプリケーションサーバーの可用性のステータスを時間、日、月単位で表します。トランザクションスループットチャートは、アプリケーションサーバーで毎秒処理されるトランザクション数を表示します。	2, 76
EJB プール使用率	EJB プールの使用率	235
JDBC スループット — 使用率	接続プールの JDBC 接続のうち、使用可能な接続の割合と、接続プールの接続を使用する 1 秒あたりのクライアント数	260, 262
準リアルタイムサーバー可用性	過去 6 時間のサーバーのステータス	2, 76
サーブレットの要求率 — 応答時間	サーブレットの要求率は、1 秒あたりのサーブレットの要求数を示します。サーブレットの応答時間チャートは、各サーブレットの平均実行時間を示します。	240, 242
EJB キャッシュ使用率	キャッシュ内の EJB の使用率	238
EJB トランザクション レポート	EJB フリー プール待機率は、フリー プールからステートレスな Session Bean を利用できなかった 1 分あたりの回数を示します。EJB ロードタイムアウト率は、EJB の待機中にクライアントがタイムアウトした回数を示します。EJB トランザクション スループットは、1 秒あたりの EJB トランザクションの数を示します。	25, 26, 35
実行キュー スループット — 使用率	実行キュー スループット率は、実行キューで 1 秒あたりに処理された要求の数を示します。キュー使用率チャートは、サーバーの実行キューで使用されたスレッドの割合を示します。	10, 11
JMS スループット — 使用率	JMS スループット レポートは、JMS を通過した 1 秒あたりのメッセージ数およびバイト数を示します。JMS 使用率 レポートは、JMS キューの使用率をメッセージ数およびバイト数に基づいて示します。	251, 252, 255, 256
準リアルタイム実行キュー スループット — 使用率	過去 6 時間の実行キューのスループットおよび使用率の傾向	10, 11
サーバー トランザクション ロールバック	リソース、アプリケーション、タイムアウト、システムエラーが原因でロールバックされたトランザクションの割合	72 - 75

# HP Performance Manager との統合

WebLogic SPI を HP Performance Manager に統合するには、以下の手順を実行します。

- 1 WebLogic SPI をインストールし、設定します。**タスク 1: Web ブラウザを起動するため管理サーバーを設定する** ページの 37 が完了していることを確認します。さらに、**GRAPH\_URL** プロパティを設定したことを確認します。**GRAPH\_URL** プロパティについては、**プロパティの定義** ページの 171 を参照してください。
- 2 WebLogic SPI グラフ作成パッケージをアップグレードする場合、新しいバージョンをインストールする前に旧バージョンを削除する必要があります。**WebLogic SPI グラフ作成パッケージの削除**については、**タスク 14: 新しいグラフ作成パッケージをインストールする (オプション)** ページの 35 を参照してください。
- 3 グラフ作成パッケージをインストールします。

Windows システムで HP Performance Manager を実行している場合、以下のステップを実行します。

- a DVD-ROM ドライブに Smart Plug-ins DVD-ROM ( グラフ作成パッケージを含むもの ) を挿入し、Windows エクスプローラ上で、以下のファイルをダブルクリックします。  
**OV\_PM\WebLogic\_SPI\_04.20.000\WINDOWS\HPOvSpiWlsGc-04.20.000.msi**
- b 表示される指示に従います。

HPOM 管理サーバー以外の HP-UX システムで HP Performance Manager を実行している場合、以下のステップを実行します (HP Performance Manager を HPOM 管理サーバーにインストールしている場合は、SPI ソフトウェアのインストール時に自動的に必要なファイルがインストールされています)。

- Smart Plug-ins DVD-ROM ( グラフ作成パッケージを含むもの ) をマウントし、以下のコマンドを入力します。

```
swinstall -s <mount_point>/OV_PM/WebLogic_SPI_04.20.000/HPUX/  
HPOvSpiWlsGc-04.20.000.depot WLSSPI-GRAPHS
```

HPOM 管理サーバー以外の Solaris システムで HP Performance Manager を実行している場合、以下のステップを実行します (HP Performance Manager を HPOM 管理サーバーにインストールしている場合は、SPI ソフトウェアのインストール時に自動的に必要なファイルがインストールされています)。

- Smart Plug-ins DVD-ROM ( グラフ作成パッケージを含むもの ) をマウントし、以下のコマンドを入力します。

```
/usr/sbin/pkgadd -d <mount_point>/OV_PM/WebLogic_SPI_04.20.000/  
SOLARIS/HPOvSpiWlsGc-04.20.000.sparc all
```

- 4 WebLogic Server メトリックのグラフを作成するには、データ ソース名 **WLSSPI\_METRICS** を使用します。

グラフの表示方法については、HP Performance Manager のマニュアルを参照してください。統合した翌日から、グラフを表示できます。



グラフ作成パッケージをアンインストールするには、**タスク 8: グラフ作成パッケージを削除する (オプション)** ページの 28 のステップに従います。

## 警告通知条件を示すグラフの表示

WebLogic SPI は、グラフ作成という目的のために、タイプ別にメトリックを整理しています。この後のセクションの表に示すメトリックについてのメッセージが生成されると、そのメトリック値とその他のメトリック値のチャートを表示できます。

警告通知条件 (オペレータ起動アクションが **WebLogic SPI** モニタ テンプレートをを用いて定義されています) に関連するグラフを表示するには、以下のステップを実行します。

- 1 **HPOM** メッセージ ブラウザでメッセージをダブルクリックします。[メッセージの詳細] ウィンドウが表示されます。
- 2 **[アクション起動]** をクリックします。

対象のメトリックについての **WebLogic SPI** グラフが表示されます。このメトリックの値は、同じグループに含まれる他のメトリックの値とともにチャート化されます。

## 過去 / 現在の状態を示すグラフの表示

**View Graphs** アプリケーションを使用すると、利用可能な 4 つのグラフはいずれも手動で生成できます。以下の手順を実行します。

- 1 **HPOM** コンソールで、[**HPOM** 登録ノード] をダブルクリックします。[**HPOM** 登録ノード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ] メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。[**HPOM** 登録アプリケーション] が新しいウィンドウで開きます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。[アプリケーション グループ : **WebLogic SPI**] ウィンドウが開きます。
- 4 **[WLSSPI Admin]** をダブルクリックします。[アプリケーション グループ : **WLSSPI Admin**] ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての **WLSSPI Admin** アプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード] ウィンドウでノードを選択し、**[View Graphs]** をダブルクリックしてグラフを作成します。

## グラフで利用可能な WebLogic SPI メトリック

以下の表に、収集されたメトリック値のマッピング可能なグラフを示します。**View Graphs** アプリケーションを使用して、下の表にリストされているメトリックのグラフを表示できます。このグラフは、**Web** ブラウザで表示されます。

表 7 **JVM**

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B005_JVMMemUtilPct	JVM で使用されるヒープ空間の割合

表 8 サーバーのパフォーマンス

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B010_ExQueThruRate	実行キューで 1 秒あたりに処理される要求の数
B011_ExQThrdUtilPct	サーバーの実行キューに使用されているスレッドの割合
B012_ExQueWaitCnt	提供されるまで待機しているクライアントの要求数
B013_SocketTrafficRt	1 秒あたりに開かれるソケット接続の数
B014_ActiveSocketCnt	開かれているソケット接続の数

表 9 Enterprise Java Beans (EJB)

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B025_EJBPoolWtRtSum	フリー プールから EJB Bean を利用できなかった 1 分あたりの回数
B026_EJBTimeoutRtSum	EJB Bean の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分あたりの回数
B035_EJBTranThruRt	1 秒あたりの EJB トランザクションの数
B036_EJBTranRbRt	1 秒あたりの、ロールバックされる EJB トランザクションの数

表 10 JDBC

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B061_JDBCConPIWtCnt	接続プール内で接続待ちのクライアントの数
B063_JDBCConLkRtSum	接続プール内で、閉じられていない JDBC 接続と、最大アイドル時間を超えた JDBC 接続の 1 分あたりの数

表 11 コネクタ サービス

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B078_CnctrLeakRtSum	接続プール内で閉じていないコネクタ接続と、最大待ち時間を超えたコネクタ接続の 1 秒あたりの数

表 12 トランザクション

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B070_TransAveTime	トランザクションの平均コミット時間
B071_TransRollbackPct	合計を基準とした場合のトランザクション ロールバックの割合
B072_TransResErrRbPct	リソース エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
B073_TransAppErrRbPct	アプリケーション エラーのためロールバックされたトランザクションの割合

表 12 トランザクション ( 続 )

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B074_TransTimErrRbPct	タイムアウト エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
B075_TransSysErrRbPct	システム エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
B076_TransThruRate	1 秒当たりに処理されるトランザクションの数
B077_TransHeurCnt	発見的決定を返すトランザクションの割合
B079_TransCapUtil	トランザクション容量の使用率

表 13 クラスタ

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B080_ClsOutMesFailRt	1 分当たりにクラスタに再送されたマルチキャスト メッセージの数
B081_ClsInMesFailRt	サーバーで失われた、クラスタからの 1 分あたりのマルチキャスト メッセージ数

表 14 セキュリティ

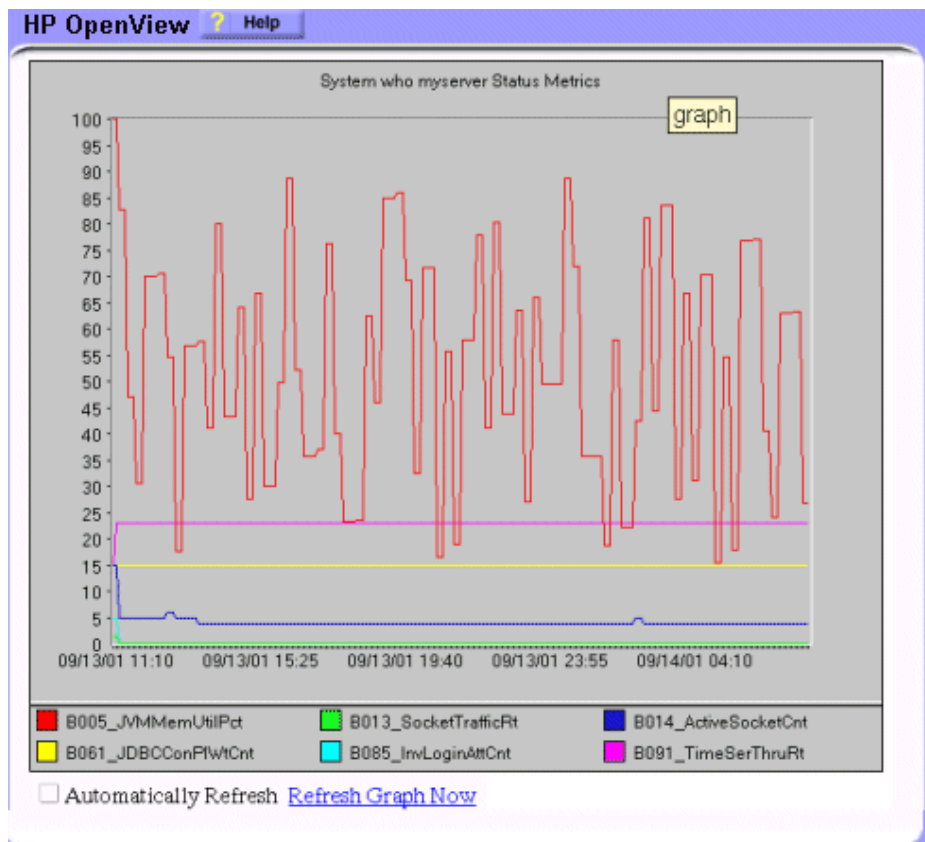
メトリック番号および名前	メトリックの説明
B085_InvLoginAttCnt	無効なログイン試行の数

表 15 WebLogic Time Service

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B091_TimeSerThruRt	1 秒当たりに実行されるトリガーの数

## グラフを生成するオペレータ アクションを用いた Web ページ表示の起動

Performance Manager のグラフは、メッセージの説明、プロパティ、またはメッセージブラウザで **【アクション起動】** をクリックすることにより、ほとんどの WebLogic SPI 警告通知メッセージから生成できます。オペレータ アクションにより Web ブラウザが起動し、そのメッセージを生成したメトリック、およびその他の関連するメトリックのグラフが表示されます。



## 日付の範囲の指定

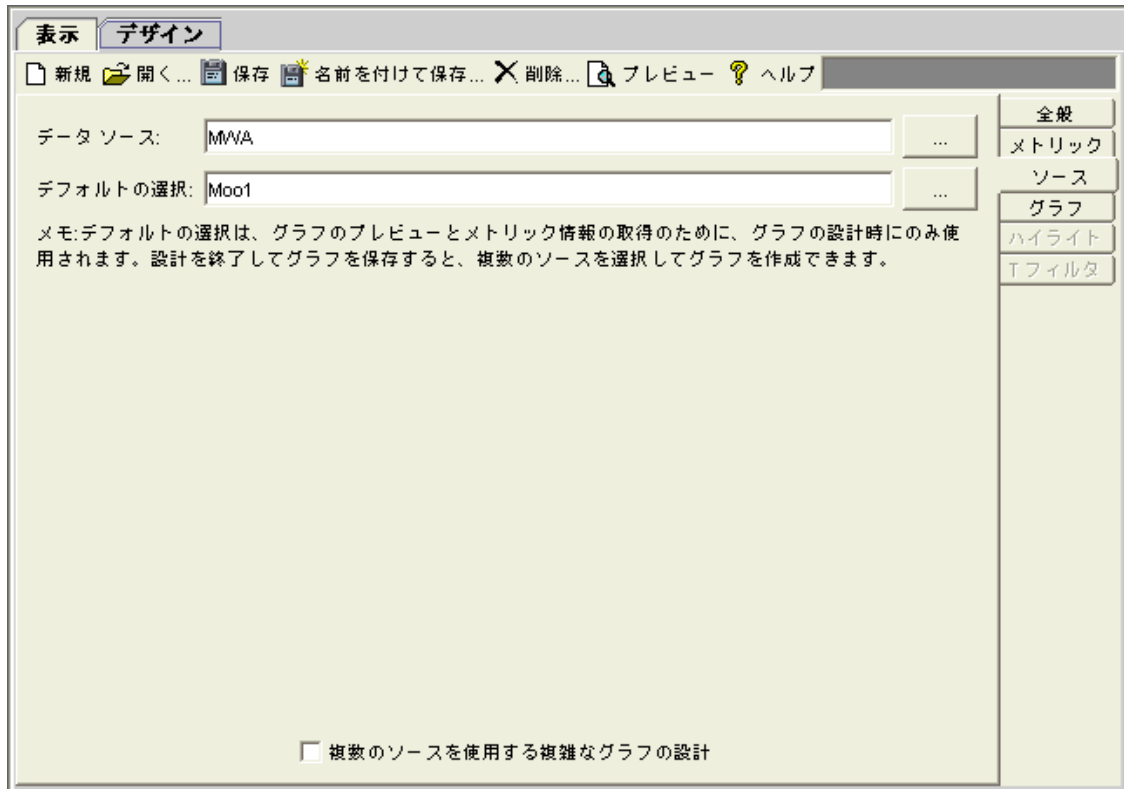
Web ページの表示内で、1 日、1 週間、1 ヶ月、または 1 年という日付の範囲を指定できます。表示設定の変更手順については、オンライン ヘルプを参照してください。

## 統合の例

以下の例では、各 SERVERNAME の METRICID の各 OBJECTNAME をレポートすることにより、データ ソースに格納されているマルチインスタンス データをグラフ化する方法を示します。結果として、すべてのインスタンスの全データが 1 つのグラフでレポートされます。各 SERVERNAME のデータを別のグラフで表示することもできます。

この例では、HP Performance Manager の Java インタフェース オプションも使用します。

- 1 HP Performance Manager の [Java インタフェース] オプションを起動します。  
[Performance Manager Java Interface] ウィンドウが表示されます。



- 2 [Performance Manager Java Interface] ウィンドウで以下の手順を実行します。
  - a ウィンドウ上部の **[表示]** タブをクリックします。
  - b [表示] ペインで、**[ソース]** タブをクリックします。
  - c [データ ソース] ボックスの横にある **[...]** ボタンをクリックし、データ ソースを選択します。
  - d [デフォルトの選択] ボックスの横にある **[...]** ボタンをクリックし、データ ソースが属するノードを選択します。
- 3 ウィンドウ右側の **[全般]** タブをクリックします。

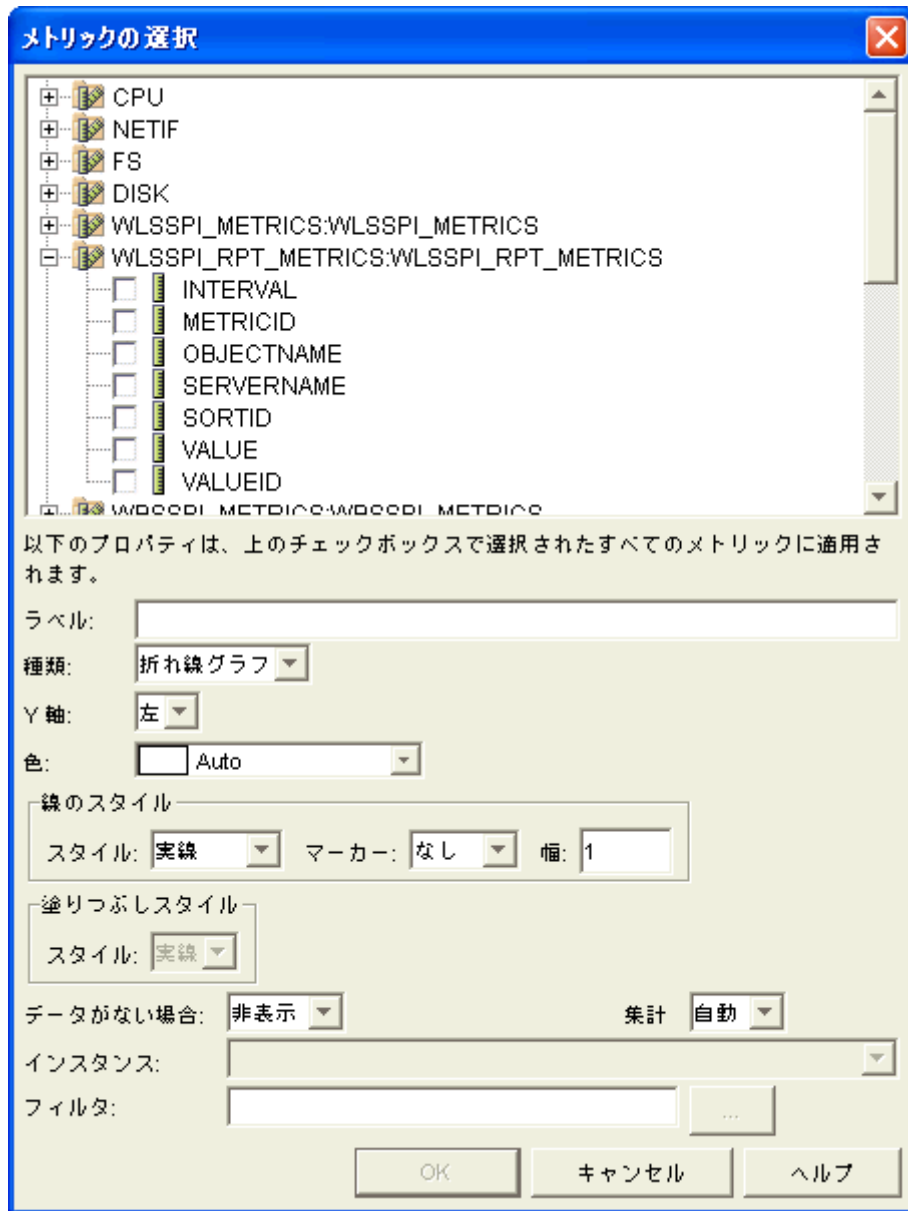


The screenshot shows a software configuration window with the following elements:

- Buttons:** 新規 (New), 開く... (Open...), 保存 (Save), 名前を付けて保存... (Save with name...), 削除... (Delete...), プレビュー (Preview), ヘルプ (Help).
- Fields:** タイトル (Title), サブタイトル (Subtitle), 種類 (Type) set to 表 (Table), 説明 (Description).
- Display Period (表示期間):** 期間 (Period) set to 3 日 (3 days), 最終日時 (End Date/Time) set to 現在の日時 (Current Date/Time), 日付 (Date) set to Feb 9, 2005, 時刻 (Time) set to 00:00.
- Point Interval (ポイント間隔):** 5 分 (5 minutes).
- Point Maximum (ポイントの最大数):** Empty field.
- Shift (シフト):**
  - シフト デフォルトを無効にする (Disable shift default).
  - 開始 (Start) 00:00, 停止 (Stop) 23:59.
  - 休日をスキップ (Skip holidays).
  - 日 (Day) checkboxes:  日曜日 (Sun),  月曜日 (Mon),  火曜日 (Tue),  水曜日 (Wed),  木曜日 (Thu),  金曜日 (Fri),  土曜日 (Sat).
- Metric Display Order (メトリックの表示順序):**
  - データの平均値 (Average of data)
  - ラベル (名前順) (Label (Name order))
  - ユーザー定義 ([メトリック] タブを参照) (User-defined (refer to [Metric] tab))
- Right Sidebar:** 全般 (General), メトリック (Metrics), ソース (Sources), グラフ (Graphs), ハイライト (Highlights), フィルタ (Filters).

- 4 [全般] ペインで、以下の手順を実行します。
- [種類] ドロップダウン リストから **[折れ線グラフ]** を選択します。これで折れ線グラフが作成されます。
  - [表示期間] を入力します。
  - [ポイント間隔] ドロップダウン リストを使用して間隔を入力します。
  - グラフのキーをアルファベット順に並べ替えたい場合は、[メトリックの表示順序] の **[ラベル (名前順)]** を選択します。

- 5 ウィンドウ右側の**[メトリック]**タブをクリックし、**[追加]**をクリックします。**[メトリックの選択]**ウィンドウが表示されます。

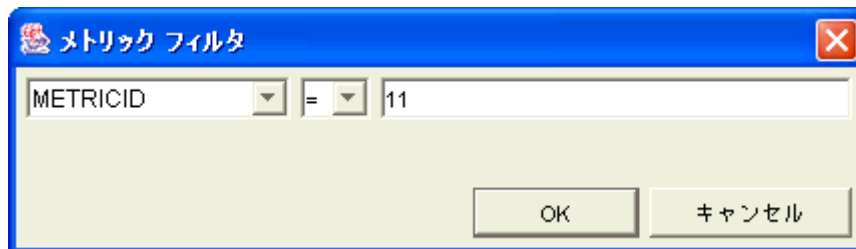


- 6 **[メトリックの選択]**ウィンドウで、以下の手順を実行します。
- [+]**をクリックし、**[WLSPI\_RPT\_METRICS]**データソースオプションツリーを展開します。
  - [VALUE]**チェックボックスをオンにします。
  - [OK]**をクリックします。

- 7 [メトリック] タブが選択されたウィンドウに **VALUE** が表示されます。 **VALUE** が表示されている行を選択し、[プロパティ] をクリックします。 [メトリックのプロパティ] ウィンドウが表示されます。



- 8 [メトリックのプロパティ] ウィンドウで、以下の手順を実行します。
- [ラベル] ボックスに、以下を入力します。
    - **@@SERVERNAME : @@OBJECTNAME** (すべての **SERVERNAME** を表示するグラフを作成している場合)
    - **@@OBJECTNAME** (1 つの **SERVERNAME** を表示するグラフを作成している場合)
  - [マーカー] ドロップダウンリストで、[なし] 以外のマーカーを選択します。
  - [データがない場合] ドロップダウンリストで、次のように選択します。
    - **[前の値]**: データがデータ ソースから失われている場合、前の値を使用する
    - **[ゼロ]**: データがデータ ソースから失われている場合、ゼロの値を使用する
  - [フィルタ] ボックスの横の **[...]** をクリックします。 [メトリック フィルタ] ウィンドウが表示されます。



- 9 [メトリック フィルタ] ウィンドウで、以下の手順を実行します。
- 最初のドロップダウン リストから **[METRICID]** を選択します。
  - 2 番目のドロップダウン リストから **[=]** を選択します (選択されていない場合)。
  - ボックスにメトリック番号 (例: **11**) を入力します。
  - [OK]** をクリックします。

10 [メトリックのプロパティ] ウィンドウで、以下の手順を実行します。

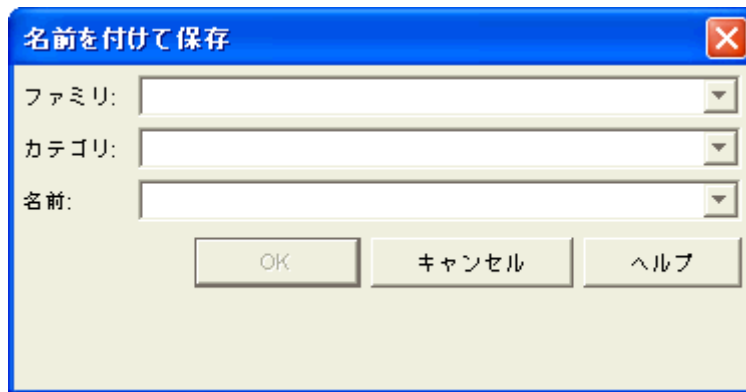
a [フィルタ] ボックスに以下を追加します。

- **&&SERVERNAME=@&&OBJECTNAME=@@**: 1つのグラフですべての **SERVERNAME** と **OBJECTNAME** の組み合わせを表示する場合
- **&&SERVERNAME="<server\_name>"&&OBJECTNAME=@**: 1つのグラフに1つの **SERVERNAME** と、マルチインスタンス メトリックに関連するすべての **OBJECTNAME** を表示する場合

[フィルタ] ボックスを編集できない場合は、グラフ テンプレート ファイルでこの項目を編集できます。詳細については、[手順 13](#) を参照してください。

b **[OK]** をクリックします。

11 ウィンドウ上部の **[名前を付けて保存]** をクリックします。[名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。



12 [名前を付けて保存] ウィンドウで、以下の手順を実行します。

- a [ファミリー] ボックスにファミリー (例: **WLSSPI\_Graphs**) を入力します。ファミリー名は、グラフを編成するためのグループとして使用されます。
- b グラフを一意に識別する名前 (例: **metric\_11**) を [名前] ボックスに入力します。
- c [カテゴリ] ボックスへのテキストの入力は任意です。
- d **[OK]** をクリックします。グラフ テンプレート ファイル `VPI_GraphsUser<family>.txt` (例: `VPI_GraphsUserWLSSPI_Graphs.txt`) に情報が保存されます。

このウィンドウの詳細は、オンライン ヘルプを参照してください。

- 13 グラフ テンプレート ファイルを編集します。このファイルは、作業中の **HP Performance Manager** インスタンスのシステムの **HPOM** データ ディレクトリにあります。グラフ ファイルは以下のようなものになります。

```
*****
#* OpenView Performance Manager
#* user Defined Graph Templates
#* Last Updated: 07/25/04 04:31_30 AM by [1.2.3.4] moo1
*****
FAMILY: WLSSPI_Graphs
GRAPH: Metric11
GRAPHBACKGROUND: None
DATERANGE: 1 day
GRAPHMULTIPLEGRAPHS: Yes
POINTSEVERY: raw
DATASOURCE: mwa
SYSTEMNAME: moo1

CLASS: WLSSPI_RPT_METRICS:WLSSPI_RPT_METRICS
METRIC: VALUE
FILTER: METRICID=11&&SERVERNAME=@&&OBJECTNAME=@
LABEL: @@SERVERNAME:@@OBJECTNAME
COLOR: Auto
MARKER: rectangle
MISSINGDATA: previous
END_GRAPH:

#*-----
GRAPH: Metric11_2
GRAPHBACKGROUND: None
DATERANGE: 1 day
GRAPHMULTIPLEGRAPHS: Yes
POINTSEVERY: raw
DATASOURCE: mwa
SYSTEMNAME: moo1

CLASS: WLSSPI_RPT_METRICS:WLSSPI_RPT_METRICS
METRIC: VALUE
FILTER: METRICID=11
LABEL: @@SERVERNAME:@@OBJECTNAME
COLOR:Auto
MARKER: rectangle
MISSINGDATA: previous
END_GRAPH:
```

グラフ テンプレート ファイルには、1つのグラフの複数のデータ セットを入れることができます。

- a 各グラフの最初のセクションの末尾に **SUMFROMRAW:** を追加します (上記の例では **SUMFROMRAW:** を **SYSTEMNAME: moo1** の後に追加します)。これにより、**HP Performance Manager** はデータ ソースからデータを要約でき、**GUI** を使用して追加できなくなります。
- b で [メトリックのプロパティ] ウィンドウの [フィルタ] ボックスを編集できなかった場合は、**FILTER** フィールドを編集します。
- c ファイルを保存します。グラフ ファイルは次のようになります

```

*****
#* OpenView Performance Manager
#* user Defined Graph Templates
#* Last Updated: 07/25/04 04:31_30 AM by [1.2.3.4] mool
*****
FAMILY: WLSSPI_Graphs
GRAPH: Metric11
GRAPHBACKGROUND: None
DATERANGE: 1 day
GRAPHMULTIPLEGRAPHS: Yes
POINTSEVERY: raw
DATASOURCE: mwa
SYSTEMNAME: mool
SUMFROMRAW:

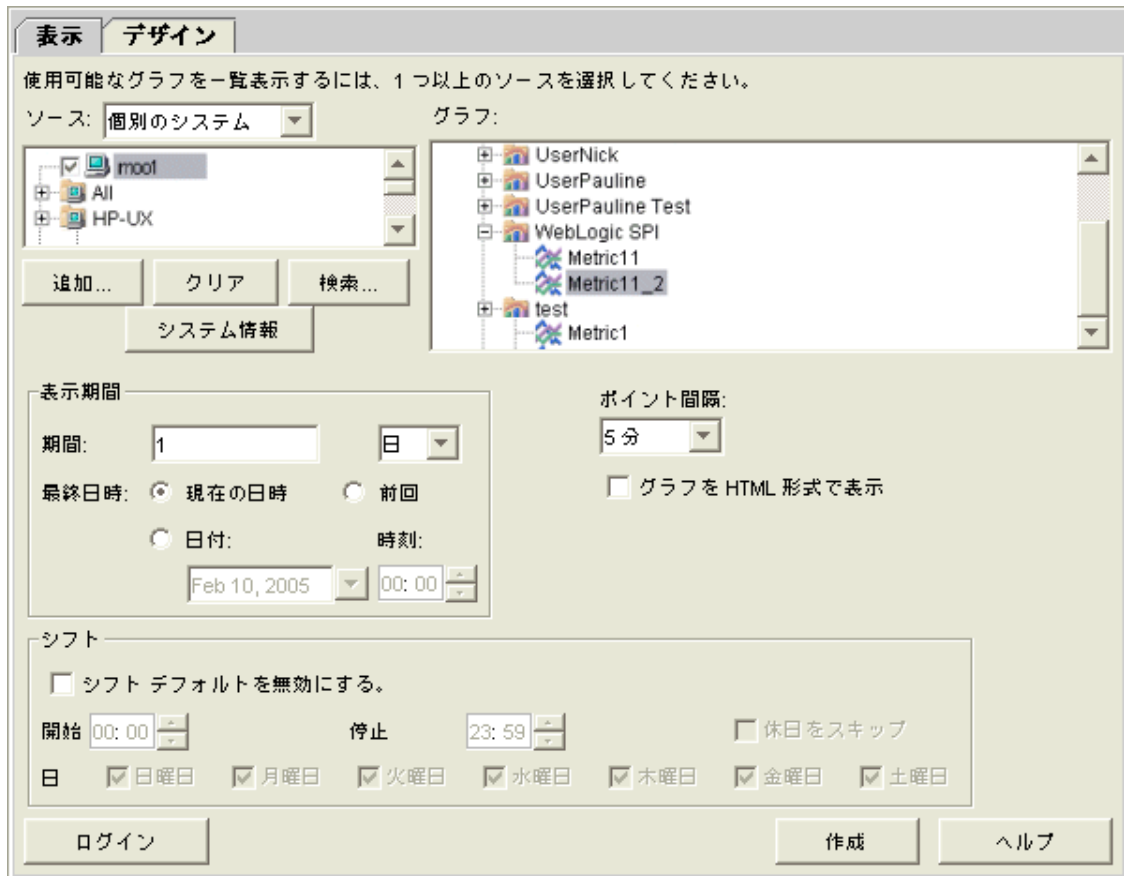
CLASS: WLSSPI_RPT_METRICS:WLSSPI_RPT_METRICS
METRIC: VALUE
FILTER: METRICID=11&&SERVERNAME=@&&OBJECTNAME=@
LABEL: @@SERVERNAME:@@OBJECTNAME
COLOR: Auto
MARKER: rectangle
MISSINGDATA: previous
END_GRAPH:

#*-----
GRAPH: Metric11_2
GRAPHBACKGROUND: None
DATERANGE: 1 day
GRAPHMULTIPLEGRAPHS: Yes
POINTSEVERY: raw
DATASOURCE: mwa
SYSTEMNAME: mool
SUMFROMRAW:

CLASS: WLSSPI_RPT_METRICS:WLSSPI_RPT_METRICS
METRIC: VALUE
FILTER: METRICID=11&&SERVERNAME=@&&OBJECTNAME=@
LABEL: @@SERVERNAME:@@OBJECTNAME
COLOR:Auto
MARKER: rectangle
MISSINGDATA: previous
END_GRAPH:

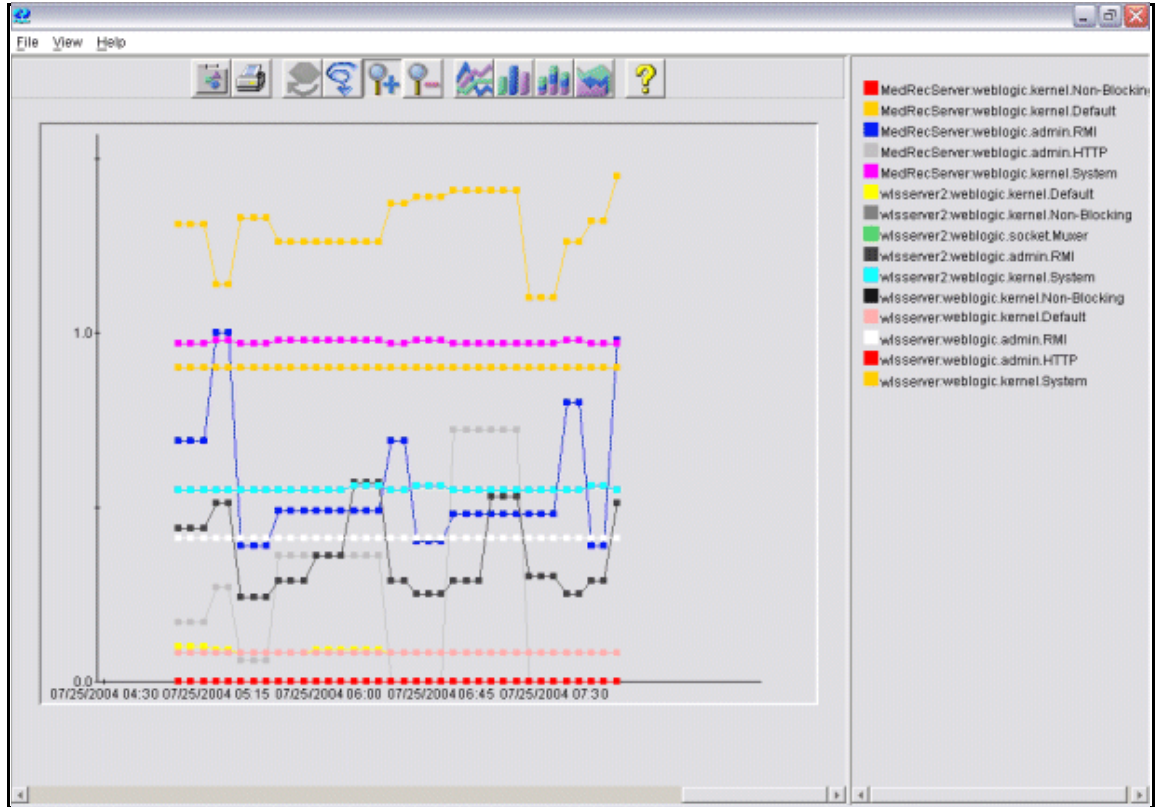
```

- 14 [Performance Manager Java Interface] ウィンドウで **[表示]** タブをクリックします。



- 15 [表示] タブ ウィンドウで、以下の手順を実行します。
- データ ソースが属するサーバーに移動します ([ソース] ボックスの下のボックスに示されています)。
  - [グラフ] ボックスで、グラフのファミリーに移動し、作成したグラフを選択します。
  - [表示期間] ダイアログ ボックスと [ポイント間隔] ボックスに情報を入力します。
  - [表示] をクリックします。グラフが表示されます。図 9 を参照してください。

図 9 グラフ



[デザイン] タブからグラフを編集した場合は、**SUMFROMRAW:** エントリがグラフ テンプレート ファイルから削除されます。グラフ テンプレート ファイルを編集して、このエントリを再入力する必要があります。

16 SPI からグラフ作成を有効にします。以下の手順を実行します。

- a HPOM コンソールから、[登録ノード] ウィンドウを開き、グラフ作成を有効にするノードまたはノード グループを選択します。
- b [ウィンドウ] メニューから [登録アプリケーション] を選択します。[登録アプリケーション] ウィンドウが表示されます。
- c [WLSSPI] → [WLSSPI Admin] を選択します。
- d [UDM Graph Enable] をダブルクリックします。



## 6 基本的なトラブルシューティングとエラーメッセージ

### Self-Healing Info アプリケーションの使用

Self-Healing Info アプリケーションは SPI に関するトラブルシューティング データを収集し、ファイルに格納します。このファイルは、サポートを受ける際の支援情報として、HP サポートに提出できます。このアプリケーションの詳細は、[Self-Healing Info](#) ページの 191 を参照してください。

- ▶ Self-Healing Info アプリケーションで作成されるファイルは、一部の Windows 管理対象ノードでは隠しファイルになる場合があります。ファイルが表示されない場合は、Windows エクスプローラを開き、[ツール] メニューから [フォルダ オプション] を選択します。次に [表示] タブをクリックし、[ファイルとフォルダの表示] の下の [すべてのファイルとフォルダを表示する] を選択してください。

# ログ ファイルとトレース ファイル

## 管理サーバー

以下のログ ファイルは、管理サーバーにあります (通常、`<OvInstallDir%>/` は `/var/opt/OV` です)。

ファイル タイプ	ログ
ファイル名	<code>&lt;OvInstallDir%&gt;/wasspi/wls/log &lt;managed_node&gt;_disc_server.log</code>
説明	各管理ノードの管理サーバーの設定に対して <b>WLSSPI Discovery</b> ポリシーが行った更新を記録します。ログ ファイルは、検出ポリシーが管理対象ノード上で実行されるたびに上書きされます。このファイルへのログ記録は、常に有効になっています。

## UNIX 管理ノード

以下のログ ファイルとトレース ファイルは、**UNIX** 上で動作する管理対象ノード上にあります (通常、`<OvAgentDir>/` は `/var/opt/OV/` または `/var/lpp/OV/` です)。

ファイル タイプ	ログ
ファイル名	<code>&lt;OvAgentDir&gt;/log/javaagent.log</code>
説明	<b>HPOM</b> 検出エージェントのステータスを含めた <b>HPOM</b> 検出エージェントのログ ファイル。デフォルトでは、このファイルへのログ記録は <code>LOG_LEVEL 3</code> で有効になります。トラブルシューティングの情報を取り込むには、 <code>&lt;OvAgentDir&gt;/conf/svcDisc/OvJavaAgent.cfg</code> の <code>LOG_LEVEL</code> 変数を <b>6</b> 以上 (最大 <b>9</b> ) に設定します (数字が大きくなるほど多くの情報が収集されます)。このログ記録を無効にするには、 <code>LOG_LEVEL</code> を <b>0</b> に設定します。また、追加情報をこのファイルに設定すると、ログ ファイルのサイズと保存しておくアーカイブ ファイルの数を定義できます。デフォルトでは、ログ ファイルのサイズは <b>1 MB</b> であり、 <b>5</b> つのアーカイブ バージョンが保存されます。

ファイル タイプ	ログ
ディレクトリ	<code>&lt;OvAgentDir&gt;/wasspi/wls/log/config.log</code>
説明	WebLogic SPI の設定スクリプトからの出力を記録します。

ファイルタイプ ログ  
ディレクトリ /<OvAgentDir>/wasspi/wls/log/errorlog  
説明 WebLogic SPI のエラー メッセージを記録します。このログ ファイルは、WebLogic SPI ポリシーによって監視されます。

ファイルタイプ ログ  
ディレクトリ /<OvAgentDir>/wasspi/wls/log/wasspi\_wls\_discovery.log  
説明 WebLogic SPI の検出プロセスからの出力を記録します。

ファイルタイプ トレース  
ファイル名 /<OvAgentDir>/wasspi/wls/log/wasspi\_wls\_discovery.trc  
(アーカイブ ファイルのファイル名には 3 桁の数字が追加されます)  
説明 HP のサポート担当者が使用する検出バイナリ トレース ファイル。デフォルトでは、このファイルへのトレース記録は有効になっています。トレース記録を無効にするには、<OvAgentDir>/bin/instrumentation/wasspi\_wls\_discovery.pl で、\$trace\_on 変数を 0 に設定します。このトレース記録を有効にするには、\$trace\_on を 1 に設定します。インストルメンテーションが配布されると、wasspi\_wls\_discovery.pl ファイルは上書きされます(したがって、トレース記録を無効にしている場合でも、インストルメンテーションが配布されると有効になります)。5 つのアーカイブバージョンが保存されます。検出ポリシーが実行されると、新しいトレース ファイルが 1 つ作成されます。

ファイルタイプ トレース  
ディレクトリ /<OvAgentDir>/wasspi/wls/log/trace.log (アーカイブ ファイルのファイル名には 3 桁の数字が追加されます)  
説明 HP のサポート担当者が使用するトレース ファイル。このファイルからは、SPIConfig ファイル内でコレクタが PERSISTENT モードまたは TRANSIENT モードのいずれに設定されている場合でも、CollectorServer に関する情報が得られます。コレクタ モードのデフォルト値は「PERSISTENT」です。  
デフォルトでは、このファイルへのトレース記録は無効になっています。このトレース記録を有効にするには、Start Tracing アプリケーションを使用します。

ファイルタイプ	トレース
ディレクトリ	/<OvAgentDir>/wasspi/wls/log/traceCollectorClient.log (アーカイブ ファイルのファイル名には 3 桁の数字が追加されます)
説明	<p>HP のサポート担当者が使用するトレース ファイル。SPIConfig ファイルでコレクタが <b>PERSISTENT</b> (永続的) モードに設定されている場合、このファイルに <b>CollectorClient</b> に関する情報が記載されます。コレクタ モードのデフォルト値は「<b>PERSISTENT</b>」です。</p> <p>デフォルトでは、このファイルへのトレース記録は無効になっています。このトレース記録を有効にするには、<b>Start Tracing</b> アプリケーションを使用します。</p>

## Windows 管理対象ノード

以下のログ ファイルとトレース ファイルは、Windows 上で動作する管理ノード上にあります (通常、<OvAgentDir> は \Program Files\HP OpenView\Installed Packages\{790...}\ です)。

ファイルタイプ	ログ
ファイル名	\<OvAgentDir>\log\javaagent.log
説明	<p>HPOM 検出エージェントのステータスを含めた HPOM 検出エージェントのログ ファイル。デフォルトでは、このファイルへのログ記録は LOG_LEVEL 3 で有効になります。トラブルシューティングの情報を取り込むには、&lt;OvInstallDir&gt;\conf\svcDisc\OvJavaAgent.cfg の LOG_LEVEL 変数を 6 以上 (最大 9) に設定します (数字が大きくなるほど多くの情報が収集されます)。このログ記録を無効にするには、LOG_LEVEL を 0 に設定します。また、追加情報をこのファイルに設定すると、ログ ファイルのサイズと保存しておくアーカイブ ファイルの数を定義できます。デフォルトでは、ログ ファイルのサイズは 1 MB であり、5 つのアーカイブ バージョンが保存されます。</p>

ファイルタイプ	ログ
ディレクトリ	\<OvAgentDir> \wasspi\wls\log\config.log
説明	設定スクリプトからの出力を記録します。

ファイルタイプ	ログ
ディレクトリ	\<OvAgentDir> \wasspi\wls\log\errorlog
説明	WebLogic SPI のエラー メッセージを記録します。このログ ファイルは、WebLogic SPI ポリシーによって監視されます。

ファイルタイプ	ログ
ディレクトリ	\<OvAgentDir> \wasspi\wls\log\wasspi_wls_discovery.log
説明	WebLogic SPI の検出プロセスからの出力を記録します。
ファイルタイプ	トレース
ファイル名	\<OvAgentDir>\wasspi\wls\log\wasspi_wls_discovery.trc (アーカイブ ファイルのファイル名には 3 桁の数字が追加されます)。
説明	<p>HP のサポート担当者が使用する検出バイナリ トレース ファイル。デフォルトでは、このファイルへのトレース記録は有効になっています。トレース記録を無効にするには、</p> <p>\&lt;%OvInstallDir%&gt;\bin\instrumentation\wasspi_wls_discovery.pl で、<b>\$trace_on</b> 変数を <b>0</b> に設定します。このトレース記録を有効にするには、<b>\$trace_on</b> を <b>1</b> に設定します。インストルメンテーションが配布されると、wasspi_wls_discovery.pl ファイルは上書きされます(したがって、トレース記録を無効にしても、インストルメンテーションが配布されると有効になります)。5 つのアーカイブ バージョンが保存されます。検出ポリシーが実行されると、新しいトレース ファイルが 1 つ作成されます。</p>
ファイルタイプ	トレース
ディレクトリ	\<OvAgentDir>\wasspi\wls\log\trace.log (アーカイブ ファイルのファイル名には 3 桁の数字が追加されます)。
説明	<p>HP のサポート担当者が使用するトレース ファイル。このファイルからは、SPIConfig ファイルで <b>Collector</b> が <b>PERSISTENT</b> モードまたは <b>TRANSIENT</b> モードのいずれかに設定されていたとしても、<b>CollectorServer</b> に関する情報が得られます。コレクタ モードのデフォルト値は「<b>PERSISTENT</b>」です。</p> <p>デフォルトでは、このファイルへのトレース記録は無効になっています。このトレース記録を有効にするには、<b>Start Tracing</b> アプリケーションを使用します。</p>
ファイルタイプ	トレース
ディレクトリ	\<OvAgentDir>\wasspi\wls\log\traceCollectorClient.log (アーカイブ ファイルのファイル名には 3 桁の数字が追加されます)
説明	<p>HP のサポート担当者が使用するトレース ファイル。SPIConfig ファイルでコレクタが <b>PERSISTENT</b> (永続的) モードに設定されている場合、このファイルに <b>CollectorClient</b> に関する情報が記載されます。コレクタ モードのデフォルト値は「<b>PERSISTENT</b>」です。</p> <p>デフォルトでは、このファイルへのトレース記録は無効になっています。このトレース記録を有効にするには、<b>Start Tracing</b> アプリケーションを使用します。</p>

# 検出プロセスのトラブルシューティング

**問題:** WLSSPI Discovery テンプレートが、WebLogic SPI 設定の検出と更新を自動的に行いません。

**解決策:**

- 1 検出されない管理対象ノードのメッセージ ブラウザでエラーの有無を確認します。エラーメッセージが表示されていれば、その指示に従います。
- 2 WebLogic アプリケーション サーバーが管理対象ノードにインストールされていることを確認します。アプリケーション サーバーがインストールされていない場合、アプリケーション サーバーをインストールし、第 3 章「WebLogic SPI の設定」で示されている設定タスクを実行します。
- 3 WebLogic アプリケーション サーバーのステータスを確認します。アプリケーション サーバーが動作している必要があります。詳細については、[タスク 1: アプリケーション サーバーのステータスを確認する](#) ページの 41 を参照してください。
- 4 LOGIN および PASSWORD プロパティが設定されていること、および設定された WebLogic ユーザーに正しい権限があることを確認します。詳細については、第 3 章「WebLogic SPI の設定」を参照してください。
- 5 Windows 管理対象ノードに、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\\Software\\BEA Systems\\BEAHOMELIST レジストリ キーが存在しない場合、これを設定するか、ファイル %SystemDrive%\BEA\beahomelist を作成するか、またはこの管理対象ノード用に BEA\_HOME\_LIST プロパティを設定します。
- 6 Java のホーム ディレクトリを確認します ([Java ホーム ディレクトリの確認](#) ページの 111 を参照)。
- 7 WebLogic Server 7.0 または WebLogic Server 7.0 SP1 を実行していて、ドメイン設定ファイル (たとえば config.xml) をデフォルト ディレクトリに保存しなかった場合は、以下の手順のいずれかを実行します (デフォルト ディレクトリは <BEA\_Home\_Dir>/user\_projects/<WebLogic\_Domain\_X>/ です。ここで、<BEA\_Home\_Dir> は、registry.xml ファイルのあるディレクトリ)。
  - Configure WLSSPI アプリケーションを使用して、手動でサーバーを設定します。
  - Configure WLSSPI アプリケーションを使用して、手動で ADMIN\_PORTS (ドメイン設定ファイルに一覧表示されている WebLogic Admin サーバーのポート番号) を設定します。それらの WebLogic Admin サーバーが動作しているノードに対して、グローバルの LOGIN と PASSWORD を設定する必要があります。
- 8 WebLogic Server 7.0 SP2 以上を実行していて、ドメイン設定ファイル (たとえば config.xml) をデフォルト ディレクトリに保存しなかった場合は、以下の手順のいずれかを実行します (デフォルト ディレクトリは <BEA\_Home\_Dir>/user\_projects/domains/<WebLogic\_Domain\_X>/ です。ここで、<BEA\_Home\_Dir> は、registry.xml ファイルのあるディレクトリ)。
  - Configure WLSSPI アプリケーションを使用して、手動でサーバーを設定します。または
  - Configure WLSSPI アプリケーションを使用して、手動で ADMIN\_PORTS (ドメイン設定ファイルに一覧表示されている WebLogic Admin サーバーのポート番号) を設定します。それらの WebLogic Admin サーバーが動作しているノードに対して、グローバルの LOGIN と PASSWORD を設定する必要があります。

- 9 同一のシステムで WebLogic Server 6.1 と 8.1 を実行中の場合、HOME プロパティを設定します。
- 10 UNIX 管理対象ノードで、BEA\_HOME\_LIST および HOME\_LIST のディレクトリパス名にスペースが含まれていないことを確認します。現時点では、検出プロセスはディレクトリ名の中のスペースをサポートしていません。
- 11 Configure WLSSPI アプリケーションが動作していないことを確認します。一度に 1 つのプロセスだけが、設定にアクセスできます。Configure WLSSPI アプリケーションが動作している場合、設定にアクセスする必要のある他のプロセス (検出プロセスなど) は、この設定が利用可能になるまで停止します。
- 12 以下の手順で、HPOM 管理サーバーが重複メッセージを抑制していることを確認します。
  - a HPOM コンソールから、[アクション] → [サーバ] → [設定] を選択します。[管理サーバの設定] ウィンドウが表示されます。
  - b [重複メッセージの除外と計数] チェック ボックスを探します。このチェック ボックスが選択されている場合は、選択解除します。
- 13 次の手順で、HPOM 管理サーバーを再起動します。
  - a [ファイル] → [終了] を選択し、動作しているすべての HPOM GUI を停止します。
  - b HPOM 管理サーバー プロセスを停止します。/opt/OV/bin/ovstop opc ovoacomm と入力します。
  - c すべての HPOM 一時ファイルを削除します。すべての保留メッセージ (データベースに保存されていないメッセージ) とすべての保留アクション (自動アクション、オペレータ起動アクション、予定されているアクション、およびコマンドブロードキャスト) は失われます。rm -f /var/opt/OV/share/tmp/OpC/mgmt\_sv/\* と入力します。
  - d HPOM 管理サーバー プロセスを再起動します。/opt/OV/bin/OpC/opcsv -start/opt/OV/bin/OpC/opcsv -status と入力します。
  - e HPOM GUI を再起動します。opc と入力します。
- 問題: WLSSPI-Discovery テンプレートが、誤った情報を設定に追加しています。

解決策:


  - a LOGIN と PASSWORD が正しいことを確認します。詳細については、[タスク 2: WebLogic Server ユーザーを設定する](#) ページの 42 を参照してください。
  - b Java のホーム ディレクトリを確認します。詳細については、[Java ホーム ディレクトリの確認](#) ページの 111 を参照してください。
  - c 設定を更新し、設定エディタの [AUTO\_DISCOVER] チェック ボックスを選択解除することにより、WLSSPI-Discovery テンプレートが設定情報を上書きしないようにします。

## Java ホーム ディレクトリの確認

WLSSPI-Discovery テンプレートを正常に使用するには、Java のホーム ディレクトリを (Windows と UNIX の両方の管理対象ノード上で) 正しく設定する必要があります。

WLSSPI-Discovery テンプレートはこの情報を検索しますが、この情報を検出できない、またはその情報が正確でない場合、WLSSPI-Discovery テンプレートは完全には機能しません。

WLSSPI-Discovery テンプレートを実行する各管理対象ノード上で、以下のいずれかに該当することを確認します (WLSSPI-Discovery テンプレートによる優先順に記載)。

- 設定の中で、**JAVA\_HOME** が正しく定義されていること。設定を編集または表示するには、**Configure WLSSPI** アプリケーションを実行します (手順については、[Configure WLSSPI](#) ページの 188 を参照)。
  - a 設定エディタで、**JAVA\_HOME** プロパティを設定します。設定エディタの使用方法については、[設定エディタ](#) ページの 161 を参照してください。
  - b **[Save]** をクリックし、設定に加えた変更を保存します。一度保存した変更を、自動的に元に戻すことはできません。
  - c **[Finish]** または **[Next]** をクリックし、変更をすべて保存してエディタを終了します。  
**[Next]** をクリックすると、**[Confirm Operation]** ウィンドウが表示されます。**[OK]** をクリックします。  
 **[Confirm Operation]** ウィンドウで **[Cancel]** をクリックすると、設定に加えた変更が、管理サーバー上の設定に残ります。選択した管理対象ノードの設定に変更を加えるには、**[登録ノード]** ウィンドウでそれらのノードを選択し、**Discovery** アプリケーションを起動します。次に、設定エディタで **[Next]** をクリックし、**[Confirm Operation]** ウィンドウで **[OK]** をクリックします。
  - d **JAVA\_HOME** プロパティが追加または編集された管理対象ノード上の **Discover WebLogic** アプリケーションを実行します。**Discover WebLogic** アプリケーションを実行すると、サービス マップが更新されます。
- Java が各 BEA ホーム ディレクトリ (ファイル `beahomelist` に記載されている各ディレクトリ) にインストールされていること。
- **JAVA\_HOME** システム変数が正しく定義されていること。

Windows 管理対象ノードでは、以下の手順を実行します。

- a [スタート] メニューから、**[設定]** → **[コントロール パネル]** を選択します。
- b **[システム]** をダブルクリックします。
- c **[詳細設定]** タブを選択します。
- d **[環境変数]** を選択します。
- e [システム環境変数] のリストをスクロールします。**JAVA\_HOME** の値を確認します。**JAVA\_HOME** が存在しない場合、この変数が定義されていません。

UNIX 管理対象ノードでは、以下の手順を実行します。

- a `echo $JAVA_HOME` と入力します。
- b 出力を確認します。出力が返されない場合、**JAVA\_HOME** が定義されていません。



## 設定のトラブルシューティング

- **問題:** WebLogic SPI 設定に記載されている WebLogic 管理対象サーバーについての情報に欠落があるかまたは不正確です。

**解決策:** LOGIN と PASSWORD が正しいことを確認します。詳細については、[タスク 2: WebLogic Server ユーザーを設定する](#) ページの 42 を参照してください。これが、リモートノード上で動作している (HPOM 管理対象ノード上で動作していない) WebLogic 管理サーバーについての情報が誤っている場合の最も一般的な理由です。

- **問題:** WLSSPI-Discovery テンプレートが、設定に不正確な情報を上書きします。

**解決策:** 設定を更新し、設定エディタの [AUTO\_DISCOVER] チェック ボックスを選択解除することにより、WLSSPI-Discovery テンプレートが設定情報を上書きしないようにします。

- **問題:** サーバーが実行されているのに、メッセージ Server status is unknown (down) がメッセージブラウザに表示されます。

**解決策:** PORT、PROTOCOL、および PASSPHRASE の各プロパティを、必要に応じて正しく設定していることを確認します。

- PROTOCOL が t3 (非 SSL の場合) または t3s (SSL の場合) に設定されていることを確認します。
- アプリケーションサーバーが SSL を使用している場合、PORT が有効な SSL ポート番号に設定されていること、および PROTOCOL が t3s に設定されていることを確認します。
- アプリケーションサーバーが SSL を使用していない場合、PORT が有効な非 SSL ポート番号に設定されていること、および PROTOCOL が t3 に設定されていることを確認します。
- キーストアにパスワードが定義されている場合は、誤入力されている可能性もあるため、PASSPHRASE をリセットしてください。

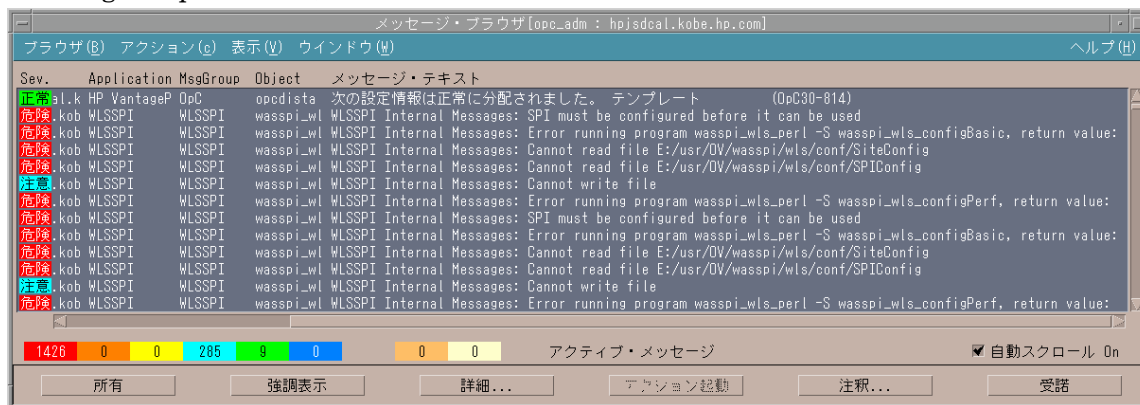
## アプリケーションのトラブルシューティング

- **問題:** 「Default Server」サーバーに対して、設定変数 `SERVER<n>_START_CMD` が設定されていません。  
**解決策:** Start WebLogic アプリケーションを正常に実行できるようにするには、`START_CMD` プロパティと `USER` プロパティを設定する必要があります。Configure WLSSPI アプリケーションを使用してこれらのプロパティを設定します。このアプリケーションの詳細は、[Configure WLSSPI](#) ページの 188 を参照してください。
- **問題:** 「Default Server」サーバーに対して、設定変数 `SERVER<n>_STOP_CMD` が設定されていません。  
**解決策:** Stop WebLogic アプリケーションを正常に実行できるようにするには、`STOP_CMD` プロパティと `USER` プロパティを設定する必要があります。Configure WLSSPI アプリケーションを使用してこれらのプロパティを設定します。このアプリケーションの詳細は、[Configure WLSSPI](#) ページの 188 を参照してください。
- **問題:** Verify アプリケーションを起動すると、不正な出力が発生します。  
**解決策:** Verify アプリケーションを起動する前に、SPI DVD に含まれている最新バージョンのセルフヒーリングサービス (SHS) コンポーネント (バージョン 2.20) をインストールしているか確認します。SPI DVD を使用せずに WebLogic SPI をアップグレードする場合、SHS コンポーネントもアップグレードする必要があります。SHS コンポーネントは、[http://support.openview.hp.com/self\\_healing\\_downloads.jsp](http://support.openview.hp.com/self_healing_downloads.jsp) からダウンロードできます。
- **問題:** Self-Healing Info アプリケーションを起動すると、不正な出力が発生します。  
**解決策:** SPI DVD から最新のバージョンの Self-Healing Service (SHS) コンポーネント (バージョン 2.20) をインストールしているか確認します。SPI DVD を使用せずに WebLogic SPI をアップグレードした場合、SHS コンポーネントもアップグレードする必要があります。SHS コンポーネントは、[http://support.openview.hp.com/self\\_healing\\_downloads.jsp](http://support.openview.hp.com/self_healing_downloads.jsp) からダウンロードできます。
- **問題:** Check WebLogic アプリケーションが、サーバー インスタンスのステータスを誤って表示するか、何も出力しません。  
**解決策:** サーバーが実行中にもかかわらず Check WebLogic アプリケーションがサーバーのステータス「NOT\_RUNNING」を返す (または何も出力しない) 場合、Start Monitoring アプリケーションを使用して、該当のサーバーの監視を有効化します。
- **問題:** アプリケーションを起動すると、アプリケーションがハングするか、出力がありません。  
**解決策:** メモリ不足の場合、アプリケーションは動作しません。ノードと管理サーバーのパフォーマンスをチェックしてください。使用できる物理メモリは 500 MB 以上必要です。
- **問題:** View WebLogic Log アプリケーションが、重複した (冗長な) ログ ファイル名を表示します。  
**解決策:** この問題は、SiteConfig ファイル内に重複したエントリがある場合に発生します。Configure WLSSPI アプリケーションを起動して、重複エントリを削除してください。
- **問題:** RHEL 4.0 プラットフォームでデータソースが作成されません。  
**解決策:** SPI DVD に含まれる最新バージョンの DSI2DDF コンポーネント (02.22.000) をインストールしているか確認します。SPI DVD を使用せずに WebLogic SPI をアップグレードした場合、DSI2DDF コンポーネントもアップグレードする必要があります。最新の DSI2DDF コンポーネントは、以下の URL で入手できます。  
[ftp://ovrntfs.rose.hp.com/prelim/dsi2ddf/02.22/HPUX11.00/DSI2DDF\\_A.02.22.00.depot](ftp://ovrntfs.rose.hp.com/prelim/dsi2ddf/02.22/HPUX11.00/DSI2DDF_A.02.22.00.depot)

## エラー メッセージ

このセクションでは、WebLogic Server の動作状況ではなく、Smart Plug-in for BEA WebLogic Server (WebLogic SPI) の動作状況について検出されたエラー メッセージに関する詳細情報について説明します。これらのエラー メッセージは、WLSSPI メッセージ グループ内のメッセージです。

次の図で、最後の 2 つのメッセージは WebLogic SPI の動作状況に関するエラーの結果、生成されたものです。これらは、WLSSPI メッセージ グループに属するエラーと認識されます(以下の図の MsgGroup 列を参照)。



どの問題についても、最新のエラー メッセージのみが表示されます(古いエラー メッセージは自動的に承認されます)。これによりメッセージ ブラウザに表示されるエラー メッセージの数が減少します。

## WASSPI-1

説明	ロック ファイル <filename> を作成できません。ファイルはすでに存在します。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>一時ロック ファイルは、複数の WebLogic SPI データ コレクタ プロセスが同じデータ ファイルにアクセスしようとして起こる衝突を避けるために使用されます。このエラーは、ファイルがすでに存在するために、アクセスを数回試行してもロック ファイルを作成できない場合に発生します。</p> <p><b>処置</b></p> <p>同じ名前のファイルがすでに存在する場合、このファイルは WebLogic SPI データ コレクタを前回実行したときに削除されていません。手動で削除する必要があります。</p>

## WASSPI-2

説明	SPI 設定にアクセスできません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic SPI 設定ファイルが見つからなかったか、またはアクセスできませんでした。ファイルが存在しないか、またはファイルの読み取りに問題があります。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic SPI データ コレクタを実行するスケジュール テンプレートが、コマンド行の正しいディレクトリを指定していることを確認します。オプション <code>-Dwasspi.config.dir=&lt;configDirectory&gt;</code> が、データ コレクタのコマンド行の呼び出しで指定される必要があります。&lt; configDirectory &gt; は、UNIX プラットフォーム上では <code>/var/opt/OV/wasspi/wls/conf</code>、Windows プラットフォーム上では <code>/usr/OV/wasspi/wls/conf</code> にあります。</li><li>2 [登録アプリケーション] から <b>Verify</b> ユーティリティを実行して、WebLogic SPI が正しく設定されていることを確認します。正しく設定されていない場合は、[登録アプリケーション] から <b>WebLogic SPI 設定</b> ユーティリティを実行し、ファイルを再インストールします。</li><li>3 WebLogic SPI エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題の根本的な原因 (I/O 例外など) を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の <b>[View Error File]</b> アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の <b>[View Error File]</b> アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。エラー メッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li></ol>

## WASSPI-3

説明	コマンド行を解析しているときにエラーが発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic SPI データ コレクタ コマンド行が、スケジュール テンプレートで誤って指定されています。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic SPI エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、データ コレクタ コマンド行の構文エラーを特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の <b>[View Error File]</b> アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。エラー メッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 WebLogic SPI 出荷時から含まれていたスケジュール テンプレートでエラーが発生した場合、SPI を再インストールし、[登録アプリケーション] から <b>WebLogic SPI 設定</b> ユーティリティを実行します。</li><li>3 WebLogic SPI の出荷時には含まれていなかったスケジュール テンプレートでエラーが発生した場合は、誤ったコマンド行を含むスケジュール テンプレートを修正します。WebLogic SPI データ コレクタ コマンド行の詳細は、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li></ol>

## WASSPI-4

説明	メトリック定義でエラーが発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic SPI データ コレクタは、メトリック定義 XML ドキュメントを読み取れませんでした。このエラーは、設定プロパティの欠落、I/O エラー、XML 解析エラー、ファイルの欠落、または直列化データ ファイルの破損によって発生します。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic SPI エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題の根本的な原因を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の [View Error File] アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。エラーメッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 METRIC_DEFINITIONS_FILE プロパティが WebLogic SPI 設定ファイルに含まれていない場合、SPI を再インストールし、[登録アプリケーション] から SPI 設定ユーティリティを実行します。</li><li>3 WebLogic SPI に出荷時から含まれているメトリック定義ファイル (MetricDefinitions.xml) に問題がある場合は、WebLogic SPI を再インストールします。[登録アプリケーション] から、SPI 設定ユーティリティを実行します。</li><li>4 WebLogic SPI に出荷時は含まれていなかったユーザー定義メトリック定義ファイルに問題がある場合は、この XML ファイルが MetricDefinitions.dtd の仕様に従っていることを確認します。ユーザー定義メトリック作成の詳細は、WebLogic SPI のユーザー ガイドを参照してください。独自に作成したユーザー定義メトリック定義ファイルを再インストールします。SPI 設定ユーティリティを実行し、SPI 設定ファイル内の UDM_DEFINITIONS_FILE プロパティが正しく指定されていることを確認します。</li><li>5 根本的なエラーが ClassNotFoundException である場合は、内部エラーです。HP のサポート担当者へ報告してください。</li></ol>

## WASSPI-5

説明	メトリック <metric_number> を処理しているときにエラーが発生しました。
重要度	重要警戒
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>データの収集または指定されたメトリックの計算をしようとしてエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <p>WebLogic SPI エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題の根本的な原因を特定します。このエラー メッセージの前のエラー メッセージにも、問題の詳細が表示されている場合があります。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の [View Error File] アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。エラーメッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</p>

## WASSPI-6

説明	必要なプロパティ <code>&lt;property_name&gt;</code> が WebLogic SPI の設定から欠落しています。
重要度	重要警戒
指示文	<p><b>原因</b> 指定した必要なプロパティが WebLogic SPI 設定ファイルから欠落しています。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。この管理対象ノード上の WebLogic Server に正しいサーバー情報を指定されていることを確認します。</li><li>2 問題になっている管理対象ノード上の WebLogic SPI 設定ファイルで、対象のプロパティが正しく指定されていることを確認します(この設定ファイルは、UNIX プラットフォーム上では <code>/var/opt/OV/wasspi/wls/confSiteConfig</code>、Windows プラットフォーム上では <code>\usr\OV\wasspi\wls\confSiteConfig</code> にあります)。</li></ol>

## WASSPI-7

説明	サーバー <code>&lt;server_name&gt;</code> ( <code>url=&lt;URL&gt;</code> 、 <code>port=&lt;ポート&gt;</code> ) に接続できません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b> 指定されたサーバーは、指定されたポートで動作していません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。この管理対象ノード上の WebLogic Server について正しいサーバー名とポート情報が指定されていることを確認します。</li><li>2 問題になっている管理対象ノード上の WebLogic SPI 設定ファイルで、<code>SERVERx_NAME</code> および <code>SERVERx_PORT</code> プロパティが正しく指定されていることを確認します(この設定ファイルは、UNIX プラットフォーム上では <code>/var/opt/OV/wasspi/wls/confSiteConfig</code>、Windows プラットフォーム上では <code>\usr\OV\wasspi\wls\confSiteConfig</code> にあります)。</li><li>3 WebLogic Server がその管理対象ノード上で動作していることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-8

説明	ファイル <file_name> にグラフ作成データまたはレポート作成データを保存しているときにエラーが発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>エラー メッセージがレポート作成データ ファイルを指定している場合、管理対象ノード上のエージェントが整合性に欠ける状態である可能性があります。</p> <p><b>処置</b></p> <p>管理対象ノードのエージェントを再起動します。</p> <p><b>原因</b></p> <p>指定されたグラフ作成データ ファイルまたはレポート作成データ ファイルが見つからなかったか、またはファイルへアクセスしようとして I/O エラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>WebLogic SPI</b> エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題の根本的な原因を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の <b>[View Error File]</b> アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する <b>SPI</b> エラー ログを表示できます。エラーメッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 ステップを特定して、問題を再現します。</li><li>3 トレース記録をオンにして、問題を再現します。トレース記録をオンにする方法については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li><li>4 <b>Gather Info</b> アプリケーションを実行します。</li><li>5 前のステップで収集した情報を <b>HP</b> のサポート担当者に連絡してください。</li></ol>

## WASSPI-9

説明	プロパティ <property_name> を検索できません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>必要なプロパティが <b>WebLogic SPI</b> 設定ファイルのいずれかから欠落しています。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>WebLogic SPI</b> エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、欠落しているプロパティを特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の <b>[View Error File]</b> アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する <b>SPI</b> エラー ログを表示できます。エラーメッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI</b> 設定ユーティリティを実行します。問題になっている管理対象ノード上の <b>WebLogic Server</b> について正しい情報が指定されていることを確認します。</li><li>3 問題になっている管理対象ノード上の <b>WebLogic SPI</b> 設定ファイルで、欠落していたプロパティが正しく指定されていることを確認します (この設定ファイルは、<b>UNIX</b> プラットフォーム上では /var/opt/OV/wasspi/wls/conf SiteConfig、<b>Windows</b> プラットフォーム上では \usr\OV\wasspi\wls\confSiteConfig にあります)。</li></ol>

## WASSPI-10

説明	ファイル <filename> へのアクセスで問題が発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>指定されたファイルは見つからないか、作成できないか、またはアクセスできません。このファイルは一時ファイルである可能性があります。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>WebLogic SPI</b> エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題になっているファイルと問題の根本的な原因を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の <b>[View Error File]</b> アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する <b>SPI</b> エラー ログを表示できます。エラー メッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 一時ファイルを作成するために十分なディスク領域があることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-11

説明	WebLogic SPI の設定ファイルで、サーバーが指定されていません。
重要度	重要警戒
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>問題になっている管理対象ノードの <b>WebLogic SPI</b> の設定で指定されている <b>WebLogic Server</b> の数が <b>0</b> です。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI</b> 設定ユーティリティを実行します。この管理対象ノード上の <b>WebLogic Server</b> について正しいサーバー名とポート情報が指定されていることを確認します。</li><li>2 <b>WebLogic SPI</b> 設定ファイル内の <b>NUM_SERVERS</b> プロパティで、対象の管理対象ノード上の <b>WebLogic Server</b> の数が正しく指定されていることを確認します (この設定ファイルは、<b>UNIX</b> プラットフォーム上では /var/opt/OV/wasspi/wls/conf SiteConfig、<b>Windows</b> プラットフォーム上では \usr\OV\wasspi\wls\confSiteConfig にあります)。</li></ol>

## WASSPI-12

説明	コマンド <command> がエラー終了コード <exit code> を返しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p><b>WebLogic SPI</b> コレクタが開始したコマンドが、エラー (0 以外) 終了コードを返しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ステップを特定して、問題を再現します。</li><li>2 トレース記録をオンにして、問題を再現します。トレース記録をオンにする方法については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li><li>3 <b>Gather Info</b> アプリケーションを実行します。</li><li>4 前のステップで収集した情報を <b>HP</b> のサポート担当者に連絡してください。</li></ol>



## WASSPI-13

説明	opcmon プロセスを実行中に例外が発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic SPI データ コレクタはプロセスを実行して、opcmon を呼び出そうとしました。しかし、プロセスを作成できなかったか、またはプロセスが中断されました。</p> <p><b>処置</b></p> <p>UNIX システムで、カーネル設定パラメータ <b>NPROC</b> と <b>MAXUPRC</b> が十分大きな値に設定されていて、プロセスの作成が可能であることを確認します。</p>

## WASSPI-14

説明	ファイル <filename> が見つかりません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic SPI データ コレクタが要求したファイルは見つかりませんでした。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic SPI エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題になっているファイルと問題の根本的な原因を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の [View Error File] アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。エラー メッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 管理対象ノードに WebLogic SPI を再インストールします。</li><li>3 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。</li></ol>

## WASSPI-15

説明	XML ドキュメント <filename> を解析しているときにエラーが発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>指定された XML ドキュメントを解析しているときにエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic SPI エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題の根本的な原因を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の [View Error File] アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。エラー メッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 ユーザーが XML ドキュメントを作成した場合は、その文書を修正します。ユーザー定義のメトリック定義ドキュメントの正しい形式については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li><li>3 対象の XML ドキュメントが WebLogic SPI 出荷時から含まれていたドキュメントである場合は、[登録アプリケーション] から SPI 設定ユーティリティを実行し、WebLogic SPI 設定 ファイルを再インストールします。</li></ol>

## WASSPI-16

説明	メトリック <code>&lt;metric_number&gt;</code> に誤ったフィルタが指定されました。
重要度	重要警戒
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>メトリック フィルタがメトリック定義 XML ドキュメントで誤って指定されています。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ユーザーが作成した XML ドキュメントでメトリックが指定されている場合は、そのドキュメントを修正します。ユーザー定義のメトリック定義ドキュメントの正しい形式については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li> <li>2 対象のメトリックが WebLogic SPI 出荷時から含まれていた定義済みのメトリックである場合は、[登録アプリケーション] から SPI 設定ユーティリティを実行し、WebLogic SPI 設定ファイルを再インストールします。</li> </ol>

## WASSPI-17

説明	サーバー <code>&lt;server_name&gt;</code> ( <code>url=&lt;URL&gt;</code> 、 <code>port=&lt;port_number&gt;</code> ) の MBean サーバーにアクセスできませんでした。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic SPI データ コレクタが WebLogic Server 上の JMX MBean サーバーへのアクセスを要求している間に問題が発生しました。この問題の原因を以下に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アプリケーション サーバー上の JMX MBean サーバーを探す JNDI ルックアップに失敗しました。</li> <li>2 WebLogic SPI の設定で指定されているログイン名には、アプリケーション サーバーでの適切な権限がありません。</li> <li>3 WebLogic SPI 設定ファイルで指定されているパスワードが誤っています。</li> </ol> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 WebLogic SPI エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題の根本的な原因を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の [View Error File] アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。エラーメッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li> <li>2 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。問題になっているサーバーのログイン名とパスワードが正しいことを確認します。</li> <li>3 WebLogic Administration Console で、ユーザーは有効な WebLogic ユーザーで、正しい権限を持っていることを確認します。正しい権限を設定するには、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li> <li>4 WebLogic Administration Console で、MBean サーバー (<code>weblogic.management.home.&lt;server_name&gt;</code>) が問題となっているサーバーの JNDI ツリーにあることを確認します。左側のペインにあるサーバーを右クリックすると、JNDI ツリーが表示されます。ここに JNDI ツリーがない場合は、WebLogic Server を再起動します。</li> </ol>

## WASSPI-18

説明	データソース <datasource_class_name> へのログ記録時にエラーが発生しました。ログ記録プロセスが終了コード <exit_code> を返しました。
重要度	注意
指示文	<p><b>原因</b> 管理対象ノード上のエージェントが整合性に欠ける状態である可能性があります。</p> <p><b>処置</b> 管理対象ノードのエージェントを再起動します。</p> <p><b>原因</b> WebLogic SPI データ コレクタが開始した ddflog プロセスが、0 以外のエラー コードを返しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ステップを特定して、問題を再現します。</li><li>2 トレース記録をオンにして、問題を再現します。トレース記録をオンにする方法については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』のトレース記録に関する記述を参照してください。</li><li>3 「Gather Info」アプリケーションを実行します。</li><li>4 前のステップで収集した情報を HP のサポート担当者に連絡してください。</li></ol>

## WASSPI-19

説明	<filename> の XSLT トランスフォーマのインスタンス作成で問題が発生しました。
重要度	重要警戒
指示文	<p><b>原因</b> 自動アクション レポート出力を指定している XSL ドキュメントにエラーが含まれています。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic SPI を再インストールします。</li><li>2 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。</li></ol>

## WASSPI-20

説明	メトリック <metric_number> のレポート作成で問題が発生しました。
重要度	重要警戒
指示文	<p><b>原因</b> 指定されたメトリックのテキスト レポート作成中にエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic SPI を再インストールします。</li><li>2 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。</li></ol>

## WASSPI-21

説明	ファクトリ実装「<class name>」をインスタンス化するときに問題が発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>クラス名を指定する java プロパティに誤りがあるか、このクラスが <b>AppServerFactory</b> インタフェースを実装していません。</p> <p><b>処置</b></p> <p>java プロパティ appserver.implementation に、<b>AppServerFactory</b> インタフェースを実装するクラスの完全修飾名が設定されていることを確認します。</p> <p>java コマンド行で設定する場合の例を示します。</p> <pre>-Dappserver.implementation=com.hp.openview.wasspi.WLSAppServerFactory</pre>

## WASSPI-23

説明	サーバー <server_name> のコレクタ / アナライザの初期化時にエラーが発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>サーバー &lt;server_name&gt; の監視の準備中に例外が発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>WebLogic SPI</b> エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題の根本的な原因を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の <b>[View Error File]</b> アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する <b>SPI</b> エラー ログを表示できます。エラーメッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 ステップを特定して、問題を再現します。</li><li>3 トレース記録をオンにして、問題を再現します。トレース記録をオンにする方法については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li><li>4 <b>Gather Info</b> アプリケーションを実行します。</li><li>5 前のステップで収集した情報を <b>HP</b> のサポート担当者に連絡してください。</li></ol>

## WASSPI-24

説明	サーバー <server_name> (ログイン <login>) へのログインでエラーが発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>サーバー &lt;server_name&gt; へのログイン中にセキュリティの例外が発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI</b> 設定ユーティリティを実行します。</li><li>2 エラーが発生した管理対象ノード上に正しいログインとパスワードを指定したことを確認します。</li><li>3 ログインに必要な権限が与えられていることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-26

説明	<server_name> のデータ ログ記録プロセスがタイムアウトになりました。
重要度	重要警戒
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>HP Performance Agent または CODA のいずれか (サーバーの設定による) が異常終了し、タイムアウトになりました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 コマンド <b>opcagt -start</b> を使用して CODA を再起動します。</li><li>2 コマンド <b>mwa restart</b> を使用して HP Performance Agent を再起動します。</li></ol>

## WASSPI-27

説明	RMI コレクタが <code>&lt;command&gt;</code> を処理できません。
重要度	注意
指示文	<p><b>原因</b></p> <p><code>rmid</code> 関連の処理を実行するときに例外が発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>WebLogic SPI</b> エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題の根本的な原因を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の <b>[View Error File]</b> アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する <b>SPI</b> エラー ログを表示できます。エラーメッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 ステップを特定して、問題を再現します。</li><li>3 トレース記録をオンにして、問題を再現します。トレース記録をオンにする方法については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li><li>4 <b>Gather Info</b> アプリケーションを実行します。</li><li>5 前のステップで収集した情報を HP のサポート担当者に連絡してください。</li></ol>

## WASSPI-30

説明	ポート <code>&lt;port&gt;</code> で <code>&lt;rmid_path&gt;</code> の起動に失敗しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>指定されたパスはすでに使用されています。</p> <p><b>処置</b></p> <p>[登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI</b> 設定ユーティリティを実行します。<b>RMID_PORT</b> プロパティに現在使用していないポート番号を設定します。</p>

## WASSPI-31

説明	<code>&lt;command&gt;</code> の処理中に RMI コレクタとの接続が切断されました。
重要度	注意
指示文	なし

## WASSPI-32

説明	MBean <code>&lt;JMX-ObjectName&gt;</code> のメタデータを取得できません。
重要度	注意
指示文	なし

## WASSPI-33

説明	サーバー <server name>、バージョン <version> が一致するアクションが存在しません。
重要度	注意
指示文	<b>原因</b> JMXAction 要素で定義された FromVersion タグと ToVersion タグの値が、サーバー バージョンと一致していません。 <b>処置</b> そのアクションがサーバーで有効な場合、JMXAction 定義の FromVersion/ToVersion 要素を調整するか、サーバーの VERSION プロパティを調整します。

## WASSPI-34

説明	メトリック <metric id> にアクションが定義されていません。
重要度	注意
指示文	<b>原因</b> アクション -m オプションで指定されたメトリック ID に JMXActions 要素が定義されていません。 <b>処置</b> 指定したメトリック ID に誤りがある場合は、アクション -m オプションを修正します。誤りでない場合は、メトリック定義に JMXActions 定義を追加します。

## WASSPI-35

説明	アクション <action command-line> の実行中にエラーが発生しました。
重要度	重要警戒
指示文	<b>原因</b> アクションの実行中に予期しないエラーが発生しました。 <b>処置</b> 管理対象ノードのエラー ログで、エラー メッセージの後に記録された障害原因を確認します。

## WASSPI-36

説明	サーバー <server name> の MBean <JMX objectname> が、オペレーション <operation name> を公開しません。
重要度	注意
指示文	<b>原因</b> アクションの JMXCalls 要素が、この MBean で公開されないオペレーションを定義しています。 <b>処置</b> JMXCalls 要素を修正するか、要素からオペレーションを削除します。

## WASSPI-37

説明	サーバー <server name> の MBean <JMX objectname> が、属性 <attribute name> を書き込み可能属性として公開しません。
重要度	注意
指示文	<b>原因</b> アクションの JMXCalls 要素が、この MBean で公開された書き込み可能属性を読み取り専用属性として定義しています。 <b>処置</b> カスタム MBean の場合は、MBean の管理インタフェースを更新して属性を書き込み可能属性にします。カスタム MBean でない場合は、JMXCalls 要素から属性定義を削除します。

## WASSPI-38

説明	サーバー <server name> の MBean <JMX objectname> が、属性 <attribute name> を公開しません。
重要度	注意
指示文	<b>原因</b> アクションの JMXCalls 要素が、この MBean オブジェクトで公開されない属性を定義しています。 <b>処置</b> JMXCalls 要素を修正するか、要素から属性を削除します。

## WASSPI-39

説明	MBean <JMX objectname> でオペレーション <operation name> を呼び出すときにエラーが発生しました。
重要度	重要警戒
指示文	<b>原因</b> この MBean のオペレーションを呼び出すときに予期しないエラーが発生しました。管理対象リソースが例外をスローした可能性があります。 <b>処置</b> 管理対象ノードのエラー ログで、エラー メッセージの後に記録された障害原因を確認します。



## WASSPI-40

説明	MBean <JMX objectname> の属性 <attribute name> を設定するときにエラーが発生しました。
重要度	重要警戒
指示文	<b>原因</b> この MBean の属性を設定するときに予期しないエラーが発生しました。管理対象リソースが例外をスローした可能性があります。 <b>処置</b> 管理対象ノードのエラー ログで、エラー メッセージの後に記録された障害原因を確認します。

## WASSPI-41

説明	MBean <JMX objectname> から属性 <attribute name> を取得するときにエラーが発生しました。
重要度	重要警戒
指示文	<b>原因</b> この MBean から属性を取得するときに予期しないエラーが発生しました。管理対象リソースが例外をスローした可能性があります。 <b>処置</b> 管理対象ノードのエラー ログで、エラー メッセージの後に記録された障害原因を確認します。

## WASSPI-42

説明	コマンド <command> の実行中にエラーが発生しました。
重要度	危険
指示文	<b>原因</b> WebLogic SPI コレクタにより起動されたコマンドでエラーが検出されました。 <b>処置</b> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ステップを特定して、問題を再現します。</li><li>2 トレース記録をオンにして、問題を再現します。トレース記録をオンにする方法については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li><li>3 <b>Gather Info</b> アプリケーションを実行します。</li><li>4 前のステップで収集した情報を HP のサポート担当者に連絡してください。</li></ol>

## WASSPI-43

説明	イベント <event-type> の公開中にエラーが発生しました。
重要度	重要警戒
指示文	<b>原因</b> パブリッシャがメトリックまたは収集イベントを処理するときに予期しないエラーが発生しました。 <b>処置</b> 管理対象ノードのエラー ログで、エラー メッセージの後に記録された障害原因を確認します。

## WASSPI-201

説明	ファイル <filename> が見つかりません。
重要度	危険
指示文	<b>原因</b> 設定ファイルが見つかりません。 <b>処置</b> [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。エラーが発生した管理対象ノード上の WebLogic Server に、正しい情報が指定されていることを確認します。

## WASSPI-202

説明	ファイル <filename> を読み込めません。
重要度	危険
指示文	<b>原因</b> 1 ファイルを開くことができないか、またはファイルが見つかりません。 2 権限が正しくないか、またはディレクトリが破損しています。 <b>処置</b> 1 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。エラーが発生した管理対象ノード上の WebLogic Server に、正しい情報が指定されていることを確認します。 2 このファイルを読み込むための適切な権限が ITO ユーザーに付与されていることを確認します。

## WASSPI-203

説明	ファイル <filename> に書き込めません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b> 権限が正しくないか、ファイルまたはディレクトリが破損しています。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b>を実行します。エラーが発生した管理対象ノード上の <b>WebLogic Server</b> に、正しい情報が指定されていることを確認します。</li><li>2 このファイルに書き込むための適切な権限が <b>ITO ユーザー</b>に付与されていることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-204

説明	opcmsg <message> を送信しようとしてエラーが発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b> opcmsg の実行中に問題が発生しました。opcmsg が欠落しているか、実行の権限がない (<b>ITO インストールエラー</b>)か、またはシステム プロセス テーブルが一杯になっている可能性があります。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>ITO</b> が正しくインストールされ、管理対象ノードに配布されていることを確認します。 プロセス テーブルに空きがあることを確認します。プロセス テーブルに空きがない場合は、システム管理者にプロセス テーブルを増やすよう要請します。</li></ol>

## WASSPI-205

説明	opcmon <command> を送信しようとしてエラーが発生しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>opcmon の実行中に問題が発生しました。opcmon が欠落しているか、実行の権限がない (ITO インストール エラー) か、またはシステム プロセス テーブルが一杯になっている可能性があります。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ITO が正しくインストールされ、管理対象ノードに配布されていることを確認します。 プロセス テーブルに空きがあることを確認します。プロセス テーブルに空きがない場合は、システム管理者にプロセス テーブルを増やすよう要請します。</li></ol>

## WASSPI-206

説明	ディレクトリ <directory> を読み込めません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>このディレクトリを読み込む権限が ITO ユーザーに付与されていないか、またはディレクトリが破損しています。</p> <p><b>処置</b></p> <p>このディレクトリについて、ITO ユーザーに適切な権限が付与されていることを確認します。</p>

## WASSPI-207

説明	<filename> を <filename> に移動できません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 権限が不十分です。</li><li>2 ディスクの空き領域が不十分です。</li><li>3 ファイル テーブルに問題があります。</li></ol> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ITO ユーザーの権限が正しいことを確認します。</li><li>2 ファイルを作成するために十分なディスクの空き領域があることを確認します。</li><li>3 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。</li></ol>

## WASSPI-208

説明	使用前に、WebLogic SPI を設定する必要があります。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>このノードでは、WebLogic SPI は設定されていません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。エラーが発生した管理対象ノード上の WebLogic Server で、正しい情報が指定されていることを確認します。</li><li>2 アプリケーション メニューから Verify ユーティリティを実行し、SPI が正しく設定されていることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-209

説明	WebLogic Server にアクセスできません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 サーバーが停止中か、または応答しません。</li><li>2 WebLogic SPI の設定が誤っています。</li></ol> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic Server が正常に動作していることを確認します。</li><li>2 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。エラーが発生した管理対象ノード上の WebLogic Server で、正しい情報が指定されていることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-210

説明	SPI を設定できません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>SPI 設定プロセスが失敗しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic SPI エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題の根本的な原因を特定します。このエラー メッセージの前のエラー メッセージにも、問題の詳細が表示されています。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の [View Error File] アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。エラー メッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 WebLogic SPI を再インストールし、[登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。</li></ol>

## WASSPI-211

説明	ディレクトリ <directory> を作成できません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>ITO ユーザーがディレクトリを作成する権限を持っていないか、またはディスクの空き領域が不足しています。</p> <p><b>処置</b></p> <p>このディレクトリについて、ITO ユーザーに適切な権限が付与されていることを確認します。十分なディスクの空き領域があることを確認します。</p>

## WASSPI-212

説明	WLS-5 モニタがこのノードで実行されていますが、WLS-5 サーバーが設定されていません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic 5 用の ITO テンプレートがノードに割り当てられていますが、このノード上にあるどの WebLogic 5 サーバーも SPI 設定に指定されていません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>このノード上に WebLogic 5 が存在しない場合、このノードへの WebLogic 5 テンプレートの割り当てを解除し、ITO を管理対象ノードに再配布します。</li><li>このノード上に WebLogic 5 サーバーが存在する場合は、[登録アプリケーション] から WebLogic SPI 設定ユーティリティを起動し、設定で正しい情報を指定します。</li></ol>

## WASSPI-213

説明	プログラム <name> へのパラメータが不正です。用法 : <usage>。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>プログラムのパラメータが不正です。</p> <p><b>処置</b></p> <p>パラメータを修正します。</p>

## WASSPI-214

説明	プログラム <program_name> を実行できません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>プログラムの実行に失敗しました。プログラムが欠落しているか、権限が正しくないか、またはプロセス テーブルが一杯になっている可能性があります。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ファイルが存在することを確認します。SPI プログラムのファイルがない場合、<b>WebLogic SPI</b> を再インストールし、[登録アプリケーション] から <b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b> を実行します。</li><li>2 ITO ユーザーの権限が正しいことを確認します。</li></ol>

## WASSPI-215

説明	<directory> で <b>WebLogic Server</b> が見つかりません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p><b>WebLogic SPI</b> の設定で <b>WL_HOME</b> として指定されているディレクトリは、管理対象ノードに存在しません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>WebLogic Server</b> が管理対象ノードにインストールされていることを確認します。</li><li>2 [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b> を実行します。エラーが発生した管理対象ノード上の <b>WL_HOME</b> で、正しい情報が指定されていることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-216

説明	サーバー <server_name> 用の設定変数 <name> がありません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>要求された <b>SPI</b> の設定プロパティが見つかりません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b> を実行します。</li><li>2 エラーが発生した管理対象ノードの設定に、正しい情報が指定されていることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-218

説明	<server_name> の WebLogic 監視は Off になっています。
重要度	注意
指示文	<p><b>原因</b> 指定したサーバーの収集がオフになっています。</p> <p><b>処置</b> 必要に応じて、管理対象ノード上の WebLogic SPI の設定ディレクトリにある SiteConfig ファイルで <b>COLLECT = ON</b> に設定し、収集をオンにします。設定ディレクトリは、UNIX プラットフォームの場合 /var/opt/OV/wasspi/wls/conf/ または /var/opt/OV/conf/wls/ であり、Windows プラットフォームの場合 \usr\OV\wasspi\wls\conf\ です。</p>

## WASSPI-219

説明	<server_name> の WebLogic 監視は ON になっています。
重要度	注意
指示文	<p><b>原因</b> 指定したサーバーの収集がオンになっています。</p> <p><b>処置</b> 必要に応じて、管理対象ノード上の WebLogic SPI の設定ディレクトリにある SiteConfig ファイルで <b>COLLECT = OFF</b> に設定し、収集をオフにします。設定ディレクトリは、UNIX プラットフォームの場合 /var/opt/OV/wasspi/wls/conf/ または /var/opt/OV/conf/wls/ であり、Windows プラットフォームの場合 \usr\OV\wasspi\wls\conf\ です。</p>



## WASSPI-220

説明	この機能は <b>WebLogic 5.1</b> にのみ適用されます。
重要度	注意
指示文	<b>原因</b> WebLogic 5 サーバーにのみ適用される機能を、ユーザーが <b>WebLogic 6</b> サーバーで実行しようとした。 <b>処置</b> この機能は <b>WebLogic Server</b> バージョン <b>6.0</b> 以降でのみ実行できます。

## WASSPI-221

説明	<filename> は存在しません。
重要度	危険
指示文	<b>原因</b> 指定されたファイルは存在しません。これがログ ファイルである場合は、ログ ファイルに記録されているエントリはありません。これがプロパティ ファイルである場合は、設定が行われていません。 <b>処置</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ログ ファイル: ファイルに書き込むエントリがない場合は、アクションは不要です。書き込むエントリがある場合は、[登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b> を実行します。</li><li>プロパティ ファイル: [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b> を実行します。</li></ul>

## WASSPI-222

説明	<filename> が空白です。
重要度	危険
指示文	<b>原因</b> 指定されたファイルは空白です。これがログ ファイルである場合は、ログ記録されたエントリがないか、またはエントリが消えています。これがプロパティ ファイルである場合は、正しく設定されていません。 <b>処置</b> 設定ファイルの場合、[登録アプリケーション] から <b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b> を実行します。

## WASSPI-223

説明	ファイル <filename> を読み込めません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ファイルを開くことができないか、またはファイルが見つかりません。</li><li>2 権限が正しくないか、またはディレクトリが破損しています。</li></ol> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b>を実行します。エラーが発生した管理対象ノード上の <b>WebLogic Server</b> で、正しい情報が指定されていることを確認します。</li><li>2 このファイルを読み込むための適切な権限が <b>ITO ユーザー</b>に付与されていることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-224

説明	ddfcomp は、<name> の設定エラーを返しました。
重要度	注意
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>ddfcomp はエラーを返しました。これは、<b>MeasureWare</b> と <b>CODA</b> がシステムにインストールされていないか、または <b>Performance Agent</b> の設定時にエラーが発生したことによります。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>Performance Agent</b> がインストールされていない場合、このエラーは無視できます。</li><li>2 インストールされている場合は、ステップを特定して問題を再現します。</li><li>3 トレース記録をオンにして、問題を再現します。トレース記録をオンにする方法については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li><li>4 <b>Gather Info</b> アプリケーションを実行します。</li><li>5 前のステップで収集した情報を <b>HP</b> のサポート担当者に連絡してください。</li></ol>

## WASSPI-225

説明	ログファイルが見つかりません。Configure WLSSPI を実行したことを確認してください。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>ログファイル リストが空白です。</p> <p><b>処置</b></p> <p><b>SPI</b> を再インストールし、[登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b>を実行します。</p>

## WASSPI-226

説明	ファイル <filename> を読み込めません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ファイルを開くことができないか、またはファイルが見つかりません。</li><li>2 権限が正しくないか、またはディレクトリが破損しています。</li></ol> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b>を実行します。</li><li>2 エラーが発生した管理対象ノード上の <b>WebLogic Server</b> で、正しい情報が指定されていることを確認します。</li><li>3 このファイルを読み込むための適切な権限が <b>ITO ユーザー</b>に付与されていることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-227

説明	<b>Performance Agent</b> がインストールされていません。データ ソースが設定されません。
重要度	注意
指示文	<p><b>原因</b></p> <p><b>Performance</b> 製品が利用できる場合、<b>SPI</b> は <b>Performance</b> 製品と統合されます。この警告は、利用可能なツールがないことを示します。</p> <p><b>処置</b></p> <p><b>Performance Agent</b> をインストールしている場合、正しくインストールされ、正常に動作していることを確認します。必要に応じて再インストールしてください。インストールしていない場合は、このメッセージは無視できます。</p>

## WASSPI-228

説明	ddflog は、<logfile-name>: <system-error-msg> ログ記録時にエラーを返しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>管理対象ノード上のエージェントが整合性に欠ける状態である可能性があります。</p> <p><b>処置</b></p> <p>管理対象ノードのエージェントを再起動します。</p> <p><b>原因</b></p> <p>ddflog はエラーを返しました。これは、<b>SPI</b> がパフォーマンス データのログ記録をサポートするよう、適切に設定されていないことによります。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 問題が発生したノードで、<b>WebLogic SPI</b> を再設定します。</li><li>2 または、システム エラー メッセージがある場合、これを手がかりに問題を調査します。</li><li>3 トレース記録をオンにして、問題を再現します。トレース記録をオンにする方法については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li><li>4 <b>Gather Info</b> アプリケーションを実行します。</li><li>5 前のステップで収集した情報を <b>HP</b> のサポート担当者に連絡してください。</li></ol>

## WASSPI-229

説明	ディレクトリ <code>&lt;directory_name&gt;</code> にアクセスできません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>ディレクトリが存在しないか、またはエージェントを実行しているユーザーがディレクトリへの適切な権限を持っていません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 [登録アプリケーション] から、<b>WebLogic SPI 設定ユーティリティ</b>を実行します。</li><li>2 SPI を再インストールし、<b>WebLogic SPI 設定</b>を実行します。</li></ol>

## WASSPI-230

説明	<code>&lt;time-interval&gt;</code> 経過後の <code>&lt;filename&gt;</code> をロックできません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>ロック ファイル <code>&lt;file&gt;</code> は、指定された <code>&lt;time&gt;</code> 内に削除されませんでした。これは、SPI プロセスの実行に時間がかかり過ぎたか、またはプロセスがハングしたことによります。また、オープンしたロックが削除される前にこのロックを含む SPI プロセスが強制終了されたために、この状態が生じる場合もあります。</p> <p><b>処置</b></p> <p>実行中の SPI プロセスがないことを確認します。手動でロック ファイルを削除します。</p>

## WASSPI-231

説明	JRE <code>&lt;JVM_file&gt;</code> の開始時にエラーが発生しました : <code>&lt;message&gt;</code>
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>Java の起動時にエラーが発生しました。このエラーは、指定した JVM が存在しない、または権限が適切でないことにより発生するほか、プロセス テーブル エントリやメモリなどのシステム リソースに関する制限や、SPI SiteConfig ファイルで <code>JAVA_HOME</code> 変数が正しく設定されていないことが原因で発生します。</p> <p><b>処置</b></p> <p>SPI 設定ファイルで、<code>JAVA_HOME</code> または <code>HOME</code> 変数を確認します。同時に発生している他のエラーも確認してください。これらが真の原因を示している場合があります。</p>

## WASSPI-232

説明	コマンド行ではサーバー <name> が指定されていますが、設定では指定されていません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>コレクタ コマンド行で指定された -i または -e により、SPI 設定ファイルに一覧表示されていないサーバー名が指定されています。コレクタは、設定ファイルに一覧表示されているサーバーのみを認識します。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 コマンド行で正しいサーバー名を指定します。</li><li>2 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。SPI 設定ファイルで WebLogic Server 名がもれなく正確に記述されていることを確認します。</li></ol>

## WASSPI-233

説明	WLS 5.x サーバー <name> の高度な監視はできません。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic Server バージョン 5 インスタンスからのメトリックを取得しようとした。メトリックと高度な監視は、WebLogic Server バージョン 5 ではサポートされていません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 wasspi_wls_ca のコマンド行では、WebLogic Server バージョン 5 を指定しないようにします。</li><li>2 [登録アプリケーション] から、WebLogic SPI 設定ユーティリティを実行します。正しいサーバー バージョンを指定したことを確認します。</li><li>3 WebLogic Server をバージョン 6.0 以上にアップグレードします。</li></ol>

## WASSPI-234

説明	プログラム <file> の実行中にエラーが発生しました。戻り値: <n>
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>SPI がツールまたは補助プログラムを実行しようとしたが、そのときにエラーが発生しました。メッセージの &lt;file&gt; はツールまたはプログラムを示し、&lt;n&gt; は実行しようとしたときに返された戻り値を示します。</p> <p><b>処置</b></p> <p>ツールが SPI ツールの場合、SPI のインストールと設定が正しく行われていることを確認します。正しく行われていない場合は、SPI のインストールまたは設定を再度行います。システムツールの場合は、システムにツールの実行を妨げる問題がないことを確認します。</p>

## WASSPI-235

説明	MeasureWare エージェントの再起動に失敗しました。
重要度	注意
指示文	<b>原因</b> SPI が MeasureWare エージェントを自動的に再起動しようとしたのですが、失敗しました。 <b>処置</b> <code>mwa restart server</code> コマンドを使用して MeasureWare エージェントを手動で再起動します。

## WASSPI-236

説明	スタイルシート <code>&lt;xsl&gt;</code> を持つ <code>&lt;xml&gt;</code> で <i>XSLT</i> を実行するときに、エラーが発生しました: <code>&lt;message&gt;</code>
重要度	危険
指示文	<b>原因</b> ユーザー定義メトリックのグラフ作成準備の一環として、UDM XML の変換が行われます。このメッセージは、変換が失敗した理由について示します。 <b>処置</b> message を確認します。最も可能性が高いのは、XML の誤りです。

## WASSPI-237

説明	データ ソース <code>&lt;datasource&gt;</code> を設定しています。
重要度	正常
指示文	これは情報メッセージであり、HP Performance Manager または HP Performance Agent データソースが設定されたことを示します。

## WASSPI-238

説明	ユーザー定義メトリックが見つかりません。
重要度	注意
指示文	<b>原因</b> UDM Graph Enable アプリケーションが実行されましたが、UDM メトリックが定義されていません。 <b>処置</b> UDM XML ファイルの名前が正しく設定されていることを確認します。

## WASSPI-241

説明	ファイル <file> を削除できません。
重要度	危険
指示文	<b>原因</b> SPI がファイルを削除しようとしたますが、削除できませんでした。ファイル保護機能が ITO ユーザーによるファイル削除を許可しないように設定されているか、ファイルの削除を妨げる問題がシステムで発生している可能性があります。 <b>処置</b> ファイル保護の設定が正しいことを確認します。

## WASSPI-244

説明	ノード <node> に対する設定が無効です。
重要度	危険
指示文	<b>原因</b> 対象のノードが所定の形式で設定されていません。 <b>処置</b> HP Operations Manager コンソールから <b>WLSSPI Discover</b> アプリケーションを起動し、リストからノードを選択します。このノードに対して設定されているプロパティが有効であることを確認します。[Confirm Operation] ウィンドウの <b>[OK]</b> ボタンをクリックし、検出プロセスを再度開始します。

## WASSPI-245

説明	認識できない変数 <var> がノード <node> に設定されています。
重要度	危険
指示文	<b>原因</b> 予期しない変数がノードに設定されています。 <b>処置</b> HP Operations Manager コンソールから <b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動し、リストからノードを選択します。メッセージ内の変数 <var> が有効であることを確認します。 [Confirm Operation] ウィンドウの <b>[OK]</b> ボタンをクリックし、検出プロセスを再度開始します。

## WASSPI-247

説明	HPOM サーバーで、ノード <i>&lt;node&gt;</i> に対する <i>&lt;product&gt;</i> 設定の更新に失敗しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>対象のノードが所定の形式で設定されていません。</p> <p><b>処置</b></p> <p>HP Operations Manager コンソールから <b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動し、リストからノードを選択します。このノードに対して設定されているプロパティが有効であることを確認します。[Confirm Operation] ウィンドウの <b>[OK]</b> ボタンをクリックし、検出プロセスを再度開始します。</p> <p>問題が引き続き発生する場合は、HP サポートに連絡し、サポート担当者に以下の情報を提供します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 問題再現に関する手順やその他の情報</li><li>2 %OvInstallDir%\install\WASSPI\WLSSPI\English\Discovery\log にあるトレースファイル</li></ol>

## WASSPI-248

説明	<i>&lt;policy&gt;</i> ポリシー グループを <i>&lt;node&gt;</i> に配布できません。
重要度	注意
指示文	<p><b>処置</b></p> <p>HP Operations Manager for Windows のオンライン ヘルプで、配布に関するトラブルシューティングのセクションを参照してください。問題が引き続き発生する場合は、HP サポートに連絡してください。</p>

## WASSPI-249

説明	<i>&lt;node&gt;</i> でのエージェント インストール ディレクトリを取得できません。
重要度	危険
指示文	<p><b>処置</b></p> <p>管理対象ノードに WLSSPI 検出ポリシーを再配布します。[Deploy policy only if version is newer checkbox (バージョンがより新しい場合にのみポリシーを配布)] チェックボックスが選択されている場合は、選択を解除します。</p> <p>問題が引き続き発生する場合は、HP サポートに連絡し、サポート担当者に以下の情報を提供します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 問題再現に関する手順やその他の情報</li><li>2 次のディレクトリにあるトレース ファイル。 %OvInstallDir%\install\WASSPI\WLSSPI\English\Discovery\log にあるトレースファイル</li></ol>



## WASSPI-254

説明	Java はエラーを発生して終了しました。
重要度	危険
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>コレクタまたはその他の Java アプリケーションの実行中に、Java で何らかのエラーが発生したか、または Java アプリケーションがエラー終了しました。</p> <p><b>処置</b></p> <p>同時に発生している他のエラーも確認してください。これらが真の原因を示している場合があります。</p> <p>また、SPI のエラー ログを確認すると、他の手がかりが得られる場合もあります。</p>

## WASSPI-302

説明	HPOM サーバーで WebLogic SPI の設定を更新しています。
指示文	<p>これは、WebLogic 検出プロセスで実行される正常な処理です。処理が正常に行われると、このメッセージの [A] (アクション) 列のエントリが R (実行中) から S (成功) に変わります。</p> <p>ただし、この列のエントリが F (失敗) に変わった場合、処理は正常に行われていません。対象のノードを選択し、Discover WebLogic アプリケーションを再度起動します。</p> <p>問題が引き続き発生する場合は、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。「WebLogic SPI の設定」の章で、WebLogic SPI の手動設定の方法について説明しています。</p>

## WASSPI-303

説明	HPOM サーバーで WebLogic SPI の設定を更新しています。
指示文	WebLogic Discovery が管理対象ノードで WebLogic Server を検出しました。WebLogic Discovery は、HPOM サーバーの WebLogic SPI の設定を更新しました。

説明	WebLogic Server が見つかりません。
指示文	<p>原因 : ノードに WebLogic Server がインストールされていません。</p> <p>処置 : WebLogic Server がノードにインストールされていないことを確認します。</p> <hr/> <p>原因 : このノードには実行中の WebLogic Server がありません。</p> <p>処置 : このノードで Discover Weblogic アプリケーションを実行する前に、この SPI で監視するすべての WebLogic Server が実行中であることを確認してください。Discovery Weblogic の実行時に実行されている WebLogic Server のみが自動的に設定されます。</p> <p>WebLogic Server が実行中であることを確認するには、WebLogic Administration Console でステータスをチェックします。WebLogic Server の起動後、Discover WebLogic アプリケーションを再度起動します。このアプリケーションを起動する前に、このノードを必ず選択してください。</p> <hr/> <p>原因 : Discovery がこのノードで実行中の WebLogic Server をすべて検出するには、さらに情報が必要です。</p> <p>処置 : Configure WLSSPI アプリケーションを使用してこのノードに以下のプロパティを設定します。アプリケーションを起動する前に、このノードを必ず選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>JAVA_HOME:</b> このノードで実行中の WebLogic Server で使用される Java インストールディレクトリ。WebLogic が複数インストールされている場合、1 つの Java インストールディレクトリを選択します。たとえば、JAVA_HOME=/opt/bea/jdk1.3.1 です。</li> <li>• <b>HOME_LIST:</b> このノードに存在するすべての WebLogic Server のインストールディレクトリをセミコロンで区切ったリスト。たとえば、HOME_LIST=/opt/weblogic6.1;/opt/weblogic7 と指定します。 入力した値が正しいことを確認してください。たとえば、 HOME_LIST=&lt;home_dir1&gt;;&lt;home_dir2&gt; と指定し、&lt;home_dir1&gt; が WebLogic 6.0 または 6.1 のホームディレクトリの場合、 ファイル &lt;home_dir1&gt;/lib/weblogic.jar が存在することを確認します。&lt;home_dir1&gt; が WebLogic 7 または 8 のホームディレクトリの場合、ファイル &lt;home_dir1&gt;/server/lib/weblogic.jar が存在することを確認します。</li> <li>• <b>ADMIN_PORTS:</b> WebLogic Admin サーバーがリスンしているポートをセミコロンで区切ったリスト。WebLogic Server が仮想 IP アドレスでリスンしている場合、以下のようにそのアドレスも指定してください。たとえば、以下ようになります。 ADMIN_PORTS=15.8.155.197:7001;7045。ここで、15.8.155.197 は、サーバーがリスンしている仮想 IP アドレスです。</li> <li>• <b>LOGIN=&lt;weblogic_user_id&gt; および PASSWORD=&lt;weblogic_user_password&gt;:</b> &lt;weblogic_user_id&gt; はこの SPI でサーバーを監視するために使用する WebLogic ユーザーであり、&lt;weblogic_user_password&gt; は、そのユーザーのパスワードです。 <b>注意 :</b> このノードに複数の WebLogic Admin サーバーがあり、それらのサーバーが同一のログインおよびパスワードを共有していない場合、[Set Access Info for Default Properties] ウィンドウで [Login] と [Password] に最もよく使用される WebLogic ログインおよびパスワードを設定します。[Customize] を選択して設定エディタを起動し、サーバー固有レベルで LOGIN、PASSWORD、NAME、および PORT の各プロパティを設定します。NAME は WebLogic Admin サーバーの名前、PORT はこの Admin サーバーがリスンするポートです。</li> </ul> <p>ノードを選択し、Discover WebLogic アプリケーションを起動します。</p>

指示文 ( 続き )	<p><b>原因:</b> LOGIN、PASSWORD、NAME、HOME_LIST、または ADMIN_PORTS に指定された値に誤りがあります。</p> <p><b>処置:</b> HPOM コンソールでノードを選択し、<b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを起動します。ログインとパスワードが正しいことを確認します。HOME_LIST に割り当てられた値が正しいことを確認します。</p> <p>たとえば、HOME_LIST=&lt;home_dir1&gt;;&lt;home_dir2&gt; と指定し、&lt;home_dir1&gt; が <b>WebLogic 6.0</b> または <b>6.1</b> のホーム ディレクトリの場合、ファイル &lt;home_dir1&gt;/lib/weblogic.jar が存在することを確認します。&lt;home_dir1&gt; が <b>WebLogic 7</b> または <b>8</b> のホーム ディレクトリの場合、ファイル &lt;home_dir1&gt;/server/lib/weblogic.jar が存在することを確認します。</p> <p><b>ADMIN_PORTS</b> プロパティに指定されたポートが <b>WebLogic Admin</b> サーバーのポートであり、それらのポートが実行中であることを確認します。ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</p> <p>問題が引き続き発生する場合は、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。「WebLogi SPI の設定」の章で、WebLogic SPI の手動設定の方法について説明しています。</p> <p>手動による設定が失敗する場合は、以下の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ノードを選択し、<b>WLSSPI Admin</b> アプリケーション グループの <b>Gather Info</b> アプリケーションを起動します。</li> <li>2 HP のサポート担当者に連絡します。</li> </ol>
------------	---

## WASSPI-321

説明	BEA ホーム ディレクトリ <directory> は無効です。
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>ノードに <b>BEA_HOME_LIST</b> プロパティが設定されていますが、ディレクトリ (メッセージに表示されるディレクトリ) は有効な <b>BEA</b> ホーム ディレクトリではありません。</p> <p><b>処置</b></p> <p>ノードを選択し、<b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを起動します。</p> <p>ノードに <b>BEA_HOME_LIST</b> が設定されていて、<b>Discovery</b> により存在しないことが判明したディレクトリがこのリストに含まれていないか確認します。</p> <p>管理対象ノードにこのディレクトリが存在しないか確認し、存在する場合は、このディレクトリに flicense.bea ファイルと registry.xml ファイルが含まれていないか確認します。</p> <p>このディレクトリが存在しない場合、またはこのディレクトリに先ほどのファイルが含まれていない場合、管理対象ノード内の正しい <b>BEA</b> ホーム ディレクトリを探し、<b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを使用して <b>BEA_HOME_LIST</b> プロパティの値を修正します。</p> <p>管理対象ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</p>

説明	BEA ホーム ディレクトリ <i>&lt;directory&gt;</i> が見つかりません。
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>ノードに <b>BEA_HOME_LIST</b> プロパティが設定されていますが、ディレクトリ（メッセージに表示されるディレクトリ）が存在しません。</p> <p><b>処置</b></p> <p>ノードを選択し、<b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを起動します。</p> <p>ノードに <b>BEA_HOME_LIST</b> が設定されていて、<b>Discovery</b> により存在しないことが判明したディレクトリがこのリストに含まれていないか確認します。</p> <p>管理対象ノードにこのディレクトリが存在しないか確認し、存在する場合は、このディレクトリに <code>flicense.bea</code> ファイルと <code>registry.xml</code> ファイルが含まれていないか確認します。</p> <p>このディレクトリが存在しない場合、またはこのディレクトリに先ほどのファイルが含まれていない場合、管理対象ノード内の正しい <b>BEA</b> ホーム ディレクトリを探し、<b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを使用して <b>BEA_HOME_LIST</b> プロパティの値を修正します。</p> <p>管理対象ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</p>

説明	BEA ホーム ディレクトリが見つかりません。
指示文	<p><b>原因</b> BEA ホーム ディレクトリのリストが見つかりません。ノードに <b>WebLogic Server</b> がインストールされていません。</p> <p><b>処置</b> <b>WebLogic Server</b> がノードにインストールされていないことを確認します。</p>
	<p><b>原因</b> WebLogic Discovery スクリプトが、ノードで BEA ホーム ディレクトリを検出できませんでした。</p> <p><b>処置</b> Configure WLSSPI アプリケーションを使用してこのノードに以下のプロパティを設定します。アプリケーションを起動する前に、ノードを必ず選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>JAVA_HOME:</b> このノードで実行中の <b>WebLogic Server</b> で使用される <b>Java</b> インストールディレクトリ。WebLogic が複数インストールされている場合、1 つの <b>Java</b> インストールディレクトリを選択します。たとえば、<code>JAVA_HOME=/opt/BEA/jdk1.3.1</code> です。</li> <li>• <b>HOME_LIST:</b> このノードに存在するすべての <b>WebLogic Server</b> のインストールディレクトリをセミコロンで区切ったリスト。たとえば、<code>HOME_LIST=/opt/weblogic6.1;/opt/weblogic7</code> と指定します。 入力した値が正しいことを確認してください。たとえば、<code>HOME_LIST=&lt;home_dir1&gt;;&lt;home_dir2&gt;</code> と指定し、<code>&lt;home_dir1&gt;</code> が <b>WebLogic 6.0</b> または <b>6.1</b> のホームディレクトリの場合、ファイル <code>&lt;home_dir1&gt;/lib/weblogic.jar</code> が存在することを確認します。<code>&lt;home_dir1&gt;</code> が <b>WebLogic 7</b> または <b>8</b> のホームディレクトリの場合、ファイル <code>&lt;home_dir1&gt;/server/lib/weblogic.jar</code> が存在することを確認します。</li> <li>• <b>ADMIN_PORTS:</b> <b>WebLogic Admin</b> サーバーがリスンしているポートをセミコロンで区切ったリスト。<b>WebLogic Server</b> が仮想 IP アドレスでリスンしている場合、以下のようにそのアドレスも指定してください。たとえば、以下ようになります。 <code>ADMIN_PORTS=15.8.155.197:7001;7045</code> のようにします。ここで、<b>15.8.155.197</b> は、サーバーがリスンしている仮想 IP アドレスです。</li> <li>• <code>LOGIN=&lt;weblogic_user_id&gt;</code> および <code>PASSWORD=&lt;weblogic_user_password&gt;</code>: <code>&lt;weblogic_user_id&gt;</code> はこの SPI でサーバーを監視するために使用する <b>WebLogic</b> ユーザーであり、<code>&lt;weblogic_user_password&gt;</code> は、そのユーザーのパスワードです。 <b>注意:</b> このノードに複数の <b>WebLogic Admin</b> サーバーがあり、それらのサーバーが同一のログインおよびパスワードを共有していない場合、[Set Access Info for Default Properties] ウィンドウで [Login] と [Password] に最もよく使用される <b>WebLogic</b> ログインおよびパスワードを設定します。[Customize] を選択して設定エディタを起動し、サーバー固有レベルで <b>LOGIN</b>、<b>PASSWORD</b>、<b>NAME</b>、および <b>PORT</b> の各プロパティを設定します。<b>NAME</b> は <b>WebLogic Admin</b> サーバーの名前、<b>PORT</b> はこの <b>Admin</b> サーバーがリスンするポートです。 ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</li> </ul>

## WASSPI-324

説明	WebLogic レジストリ ファイル <filename> を読み取ることができません。
指示文	<p><b>原因</b> WebLogic レジストリ ファイルが存在しません。</p> <p><b>処置</b> ノードでファイルの有無を確認します。ファイルがない場合、ファイルは手動で削除されています。registry.xml ファイルは、<b>WebLogic</b> のインストール時に <b>BEA</b> ホーム ディレクトリ内に作成されます。このファイルは削除しないでください。このファイルの詳細は、<b>WebLogic</b> のインストールに関するドキュメントを参照してください。</p> <hr/> <p><b>原因</b> このファイルを含むディレクトリが、<b>BEA</b> ホーム ディレクトリでないにもかかわらず、ノードの <b>BEA_HOME_LIST</b> プロパティの値として設定されています。</p> <p><b>処置</b> ノードを選択し、<b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを起動します。 ノードに <b>BEA_HOME_LIST</b> が設定されていて、その値にレジストリ ファイルのディレクトリが含まれていないか確認します。ノードにこのディレクトリが存在しないか確認し、存在する場合は、このディレクトリに license.bea ファイルと registry.xml ファイルが含まれていないか確認します。 このディレクトリが存在しない場合、またはディレクトリにこれらのファイルが含まれていない場合、ノード内の正しい <b>BEA</b> ホーム ディレクトリを探し、<b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを使用して <b>BEA_HOME_LIST</b> プロパティに指定されている値を修正します。 ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</p>

## WASSPI-325

説明	セキュリティ アクセス エラー。ポート <port_number> の Weblogic Server <server> に LOGIN プロパティがありません。
指示文	<p><b>原因</b> WebLogic Server に LOGIN プロパティが設定されていません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 このサーバーに <b>WebLogic</b> ユーザーがまだ設定されていない場合、<b>WebLogic Administration Console</b> を使用して、この <b>SPI</b> でこのサーバーを監視するために使用するユーザーを作成します。</li><li>2 ノードを選択し、<b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを起動します。サーバーに正しい <b>LOGIN</b> プロパティと <b>PASSWORD</b> プロパティを設定します (既存の暗号化データを上書きします)。</li><li>3 ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</li></ol>

## WASSPI-326

説明	セキュリティアクセスエラー。ポート <port_number> の Weblogic Server <server> に PASSWORD プロパティがありません。
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic Server に PASSWORD プロパティが設定されていません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 このサーバーに WebLogic ユーザーがまだ設定されていない場合、WebLogic Administration Console を使用して、この SPI でこのサーバーを監視するために使用するユーザーを作成します。</li><li>2 ノードを選択し、Configure WLSSPI アプリケーションを起動します。サーバーに正しい LOGIN プロパティと PASSWORD プロパティを設定します (既存の暗号化データを上書きします)。</li><li>3 ノードを選択し、Discover WebLogic アプリケーションを起動します。</li></ol>

## WASSPI-327

説明	セキュリティアクセスエラー。ポート <port_number> の Weblogic Server <server> に LOGIN および PASSWORD プロパティがありません。
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic Server に LOGIN プロパティと PASSWORD プロパティが設定されていません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 このサーバーに WebLogic ユーザーがまだ設定されていない場合、WebLogic Administration Console を使用して、この SPI でこのサーバーを監視するために使用するユーザーを作成します。</li><li>2 ノードを選択し、Configure WLSSPI アプリケーションを起動します。サーバーに正しい LOGIN プロパティと PASSWORD プロパティを設定します (既存の暗号化データを上書きします)。</li><li>3 ノードを選択し、Discover WebLogic アプリケーションを起動します。</li></ol>

## WASSPI-328

説明	セキュリティアクセスエラー。ポート <port_number> の Weblogic Server <server> の LOGIN プロパティか PASSWORD プロパティ、またはその両方が無効です。
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic Server に設定されている LOGIN か PASSWORD、またはその両方が無効です。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 このサーバーに WebLogic ユーザーがまだ設定されていない場合、WebLogic Administration Console を使用して、この SPI でこのサーバーを監視するために使用するユーザーを作成します。</li><li>2 ノードを選択し、Configure WLSSPI アプリケーションを起動します。サーバーに正しい LOGIN プロパティと PASSWORD プロパティを設定します (既存の暗号化データを上書きします)。</li><li>3 ノードを選択し、Discover WebLogic アプリケーションを起動します。</li></ol>

## WASSPI-329

説明	ADMIN_PORTS プロパティが設定されている場合は、グローバルなログインとパスワードが必要です。
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>管理対象ノードに ADMIN_PORTS プロパティが設定されていますが、設定されている LOGIN プロパティ、PASSWORD プロパティ、またはその両方がグローバルではありません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 HPOM コンソールで <b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを使用して、ADMIN_PORTS プロパティに割り当てられている値を表示します。</li><li>2 <b>WebLogic Administration Console</b> を使用して、<b>WebLogic SPI</b> でサーバーを監視するために使用する <b>WebLogic</b> ユーザーを作成します (存在しない場合)。</li><li>3 HPOM コンソールで <b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを使用して、ノードの LOGIN プロパティと PASSWORD プロパティを設定します。 <b>注意</b>: ADMIN_PORTS プロパティに複数の <b>WebLogic</b> 管理サーバーのポートが設定されている場合、これらの <b>WebLogic</b> 管理サーバーに同じユーザー ID が設定されていることを確認します。それが不可能な場合は、管理サーバーに <b>NAME</b>、<b>PORT</b>、<b>LOGIN</b>、および <b>PASSWORD</b> の各プロパティを手動で設定する必要があります。</li><li>4 ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</li></ol>

## WASSPI-330

説明	設定されているログイン、パスワード、またはその両方がグローバルではありません。
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>設定されている LOGIN プロパティまたは PASSWORD プロパティがグローバルではありません。個々の <b>WebLogic</b> 管理サーバーにログインとパスワードが設定されている場合、グローバルなログインとパスワードは不要です。ただし、すべての <b>WebLogic</b> 管理サーバーが同じログインとパスワードを共有する場合、以下の手順でグローバルな LOGIN プロパティと PASSWORD プロパティを設定できます。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ノードに LOGIN プロパティと PASSWORD プロパティがまだ設定されていない場合、HPOM コンソールで <b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションを使用してプロパティを追加します。</li><li>2 ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</li></ol>

## WASSPI-381

説明	WebLogic SPI インストルメンテーションが見つかりません。
指示文	<p><b>原因</b></p> <p>WebLogic Discovery が正しく処理を行うために必要な一部のファイルが見つかりませんでした。</p> <p><b>処置</b></p> <p>アクション、コマンド、およびモニタをノードに配布します。</p>



## WASSPI-402

説明	ローカル ホストを取得できません。
指示文	<p><b>原因</b> 管理対象ノードのホストの IP アドレスが見つからないか、セキュリティ違反があったため、ホスト名が見つかりません。</p> <p><b>処置</b> システム管理者に連絡してください。</p>

## WASSPI-403

説明	WebLogic の Java インストール ディレクトリが見つかりません。
指示文	<p><b>原因</b> 管理対象ノードの各 BEA ホーム ディレクトリから Java インストール ディレクトリが手動で削除されたか、WebLogic インストール スクリプトで Java インストール ディレクトリがインストールされていません。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ノードで実行中の WebLogic Server で使用される Java インストール ディレクトリを見つけます。</li><li>2 ノードを選択し、Configure WLSSPI アプリケーションを起動します。ノードに JAVA_HOME プロパティを追加します。</li><li>3 ノードを選択し、Discover WebLogic アプリケーションを起動します。</li></ol>

## WASSPI-404

説明	weblogic.jar ファイルが見つかりません。
指示文	<p><b>原因</b> ノードに WebLogic Server がインストールされていません。</p> <p><b>処置</b> WebLogic Server が管理対象ノードにインストールされていることを確認します。</p> <hr/> <p><b>原因</b> Discovery が WebLogic Server のインストール ディレクトリを検出できませんでした。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 HPOM コンソールでノードを選択し、Configure WLSSPI アプリケーションを起動します。このノードの HOME_LIST プロパティを設定します。</li><li>2 ノードを選択し、Discover WebLogic アプリケーションを起動します。</li></ol>

## WASSPI-405

説明	SiteConfig ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。
指示文	<p><b>原因</b> 権限が正しくないか、ファイルまたはディレクトリが破損しています。</p> <p><b>処置</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>HP Operations</b> エージェントのユーザーがファイル %OvAgentDir%/wasspi/wls/conf/SiteConfig に書き込むには、この権限で正しいことを確認します。システム管理者に連絡し、修正を依頼してください。</li><li>2 ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</li><li>3 問題が引き続き発生する場合は、<b>Gather Info</b> アプリケーションを起動し、<b>HP</b> サポートに連絡します。サポート担当者に以下の情報を提供します。<ul style="list-style-type: none"><li>— 問題再現に関する手順やその他の情報</li><li>— <b>Gather Info</b> アプリケーションで生成されたファイル</li></ul></li></ol>

## WASSPI-406

説明	ノードの WLSSPI 設定の取得がタイムアウトになりました。
指示文	<p><b>原因</b> 管理サーバーと管理対象ノードとの通信に失敗しました。</p> <p><b>処置</b> ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。起動に失敗する場合は、システム管理者に連絡してください。</p> <hr/> <p><b>原因</b> WLSSPI 設定を取得するために管理サーバーから管理対象ノードにアクセスしましたが、2分経過しました。</p> <p><b>処置</b> ノードを選択し、<b>Discover WebLogic</b> アプリケーションを起動します。</p> <hr/> <p><b>原因</b> ノードで <b>WebLogic Discovery</b> を実行するときに <b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションが実行中でした。</p> <p><b>処置</b> 管理サーバーで <b>Configure WLSSPI</b> アプリケーションが実行中でないことを確認します。ノードを選択し、<b>Discovery WebLogic</b> の <b>Discovery</b> アプリケーションを起動します。</p> <hr/> <p><b>原因</b> 管理サーバーで <b>Discovery</b> スクリプトの実行に失敗しました。</p> <p><b>処置</b> 管理サーバー上で以下のトレース ファイルを開きます。 %OvInstallDir%/install/WASSPI/WLSSPI/English/Discovery/log トレース ファイルは &lt;node_name&gt;_disc_server.log です。&lt;node_name&gt; は、管理対象ノードのプライマリ ノード名です。トレース ファイルにエラー メッセージが含まれている場合は、以下の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ノードを選択し、<b>WLSSPI Admin</b> アプリケーション グループの <b>Gather Info</b> アプリケーションを起動します。</li> <li>2 <b>HP</b> サポートに連絡し、サポート担当者に以下の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>— 問題再現に関する手順やその他の情報</li> <li>— <b>Gather Info</b> アプリケーションで生成されたファイル</li> </ul> </li> </ol>

## その他のすべてのエラー

説明	WebLogic SPI エラー ログに不明なエラーが表示されています。
重要度	注意
指示文	<p>処置</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 WebLogic SPI エラー ログのエラー メッセージの後にあるテキストを参照して、問題を特定します。[登録アプリケーション] ウィンドウ内の [View Error File] アプリケーションを使用すると、管理対象ノードに関する SPI エラー ログを表示できます。エラー メッセージは、日付やタイムスタンプで識別できます。</li><li>2 ステップを特定して、問題を再現します。</li><li>3 トレース記録をオンにして、問題を再現します。トレース記録をオンにする方法については、『<i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド</i>』を参照してください。</li><li>4 Self-Healing Info アプリケーションを実行します。</li><li>5 前のステップで収集した情報を HP のサポート担当者に連絡してください。</li></ol>

## A ファイルの位置

WebLogic SPI 設定ファイルとエラー ログは特定のディレクトリにあります。

### HPOM 管理サーバーのファイルの位置

オペレーティング システム	ファイル	ファイルの位置
HP-UX	設定	/opt/OV/wasspi/wls/conf
Solaris	設定	/opt/OV/wasspi/wls/conf

### 管理対象ノードのファイルの位置

DCE ベースの管理対象ノード、またはすでに WebLogic SPI を実行しており、非 root HTTPS エージェント環境に切り替え中の UNIX 管理対象ノードのファイルの位置は以下のとおりです (UNIX のみ。これらのディレクトリが存在しない場合は、この後のファイル位置テーブルを参照してください)。

オペレーティング システム	ファイル	ファイルの位置
HP-UX、Solaris、Linux	設定	/var/opt/OV/wasspi/wls/conf
HP-UX、Solaris、Linux	エラー ログ	/var/opt/OV/wasspi/wls/log
AIX	設定	/var/lpp/OV/wasspi/wls/conf
AIX	エラー ログ	/var/lpp/OV/wasspi/wls/log
Windows (DCE)	設定	\usr\ov\wasspi\wls\conf
Windows (DCE)	エラー ログ	\usr\ov\wasspi\wls\log
Windows (HTTPS)	設定	\Program Files\HP OpenView\data\wasspi\wls\conf
Windows (HTTPS)	エラー ログ	\Program Files\HP OpenView\data\wasspi\wls\log

非 root HTTPS エージェント環境で新しく設定された WebLogic SPI 管理対象ノード (UNIX のみ) は以下のとおりです。

オペレーティング システム	ファイル	ファイルの位置
HP-UX、Solaris、Linux	設定	/var/opt/OV/conf/wlsspi
HP-UX、Solaris、Linux	エラー ログ	/var/opt/OV/log/wlsspi
AIX	設定	/var/lpp/OV/conf/wlsspi
AIX	エラー ログ	/var/lpp/OV/log/wlsspi

## B 設定

この付録には、設定構造についての詳細、設定エディタの使用方法、設定プロパティの説明、および設定例が記載されています。

### 構造

設定例については、[サンプル設定](#) ページの 183 を参照してください。以下では、設定の基本的な構造を示します。# が先頭に付いている行は、コメントとして無視されます。

```
# グローバル プロパティ
property=<value> ...

# GROUP ブロック
GROUP <group_name>
{
  <node_name> ...
}

# NODE ブロック
NODE <node_name | group_name>
{
  property=<value> ...
}
```

### グローバル プロパティ

```
# グローバル プロパティ
<property>=<value> ...
```

グローバル レベルで定義されたプロパティはすべてのノードに適用されます。グローバル プロパティは、**GROUP** または **NODE** ブロックで設定されるプロパティやサーバー固有のプロパティにより無効にできます。

### GROUP ブロック

```
# GROUP ブロック
GROUP <group_name>
{
  <node_name> ...
}
```

**GROUP** ブロックは、共通のプロパティを持つノードをまとめてグループ化するために使用します。<group\_name> は共通のプロパティを持つノードグループを示します。**GROUP** ブロック <group\_name> が設定ファイル内で繰り返し定義されている場合は、最後の定義が優先されます。

<nodename> はグループのノードを一覧表示するもので、**HPOM** で設定したプライマリ ノード名です。

**NODE** ブロックを使用して共通のプロパティを設定できます。



**GROUP** ブロックで指定したノード名は、**HPOM** で設定したプライマリ ノード名である、**HPOM** 変数 **\$OPC\_NODES** が返す値に一致します。

**GROUP** ブロックのプロパティを表示、設定、または編集するには、設定エディタで <Group\_Name> フォルダの **[Default Properties]** 項目を選択します。

## NODE ブロック

```
# NODE ブロック
NODE <node_name | group_name>
{
  <property>=<value> ...
}
```

**NODE** ブロックで設定されるプロパティは、グループの共通プロパティを設定するために <group\_name> で定義されるグループに属すノードや、単一のノードのプロパティを設定するために指定される <nodename> に属すノードに適用されます。

グループにプロパティを設定するには、**GROUP** ブロックで定義される <group\_name> を入力し、グループの共通プロパティを定義します。

単一のノードにプロパティを設定するには、<nodename> を入力し、プロパティを定義します。

<nodename> は、**HPOM** で設定したプライマリ ノード名です。

**NODE** ブロックでプロパティが繰り返し定義されている場合は、最後の定義が優先されます。

**NODE** ブロックのプロパティを表示、設定、または編集するには、設定エディタで <Node\_Name> フォルダの **[Default Properties]** 項目を選択します。

## サーバー固有のプロパティ

高度なプロパティを除き、サーバー固有のプロパティを表示、設定、または編集することもできます。SERVER<n>\_config\_property として指定される各プロパティは、**WebLogic Server** 固有のインスタンスを参照します。複数の **WebLogic Server** が指定の管理対象ノードで動作している場合は、番号 <n> でサーバーを区別します。番号は「1」から始まり、**WebLogic Server** の各インスタンスに一意の番号が割り当てられます。

## プロパティ優先順位

設定で定義されるプロパティの優先順位（高い順）は以下のようになります。

- 1 SERVER<n>\_property( サーバー固有 )
- 2 NODE <node\_name> {<property>} ( ノードについて定義されたプロパティ )
- 3 Nodes <group\_name> {<property>} ( グループについて定義されたプロパティ )
- 4 グローバル <property>



## 設定エディタ

設定エディタを使用して、設定を表示および編集できます。設定の更新にはこのエディタのみを使用する必要があります。

設定エディタの主なコンポーネントには、以下のものがあります。

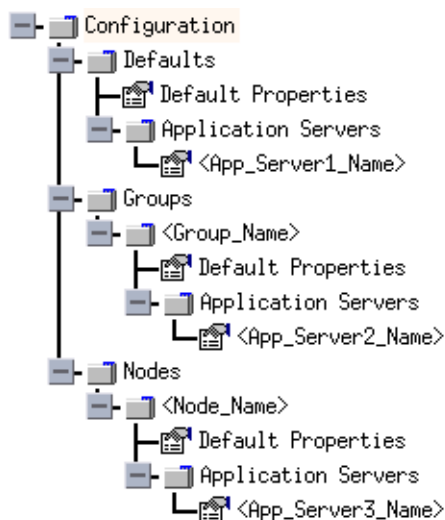
- ツリー
- ボタン
- アクション

### Configure WLSSPI: ツリー



[WLSSPI Configure Tool: Configuration Editor] ウィンドウの左側のペインに表示される **Configure WLSSPI** ツリーには、ツリー構造の **WebLogic SPI** 設定が表示されます。

以下にツリーの例を示します。

- ▶ アプリケーション サーバーまたはグループが設定されていない場合は、[Application Servers] フォルダおよび [Groups] フォルダは表示されません。ノードを選択せずに **Configure WLSSPI** アプリケーションを初めて起動した場合は、[Nodes] フォルダはツリーに表示されません。



ここで、アイコンは以下のように定義されます。

-  設定プロパティを表示できます。
-  設定プロパティを表示して、設定できます。

以下の表では、ツリーの各項目とその項目についての簡単な説明を示します。

項目名	説明
Application Servers	すべてのアプリケーション サーバーのリストが含まれます。このフォルダは、 <b>Defaults</b> (グローバル プロパティ)、 <b>Group_Name</b> (GROUP ブロック)、または <b>Node_Name</b> (NODE ブロック) の下に表示されます。
<Application_Server_Name>	WebLogic Server で定義されるサーバー名
Configuration	WebLogic 環境についてのすべての WebLogic SPI 設定情報を含みます。
Default Properties	設定されている設定プロパティのリスト。この項目は、 <b>Defaults</b> (グローバル プロパティ)、 <b>Group_Name</b> (GROUP ブロック)、または <b>Node_Name</b> (NODE ブロック) の下に表示されます。
Defaults	グローバル プロパティを表します。このレベルで設定されたデフォルト プロパティは、すべてのノードに適用されます。ただし、これらのプロパティは、 <b>Group_Name</b> と <b>Node_Name</b> フォルダで設定したプロパティで無効にできます (詳細は、 <a href="#">プロパティ優先順位</a> ページの 160 を参照してください)。
Groups	GROUP ブロックを表します。
<Group_Name>	共通プロパティを持つノード グループの名前を識別します。このレベルで設定されたデフォルト プロパティは、指定されたグループに属するすべてのノードに適用されます。これらのプロパティは、 <b>Node_Name</b> フォルダで設定されたプロパティで無効にできます (詳細は、 <a href="#">プロパティ優先順位</a> ページの 160 を参照してください)。
Nodes	NODE ブロックを表します。
<Node_Name>	HPOM 変数 \$OPC_NODES が返す値に一致する名前の単一のノードを表します。この値は、HPOM で設定したプライマリ ノード名です。このレベルで設定されるデフォルト プロパティは、指定されたノードのみに適用されます (詳細は、 <a href="#">プロパティ優先順位</a> ページの 160 を参照してください)。

## Configure WLSSPI: ボタン

WebLogic SPI 設定エディタでは、ボタンを使用していくつかの機能を実行できます。以下の表に、ボタンとその説明を示します。

ボタン	説明
Cancel	設定エディタを終了します。 アプリケーション サーバー、ノード、またはグループを追加または削除したり、設定プロパティを変更したりした後、変更を保存せずに <b>[Cancel]</b> をクリックすると、 <b>[Confirm Cancel]</b> ウィンドウが表示されます。変更を保存して終了するには <b>[Save and Exit]</b> 、変更を保存しないで終了するには <b>[Exit without Save]</b> 、また、設定の編集を続行するには <b>[Return to Editing]</b> (変更は保存されない) をクリックします。
Next	設定エディタを終了します。 <b>[Next]</b> をクリックすると、 <b>[Confirm Operation]</b> ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、 <b>Configure WLSSPI</b> を起動する前に選択していたノードのリストが表示されます。選択した管理対象ノードの設定は、ユーザーの変更で更新されます。選択しなかったノード ( <b>[Confirm Operation]</b> ウィンドウに表示されない) への変更は、HPOM 管理サーバーの設定に保存されます。選択しなかった管理対象ノードの設定に加えた変更を保存するには、登録ノードでこれらの管理対象ノードを選択し、 <b>Configure WLSSPI</b> を再起動してから終了します。
Finish	設定エディタを終了します。 ノードを選択せずに <b>Configure WLSSPI</b> を起動すると、 <b>[Next]</b> ボタンの代わりにこのボタンが表示されます。
Save	HPOM 管理サーバーの設定の変更を保存し、設定の編集を続行します。 <b>[File]</b> → <b>[Save]</b> をクリックし、変更を保存することもできます。

## Configure WLSSPI: アクション

実行できるアクションは、ツリーで選択した項目とアクションにアクセスする場所によって異なります。以下のアクションは、**[File]** メニューの **[Actions]** メニューから、またはツリーの項目を右クリックして、アクセスできます。

アクション	説明	選択されたツリー項目
Add Application Server	アプリケーション サーバーを追加します。詳細については、 <a href="#">Add Application Server</a> ページの 164 を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li> Application Servers</li> <li> Defaults</li> <li> &lt;Group_Name&gt;</li> <li> &lt;Node_Name&gt;</li> </ul>
Add Group	共通プロパティを持つノードを割り当てることができるグループを作成します。詳細については、 <a href="#">Add Group</a> ページの 165 を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li> ツリーのあらゆる項目</li> <li> ツリーのあらゆる項目</li> </ul>
Add Node	管理対象ノードを <b>[Nodes]</b> フォルダに追加します。詳細については、 <a href="#">Add Node</a> ページの 165 を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li> ツリーのあらゆる項目</li> <li> ツリーのあらゆる項目</li> </ul>

アクション	説明	選択されたツリー項目
Exit	設定エディタを終了します。このアクションは、[File] メニューから利用可能です。変更を保存していない場合、[Confirm Cancel] ウィンドウが表示されます。	ツリーのあらゆる項目 ツリーのあらゆる項目
Remove Application Server/Remove ALL App Servers	一覧表示されたアプリケーションサーバーの 1 つまたはすべてを削除します。詳細については、 <a href="#">Remove Application Server/Remove ALL App Servers</a> ページの 166 を参照してください。	Application Servers <Application_Server_Name>
Remove Group/Remove ALL Groups	一覧表示された WebLogic SPI グループの 1 つまたはすべてを削除します。詳細については、 <a href="#">Remove Group/Remove ALL Groups</a> ページの 166 を参照してください。	Groups <Group_Name>
Remove Node/Remove ALL Nodes	一覧表示された管理対象ノードの 1 つまたはすべてを削除します。詳細については、 <a href="#">Remove Node/Remove ALL Nodes</a> ページの 167 を参照してください。	Nodes <Node_Name>
Save	変更を設定に保存します。このアクションは設定に変更を加えた場合のみ、[File] メニューから利用可能です。	ツリーのあらゆる項目 ツリーのあらゆる項目
Set Configuration Properties	[Set Configuration Properties] タブをクリックして、WebLogic SPI 設定プロパティを設定できます。詳細については、 <a href="#">[Set Configuration Properties] タブ</a> ページの 167 を参照してください。	<Application_Server_Name> Default Properties
View Current Configuration	[View Configuration Settings] タブをクリックして、WebLogic SPI 設定プロパティを表示できます。詳細については、 <a href="#">[Set Configuration Properties] タブ</a> ページの 167 を参照してください。	ツリーのあらゆる項目 ツリーのあらゆる項目

## Add Application Server

WebLogic SPI 設定のグローバル プロパティ、GROUP、または NODE レベルで、WebLogic Server のインスタンスを追加できます。

ノードでサーバー名が重複している (NAME プロパティが同じ値に設定されている) 場合は、(各サーバーを一意に識別するための) ALIAS プロパティ設定のプロンプトが表示されます。ALIAS プロパティの詳細は、[プロパティの定義](#) ページの 171 を参照してください。

アプリケーションサーバーを追加するには、以下のステップを実行します。

- 1 [WLSSPI Configure Tool: Configuration Editor] ウィンドウで、ツリーに含まれる Defaults (グローバル プロパティ レベル)、Application Servers (グローバル プロパティ レベル)、<Group\_Name> (GROUP レベル)、または <Node\_Name> (NODE レベル) のいずれかを右クリックします。次に、**[Add Application Server]** を選択します。

[WLSSPI Configure Tool: Configuration Editor: Add App Server] ウィンドウが表示されます。

- 2 **[Application Server Name]** ボックスにサーバー名を入力します。これは、**WebLogic Server** で定義されたアプリケーション サーバーの名前で、大文字と小文字とを区別します。**WebLogic Administration Console** には、ドメインにあるすべての設定されたアプリケーション サーバーのサーバー名が表示されます。これらの名前を **[Application Server Name]** に使用します。
- 3 **[Application Server Port]** ボックスにポート名を入力します。これは、**WebLogic Server** がリスンするポートです。**WebLogic Administration Console** には、ドメインにあるすべての設定されたアプリケーション サーバーのポート番号が表示されます。これらを **[Application Server Port]** に使用します。
- 4 **[OK]** をクリックします。  
NAME および PORT プロパティが設定されます。  
アプリケーション サーバーが追加され、そのプロパティを表示できます。このサーバーに追加の設定プロパティを設定することもできます。詳細については、**[Set Configuration Properties]** タブ ページの 167 を参照してください。
- 5 **[Save]** を選択し、変更を保存します。  
このアプリケーション サーバーを追加したくない場合は、アプリケーション サーバー名を右クリックし、**[Remove Application Server]** を選択した後、**[Save]** をクリックします。

## Add Group


WebLogic SPI 設定で、共通プロパティを持つノードをグループに割り当てることができます。グループを追加するには、以下のステップを実行します。

- 1 **[WLSSPI Configure Tool: Configuration Editor]** ウィンドウで、ツリーに含まれる項目を右クリックし、**[Add Group]** を選択します。  
**[WLSSPI Configure Tool: Configuration Editor: Add Group]** ウィンドウが表示されます。
- 2 **[Enter the name of the Group]** ボックスにグループ名を入力します。このグループ名は共通プロパティを持つノード グループを識別し、大文字と小文字とを区別しません。
- 3 **[OK]** をクリックします。  
グループが追加され、そのグループの **[Set Configuration Properties]** タブが有効になります。
- 4 **[Add Node to Group]** をクリックし、リストからノードを 1 つ選択してグループに追加し、**[OK]** を選択します。すべてのノードをグループに追加し終えるまでこのステップを繰り返します。
- 5 **[Select a Property to Set]** ドロップダウン リストを使用して、このグループの設定プロパティを設定します。詳細については、**[Set Configuration Properties]** タブ ページの 167 を参照してください。
- 6 **[Save]** を選択し、変更を保存します。  
このグループを追加したくない場合は、グループ名を右クリックし、**[Remove Group]** を選択した後、**[Save]** を選択します。

## Add Node

管理対象ノードを WebLogic SPI 設定に追加するには、以下のステップを実行します。

- 1 **[WLSSPI Configure Tool: Configuration Editor]** ウィンドウで、ツリーに含まれる項目を右クリックし、**[Add Node]** を選択します。**[WLSSPI Configure Tool: Configuration Editor: Add Node]** ウィンドウが表示されます。

-  設定に追加できる管理対象ノードがない場合、次のメッセージが表示されます。  
All available managed nodes have been added to the configuration.  
[OK] をクリックして、このアクションを終了します。

- 2 ドロップダウンリストから、追加するノードを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。  
ノードが追加され、そのノードの [Set Configuration Properties] タブが有効になります。
- 4 [Select a Property to Set] ドロップダウンリストを使用して、このノードの設定プロパティを設定します。詳細については、[Set Configuration Properties] タブ ページの 167 を参照してください。
- 5 [Save] を選択し、変更を保存します。  
このノードを追加したくない場合は、ノード名を右クリックし、[Remove Node] を選択した後、[Save] を選択します。

## Remove Application Server/Remove ALL App Servers

WebLogic SPI 設定に一覧表示されている WebLogic Server を削除するには、以下のステップを実行します。

- 1 アプリケーションサーバー名を右クリックし、[Remove Application Server] を選択します。  
選択されたアプリケーションサーバー名はリストから削除され、その設定プロパティは設定から削除されます。
- 2 [Save] をクリックすると、そのアプリケーションサーバーが設定から完全に削除されます。  
[Cancel] をクリックすると、アプリケーションサーバーの削除をキャンセルします (このアプリケーションサーバー名は、Configure WLSSPI を次回起動するときに表示されます)。  
[Confirm Cancel] ウィンドウで、[Exit without Save] をクリックします。

すべてのアプリケーションサーバーを削除するには、以下のステップを実行します。

- 1 [Application Servers] フォルダを右クリックし、[Remove ALL App Servers] を選択します。  
選択された [Application Servers] フォルダと選択されたフォルダに一覧表示されたすべてのアプリケーションサーバーが削除されます (一覧表示されたアプリケーションサーバーのすべての設定プロパティが設定から削除されます)。
- 2 [Save] をクリックすると、それらのアプリケーションサーバーが完全に削除されます。  
[Cancel] をクリックすると、すべてのアプリケーションサーバーの削除をキャンセルします ([Application Servers] フォルダとフォルダに一覧表示されているすべてのアプリケーションサーバー名は、Configure WLSSPI を次回起動するときに表示されます)。  
[Confirm Cancel] ウィンドウで、[Exit without Save] をクリックします。

## Remove Group/Remove ALL Groups

WebLogic SPI 設定に一覧表示されている 1 つまたはすべての WebLogic SPI グループを削除するには、以下のステップを実行します。

- 1 グループサーバー名を右クリックし、[Remove Group] を選択します。  
選択されたグループはリストから削除され、その設定プロパティは設定から削除されます。
- 2 [Save] をクリックすると、そのグループが完全に削除されます。

**[Cancel]** をクリックすると、グループの削除をキャンセルします (このグループ名は、Configure WLSSPI を次回起動するときに表示されます)。 **[Confirm Cancel]** ウィンドウで、 **[Exit without Save]** をクリックします。

## Remove Node/Remove ALL Nodes

WebLogic SPI 設定に一覧表示されている管理ノードのいずれか 1 つを削除するには、以下のステップを実行します。

- 1 ノード名を右クリックし、 **[Remove Node]** を選択します。

選択されたノードはリストから削除され、その設定プロパティは設定から削除されます。

- 2 **[Save]** をクリックすると、そのノードが完全に削除されます。

**[Cancel]** をクリックすると、ノードの削除をキャンセルします (このノード名は、Configure WLSSPI を次回起動するときに表示されます)。 **[Confirm Cancel]** ウィンドウで、 **[Exit without Save]** をクリックします。

すべてのノードを削除するには、以下のステップを実行します。

- 1 **[Nodes]** フォルダを右クリックし、 **[Remove ALL Nodes]** を選択します。


選択された **[Nodes]** フォルダと選択されたフォルダに一覧表示されたすべてのノードが削除されます (一覧表示されたノードのすべての設定プロパティが設定から削除されます)。

- 2 **[Save]** をクリックすると、そのノードが完全に削除されます。

**[Cancel]** をクリックすると、すべてのノードの削除をキャンセルします (**[Nodes]** フォルダとこのフォルダに一覧表示されているすべてのノード名は、Configure WLSSPI を次回起動するときに表示されます)。 **[Confirm Cancel]** ウィンドウで、 **[Exit without Save]** をクリックします。

## [Set Configuration Properties] タブ

このタブでは、グローバルプロパティレベルで、または選択したアプリケーションサーバー、グループ (GROUP レベル)、またはノード (NODE レベル) について、WebLogic SPI 設定プロパティを設定できます。

 アイコンのついている項目に対してのみ、設定プロパティを設定できます (Default Properties と <Application\_Server\_Name>)。

項目の設定プロパティを設定するには、設定エディタで項目を選択し、右側のペインにある **[Set Configuration Properties]** タブをクリックします。

### プロパティの設定

設定のプロパティを設定するには、以下のステップを実行します。

- 1 設定エディタの **[Select a Property to Set]** ドロップダウンリストから、プロパティを選択します。
- 2 **[Set Property]** をクリックします。表にプロパティと空白値フィールドが表示されます。
- 3 空白値フィールドをクリックして、値を入力します。
- 4 設定する各プロパティについて、ステップ 1 ~ 3 を繰り返します。
- 5 **[Save]** をクリックします。



LOGIN および PASSWORD プロパティについては、 **[Set Property]** をクリックすると、別のウィンドウが表示されます。このウィンドウにログインとパスワードの値を入力します。

個々のプロパティの詳細は、 [設定プロパティ](#) ページの 170 を参照してください。

## プロパティの変更

設定でプロパティ (LOGIN 以外) を変更するには、以下のステップを実行します。

- 1 設定エディタで、変更するプロパティを選択します。
- 2 値フィールドをダブルクリックします。
- 3 値を編集します。  
ノードでサーバー名が重複している (NAME プロパティが同じ値に設定されている) 場合は、(各サーバーを一意に識別するための) ALIAS プロパティ設定のプロンプトが表示されます。ALIAS プロパティの詳細は、[プロパティの定義](#) ページの 171 を参照してください。
- 4 変更する各プロパティについて、ステップ 1 ~ 3 を繰り返します。
- 5 **[Save]** をクリックします。

設定で LOGIN プロパティを変更するには、以下のステップを実行します。

- 1 **[Select a Property to add]** ドロップダウンリストで、**[Login]** または **[Password]** を選択します。
- 2 **[Set Property]** をクリックします。**[Set Access Info for Default Properties]** ウィンドウが表示されます。
- 3 新しいパスワードを入力し、パスワードを確認します。**[OK]** をクリックします。
- 4 **[Save]** をクリックします。

個々のプロパティの詳細は、[設定プロパティ](#) ページの 170 を参照してください。

## プロパティの削除

設定のプロパティを削除するには、以下のステップを実行します。

- 1 設定エディタで、削除するプロパティを選択します。
- 2 **[Remove Property]** をクリックします。
- 3 削除する各プロパティについて、ステップ 1 と 2 を繰り返します。
- 4 **[Save]** をクリックします。

## AUTO\_DISCOVER

ウィンドウの一番下近くに表示される **[AUTO\_DISCOVER]** チェック ボックスで、**AUTO\_DISCOVER** プロパティを設定します。このプロパティの設定は、チェック ボックスを選択するか選択解除するかのみです。

チェック ボックスを選択する (デフォルト) と、配信された **Discovery** テンプレートによりサービス マップと設定にある **WebLogic SPI** 設定情報が自動的に更新されます。**Discovery** テンプレートが配信されていない場合、サービス マップは作成されますが更新されません。

## [View Current Configuration] タブ

このタブを使用すると、HPOM 管理サーバーの設定で設定されたすべての **WebLogic SPI** 設定プロパティや、選択されたアプリケーションサーバー、グループ、またはノードの **WebLogic SPI** 設定プロパティを表示できます。

項目の設定プロパティを表示するには、設定エディタで項目を選択し、右側のペインにある **[View Configuration Settings]** タブをクリックします。



以下の表は、特定の項目が選択された場合の表示について説明しています。

項目名	表示の説明
Application Servers	一覧表示されたすべてのアプリケーション サーバーに設定されている設定プロパティをすべて表示します。
<Application_Server_Name>	アプリケーション サーバーに設定されたすべての設定プロパティを表示します (これらのプロパティは、 <b>[Set Configuration Properties]</b> タブを選択して変更できます)。
Configurations	HPOM 管理サーバーの設定に保存されたすべての設定プロパティを表示します。
Default Properties	設定されたすべての設定プロパティを表示します (これらのプロパティは、 <b>[Set Configuration Properties]</b> タブを選択して変更できます)。
Defaults	グローバル プロパティ レベルで設定されたすべての設定プロパティを表示します。
Groups	すべての一覧表示されたグループに設定されたすべての設定プロパティを表示します。
<Group_Name>	特定のグループに設定されたすべての設定プロパティを表示します。
Nodes	一覧表示されたノードに設定されたすべての設定プロパティを表示します。
<Node_Name>	特定のノードに設定されたすべての設定プロパティを表示します。

### View Inherited Properties

ウィンドウの一番下近くに、**[View Inherited Properties]** チェック ボックスが表示されます。このチェック ボックスを選択すると、設定プロパティの表示が変わり、選択した項目に影響を与えるすべての継承されたプロパティ (これらのプロパティは、グローバル プロパティ レベルまたは **GROUP** レベルで定義されています) が表示されます。継承されたプロパティは、プロパティの後ろに「<\*>」を付けて表示されます。

**[View Inherited Properties]** チェック ボックスを選択解除すると、選択された項目のレベルで設定された設定プロパティのみが表示されます。

継承されたプロパティは、そのプロパティが設定されたレベルでしか変更できません。プロパティの後に「<\*>」がついている場合、そのプロパティはそのレベルでは変更できません。たとえば、プロパティ **HOME** がグローバル プロパティ レベル (**[Defaults]** フォルダの下) で設定されている場合は、**[Defaults]** フォルダの下で一覧表示される **[Default Properties]** でしか変更できません。**HOME** は (後ろに「<\*>」をつけて) <Group\_Name> の **[Default Properties]** に表示されますが、このレベルでは変更できません。

ツリーで下位に設定されているプロパティは、ツリーで上位に設定されているプロパティよりも優先されます。たとえば、プロパティ **HOME** がグローバル プロパティ レベル (**[Defaults]** フォルダの下) と **GROUP** レベルで設定されている場合、**GROUP** レベル プロパティの値が優先されます。

設定プロパティの優先順位は、以下のようになります (高い順に一覧表示)。

- 1 サーバー固有
- 2 **NODE** レベル
- 3 **GROUP** レベル
- 4 グローバル プロパティ レベル

## 設定プロパティ

WebLogic SPI は、検出プロセスにより検出されたプロパティ値やユーザー定義のプロパティ値を含む設定を保持します。

表 16 は、WebLogic SPI 要件による以下のプロパティを一覧表示します。

プロパティ	プロパティ名
要件	特定のコンポーネントのプロパティ要件を一覧表示します。以下の表記法を使用します。 <b>R</b> - 必須：プロパティを設定する必要があります。 <b>C</b> - 条件付：一定の条件に合えば、プロパティを設定する必要があります。 <b>O</b> - オプション：コンポーネントが動作するためにプロパティは必要ありません。 ブランク - 適用不可：プロパティはこのコンポーネントに影響を与えません。
WebLogic SPI	WebLogic SPI が動作するための設定要件
検出プロセス	検出プロセスが動作するための要件
自動検出	検出プロセスで自動的に設定されるプロパティ
設定のレベル	設定構造でこのプロパティが設定できるレベル
Default Properties	設定構造のグローバル、グループ、またはノード レベル
アプリケーション サーバー	設定構造のサーバー固有のレベル

これらのプロパティの詳細は、表 17 を参照してください。

## プロパティの定義

表 16 WebLogic SPI 要件に一覧表示されるプロパティ

プロパティ	要件		自動検出	設定のレベル	
	WebLogic SPI	検出プロセス		Default Properties	アプリケーションサーバー
HOME	R	O	✓	✓	✓
JAVA_HOME	R	C	✓	✓	✓
LOGIN	R	R		✓	✓
NAME	R		✓		✓
PASSWORD	R	R		✓	✓
PORT	R		✓		✓
ADDRESS	C	O	✓ <sup>a</sup>		✓
ADMIN_HOST	C		✓		✓
ADMIN_PORTS	C		✓		✓
ADMIN_PORTS	C	C		✓	
ALIAS	C				✓
AUTO_DISCOVER	C			✓	✓
BEA_HOME_LIST	C	O	✓	✓	
COLLECT_METADATA	C	O		✓	✓
GRAPH_URL	C			✓	
HOME_LIST	C	C		✓	
JMB_JAVA_HOME	C			✓	✓
JMX_CLASSPATH	C			✓	✓
KEYSTORE	C			✓	✓
LOGFILE	C				✓
NODE_NAMES	C	C			✓
PASSPHRASE	C			✓	✓
PROTOCOL	C			✓	✓
RMID_PORT	C			✓	
RMID_START_TIME	C			✓	
START_CMD	C				✓
STOP_CMD	C				✓
USER	C			✓	✓
URL_PATH	C				✓
VERSION	C		✓		✓
EXCLUDE_SAMPLES	O			✓	✓
MAX_ERROR_LOG_SIZE	O			✓	
TIMEOUT	O			✓	✓

表 16 WebLogic SPI 要件に一覧表示されるプロパティ ( 続き )

プロパティ	要件		自動検出	設定のレベル	
	WebLogic SPI	検出プロセス		Default Properties	アプリケーションサーバー
TYPE	0			✓	✓
UDM_DEFINITIONS_SOURCE	0			✓	✓

- a. WebLogic Admin サーバーが、仮想 IP アドレスをリスンしているリモート WebLogic Server を管理している場合、リモート WebLogic Server が動作している管理対象ノードを HPOM のエイリアスで設定し、ADDRESS が自動的に検出されるようにする必要があります。HPOM で仮想 IP アドレスを設定するには、ADDRESS プロパティの説明のセクションを参照してください。

▶ 表 17 では、アプリケーションサーバー A に何度か言及しています。アプリケーションサーバー A は、プロパティを設定している WebLogic Application Server を指します。

表 17 設定プロパティ

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須 / 条件付 / オプション	説明
ADDRESS	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 サーバーが仮想 IP アドレスで動作している場合、リモート ノードにある場合、またはそのノードのプライマリ IP アドレスを使用していない場合に必要です。	サーバーがリスンしているドメイン名または IP アドレス。ADDRESS が設定されていない場合、WebLogic SPI はノードのプライマリ アドレスを使用してサーバーに接続します。 例： SERVER1_ADDRESS = product.hp.com
ADMIN_HOST	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 Start WLS Console アプリケーションを使用して、WebLogic コンソールの起動と停止を行う場合に必要です。	実行中のアプリケーションサーバー A を管理している WebLogic 管理サーバーが動作しているノード名。このプロパティは、WebLogic Server Console アプリケーションを起動するために設定する必要があります。 例：SERVER1_ADMIN_HOST=localhost
ADMIN_PORTS	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 Start WLS Console アプリケーションを使用して、WebLogic コンソールの起動と停止を行う場合に必要です。	アプリケーションサーバー A を管理している WebLogic 管理サーバーのポート。WebLogic Server Console アプリケーションを起動するために設定する必要があります。 例：SERVER1_ADMIN_PORT=7005

表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須/ 条件付/ オプション	説明
ADMIN_PORTS	6.1、7.0、 8.1、9.x、 10.0	条件付 WebLogic Admin サー バーのドメイン設定ファ イルがデフォルトディレ クトリにない場合に必要 です。	<p>以下に示すデフォルト ディレクトリに ドメイン設定ファイル (config.xml) がない WebLogic Admin サーバーのポート番号。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• WebLogic 6.x の場合 &lt;WebLogic_Install_Dir&gt;/ config/&lt;WebLogic_Domain&gt;/</li> <li>• WebLogic 7 または 8 の場合 &lt;BEA_Home_Dir&gt;/user_projects/ &lt;WebLogic_Domain&gt;/</li> <li>• WebLogic 9.x、10.0 の場合 &lt;BEA_Home_Dir&gt;/user_projects/ domains/&lt;domain_name&gt;</li> </ul> <p>ここで、&lt;WebLogic_Install_Dir&gt; は WebLogic Server がインストールされているディレ クトリであり、&lt;BEA_Home_Dir&gt; は registry.xml ファイルを格納しているディ レクトリです。また、&lt;WebLogic_Domain&gt; は WebLogic のドメイン名です。</p> <p>WebLogic Admin サーバーが仮想 IP アドレスをリスンしている場合、ポート番号の 前にコロンで区切って、この仮想 IP アドレス を含めます。たとえば、 &lt;virtual_ip_address&gt;:&lt;port_number&gt; のようにします。</p> <p>WebLogic Admin サーバーで使用する LOGIN と PASSWORD を NODE ブロック レベルで設定する必要があります。同 一ノード上で実行されているすべての WebLogic Admin サーバーには、同じ LOGIN と PASSWORD を設定してください。このプロ パティで設定するポート番号は、WebLogic Admin サーバーが使用するポートです。</p>

表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須/ 条件付/ オプション	説明
ALIAS	6.1、7.0、 8.1、9.x、 10.0	条件付 システム上で複数のアプリケーションサーバーが同じサーバー名を共有している場合に必要です。	<p>管理対象ノード上の複数のアプリケーションサーバーが同じサーバー名を共有する場合に、ノード上の各アプリケーションサーバーに割り当てられる一意の名前。エイリアスが設定されている場合、メッセージ、レポート、グラフの名前としてエイリアスが使用されます ( 設定されていない場合は <b>NAME</b> を使用します )。</p> <p><b>ALIAS</b> を変更する場合、古いエイリアスのデータは保存されますが、新しいエイリアスへのマップは行われません。</p> <p><b>例 :</b></p> <pre> NODE petstore.hp.com {   SERVER1_NAME=dog   SERVER1_ALIAS=beagle   SERVER2_NAME=dog   SERVER2_ALIAS=dachshund }  NODE flying_ace.hp.com {   SERVER1_NAME=snoopy   SERVER1_ALIAS=beagle   SERVER2_NAME=snoopy   SERVER2_ALIAS=red_baron } </pre>
AUTO_DISCOVER	6.1、7.0、 8.1、9.x、 10.0	条件付 検出ポリシーにより設定情報が自動的に上書きされないようにする場合に必要です。	<p>設定エディタの <b>[AUTO_DISCOVER]</b> チェックボックスを選択し、サービスマップと設定にある <b>WebLogic Server</b> 設定情報を自動的に更新します。</p> <p><b>WebLogic Server</b> 設定を手動で設定し、検出ポリシーによる自動での設定情報の上書きを行わない場合は、設定エディタの <b>[AUTO_DISCOVER]</b> チェックボックスを選択解除します。</p>

表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須 / 条件付 / オプション	説明
BEA_HOME_LIST	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 WebLogic Server ソフトウェアレジストリが管理対象ノード上に存在しない場合に必要です。	<p>すべての WebLogic 製品が使用するソフトウェアレジストリ。これには、システムにインストールされているすべての WebLogic 製品についての情報が含まれています。</p> <p>BEA のインストールスクリプトを使用せずに WebLogic Server をインストールすると、ソフトウェアレジストリは作成されません。</p> <p>UNIX 管理対象ノード上では、ソフトウェアレジストリはファイル \$HOME/boa/beahomelist で作成されます。ここで、\$HOME は、WebLogic Server をインストールしたユーザーのホームディレクトリです。Windows 管理対象ノード上では、ソフトウェアレジストリはファイル beahomelist に作成されるか、または BEAHOMELIST レジストリで定義されます。</p> <p>UNIX 管理対象ノード上では、スペースを含むディレクトリ名はサポートされていません。</p> <p>ソフトウェアレジストリが存在せず、このプロパティが設定されていない場合、Discovery テンプレートはエラーメッセージを生成します。</p>
COLLECT_METADATA	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 JMX Metric Builder アプリケーションで MBean Explorer を使用する場合に必要です。	<p>COLLECT_METADATA の値を ON に設定すると、JMX Metric Builder アプリケーションで表示されるメタデータ (MBean 情報) が収集されます。このメタデータを使用して UDM (ユーザー定義メトリック) が作成されます。</p> <p>各 MBean サーバー用のメタデータは、以下のファイルに保存されます。/var/opt/OV/wasspi/wls/metadata/&lt;managed_node&gt;/&lt;NAME ALIAS&gt;.xml、 /var/opt/OV/metadata/wls/&lt;managed_node&gt;/&lt;NAME ALIAS&gt;.xml、 または \&lt;%OvAgentDir%&gt;\wasspi\wls\metadata\&lt;managed_node&gt;\&lt;NAME ALIAS&gt;.xml ここで NAME および ALIAS は管理対象ノードに対して設定されるプロパティで、ALIAS が設定されている場合、常にその名前が使用されます。</p> <p>デフォルト :OFF</p>

表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須 / 条件付 / オプション	説明
EXCLUDE_SAMPLES	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	オプション	<p>この値を <b>true</b> に設定すると、WebLogic Server サンプル プログラムを検出しません。これにより、検出プロセスにかかる時間が短縮されます。サンプル プログラムは、以下のディレクトリにあります。</p> <p><b>WebLogic 6.1</b>            &lt;WL_Install_Dir&gt;/config/examples            &lt;WL_Install_Dir&gt;/config/petstore</p> <p><b>WebLogic 7、8、9.x、および 10.0</b>            &lt;WL_Install_Dir&gt;/samples/domains/medrec</p> <p><b>デフォルト :false</b></p> <p><b>例 : EXCLUDE_SAMPLES = true</b></p>
GRAPH_URL	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 View Graphs アプリケーションを使用する場合に必要です (HP Open View Performance Manager のインストールが必要)。	<p>HP Performance Manager の起動に使用する URL。GRAPH_URL プロパティはグローバルレベルでのみ設定します。</p> <p><b>例 :</b> GRAPH_URL = http://system1.hp.com/HPOV_Reports/ovpm.htm (Windows 上の OVPM 4)</p> <p>GRAPH_URL = http://system2.hp.com:8080/OVPM/index.html (UNIX および Windows 上の OVPM 5)</p>
HOME	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	必須	<p>WebLogic Server がインストールされているディレクトリ。</p> <p><b>例 :</b> HOME = /opt/bea/wlserver6.0sp1</p>
HOME_LIST	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 BEA registry.xml ファイルが正確でない、または見つからない場合に必要です。BEA のインストール スクリプトを使用せずに WebLogic Server ソフトウェアおよびサービス パックをインストールした場合、この問題が発生することがあります。	<p>WebLogic Server がインストールされているディレクトリのリスト。各ディレクトリはセミコロンで区切られます。このリストは検出で使用されます。</p> <p>UNIX 管理対象ノード上では、スペースを含むディレクトリ名はサポートされていません。</p>
JAVA_HOME	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	必須 Java がインストールされているディレクトリが複数ある場合、検出プロセスで必要になります。	<p>コレクタで使用される Java がインストールされているディレクトリ。Java エンジン は、\$JAVA_HOME/bin/java にあります。</p> <p><b>例 :</b> JAVA_HOME = /opt/bea/jdk130</p>



表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須 / 条件付 / オプション	説明
JMB_JAVA_HOME	なし	条件付 JMX Metric Builder を使用している場合に必要です。	Java (JDK 1.4.1 以上) がインストールされているディレクトリ。これは、HPOM 管理サーバー上で JMX Metric Builder が使用する Java です。JDK のバージョンは 1.4.1 以上でなければなりません。
JMX_CLASSPATH	なし	条件付 JMX コネクタを使用して WebLogic 以外の MBean サーバーを監視している場合に必要です。	JMX を実装している jar ファイルの場所。 例: JMX_CLASSPATH = /opt/JMX/Sun/lib/jmxri.jar
KEYSTORE	8.1、9.x、10.0	条件付 SSL を使用する場合に必要です。	SSL トラスト キーストア ファイルへの完全修飾パス。 デフォルト: WebLogic のデモのキーストア
LAUNCH_DIR	6.1	条件付 一定の WebLogic 設定においてのみ必要です。説明を参照してください。	WebLogic Server が起動するディレクトリ名。これは、WebLogic Server 設定で絶対ログファイル名が設定されておらず、WebLogic Server を HOME から起動しない場合にのみ必要です。 例: SERVER1_LAUNCH_DIR = /opt/wlsappphome
LOGFILE	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 WebLogic Server が返すログファイル名が、監視したいログファイル名ではない場合にのみ必要です。	WebLogic Server ログ ファイルの完全修飾パスで指定されたファイル名をコンマ区切りで記述したリスト。 指定したサーバー上のログファイルに対する監視に関して、このプロパティでの設定が優先されます。これにより、このプロパティが設定されていない場合に監視されるログファイルが監視対象外となることがあります。 デフォルト: <home>/<NAME>/weblogic.log
LOGIN	6.1	必須	他のユーザーが適切な権限で定義されていない場合の admin ユーザー名 ( 通常は system)。詳細については、 <a href="#">タスク 2: WebLogic Server ユーザーを設定する</a> ページの 42 を参照してください。 デフォルト: guest。 例: SERVER1_LOGIN = janedoe
LOGIN	7.0、8.1、9.x、10.0	必須	インストールで設定された WebLogic Server admin ユーザー。 例: SERVER1_LOGIN = johndoe

表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須 / 条件付 / オプション	説明
MAX_ERROR_LOG_SIZE	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 2MB を超えるエラー ログ ファイルを要する場合に必要です。	エラー ログ ファイルに認められる最大サイズ。エラー ログ ファイルのサイズが上限に達した場合、そのファイルはバックアップ ファイルとして名前を変更され、ログ記録が再開されます。新しいバックアップ ファイルで古いバックアップ ファイルが置換されると、古いバックアップ ファイルは削除されます。 <b>デフォルト: 2MB</b> <b>例:</b> MAX_ERROR_LOG_SIZE = 20
NAME <sup>a</sup>	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	必須	WebLogic Server で定義されるサーバー名。WebLogic Administration Console を使用して、この情報を入手します。システムが同じサーバー名を共有する (NAME の値が NODE ブロック内で同じ) 場合、ALIAS を使用して各サーバーを一意に識別します。ALIAS が設定されていない場合、この同じサーバー名がメッセージ、レポート、およびグラフで使用されます。 <b>例:</b> SERVER1_NAME = exampleServer
NODE_NAMES	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 リモート WebLogic Server が仮想 IP アドレスで動作している場合に必要です。	サーバーがリスンしている仮想 IP アドレス。NODE_NAME がリモート WebLogic Server に設定されていない場合は、自動的に検出されません。 <b>例:</b> SERVER1_NODE_NAMES = 15.19.20.21
NUM_SERVERS	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	オプション	管理対象ノード上の WebLogic Server の数。 <b>例:</b> NUM_SERVERS = 3
PASSPHRASE	8.1、9.x、10.0	条件付 設定されているキーストアが読み取り操作にパスワードを要する場合に必要です。	WebLogic Server 上にキーストアが作成されたときに定義されたパスフレーズ。キーストアをパスワード付きで定義しなかった場合は、このプロパティは設定しません。 PASSPHRASE に入力すると、GUI では平文 (タイプした通りのテキスト) で表示されます。プロパティの保存や GUI の表示変更を行うと、PASSPHRASE は暗号化されます。 PASSPHRASE には最低 2 文字を含める必要があります。

表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須 / 条件付 / オプション	説明
PASSWORD	6.1	必須	<p>LOGIN のためのパスワード。LOGIN が指定されていない場合は、<b>USER</b> として <b>Guest</b> ログインが使用されます。</p> <p>例： SERVER1_PASSWORD = janedoe123</p>
PASSWORD	7.0、8.1、9.x、10.0	必須	<p>LOGIN のためのパスワード。LOGIN が設定されている場合、パスワードを定義する必要があります。</p> <p>例： SERVER1_PASSWORD = johndoe123</p>
PORT	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	必須	<p>WebLogic Server がリスンするポート。<b>WebLogic Administration Console</b> を使用して、ポート番号を入手します。</p> <p>例：SERVER1_PORT = 7001</p>
PROTOCOL	8.1、9.x、10.0	条件付 アプリケーション サーバー ポートで SSL を使用している場合に必要です。	<p>アプリケーション サーバー ポートが <b>SSL</b> または <b>非 SSL</b> を使用している場合に指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• t3 ( 非 SSL )</li> <li>• t3s ( SSL )</li> </ul> <p>PROTOCOL を設定しない場合、デフォルトの t3 が使用されます。PROTOCOL を設定して <b>[Set Property]</b> をクリックすると、デフォルト値は t3s に設定されます。</p> <p>無効な PROTOCOL を設定した場合や、PROTOCOL がアプリケーション ポートと一致しない場合、HPOM はアプリケーション サーバーが停止中であるとレポートします。</p>

表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須 / 条件付 / オプション	説明
RMID_PORT	8.1、9.x、10.0	条件付 rmid がリスンするデフォルトポートがすでに使用中の場合に必要です。	<p>rmid がリスンするポート。</p> <p>HPOM 管理対象ノードがアプリケーションサーバーと JMX コネクタを使用する MBean サーバーを監視する場合、SPI はデフォルトで 2 つのポート ( 一方はアプリケーションサーバー用、他方は MBean サーバー用 ) を使用します。たとえば、WebLogic Server と MBean サーバーを監視する場合、SPI はポート 9240 と 9241 をそれぞれ使用します。</p> <p>ただし、RMID_PORT が設定されている場合は、SPI はすべてのサーバー用に単一のポートを使用します。たとえば、WebLogic Server と MBean サーバーを監視し、RMID_PORT を 9250 に設定すると、SPI はポート 9250 のみを両方のサーバーに使用します。</p> <p>このプロパティはアプリケーションサーバーレベルでは設定できません。</p> <p><b>デフォルト : WebLogic Server: 9240、JMX コネクタ : 9241</b></p> <p><b>例 : RMID_PORT = 9250</b></p>
RMID_START_TIME	8.1、9.x、10.0	条件付 rmid の起動に 30 秒以上かかる場合に必要です。	<p>rmid の起動のタイムアウト時間 ( 秒 ) 。</p> <p><b>デフォルト : 30 ( 秒 )</b></p> <p><b>例 : RMID_START_TIME = 60</b></p>
START_CMD	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 HPOM コンソールから WebLogic Server を起動する場合に必要です。	<p>このシステム コマンドは、Start WebLogic アプリケーションの使用時に実行します。また、このコマンドは USER により実行されます。Start WebLogic アプリケーションを動作させるには、USER を設定しておく必要があります。</p> <p><b>注意 :</b> このコマンドは終了する必要があります。したがって、WebLogic Server プロセスはバックグラウンドで、またはサービスとして実行してください。親プロセスが強制終了されないように保護する必要があります。</p> <p><b>例 : SERVER1_START_CMD = /sbin/init.d/weblogic start</b></p>
STOP_CMD	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 HPOM コンソールから WebLogic Server を停止する場合に必要です。	<p>このシステム コマンドは、Stop WebLogic アプリケーションの使用時に実行します。また、このコマンドは USER により実行されます。Start WebLogic アプリケーションを動作させるには、USER を設定しておく必要があります。</p> <p><b>例 : SERVER1_STOP_CMD = /sbin/init.d/weblogic stop</b></p>

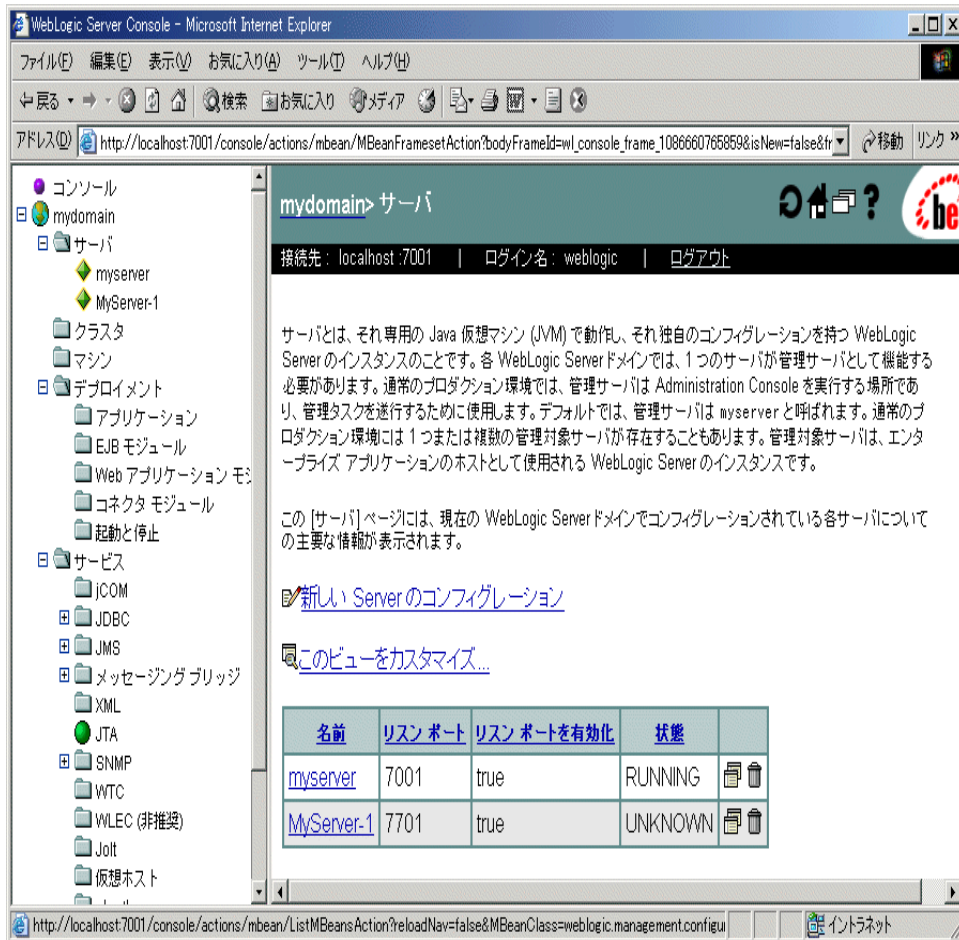
表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須 / 条件付 / オプション	説明
TIMEOUT	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	オプション	<p>WebLogic SPI が WebLogic Server に接続を試行することが可能な時間の最大値 ( 秒単位 )。指定された時間を超えた場合、WebLogic SPI はメッセージブラウザに WebLogic Server が利用できないことを示す警告通知を送信します。メトリック B002_ServerStatusRep が収集されると、サーバーの利用不能状況がログ記録されます。</p> <p>時間制限が不要である場合は、このプロパティを -1 に設定します。</p> <p>デフォルト : 120 ( 秒 )</p>
TYPE	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	オプション JMX コネクタを設定する場合に必要です。	<p>JMX コネクタのタイプ。JMX コネクタを設定する場合は、TYPE に ovrmi を設定します。</p> <p>WebLogic の MBean サーバーを使用している場合は、TYPE のデフォルト値を変更しないでください。</p> <p>デフォルト : weblogic</p> <p>例 : SERVER1_TYPE=weblogic</p>
UDM_DEFINITIONS_SOURCE	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	オプション	<p>HPOM 管理サーバー上のメトリック定義 XML ファイルへのパス名、またはこのファイルのファイル名。パス名が設定されていると、wasspi_wls_udmDefinitions.xml ファイルは UDM ファイルのファイル名と見なされます。</p> <p>デフォルト : /opt/OV/wasspi/wls/conf/wasspi_wls_udmDefinitions.xml</p> <p>例 : SERVER1_UDM_DEFINITIONS_SOURCE = /opt/OV/wasspi/wls/conf/udm.xml</p>
URL_PATH	9.x、10.0	条件付	<p>JSR-160 コネクタ サーバーの URL のパス部分。</p> <p>例 : SERVER1_URL_PATH=jndi/weblogic.management.mbeanservers.domainruntime</p>
USER	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 HPOM コンソールから WebLogic Server を起動または停止する場合に必要です。	<p>HPOM コンソールから WebLogic Server の起動と停止を行うためのシステム ユーザー名。</p> <p>デフォルト : HP Operations エージェントが実行するユーザー名です。</p> <p>例 : USER = weblogic</p>

表 17 設定プロパティ ( 続き )

プロパティ	適用可能な WebLogic バージョン	必須 / 条件付 / オプション	説明
VERSION	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	条件付 WebLogic Versions 7 および 8 の場合に必要です。	<p><b>Major# [Minor#]</b> 形式の WebLogic Server のバージョン番号。</p> <p><b>Major#:</b> プライマリ バージョン番号 (たとえば、6.1 または 7.0)。</p> <p><b>Minor#:</b> インストールされたサービス パック (たとえば、SP1 の場合は 1)。<b>Minor#</b> が指定されていない場合は、デフォルトの 0 に設定されます (サービス パックはインストールされません)。バージョン 6.1 には、サービス パックをインストールする必要があります (サポートされているサービス パックのリストについてのリリース ノートを参照してください)。</p> <p><b>例:</b> SERVER1_VERSION = 6.1 3</p>

- a. WebLogic Administration Console には、ドメインにあるすべての設定されたアプリケーションのサーバー名とポート番号が表示されます。NAME と PORT を定義する場合に、これらの名前と番号を使用します。



## サンプル設定

以下の例では、さまざまな機能と使用方法が示されています。

### 例 1: 単一のノード / 2 つのサーバー

以下の例は、単一のノードで管理サーバーと管理対象サーバーの 2 つのサーバーを実行するためのものです。プロパティ **HOME** と **JAVA\_HOME** は、すべてのサーバーとノードに適用するグローバル デフォルトです。設定が保存されると、パスワードは暗号化されます。

```
HOME = /opt/bea/wlserver6.1
JAVA_HOME=/opt/bea/jdk131
NODE main.rose.hp.com
{
  SERVER1_NAME= adminserver
  SERVER1_PORT= 7001
  SERVER1_LOGIN= system
  SERVER1_PASSWORD = password
  SERVER2_NAME= managedserver
  SERVER2_PORT= 7005
  SERVER2_LOGIN= system
  SERVER2_PASSWORD= password
}
```

## 例 2: 複数のノード / 繰り返されるプロパティ

以下の例は、多くのプロパティが共通している関連システムのグループを設定する方法を示しています。ただし、異なる設定が必要なプロパティを 1 つか 2 つ含むノードもあります。このような状況には、以下の 2 つの手順で対応できます。

- 1 設定エディタの **[Add Group]** アクションを使用してグループに名前を付け、その中のノードを指定して、設定プロパティを設定します。詳細については、**Add Group** ページの 165 を参照してください。
- 2 設定エディタの **[Add Node]** アクションを使用して、個々のノードのプロパティを定義します (グループにないノード、または一意のプロパティあるいは別のプロパティを持つグループにあるノード、のいずれか)。詳細については、**Add Node** ページの 165 を参照してください。

▶ ノードに設定されたプロパティは、グループに設定された同じプロパティよりも優先されます。プロパティの優先順位の完全な順序については、**プロパティ優先順位** ページの 160 を参照してください。

例では、グローバル デフォルト プロパティ **HOME** と **JAVA\_HOME** がノード **europa.rose.hp.com** について無効になっています。起動コマンドは、システム ブートで動作して、すべての **WebLogic Server** を起動する **system init** コマンド `"/sbin/init.d/weblogic start"` を使用するため、**USER** を **root** に設定します。この環境で、このコマンドは **weblogic** などの適正なユーザーによるサーバーの起動を扱います。

```
HOME = /opt/bea/wlserver6.1
JAVA_HOME=/opt/bea/jdk131
USER   = root
GROUP production
{
  mercury.rose.hp.com
  venus.rose.hp.com
  mars.rose.hp.com
  jupiter.rose.hp.com
}
NODE production
{
  SERVER1_NAME= partsserver
  SERVER1_PORT= 7001
  SERVER1_LOGIN= system
  SERVER1_PASSWORD= password
  SERVER1_ADMIN_HOST= earth.rose.hp.com
  SERVER1_ADMIN_PORT= 7001
  SERVER1_START_CMD /sbin/init.d/weblogic start
  SERVER2_NAME= orderserver
  SERVER2_PORT= 7010
  SERVER2_LOGIN= system
  SERVER2_PASSWORD= moresecret
  SERVER2_START_CMD /sbin/init.d/weblogic start
}
NODE jupiter.rose.hp.com
{
  SERVER1_PASSWORD= different1password
  SERVER2_PASSWORD= different2password
}
```



```

NODE europa.hp.com
{
  SERVER1_HOME = /opt/bea/wls
  SERVER1_JAVA_HOME = /opt/bea/jdk132
  SERVER1_NAME= testserver
  SERVER1_PORT= 7100
  SERVER1_LOGIN= system
  SERVER1_PASSWORD= mypassword
}

```

### 例 3: 複数の WebLogic Server バージョン

この例では、単一の管理対象ノード上で2つの異なるバージョンの **WebLogic Server** を実行する環境を設定する方法を示しています。**SERVER1\_HOME** と **SERVER2\_HOME** は、**WebLogic Server** の異なるバージョンでは異なるディレクトリに設定されることに注意します。

```

NODE callisto.rose.hp.com
{
  SERVER1_HOME = /opt/bea/wlserver6.0
  SERVER1_JAVA_HOME = /opt/bea/jdk131
  SERVER1_NAME= prodserver
  SERVER1_PORT= 7001
  SERVER1_LOGIN= system
  SERVER1_PASSWORD= mypassword
  SERVER1_HOME = /opt/bea/wlserver6.1
  SERVER1_JAVA_HOME = /opt/bea/jdk131
  SERVER1_NAME= testserver
  SERVER1_PORT= 7100
  SERVER1_LOGIN= system
  SERVER1_PASSWORD= mypassword
}

```

### 例 4: 仮想 IP アドレスを持つ WebLogic Server

この例では、仮想 IP アドレスを持つ複数の **WebLogic Server** の設定方法を示します。**ADDRESS** は、サーバーがリスンしている名前または IP アドレスに設定されます。

```

NODE saturn.rose.hp.com
{
  SERVER1_HOME = /opt/bea/wlserver6.1
  SERVER1_JAVA_HOME = /opt/bea/jdk131
  SERVER1_NAME= partsserver
  SERVER1_PORT= 7001
  SERVER1_ADDRESS= juno.rose.hp.com
  SERVER1_LOGIN= system
  SERVER1_PASSWORD= mypassword
  SERVER2_HOME = /opt/bea/wlserver6.1
  SERVER2_JAVA_HOME = /opt/bea/jdk131
  SERVER2_NAME= orderserver
  SERVER2_PORT= 7001
  SERVER2_ADDRESS= 15.15.1.1
}

```

```
SERVER2_LOGIN= system
SERVER2_PASSWORD= mypassword
}
```

## 例 5: デフォルト以外の WebLogic Server の起動場所

この例は、**WebLogic Server** を起動するコマンドが起動する前に **HOME** ディレクトリにディレクトリを変更しない場合を扱っています。**WebLogic SPI** は、監視するために **WebLogic Server** のログ ファイルの場所を検索することはできません。**WebLogic SPI** がログ ファイルを監視できることを確認するには、例に示されているように、サーバーを実行するディレクトリが **neptune** 上にあるとして **LAUNCH\_DIR** を設定するか、または **pluto** 上にあるとして **LOGFILES** を設定します。

```
NODE neptune.rose.hp.com
{
  SERVER1_HOME = /opt/bea/wlserver6.1
  SERVER1_JAVA_HOME = /opt/bea/jdk131
  SERVER1_NAME= exampleServer
  SERVER1_PORT= 7001
  SERVER1_LOGIN= system
  SERVER1_PASSWORD= mypassword
  SERVER1_LAUNCH_DIR = /home/weblogic
}
NODE pluto.rose.hp.com
{
  SERVER1_HOME = /opt/bea/wlserver6.1
  SERVER1_JAVA_HOME = /opt/bea/jdk131
  SERVER1_NAME= exampleServer
  SERVER1_PORT= 7001
  SERVER1_LOGIN= system
  SERVER1_PASSWORD= mypassword
  SERVER1_LOGFILES =
/opt/bea/wlserver6.1/config/mydomain/logs/weblogic.log,
/opt/bea/wlserver6.1/config/mydomain/logs/wl-domain.log
}
```



**SERVER1\_LOGFILES** は、コンマで区切られた長い 1 行で設定されています。

## C アプリケーション

WebLogic SPI アプリケーションには、設定およびトラブルシューティングのユーティリティがあります。

WLSSPI Admin グループには以下のアプリケーションがあります。

- [Configure WLSSPI](#)
- [Discover WebLogic](#)
- [Init Non-Root](#)
- [Self-Healing Info](#)
- [Start/Stop Monitoring](#)
- [Start/Stop Tracing](#)
- [Verify](#)
- [View Error File](#)
- [View Graphs](#)

WebLogic グループには以下のアプリケーションがあります。

- [Check WebLogic](#)
- [Start WLS Console](#)
- [Start/Stop WebLogic](#)
- [View Deployed Apps](#)
- [View WebLogic Log](#)
- [View WebLogic Servers](#)
- [View Application Activation Status](#)
- [View Application Timeout](#)

ユーザー定義メトリック (UDM) 用のその他の WLSSPI Admin アプリケーションは、SPIJMB ソフトウェア バンドルで使用できます。このソフトウェアおよびその他のアプリケーションのインストール方法については、『*HP Operations Smart Plug-in User Defined Metrics User Guide*』を参照してください。

# WLSSPI Admin アプリケーション グループ

WLSSPI Admin アプリケーション グループには以下のアプリケーションがあります。これらのアプリケーションでは「root」ユーザー権限が必要であるため、このグループは HPOM 管理者に割り当てることをお勧めします。

## Configure WLSSPI

Configure WebLogic SPI アプリケーションは、設定エディタを起動します。設定エディタを使用して、設定プロパティを表示、編集、または設定し、WebLogic SPI 設定を管理できます。

WebLogic SPI を初めて設定する場合は、Discover WebLogic アプリケーションを使用して基本設定プロパティを自動的に設定します。詳細については、第 3 章「WebLogic SPI の設定」を参照してください。

### 機能

Configure WLSSPI アプリケーション プラットフォームは、以下の機能を備えています。

- HPOM 管理サーバーと管理対象ノード上の設定を更新します。
- 選択された管理対象ノード上の WebLogic SPI が要求するディレクトリとファイルを作成します。
- レポート作成とグラフ作成のためのデータ ソースを設定します。
- 監視のために WebLogic Server ログ ファイルと WebLogic SPI エラー ログ ファイルを設定します。


すべての管理対象ノード上で実行されているすべての WebLogic Server の設定情報は、管理サーバー上で維持されます。さらに、すべての管理対象ノードは、そのノード上で実行されている WebLogic Server についての情報を維持します。

設定エディタを使用して変更する場合、変更は HPOM 管理サーバーに保存されます。ただし、ノードを選択して Configure WLSSPI アプリケーションを起動した場合、選択したノードに影響を与える変更はそのノード自体に保存されます。

管理対象ノードでの変更をすべて保存するには、Configure WLSSPI アプリケーションを起動する前にノードを選択する必要があります。ノードを選択しない場合、変更はデフォルトで管理サーバーに保存されます。

### Configure WLSSPI アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、[OVO 登録ノード] をダブルクリックします。[OVO 登録ノード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ] メニューから [登録アプリケーション] を選択します。[OVO 登録アプリケーション] ウィンドウが表示されます。
- 3 [WLSSPI] をダブルクリックします。[アプリケーション グループ : WebLogic SPI] ウィンドウが開きます。
- 4 [WLSSPI Admin] をダブルクリックします。[アプリケーション グループ : WLSSPI Admin] ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WLSSPI Admin アプリケーションが表示されます。
- 5 [OVO 登録ノード] ウィンドウからノードを選択し、[Configure WLSSPI] をダブルクリックします (項目がこのように表示されない場合は、[マップ] → [再ロード] を選択します)。  
[Introduction] ウィンドウが表示されます。

- 6 **[Next]** をクリックします。設定エディタが開きます。設定エディタの使用の詳細は、[設定エディタ](#) ページの 161 を参照してください。
- 7 **[Save]** をクリックし、設定に加えた変更を保存します。変更を保存すると、自動的に元に戻すことはできません。
- 8 **[Finish]** または **[Next]** を選択して変更を保存し、エディタを終了します。  
**[Next]** を選択すると、**[Confirm Operation]** ウィンドウが表示されます。**[OK]** をクリックし、変更を保存します。  
 **[Confirm Operation]** ウィンドウで **[Cancel]** をクリックすると、加えた変更は選択した管理対象ノードの設定に保存されず、管理サーバー上の設定に残ります。選択した管理対象ノードの設定に変更を加えるには、**[登録ノード]** ウィンドウでそれらのノードを選択し、**Discovery** アプリケーションを起動します。次に、設定エディタで **[Next]** をクリックし、**[Confirm Operation]** ウィンドウで **[OK]** をクリックします。
- 9 設定中に、アプリケーション サーバーを追加するか、**ADMIN\_PORTS**、**HOME**、**HOME\_LIST**、および **JAVA\_HOME** プロパティのいずれか、またはこれらすべてを追加あるいは編集した場合、アプリケーション サーバーまたはプロパティが追加または編集された管理対象ノード上で **Discover WebLogic** アプリケーションを起動する必要があります。**Discovery** アプリケーションを実行すると、サービス マップが更新されます。

## Discover WebLogic

**Discover WebLogic** アプリケーションは、検出に必要な基本的な設定プロパティを設定します。また、このアプリケーションは設定エディタを起動します。設定エディタを使用して、最初の設定プロパティを指定し **WebLogic SPI** を設定できます。

### 機能

**Discover WebLogic** は、**HPOM** 管理サーバーと選択された管理対象ノード上の設定を更新します。すべての管理対象ノード上で実行されているすべての **WebLogic Server** の設定情報は、管理サーバー上で維持されます。さらに、すべての管理対象ノードは、そのノード上で実行されている **WebLogic Server** についての情報を維持します。

設定エディタを使用して変更する場合、変更は **HPOM** 管理サーバーに保存されます。ただし、ノードを選択して **Configure WLSSPI** アプリケーションを起動した場合、選択したノードに影響を与える変更はそのノード自体に保存されます。

管理対象ノードでの変更をすべて保存するには、**Configure WebLogic SPI** アプリケーションを起動する前にノードを選択する必要があります。ノードを選択しない場合、変更はデフォルトで管理サーバーに保存されます。

### Discover WebLogic アプリケーションを起動するには

- 1 **HPOM** コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。**[OVO 登録ノード]** ウィンドウが表示されます。
- 2 **[ウィンドウ]** メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。**[OVO 登録アプリケーション]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。**[アプリケーション グループ : WebLogic SPI]** ウィンドウが開きます。
- 4 **[WLSSPI Admin]** をダブルクリックします。**[アプリケーション グループ : WLSSPI Admin]** ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての **WLSSPI Admin** アプリケーションが表示されます。

- 5 [OVO 登録ノード] ウィンドウからノードを選択し、**[Discover WebLogic]** をダブルクリックします (このように表示されない場合は、**[マップ]** → **[再ロード]** を選択します)。**[Introduction]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、**Discovery** アプリケーションについての簡単な情報が記載されています。
- 6 **[Next]** をクリックします。2 つ目の **[Introduction]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、検出プロセスが機能するために必要と思われるプロパティについての情報が含まれます。
- 7 **[Next]** をクリックします。**WebLogic SPI** の **LOGIN** および **PASSWORD** プロパティを設定していない場合には、**[Set Access Info for Default Properties]** ウィンドウが表示されます。

▶ **LOGIN** および **PASSWORD** のプロパティをすでに設定している場合、設定エディタが表示されます。このステップを省略し、ステップ 8 に進んでください。

**タスク 2: WebLogic Server ユーザーを設定する** ページの 42 で設定したものと同一 **WebLogic Server** のログインとパスワードを、**LOGIN** および **PASSWORD** プロパティに設定します。

▶ このウィンドウで設定した **LOGIN** および **PASSWORD** のプロパティは、デフォルトの **WebLogic Server** のログインとパスワードとして使用されます (これらはグローバル プロパティのレベルで設定されます)。**NODE** レベルやサーバー固有の **LOGIN** と **PASSWORD** のプロパティが設定されていない場合、**WebLogic SPI** はすべての **WebLogic Server** にアクセスするために、この **WebLogic** のログインとパスワードを使用します。設定構造の詳細は、**構造** ページの 159 を参照してください。

**WebLogic Server** のログインとパスワードが、すべての **HPOM** 管理対象ノード上のどの **WebLogic Server** でも同じである場合、以下の手順を実行します。

- a **[Set Access Info for Default Properties]** ウィンドウで **[Login]** および **[Password]** プロパティを設定します。
- b **[Next]** をクリックします。
- c ステップ 9 に進んでください。

**WebLogic Server** のログインとパスワードが **WebLogic** の各インスタンスで異なる場合は、**LOGIN** と **PASSWORD** プロパティをノードまたはサーバー固有のレベルで設定し、**WebLogic SPI** 設定をカスタマイズする必要があります (設定構造の詳細は、**構造** ページの 159 を参照してください)。

- a **[Set Access Info for Default Properties]** ウィンドウで、**[Login]** および **[Password]** プロパティに、最もよく使用される **WebLogic** のログインとパスワードを設定します。
  - b **[Customize]** を選択して、設定エディタを開きます。
- 8 設定エディタで、設定プロパティを設定します。設定エディタの使用の詳細は、**設定エディタ** ページの 161 を参照してください。
  - 9 **[Next]** をクリックして、変更を保存し、エディタを終了します。**[Confirm Operation]** ウィンドウが表示されます。
  - 10 **[OK]** をクリックします。

▶ **[Confirm Operation]** ウィンドウで **[Cancel]** をクリックすると、加えた変更は選択した管理対象ノードの設定に保存されず、管理サーバー上の設定に残ります。選択した管理対象ノードの設定に変更を加えるには、**[登録ノード]** ウィンドウでそれらのノードを選択し、**Discovery** アプリケーションを起動します。次に、設定エディタで **[Next]** をクリックし、**[Confirm Operation]** ウィンドウで **[OK]** をクリックします。

## Init Non-Root

Init Non-Root アプリケーションを使用すると、UNIX 管理対象ノードで非 root HTTPS エージェントを簡単に設定できます (OVO 8.x のみ)。UNIX 管理対象ノードでの非 root HTTPS エージェントの設定については、UNIX 管理対象ノードでの非 root HTTPS エージェントの設定 (OVO 8.x のみ) ページの 53 を参照してください。

### 機能

Init Non-Root は、選択された管理対象ノードで以下の機能を実行します。

- 1 `wasspi_wls_perl -S wasspi_wls_makePlatdef -force` コマンドを実行して SPI パスを正しく設定し、  
`/var/opt/OV/bin/instrumentation/wasspi_wls_platdef.pm` ファイルと  
`wasspi_wls_platdef.prop` ファイルを更新します。
- 2 `wasspi_wls_sudoers` 設定ファイルを生成します。

### Init Non-Root アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。[OVO 登録ノード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ] メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。[OVO 登録アプリケーション] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic SPI] ウィンドウが開きます。
- 4 **[WLSSPI Admin]** をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WLSSPI Admin] ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WLSSPI Admin アプリケーションが表示されます。
- 5 [OVO 登録ノード] ウィンドウでノードを選択し、**[Init Non-Root]** をダブルクリックします。

## Self-Healing Info

このアプリケーションを起動して、HP のサポート担当者に送信するデータを収集できます。

### 必要な設定

再現可能な問題に関するデータを収集する場合、Self-Healing Info アプリケーションを起動する前に、以下の手順を実行してください。

- 1 **Start Tracing** アプリケーションを起動します。詳細は、**Start/Stop Tracing** ページの 195 を参照してください。
- 2 問題を再現します。

## 機能

Self-Healing Info は、以下の機能を備えています。

- すべての管理対象ノードに対する機能
  - **Verify** アプリケーションを使用して、データを実行し、保存します (詳細は、[Verify](#) ページの 195 を参照してください)。
  - 以下のディレクトリで、すべてのファイルを再帰的に一覧表示します。
    - `<OV_AGT_DIR>/bin/OpC/actions/`
    - `<OV_AGT_DIR>/bin/OpC/cmds/`
    - `<OV_AGT_DIR>/bin/OpC/monitor/`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/`
  - 以下のファイルの内容を表示します。
    - `<OV_AGT_DIR>/conf/OpC/nodeinfo`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/SiteConfig`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/SPIConfigCfgFiles`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/SPIConfigLogFiles`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/version`
  - 以下のコマンドを実行します。
    - `opcagt -status`
    - `codauttil -obj`
    - `<OV_AGT_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi_wls_ca -m 5 -x print=on`
    - `<OV_AGT_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi_wls_ca -m 5 -x print=on -debug`
  - 以下のディレクトリにあるすべてのファイルをコピーします。
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/log/`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/tmp/`
  - 以下のファイルをコピーします。
    - `<OV_AGT_DIR>/conf/OpC/le`
    - `<OV_AGT_DIR>/conf/OpC/msgi`
    - `<OV_AGT_DIR>/conf/OpC/monitor`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/version`
- 管理サーバーに対する機能
  - 以下のディレクトリが存在することを確認します。
    - `/opt/OV/wasspi/wls/bin/`
    - `/opt/OV/wasspi/wls/conf/`
  - 以下のファイルが存在することを確認します。
    - `/opt/OV/wasspi/wls/bin/parseDefs.pl`
    - `/opt/OV/wasspi/wls/bin/startWLSConsole.pl`



- /opt/OV/wasspi/wls/bin/wasspi\_wls\_app\_graphs
- /opt/OV/wasspi/wls/bin/wasspi\_wls\_editcfg
- /opt/OV/wasspi/wls/bin/wasspi\_wls\_lib.pl
- /opt/OV/wasspi/wls/bin/wasspi\_wls\_optaction\_graphs
- /opt/OV/wasspi/wls/bin/wasspi\_xterm
- /opt/OV/wasspi/wls/conf/SiteConfig
- 以下のファイルをコピーします。
  - /opt/ov/wasspi/wls/conf/SiteConfig
- **Windows** 管理対象ノードに対する機能
  - 以下のファイルの内容を表示します。
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/install/opcinfo
    - <OV\_AGT\_DIR>/conf/dsi2ddf/ddflbd.mwc
- **UNIX** 管理対象ノードに対する機能
  - 以下のファイルの内容を表示します。
    - /opt/OV/bin/OpC/install/opcinfo
    - <OV\_AGT\_DIR>/conf/dsi2ddf/ddflbd.rc
  - 以下のコマンドを実行します。
    - ps -ef
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi\_wls\_osinfo
    - df -k
    - uname -a
    - hostname
  - 以下の情報を収集します。
    - アップタイム
    - OS バージョンの詳細
    - ulimit 値
    - インストール済みパッチ



ここで、<OV\_AGT\_DIR> は以下のようになります。

- **UNIX** 管理対象ノード上にある場合：/var/opt/OV
- **Windows** 管理対象ノード上にある場合：インストールされている製品によって異なります。

データは以下のファイルに保存されます。

- **UNIX** 管理対象ノード上にある場合：/tmp/wasspi\_wls\_support.tar
- **Windows** 管理対象ノード上にある場合：以下のディレクトリ（正確な場所が表示されています）のいずれか 1 つの wasspi\_wls\_support.zip
  - %TEMP%

- %TMP%
- %SystemDrive%\temp\
- C:\temp\
- C:\temp\ JAVA\_HOME または SERVER<n>\_JAVA\_HOME が定義されている場合は、  
%temp%
- %temp%\wasspi\_wls\_support\

▶ このファイルは、Windows 管理対象ノードの設定によっては非表示の場合があります。ファイルが非表示の場合は、Windows エクスプローラを開き、[ツール]メニューから**[フォルダオプション]**を選択します。**[表示]**タブをクリックします。[ファイルとフォルダの表示]の下で、**[すべてのファイルとフォルダを表示する]**を選択します。

## Self-Healing Info アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]**をダブルクリックします。[OVO 登録ノード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ]メニューから**[登録アプリケーション]**を選択します。[OVO 登録アプリケーション] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]**をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic SPI] ウィンドウが開きます。
- 4 **[WLSSPI Admin]**をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WLSSPI Admin] ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WLSSPI Admin アプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード] ウィンドウでノードを選択し、**[Self-Healing Info]**をダブルクリックします。

## Start/Stop Monitoring

このアプリケーションを起動して、WebLogic SPI によるアプリケーション サーバーからのメトリックの収集を開始または停止できます。

WebLogic SPI はメトリックを収集し、パフォーマンスや可用性に関するデータを取得します。また、メトリックはレポート（自動または手動による生成）とグラフを作成するためにも使用されます。これらのレポートとグラフは、サーバーの用途、可用性、およびパフォーマンスの傾向を分析するために使用されます。

通常 OVO 管理者は、すでに明らかになっている理由（保守のためのノード停止など）で管理対象ノードが停止している場合、管理対象ノードの監視を停止します。監視を停止することで、不要な警告通知が生成されないようにします。

監視機能が開始されているか、停止されているかを判定するには、Verify アプリケーションを起動します。デフォルトでは、監視機能は有効になっています。

### 機能

**Start Monitoring** アプリケーションを使用して、管理対象ノード上の 1 つまたはすべてのアプリケーション サーバーのメトリック収集を開始します。

**Stop Monitoring** アプリケーションを使用して、管理対象ノード上の 1 つまたはすべてのアプリケーション サーバーのメトリック収集を停止します。

## Start/Stop Monitoring アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。**[OVO 登録ノード]** ウィンドウが表示されます。
- 2 **[ウィンドウ]** メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。**[OVO 登録アプリケーション]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。**[アプリケーション グループ : WebLogic SPI]** ウィンドウが開きます。
- 4 **[WLSSPI Admin]** をダブルクリックします。**[アプリケーション グループ : WLSSPI Admin]** ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての **WLSSPI Admin** アプリケーションが表示されます。
- 5 **[登録ノード]** ウィンドウでノードを選択し、**[Start Monitoring]** または **[Stop Monitoring]** をダブルクリックします。

## Start/Stop Tracing

このアプリケーションを起動し、メトリック収集のトレース記録を開始または停止できます。このアプリケーションは、HP のサポート担当者に指示された場合のみ起動するようにしてください。

**Start Tracing** により作成されたファイルを収集するには、**Self-Healing Info** アプリケーションを起動します。これらのファイルには、HP のサポート担当者が利用するデータが含まれています。

### 機能

**Start Tracing** は、メトリックの収集についての情報をファイルに保存します。

**Stop Tracing** は、メトリックの収集についての情報の保存を停止します。

## Start/Stop Tracing アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。**[OVO 登録ノード]** ウィンドウが表示されます。
- 2 **[ウィンドウ]** メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。**[OVO 登録アプリケーション]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。**[アプリケーション グループ : WebLogic SPI]** ウィンドウが開きます。
- 4 **[WLSSPI Admin]** をダブルクリックします。**[アプリケーション グループ : WLSSPI Admin]** ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての **WLSSPI Admin** アプリケーションが表示されます。
- 5 **[登録ノード]** ウィンドウでノードを選択し、**[Start Tracing]** または **[Stop Tracing]** をダブルクリックします。

## Verify

このアプリケーションを起動し、**WebLogic SPI** がサーバーおよび管理対象ノード上に正しくインストールされていることを確認できます。

## 機能

Verify アプリケーションは、以下の機能を備えています。

- すべての管理対象ノードに対する機能
  - 以下のディレクトリが存在することを確認します。
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/datalog/`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/history/`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/lib/`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/log/`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/tmp/`
  - 以下のファイルが存在することを確認します。
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/MBeanReports.dtd`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/MBeanReports.xml`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/MetricDefinitions.ser`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/MetricDefinitions.dtd`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/MetricMap`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/OVTrace.sample`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/ReportsHeader.xml`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/SiteConfig`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/SPIConfig`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/SPIConfigLogFiles`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/SPIConfigCfgFiles`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/trigger`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/conf/ReportsUtil.xml`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/lib/GraphSP.xml`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/lib/JspiCola.jar`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/lib/MetricMap.xml`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/lib/xalan.jar`
    - `<OV_AGT_DIR>/wasspi/wls/lib/xerces.jar`
- Windows 管理対象ノードに対する機能
  - 以下のファイルが存在することを確認します。
    - `<OV_AGT_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi_wls_admin.exe`
    - `<OV_AGT_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi_wls_debug.exe`
    - `<OV_AGT_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi_wls_spiapps.exe`

- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi\_wls\_udmgraphs.exe
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi\_wls\_verify.exe
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_ca.exe
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_config.exe
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_files.exe
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_le.exe
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_logdata.exe
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_setpath.exe
- 以下のファイルが存在し、そのバージョンが **A.01** より上であることを確認します。
  - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddfcomp.exe
  - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddfcomp\_coda.exe
  - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddflog.exe
  - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddflog\_coda.exe
  - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddfutil.exe
  - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddfutil\_coda.exe
- UNIX 管理対象ノードに対する機能
  - 以下のファイルが存在することを確認します。
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi\_wls\_admin
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi\_wls\_debug
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi\_wls\_spiapps
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi\_wls\_udmgraphs
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/cmds/wasspi\_wls\_verify
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_setpath
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_ca
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_config
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_config.pl
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_files
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_le
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_lib.pl
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_wls\_logdata
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/wasspi\_xterm
  - 以下のファイルが存在し、そのバージョンが **A.01** より上であることを確認します。
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddfcomp
    - <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddfcomp\_coda

- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddflog
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddflog\_coda
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddfutil
- <OV\_AGT\_DIR>/bin/OpC/monitor/ddfutil\_coda

▶ ここで、<OV\_AGT\_DIR> は以下のようになります。

- UNIX 管理対象ノードの場合：/var/opt/OV
- Windows 管理対象ノード上の場合：インストールされている製品によって異なります。

## Verify アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。[OVO 登録ノード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ] メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。[OVO 登録アプリケーション] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。[アプリケーショングループ：WebLogic SPI] ウィンドウが開きます。
- 4 **[WLSSPI Admin]** をダブルクリックします。[アプリケーショングループ：WLSSPI Admin] ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WLSSPI Admin アプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード] ウィンドウでノードを選択し、**[Verify]** をダブルクリックします。  
アプリケーションが正常に実行されると、以下のメッセージが表示されます。  
Installation is clean

## View Error File

**View Error File** アプリケーションを起動し、WebLogic SPI エラー ログ ファイルの内容を表示できます。

### 機能

**View Error File** アプリケーションは、WebLogic SPI エラー ログ ファイル <OV\_AGT\_DIR>/wasspi/wls/log/errorlog の内容を表示します。ここで、<OV\_AGT\_DIR> は、通常、以下のようになります。

- /var/opt/OV (UNIX 管理対象ノード)
- \Program Files\HP OpenView\Installed Packages\{790 ...} (Windows 管理対象ノード)

## View Error File アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。[OVO 登録ノード] ウィンドウが表示されます。

- 2 [ウィンドウ]メニューから[登録アプリケーション]を選択します。[OVO 登録アプリケーション]ウィンドウが表示されます。
- 3 [WLSSPI]をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic SPI]ウィンドウが開きます。
- 4 [WLSSPI Admin]をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WLSSPI Admin]ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべてのWLSSPI Adminアプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード]ウィンドウでノードを選択し、[View Error File]をダブルクリックしてエラーログを表示します。

## View Graphs

View Graphs アプリケーションを起動し、Web ブラウザで HP Performance Manager グラフを表示できます。

### 必要な設定

View Graphs アプリケーションを実行する前に、以下を実行します。

- 1 HP Performance Manager をインストールします。
- 2 `ovweb.conf` ファイルの編集します。(詳細は、[タスク 1: Web ブラウザを起動するため管理サーバーを設定する](#) ページの 37 を参照してください)

### 機能

View Graphs アプリケーションは、Web ブラウザを起動し、WebLogic SPI メトリック データから生成された HP Performance Manager グラフを表示します。

### View Graphs アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、[OVO 登録ノード]をダブルクリックします。[OVO 登録ノード]ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ]メニューから[登録アプリケーション]を選択します。[OVO 登録アプリケーション]ウィンドウが表示されます。
- 3 [WLSSPI]をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic SPI]ウィンドウが開きます。
- 4 [WLSSPI Admin]をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WLSSPI Admin]ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべてのWLSSPI Adminアプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード]ウィンドウでノードを選択し、[View Graphs]をダブルクリックしてグラフを作成します。

# WebLogic アプリケーション グループ

WLSSPI Admin アプリケーション グループには、以下のアプリケーションがあります。

## Check WebLogic

このアプリケーションを使用すると、選択した管理対象ノード上で動作している各 WebLogic Server のステータスを確認できます。

### 機能

Check WebLogic は、選択されたノード上の各 WLS サーバーについて以下の情報を表示します。

情報	説明
Server Name	WebLogic Server で定義されるサーバー名
State	WebLogic Server のステータス
Listen Address	着信接続をリスンするために使用される名前と IP アドレス
Health State	WebLogic Server の現在のステータスを数値で表したもの
Health State String	WebLogic Server 自身によるヘルス モニタリングの結果

WebLogic SPI が WebLogic Server に関するメトリックを収集するよう設定されていない場合、以下のメッセージが表示されます。

```
Collection is temporarily OFF for <server_name>
```

## Check WebLogic アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。**[OVO 登録ノード]** ウィンドウが表示されます。
- 2 **[ウィンドウ]** メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。**[OVO 登録アプリケーション]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。**[アプリケーショングループ : WebLogic SPI]** ウィンドウが開きます。
- 4 **[WebLogic Admin]** をダブルクリックします。**[アプリケーショングループ : WebLogic]** ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WebLogic アプリケーションが表示されます。
- 5 **[登録ノード]** ウィンドウでノードを選択し、**[Check WebLogic]** をダブルクリックしてステータスを確認します。

## Start WLS Console

Start WLS Console を使用して、HPOM コンソールから WebLogic Administration Server コンソールを起動できます。選択された管理対象ノード上にある 1 つ以上のアプリケーションサーバー インスタンスに対するコンソールを起動することができます。



## 必要な設定

このアプリケーションを正常に実行できるようにするには、ADMIN\_HOST および ADMIN\_PORT 設定プロパティを設定する必要があります。

## 機能

Start WLS Console は、選択されたノード上の 1 つ以上のアプリケーション サーバー インスタンスに対する WebLogic Administration Server コンソールを Web ブラウザで起動します。

### Start WLS Console アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。[OVO 登録ノード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ] メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。[OVO 登録アプリケーション] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。[アプリケーション グループ : WebLogic SPI] ウィンドウが開きます。
- 4 **[WebLogic Admin]** をダブルクリックします。[アプリケーション グループ : WebLogic] ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WebLogic アプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード] ウィンドウでノードを選択し、**[Start WLS Console]** をダブルクリックして WebLogic Administration Server コンソールを起動します。

## Start/Stop WebLogic

HPOM コンソールから Start WebLogic または Stop WebLogic アプリケーションを使用して WebLogic Server を起動または停止できます。選択された管理対象ノード上の 1 つ以上のアプリケーション サーバー インスタンスを開始および停止することができます。その際、各 WebLogic Administration Server にログインする必要はありません。

## 必要な設定

START\_CMD、STOP\_CMD、および USER 設定プロパティは、このアプリケーションを起動する前に設定する必要があります。

## 機能

Start WebLogic アプリケーションは、選択された管理対象ノード上の 1 つ以上のアプリケーション サーバー インスタンスを起動します。

Stop WebLogic アプリケーションは、選択された管理対象ノード上の 1 つ以上のアプリケーション サーバー インスタンスを停止します。

### Start/Stop WebLogic アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。[OVO 登録ノード] ウィンドウが表示されます。

- 2 [ウィンドウ]メニューから[登録アプリケーション]を選択します。[OVO 登録アプリケーション]ウィンドウが表示されます。
- 3 [WLSSPI]をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic SPI]ウィンドウが開きます。
- 4 [WebLogic Admin]をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic]ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべてのWebLogicアプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード]ウィンドウでノードを選択し、[Start WebLogic]または[Stop WebLogic]をダブルクリックします。

## View Deployed Apps

View Deployed Apps アプリケーションを使用して、WebLogic Server インスタンスで実行中のアプリケーションを表示できます。その際、WebLogic Server を実行中のシステムにログインする必要はありません。

### 機能

View Deployed Apps は、選択された管理対象ノードの各 WebLogic Server インスタンスに関して、以下の情報を表示します(「WLS のバージョン」列は、各情報に該当する WebLogic Server のバージョンを示します)。

情報	WLS のバージョン	説明
Application	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	アプリケーション インスタンス
Name	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	アプリケーションの名前
Version	9.x、10.0	アプリケーションのバージョン(アプリケーションにバージョンがない場合、「null」と表示されます)
Module Type	9.x、10.0	CAR、EAR、EJB、RAR、WAR などの J2EE モジュールタイプ

### View Deployed Apps アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、[OVO 登録ノード]をダブルクリックします。[OVO 登録ノード]ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ]メニューから[登録アプリケーション]を選択します。[OVO 登録アプリケーション]ウィンドウが表示されます。
- 3 [WLSSPI]をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic SPI]ウィンドウが開きます。
- 4 [WebLogic Admin]をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic]ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべてのWebLogicアプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード]ウィンドウでノードを選択し、[View Deployed Apps]をダブルクリックします。

## View WebLogic Log

View WebLogic Log アプリケーションを使用して、WebLogic Server ログ ファイルを表示できます。その際、WebLogic Server を実行中のシステムにログインする必要はありません。

### 機能

View WebLogic Log アプリケーションは、以下の情報を表示します。

- パラメータを入力しないで View WebLogic Log を起動すると、選択した管理対象ノードについての利用可能なログ ファイルの番号リストが表示されます。
- 無効なパラメータ（数値以外の値または利用可能なログ ファイルのリストに対応していない数）を入力して View WebLogic Log を起動すると、選択した管理対象ノードについての利用可能なログ ファイルの番号リストが表示されます。
- 有効なパラメータを入力して View WebLogic Log を起動すると、選択した管理対象ノードに対応するログ ファイルの内容が表示されます。

パラメータ フィールドには、1つの数値しか入力できません。選択したすべての管理対象ノードについて、この番号で示されているログ ファイルを表示できます。このアプリケーションを起動するたびに、管理対象ノードごとに1つのログ ファイルを選択して表示します。

### View WebLogic Log アプリケーションを起動する

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。**[OVO 登録ノード]** ウィンドウが表示されます。
- 2 **[ウィンドウ]** メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。**[OVO 登録アプリケーション]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。**[アプリケーショングループ: WLSSPI]** ウィンドウが開きます。
- 4 **[WebLogic]** をダブルクリックします。**[アプリケーショングループ: WebLogic]** ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WebLogic アプリケーションが表示されます。
- 5 **[登録ノード]** ウィンドウでノードを選択し、**[View WebLogic Log]** をダブルクリックします。**[WLS LOGS]** ウィンドウが表示されます。

**[WLS LOGS]** ウィンドウには、ノード名とオプションのリストが表示されます。選択するオプションを入力し、**Enter** キーを押します。

**[WebLogic SPI]** ウィンドウをスクロールし、ログ ファイル データを表示します。

- 6 このウィンドウを終了するには、**[q]** と入力します。

## View WebLogic Servers

View WebLogic Servers アプリケーションを使用して、WebLogic ドメイン設定、クラスタ情報、および物理コンピュータを表示できます。その際、WebLogic Server を実行中のシステムにログインする必要はありません。

### 機能

View WebLogic Servers は、選択された管理対象ノードの各 WebLogic Server インスタンスに関して、以下の情報を表示します (「WLS のバージョン」列は、各情報に該当する WebLogic Server のバージョンを示します)。

情報	WLS のバージョン	説明
Domain	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	WebLogic ドメイン インスタンス
Admin Server	9.x、10.0	WebLogic 管理サーバー インスタンスの名前
Version	9.x、10.0	設定のリリース ID
Server	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	WebLogic Server インスタンス
Name	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	サーバー インスタンスの名前。Administration Console に表示され、サーバーの識別に使用される名前です
Listen Port	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	WebLogic Server インスタンスが通常の (非 SSL) 着信接続をリスンするために使用するデフォルトの TCP ポート
Listen Address	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	WebLogic Server インスタンスが着信接続をリスンするために使用する IP アドレスまたは DNS 名
Cluster	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	クラスタ インスタンス
Name	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	ユーザー指定のクラスタ インスタンス名
Type	9.x、10.0	クラスタ内のサーバーがクラスタ間レプリケーションの最適化のために使用するデータ送信方法。man (metro area network)、wan、none などです
Address	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	クライアントがクラスタに接続するときに使用するアドレス。EJB ハンドルとエンティティ EJB フェールオーバーアドレスの生成に使用されます

情報	WLS のバージョン	説明
Multicast Address	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	クラスタのメンバが相互通信するために使用するアドレス
Machine	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	コンピュータ インスタンス
Name	6.1、7.0、8.1、9.x、10.0	ユーザー指定のコンピュータ インスタンス名

## View WebLogic Servers アプリケーションを起動する

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。**[OVO 登録ノード]** ウィンドウが表示されます。
- 2 **[ウィンドウ]** メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。**[OVO 登録アプリケーション]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。**[アプリケーショングループ: WLSSPI]** ウィンドウが開きます。
- 4 **[WebLogic]** をダブルクリックします。**[アプリケーショングループ: WebLogic]** ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての **WebLogic** アプリケーションが表示されます。
- 5 **[登録ノード]** ウィンドウでノードを選択し、**[View WebLogic Servers]** をダブルクリックします。

## View Application Activation Status

**View Application Activation Status** アプリケーションを使用して、**WebLogic Server** インスタンスに配布された実行中のアプリケーションの稼動状況を表示できます。その際、**WebLogic Server** を実行中のシステムにログインする必要はありません。

### 必要な設定

**View Application Activation Status** アプリケーションを起動する前に、**URL\_PATH** 設定プロパティの値を次のように設定します（設定プロパティの詳細は、[設定プロパティ](#) ページの 170 を参照してください）。

```
/jndi/weblogic.management.mbeanservers.domainruntime
```

### 機能

**View Application Activation Status** アプリケーションは、選択されたノード上の各 **WebLogic Server** インスタンスについて、以下の情報を表示します。説明の列に記載されている情報は、**WebLogic Server** のバージョンにより異なります。

表 18

情報	WLS のバージョン	説明
AppRuntimeStateRuntime	9.x、10.0	AppRuntimeStateRuntime MBean
Application ID	9.x、10.0	アプリケーション ID (SPI により生成) に使用されるシリアル ナンバー
Application-ID	9.x、10.0	アプリケーションの名前
Is Active?	9.x、10.0	このフィールドに「true」が表示されている場合、アプリケーションはアクティブです。このフィールドに「false」が表示されている場合、アプリケーションはアクティブではありません。

## View Application Activation Status アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。[OVO 登録ノード] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ] メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。[OVO 登録アプリケーション] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WLSSPI] ウィンドウが開きます。
- 4 **[WebLogic]** をダブルクリックします。[アプリケーショングループ: WebLogic] ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての WebLogic アプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード] ウィンドウでノードを選択し、**[View Application Activation Status]** をダブルクリックします。

## View Application Timeout

View Application Timeout アプリケーションを使用すると、WebLogic Server インスタンスに配布された実行中のアプリケーションがタイムアウトで終了するまでの残り時間を参照できます。WebLogic Server が実行されているシステムにログインせずに、残り時間を表示できます。

### 必要な設定

View Application Timeout アプリケーションを起動する前に、URL\_PATH 設定プロパティの値を次のように設定します (設定プロパティの詳細は、[設定プロパティ](#) ページの 170 を参照してください)。

```
/jndi/weblogic.management.mbeanservers.domainruntime
```

## 機能

**View Application Timeout** アプリケーションを使用して、選択された管理対象ノード上の各 **WebLogic Server** インスタンスについて、以下の情報を取得できます。説明の列に記載されている情報は、**WebLogic Server** のバージョンにより異なります。

表 19

情報	WLS のバージョン	説明
AppRuntimeStateRuntime	9.x、10.0	AppRuntimeStateRuntime MBean
Application ID	9.x、10.0	アプリケーション ID (SPI により生成) に使用されるシリアルナンバー
Application-ID	9.x、10.0	アプリケーションの名前
Time Left to Retire	9.x、10.0	アプリケーションが終了するまでの時間 (単一のバージョンのアプリケーションのみがサーバー上に存在し、アプリケーションのタイムアウトが設定されていない場合は、この情報の値が「-1」になります)。

### View Application Timeout アプリケーションを起動するには

- 1 HPOM コンソールで、**[OVO 登録ノード]** をダブルクリックします。**[OVO 登録ノード]** ウィンドウが表示されます。
- 2 [ウィンドウ] メニューから **[登録アプリケーション]** を選択します。**[OVO 登録アプリケーション]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[WLSSPI]** をダブルクリックします。**[アプリケーション グループ : WLSSPI]** ウィンドウが開きます。
- 4 **[WebLogic]** をダブルクリックします。**[アプリケーション グループ : WebLogic]** ウィンドウが開きます。このウィンドウに、すべての **WebLogic** アプリケーションが表示されます。
- 5 [登録ノード] ウィンドウでノードを選択し、**[View Application Timeout]** をダブルクリックします。





# 用語集

## **ASCII**

American Standard Code for Information Interchange の略。

## **HP Operations Manager**

ネットワークおよびシステム管理製品のファミリー、およびそれらの製品のためのアーキテクチャ。HP Operations Manager には、開発環境と幅広い管理アプリケーションが含まれています。

## **HTTP (Hypertext Transfer Protocol)**

WWW (World Wide Web) のクライアントとサーバーが通信で使用するプロトコル。

## **HTTPS**

Hypertext Transfer Protocol Secure の略。

## **Microsoft 管理コンソール (MMC)**

IT 環境管理のためのソフトウェアの枠組みを提供するマイクロソフト製品。管理製品は、管理コンソールに追加、または「組み込まれて」、Microsoft 管理コンソールの管理機能を拡張します。

## **SPI (Smart Plug-In)**

管理コンソールにインストールされ、特定の種類のビジネス アプリケーション、データベース、オペレーティング システム、またはサービスに固有の管理機能を提供する、事前にパッケージ化されたソフトウェア。

## **アイコン**

ユーザーに監視され操作されるオブジェクト、またはユーザーに実行されるアクションに対応する画面上のイメージ。

## **アプリケーション**

一連の関連タスクを実行するための機能を備えたパッケージ ソフトウェア。アプリケーションは、一般的に、ツールよりも複雑です。

## **イベント**

管理対象オブジェクト内のエージェントまたはプロセス、あるいはユーザー アクションによって生成される、SNMP トラップや WMI 通知のような、任意型の通知。イベントは、通常、管理対象オブジェクトの状態変化を示し、特定のアクションが行われる要因となります。

## エージェント

リモートのデバイスまたはコンピュータ システムで動作するプログラムまたはプロセス。管理要求に応答し、管理オペレーションを実行し、パフォーマンスおよびイベント通知を送信します。エージェントには、管理対象オブジェクトおよび MIB 変数へのアクセス、リソース ポリシーの解釈、リソースの設定などの機能があります。

## エラー ログ

エラー メッセージを含む出力ファイル。

## カスタマイズ (プロセス)

特定のカスタマまたはユーザーの必要性和好みに合わせて、ソフトウェアの設計、構築、または変更を行うプロセス。

## カスタマイズ

特定のカスタマまたはユーザーの必要性和好みに合わせて、ソフトウェアの設計、構築、または変更を行う。

## 管理コンソール

ユーザーが管理アプリケーションまたは管理アプリケーション セットを制御する、ユーザー インタフェースのインスタンス。コンソールは、管理ソフトウェアを含むシステム、または管理ドメイン内の別のシステムに付属しています。

## 管理サーバー

クライアントに対して、管理サービス、管理プロセス、または管理用ユーザー インタフェースを提供するサーバー。管理サーバーは、管理ステーションの一種です。

## 管理対象オブジェクト

パフォーマンス、ステータス、およびメッセージが監視され、管理ソフトウェアのアクションにより操作される、ネットワーク、システム、ソフトウェア、またはサービスのオブジェクト。

## クライアント

コンテキストがネットワーク システムである場合には、別のコンピュータ (サーバー) のサービスにアクセスする、ネットワーク上のコンピュータ システム。コンテキストがソフトウェアである場合には、サーバーへサービスを要求するプログラムまたは実行プロセス。

## クライアント コンソール

アプリケーションがサーバーで動作しているときに、クライアント システムで動作するユーザー インタフェースのインスタンス。

## 構成 (設定)

ネットワークのコンテキストでは、ネットワークを形成する、相互に関連するシステム、デバイス、およびプログラムの全集合。たとえば、ネットワークのコンポーネントには、コンピュータ システム、ルーター、スイッチ、ハブ、オペレーティング システム、ネットワーク ソフトウェアなどがあります。ネットワークの設定によって、ネットワークの機能と使用法が決まります。ソフトウェアのコンテキストでは、ソフトウェアのパラメータと属性の設定の組み合わせであり、ソフトウェアの動作、使用法、および表示方法を決定します。

## コマンド

コンピュータ プログラムに対する指示。この指示に基づいて、指定したオペレーションが実行されます。コマンドは、通常、コマンド行でユーザーにより入力されます。

## コンソール

ユーザーがアプリケーションまたはアプリケーション セットを制御する、ユーザー インタフェースのインスタンス。

## サーバー

コンテキストがハードウェアとソフトウェアを合せたものである場合は、ネットワーク上の他のコンピュータ システム (クライアント) にサービス (たとえば、管理機能やファイル保管機能) を提供するコンピュータ システム。コンテキストがソフトウェア コンポーネントである場合は、クライアントが発行したサービス要求に応答するプログラムまたは実行プロセス。

## 自動アクション

定義済みのプログラムまたはスクリプト。オペレータの介入なしで、イベント、メッセージ、または管理データベース内で変化のあった情報に反応して実行されます。

## 重要度

オブジェクトのステータスを示す、オブジェクトのプロパティ。重要度は、オブジェクトに関連付けられたイベントまたはメッセージの影響度に基づきます。

## 接続

オブジェクト間の論理的または物理的な関係の表現。

## 設定する

指定した環境、アプリケーション、または使用法の要件を満たすために、指定したソフトウェアの設定を定義、または変更する。

## 設定ファイル

ソフトウェア プログラムの見え方と動作を決定する仕様または情報を含むファイル。

## データ タイプ

特定のデータ。たとえば、電子的に格納されているデータのデータベース レポジトリ。データベースは、通常、体系化されているため、データの取得や更新が可能です。

## トレース ログ

アプリケーション ソフトウェアの実行記録を含む出力ファイル。

## ノード

コンテキストがネットワークの場合は、ネットワーク内のコンピュータ システムまたはデバイス (たとえば、プリンター、ルーター、ブリッジ)。コンテキストがグラフィカルなポイント ツー ポイント レイアウトの場合は、図の中の、他のグラフィカル要素との結合点または接続点としての機能を持つグラフィカル要素です。

## 配布

ソフトウェア、ハードウェア、機能、またはサービスを、ビジネス環境で機能するようにインストールしてアクティブ化するプロセス。

## 配布済みアプリケーション

ビジネス環境で機能するようにインストールして起動された、アプリケーションとそのコンポーネント。

## 配布済みポリシー

コンピューティング環境内の 1 つ以上のリソースに配布されたポリシー。

## 配布する

ソフトウェア、ハードウェア、機能、またはサービスを、ビジネス環境で機能するようにインストールして起動させる。

## 配布パッケージ

管理対象ノードに自動的に配布されてインストールされるソフトウェア パッケージ。

## パラメータ

コンピュータ プログラムまたはプログラム内のプロシージャの実行中に、使用する任意の値を指示する変数または属性。

## パラメータ タイプ

パラメータで有効なデータの種類を決定する、パラメータの抽象化または分類。たとえば、パラメータ値が小数点で区切られた 4 つの数値で構成され、それぞれの数値が 0 ～ 255 の範囲である IP アドレスは、パラメータ タイプのうちの 1 つです。

## パラメータの値

変数に割り当てられる値。

## ポート

コンテキストがハードウェアの場合は、ネットワーク デバイスの情報を送受信する場所。コンテキストが ECS の場合は、相関処理ノードの情報を送受信する場所。

## ポリシー

ネットワーク、システム、サービス、およびプロセスの管理を自動化するのに役立つ、1 つ以上の仕様ルールまたは他の情報の集合。ポリシーは、各種のターゲット（たとえば、管理対象のシステム、デバイス、ネットワーク インタフェース）に配布可能で、ネットワーク全体を通じて、整合性のある、自動化された管理機能を提供します。

## ポリシー管理

ネットワーク、システム、またはサービスの管理用に、ポリシーを制御するプロセス（作成、編集、追跡、配布、削除など）。

## ポリシー タイプ

ポリシーの機能またはポリシーがサポートするサービスに基づく、ポリシーの抽象化または分類。

## メタデータ

データを定義するデータ。

## メッセージ

イベント、指定した条件に関連するイベントの評価、またはアプリケーション、システム、ネットワークまたはサービスのステータスの変化の結果として生成される通知であり、構造化されていてわかりやすい。

## メッセージ キー

特定のイベントが契機となったメッセージを識別するために使われる、文字列で構成されるメッセージ属性。文字列には、イベントの重要な特製が要約されています。メッセージ キーを使用すると、メッセージで他のメッセージを認識したり、重複したメッセージを識別したりすることができます。

## メッセージの重要度

メッセージの契機となったイベントまたは通知の影響度を示す、メッセージのプロパティ。「重要度」も参照してください。

## メッセージの説明

イベントまたはメッセージに関する詳細情報。

## メッセージ ブラウザ

イベント、指定した条件に関連するイベントの評価、またはアプリケーション、システム、ネットワークまたはサービスのステータスの変化の結果として生成される通知を表示する GUI。

## メトリック

特定の動作特性またはパフォーマンス特性を定義する尺度。

## モジュール

特定のタイプのタスクを実行、または特定のタイプのデータを提示する、自己完結型のソフトウェア コンポーネント。モジュールは、他のモジュールまたは他のソフトウェアと相互に作用します。

## 割り当て済みポリシー

コンピューティング環境内で 1 つ以上のリソースに割り当てられているが、それらのリソースにまだ配布やインストールが行われていないポリシー。



# 索引

## A

Add Application Server アクション , 163, 164  
Add Node アクション , 163, 165  
ADDRESS プロパティ , 48, 172  
ADMIN\_HOST プロパティ , 172  
ADMIN\_PORTS プロパティ , 48, 172, 173  
ALIAS プロパティ , 174  
Application Servers ツリー項目 , 162  
ASCII テキスト レポート , 15  
AUTO\_DISCOVER, 168  
AUTO\_DISCOVER プロパティ , 174

## B

BEA\_HOME\_LIST プロパティ , 175

## C

Cancel ボタン , 163  
Check WebLogic アプリケーション , 20, 200  
機能 , 200  
Check WebLogic アプリケーションを起動するには ,  
200  
CODA  
使用法 , 86  
COLLECT\_METADATA プロパティ , 175  
Configuration ツリー項目 , 162

## Configure WLSSPI

Add Application Server アクション , 163, 164  
Add Group アクション , 163, 165  
Add Node アクション , 163, 165  
Application Servers ツリー項目 , 162  
Cancel ボタン , 163  
Configuration ツリー項目 , 162  
Default Properties ツリー項目 , 162  
Defaults ツリー項目 , 162  
Exit アクション , 164  
Finish ボタン , 163  
Groups ツリー項目 , 162  
Next ボタン , 163  
Nodes ツリー項目 , 162  
Remove ALL App Servers アクション , 164, 166  
Remove ALL Groups, 164, 166  
Remove ALL Nodes アクション , 164, 167  
Remove Application Server アクション , 164, 166  
Remove Group アクション , 164, 166  
Remove Node アクション , 164, 167  
Save アクション , 164  
Save ボタン , 163  
[Set Configuration Properties] タブ , 164, 167  
[View Configuration Settings] タブ , 164, 168  
アイコン , 161  
アクション , 163  
使用法 , 161  
ツリー , 161  
ボタン , 163

Configure WLSSPI アプリケーション , 19, 188  
機能 , 188

Configure WLSSPI アプリケーションを  
起動するには , 188

## D

Default Properties ツリー項目 , 162  
Defaults ツリー項目 , 162  
Deploy UDM アプリケーション , 21  
Discover WebLogic アプリケーションを  
起動するには , 189

Discover アプリケーション , 19, 46, 189  
  LOGIN と PASSWORD の設定 , 47  
  機能 , 189

## E

EXCLUDE\_SAMPLES プロパティ , 49, 176

Exit アクション , 164

## F

Finish ボタン , 163

## G

Gather MBean Data アプリケーション , 21

GRAPH\_URL プロパティ , 176

Groups ツリー項目 , 162

GROUP ブロック , 159

## H

HOME\_LIST プロパティ , 49, 176

HOME プロパティ , 176

HP Performance Agent, 85

HP Performance Insight レポート , 90

HP Performance Manager

  WebLogic SPI に統合 , 37, 91

## I

Init Non-Root アプリケーション , 19, 191  
  機能 , 191

Init Non-Root アプリケーションを起動するには , 191

## J

JAVA\_HOME プロパティ , 49, 176

JMB\_JAVA\_HOME プロパティ , 177

JMX\_CLASSPATH プロパティ , 177

JMX Metric Builder アプリケーション , 21

JMX コマンド パラメータの使用方法 , 67

## K

KEYSTORE プロパティ , 177

## L

LAUNCH\_DIR プロパティ , 177

LOGFILE プロパティ , 177

LOGIN プロパティ (WLS バージョン 6.1), 177

LOGIN プロパティ (WLS バージョン 7.0 および 8.1),  
  177

## M

MAX\_ERROR\_LOG\_SIZE プロパティ , 178

## N

NAME プロパティ , 178

Next ボタン , 163

NODE\_NAMES プロパティ , 49, 178

Nodes ツリー項目 , 162

NODE ブロック , 160

NUM\_SERVERS プロパティ , 178

## O

OV\_CONF 環境変数 , 37

ov.envvars.sh, 37

ovweb.conf

  OV\_CONF 環境変数 , 37

  設定 , 37

## P

PASSPHRASE プロパティ , 178

PASSWORD プロパティ (WLS バージョン 6.1), 179

PASSWORD プロパティ (WLS バージョン 7.0 および  
  8.1), 179

PORT プロパティ , 179

PROTOCOL, 49

PROTOCOL プロパティ , 179

## R

Remove ALL App Servers アクション , 166, 164

Remove ALL Groups アクション , 164, 166

Remove All Nodes アクション , 164, 167

Remove Application Server アクション , 164, 166

Remove Group アクション , 164, 166

Remove Node アクション , 164, 167

Reporter

  WebLogic SPI に統合 , 86

Reporter レポート , 88



RMID\_PORT プロパティ , 180

RMID\_START\_TIME プロパティ , 180

## S

Save アクション , 164

Save ボタン , 163

Self-Healing Info アプリケーション , 19, 191

機能 , 192

必要な設定 , 191

Self-Healing Info アプリケーションを起動するには , 194

Set Configuration Properties, 164

[Set Configuration Properties] タブ , 167

[Set Configuration Settings] タブ

AUTO\_DISCOVER, 168

プロパティの削除 , 168

プロパティの設定 , 167

プロパティの変更 , 168

Start/Stop Monitoring アプリケーションを起動するには , 195

Start/Stop Tracing アプリケーションを起動するには , 195

START\_CMD プロパティ , 180

Start Monitoring アプリケーション , 19, 194  
機能 , 194

Start/Stop WebLogic アプリケーションを起動するには , 201

Start Tracing アプリケーション , 19, 195  
機能 , 195

Start WebLogic アプリケーション , 20, 201  
機能 , 201  
必要な設定 , 201

Start WLS Console アプリケーション , 20, 200  
機能 , 201  
必要な設定 , 201

Start WLS Console アプリケーションを起動するには , 201

STOP\_CMD プロパティ , 180

Stop Monitoring アプリケーション , 19, 194  
機能 , 194

Stop Tracing アプリケーション , 19, 195  
機能 , 195

Stop WebLogic アプリケーション , 20, 201  
機能 , 201  
必要な設定 , 201

swinstall, 25

テンプレートの再インストール , 73

swremove, 30

## T

TIMEOUT プロパティ , 181

TYPE プロパティ , 181

## U

UDM\_DEFINITIONS\_SOURCE プロパティ , 181

UDM Graph Disable アプリケーション , 22

UDM Graph Enable アプリケーション , 22

URL\_PATH プロパティ , 181

USER プロパティ , 181

## V

Verify アプリケーション , 19, 195  
機能 , 196

Verify アプリケーションを起動するには , 198

VERSION プロパティ , 182

View Application Activation Status, 205

View Application Activation Status アプリケーション , 205  
機能 , 205  
必要な設定 , 205

View Application Activation Status アプリケーションを起動するには , 206

View Application Timeout, 206

View Application Timeout アプリケーション , 206  
機能 , 207

View Application Timeout アプリケーションを起動するには , 207

[View Configuration Settings] タブ  
View Inherited Properties, 169

View Current Configuration, 164

[View Current Configuration] タブ , 168

View Deployed Apps アプリケーション , 20, 202  
機能 , 202

View Deployed Apps アプリケーションを起動するには , 202

View Error File アプリケーション , 19, 198  
機能 , 198

View Error File アプリケーションを起動するには ,  
198

View Graphs アプリケーション , 20, 199  
機能 , 199  
必要な設定 , 199

View Graphs アプリケーションを起動するには , 199

View Inherited Properties, 169

View WebLogic Log アプリケーション , 20, 203  
機能 , 203

View WebLogic Log アプリケーションを起動する  
には , 203

View WebLogic Servers アプリケーション , 20, 204  
機能 , 204

View WebLogic Servers アプリケーションを起動する  
には , 205

## W

WASSPI-35, 127, 128, 129, 130

wasspi\_wls\_ca コマンド , 65  
パラメータ , 65

WebLogic Server ユーザー  
設定 , 42

WebLogic SPI  
概要 , 14  
コンポーネント , 18

WebLogic アプリケーション グループ , 20

WebLogic SPI ノード グループ  
ノードの追加 , 51

WebLogic SPI レポート アプリケーション グループ ,  
21

WLSSPI Admin アプリケーション グループ , 18

WLSSPI Discovery テンプレート グループ , 23

WLSSPI-Logfiles テンプレート グループ , 22

WLSSPI-Messages テンプレート , 23

WLSSPI-Metrics テンプレート グループ , 22

WLSSPI-Schedule テンプレート グループ , 22

## あ行

アクション  
オペレータ起動 , 63  
カスタマイズ , 63  
自動起動 , 63  
分配 , 45

アップグレード , 29  
WebLogic SPI , 31  
WebLogic SPI グラフ作成パッケージ , 35  
WebLogic SPI レポート パッケージ , 28, 35

アプリケーション , 18, 187  
Check WebLogic, 20, 200  
Configure WLSSPI, 19, 188  
Deploy UDM, 21  
Discover, 46, 189  
Discover WebLogic, 19  
Gather MBean Data, 21  
Init Non-Root, 19, 191  
JMX Metric Builder, 21  
Self-Healing Info, 19, 191  
Start Monitoring, 19, 194  
Start Tracing, 19, 195  
Start WebLogic, 20, 201  
Start WLS Console, 20, 200  
Stop Monitoring, 19, 194  
Stop Tracing, 19, 195  
Stop WebLogic, 20, 201  
UDM Graph Disable, 22  
UDM Graph Enable, 22  
Verify, 19, 195  
View Application Activation Status, 20  
View Application Timeout, 20  
View Deployed Apps アプリケーション , 20, 202  
View Error File, 19, 198  
View Graphs, 20, 199  
View WebLogic Log, 20, 203  
View WebLogic Servers, 20, 204  
WebLogic SPI レポート グループ , 21  
WebLogic グループ , 20  
WLSSPI Admin グループ , 18

アプリケーション サーバー  
ステータスの確認 , 41

アプリケーション サーバーのステータス  
確認 , 41

インストール , 25  
swinstall, 25  
WebLogic SPI レポート パッケージ , 86

エラー メッセージ , 115 to 156

オペレータ  
作業範囲の割り当て , 32, 38

オペレータ起動アクション, 63  
オペレータ作業範囲の割り当て, 32, 38

## か行

### 確認

アプリケーションサーバーのステータス, 41  
検出プロセス, 49

### カスタマイズ, 14

アクション, 63  
継続時間, 62  
しきい値, 62  
重要度, 62  
メッセージテキスト, 62

### 監視

サポートされていないプラットフォーム, 79  
リモートシステムのログファイル, 82

### 管理サーバー

設定, 44

### 管理対象ノード

WebLogic SPI ノードグループへの追加, 51  
設定, 41

### グラフ

HP Performance Manager, 85  
オペレータアクション, 95  
警告通知条件の表示, 92  
状態の表示, 92  
生成, 95  
生成に使用するメトリック, 92  
日付の範囲, 95

### グラフメトリックの表示, 37

### グローバルプロパティ, 159

### 警告通知

変更, 63

### 継続時間

カスタマイズ, 62

### 検出テンプレート, 23

### 検出プロセス

確認, 49

### 構成(設定)

構造, 159  
構文, 159  
プロパティ, 170

### 構造

構成(設定), 159

### 構文

構成(設定), 159

### コマンド

分配, 45

### コレクタ

wasspi\_wls\_ca コマンド, 65

### コレクタテンプレート, 22

### コンポーネント, 18

## さ行

### サーバー固有のプロパティ, 160

### 再インストール

テンプレート, 73

### 削除

swremove, 30  
WebLogic SPI, 26

### サポートされていないプラットフォーム監視, 79

### しきい値

カスタマイズ, 62  
個々のサーバーについて設定, 71  
リセット, 64  
リセットなし, 64

### しきい値のリセット, 64

### 指示文

場所, 15

### 自動アクションレポート, 74

### 自動起動アクション, 63

### 収集間隔

選択したメトリックの変更, 70  
変更, 69

### 重要度

カスタマイズ, 62

### 条件付きプロパティ

設定, 52

### 使用法

Configure WLSSPI, 161

### スケジュールテンプレート, 22

### 制限

リモートシステム, 83

## 設定

- HP Performance Manager, 37
- ovweb.conf, 37
- WebLogic Server ユーザー, 42
- 管理サーバー, 37, 44
- 管理対象ノード, 41
- 条件付きプロパティ, 52
- 前提条件, 37
- リモート システム, 80

## 設定エディタ

「Configure WLSSPI」参照

## 設定例

- 仮想 IP アドレス, 185
- グループとノード プロパティ, 184
- 単一のノード/2 つのサーバー, 183
- デフォルト以外の WLS 起動場所, 186
- 複数の WLS バージョン, 185

## 前提条件

- 設定, 37

## た行

### タグ オプション

- カスタム テンプレート グループの作成, 72

### 追加

- ノードの WebLogic SPI ノード グループへの, 51

### ディレクトリ

- トレース ファイル/エラー ログの場所, 108

### テキスト ベース レポートの表示, 74

### テンプレート, 22

- WLSSPI-Messages, 23
- カスタマイズ, 61
- 検出, 23
- コレクタ, 22
- 再インストール, 73
- しきい値のリセット, 64
- スケジュール, 22
- 分配, 51
- 変更, 61
- メッセージ, 23
- メトリック, 22
- リセットなしのしきい値, 64
- 連続生成, 64
- ログファイル, 22

### テンプレート グループ, 22

- WLSSPI Discovery, 23
- WLSSPI-Logfiles, 22
- WLSSPI-Metrics, 22
- WLSSPI-Schedule, 22
- カスタマイズ, 72
- 収集間隔の変更, 70

### 登録アプリケーション

- レポート, 75

## は行

### 表示

- レポート, 75, 76

ファイル、管理サーバー/管理対象ノード上の場所, 106, 108

プロパティ, 170

WebLogic SPI 要件に一覧表示, 171

- グローバル, 159
- サーバー固有, 160
- 条件付きの設定, 52
- 定義, 171 to 182
- 優先順位, 160

### 分配

- アクション、モニタ、およびコマンド, 45
- テンプレート, 51

### 変更

- 警告通知, 63
- テンプレート, 61

### 編集

- 警告通知, 63
- テンプレート, 61

## ま行

### メッセージ

- 指示文, 15
- メッセージブラウザ, 14

### メッセージ テキスト

- カスタマイズ, 62

### メッセージ テンプレート, 23

### メトリック

- グラフの生成, 92
- 収集データ, 13
- メトリックから生成された HP Performance Insight のレポート, 90
- メトリックから生成された Reporter のレポート, 88

メトリック テンプレート, 22

モニタ  
分配, 45

## や行

ユーザー  
WebLogic Server ユーザーの設定, 42

ユーザー定義メトリック  
グラフ作成, 104

要件  
リモート システム, 79

## ら行

ライセンス数, 83

リモート システム, 79  
概要, 79  
制限, 83  
設定, 80  
設定の要件, 80  
テンプレートの要件, 80  
動作の仕組み, 79  
要件, 79  
ログファイルの監視, 82

レポート  
HP Performance Insight, 85  
OVPI, 90  
OVPI で生成に使用するメトリック, 90  
Reporter, 85, 88  
Reporter で生成に使用するメトリック, 88  
警告通知から生成されたレポート, 21  
自動アクション, 74  
手作業で生成するレポート, 75  
登録アプリケーション, 75  
表示, 75, 76  
含まれた, 16

レポートのサンプル, 76

レポート パッケージ, 16  
インストール, 35, 86  
削除, 28

ログファイル テンプレート, 22

